

授業科目名： 情報社会学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 影山 穂波、株本 千鶴、谷口 功、 樋口 謙一郎、脇田 泰子、今村 洋一、木田 勇輔、小林 かおり、鳥居 隆司、山本 昭和、早瀬 光浩、見田 隆鑑、宮下 十有、向 直人、楊 寧 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 情報社会に関する基本知識の習得 到達目標：情報社会学部で学修するための幅広い視野を身につける。						
授業の概要 情報社会学の全体を概観し、情報社会学とは何かを知るための概論科目である。データサイエンス、コミュニケーションデザイン、情報・アーカイブス、メディア・スタディーズ、観光・まちづくり、持続可能な社会の各コースにおける学問的特徴を解説し、それぞれの学びの内容について理解を深める。そのうえで、情報技術を活用して、現代社会を如何に読み解き、より良い社会の創造につなげていけるのかについて考え、これから学ぶ情報学、社会学の意義を理解する。						
授業計画 第1回：情報社会とデータサイエンス：情報化の歴史や社会の変化（担当：鳥居 隆司） 第2回：情報社会とデータサイエンス：データサイエンスとAIの社会における役割（担当：早瀬 光浩） 第3回：情報社会とデータサイエンス：シビックテックによる課題解決（担当：向 直人） 第4回：情報社会とコミュニケーションデザイン：モノづくりとつながりづくりと映像コンテンツ制作 （担当：宮下 十有） 第5回：情報社会とコミュニケーションデザインビジュアルコミュニケーションデザイン（担当：楊 寧） 第6回：情報社会と情報・アーカイブ：文化財の保存・活用とデジタル技術（担当：見田 隆鑑） 第7回：情報社会と情報・アーカイブ：本と図書館の社会的役割（担当：山本 昭和） 第8回：情報社会とメディア・スタディーズ：ソーシャルメディアの発達と現代社会（担当：木田 勇輔） 第9回：情報社会とメディア・スタディーズ：インターネット時代の（マス）メディアの役割 （担当：脇田 泰子） 第10回：情報社会と観光・まちづくり：現代都市が抱える諸問題（担当：今村 洋一） 第11回：情報社会と観光・まちづくり：情報社会の進展と地域社会の変質（担当：谷口 功） 第12回：情報社会と観光・まちづくり：地域の課題とジェンダー（担当：影山 穂波） 第13回：情報社会と持続可能な社会：福祉を社会学的に学ぶこと（担当：株本 千鶴） 第14回：情報社会と持続可能な社会：国際協力と持続可能な社会（担当：小林 かおり） 第15回：情報社会と持続可能な社会：現代の記録と記憶（担当：樋口 謙一郎）						
テキスト 指定しない。						
参考書・参考資料等 参考文献について、授業中に適宜紹介する。						
学生に対する評価 15人の教員が課題により10点満点の評価を行い、その合計点に2/3を乗じた点数を本科目の評価とする（10点×15人×100/150）。						

授業科目名： メディア・リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 亀井(塘) 美穂子、洞谷 吉浩 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 情報)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 情報メディアの活用と分析 到達目標：各種情報メディアの客観的な分析能力と、適切なプレゼンテーション力を身につける。						
<b>授業の概要</b> メディアを通して得られる情報を取捨選択して活用し、自分の考えを他者に伝えたり、積極的に表現したりするための能力の育成を目的とする。プリント・メディア、映像メディアを取り上げ、利用、分析、表現を通して、メディアを積極的、能動的に利活用できる能力を養う。メディアの特性や、PCでの画像処理等の技術の基礎を学ぶだけでなく、コンテンツを制作するための一連のプロセス(企画、構成、制作、評価)を重視する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業概要説明、メディア・リテラシーとは何か						
第2回：メディアデザインの基礎						
第3回：メディアと社会(1)新聞						
第4回：メディアと社会(2)広告						
第5回：実践(1、2)メディア(新聞、広告等の写真付き記事)を分析する						
第6回：分析をした記事をもとに作品の企画						
第7回：メディアと社会(3)テレビニュース番組						
第8回：メディアと社会(4)テレビドキュメント番組						
第9回：実践(3、4)メディア(ニュース、ドキュメント番組)を分析する						
第10回：メディアと社会(5)映像・CM						
第11回：メディアと社会(6)潜在意識を形成する情報						
第12回：実践(5、6)メディア(コマーシャルメッセージ、映画、ドラマ等)を分析する						
第13回：編集による操作						
第14回：映像実験 脈絡のない映像を組み合わせることで別の意味を作り出す						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 課題 50%、試験 50%						

授業科目名： 情報と法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中村 泰之 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 身近な情報法の入門 到達目標：情報倫理、身近な情報法(著作権法、個人情報保護法など)の概要を理解する。						
<b>授業の概要</b> SNS を含むインターネット利用の際に遵守すべき情報倫理、さらにインターネットをめぐる法律問題、とりわけ、著作権法、個人情報保護法を中心に、広く IT 法や法律全般を対象にして、卒業後に具体的に遭遇することが想定される法律問題のケースを想定した講義と実習（ケーススタディ）を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：情報倫理(1)：情報倫理の概要						
第3回：情報倫理(2)：情報セキュリティ						
第4回：情報倫理(3)：情報社会の生活						
第5回：個人情報保護(1)：個人情報保護法の概要						
第6回：個人情報保護(2)：個人情報保護法の必要性と目的						
第7回：個人情報保護(3)：個人情報の取得						
第8回：個人情報保護(4)：個人情報の利用						
第9回：個人情報保護(5)：個人情報保護と SNS						
第10回：著作権(1)：著作権の基礎知識						
第11回：著作権(2)：著作物とは						
第12回：著作権(3)：著作権の侵害と例外						
第13回：著作権(4)：インターネット、コンピュータに関する著作権						
第14回：著作権(5)：著作権と学校教育						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 通常課題 40%、期末課題 60%						

授業科目名： DX	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢島（田中） 彩子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： デジタル・トランスフォーメーションの定義、概要について、企業の実例をもとに、DX の概要、定義や、実行に必要なプロセス、方法の初步を学ぶ。</p> <p>到達目標：デジタル化、IoT化、DX化の各フェーズが理解できること。デジタル・トランスフォーメーションは、業務や人の行動自体の変革であること（戦略・組織／技術／人材）を理解できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>DX（デジタル・トランスフォーメーション）は、高度なデジタル技術を、人々の生活に導入して、より良いものへと変革することを意味している。ICTの発達がもたらした第4次産業革命は、経済や雇用などにも大きく影響を与えている。本授業においては、人工知能（AI）やビッグデータの発展により、これまでに社会や企業で起こったイノベーションを学ぶと共に、学生自身が技術革新による社会変化の展望を描くための力を養う。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：DXとは①：DXとは、定義と歴史						
第2回：DXとは②：業務効率化と提供価値の向上、組織文化との関係						
第3回：DXが必要な理由：なぜ、DXが必要なのか、企業が置かれている背景						
第4回：デジタル化で変化する社会①：デジタル化／IoT化／DX化を理解する						
第5回：デジタル化で変化する社会②：デジタル化／IoT化／DX化の事例						
第6回：デジタル化で変化する社会③：DX化にむけたデジタル成熟度の5つの段階						
第7回：DXのプロジェクトの進め方①：DXプロジェクトの全体像						
第8回：DXのプロジェクトの進め方②：課題発見フェーズの項目とその方法						
第9回：DXのプロジェクトの進め方③：経営者から見たソリューション						
第10回：DXのプロジェクトの進め方④：担当者から見たソリューション						
第11回：DXプロジェクトの進め方⑤：Poc（Proof of Concept）実証実験について／本開発との違い						
第12回：DXプロジェクトの進め方⑥：ロードマップとは						
第13回：DX人材に必要なスキル・マインド						
第14回：DX提案書の企画と発表						
第15回：総括						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業時に適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 毎回提出のリフレクション（30%）、中間課題レポート（20%）、最終課題レポート（50%）						

授業科目名： 情報通信論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小田切 和也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 情報)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ICT(情報通信技術)と生活・産業の関わり 到達目標： ICT(情報通信技術)と生活・各産業との関わりについての基礎知識を学習し、その知識を実際の生活の中で生かすことが出来る能力を身につけることを目指す。						
<b>授業の概要</b> 近年になりスマートフォンなどモバイル端末をインターネットに手軽に接続が可能となった。また、2020 年代には高速大容量の通信が可能な第 5 世代移動通信システム（5G）が普及し、新たなイノベーションや経済成長が期待されている。本授業においては、情報伝送における誤りや訂正の原理となる「ハミング距離」、「誤り検出・訂正能力」などの通信路の符号化理論を学ぶ。また、情報通信技術と企業や組織との関わりについての情報収集・調査を取り入れる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：ICTと産業の関わり(概論)						
第3回：ICTとコンビニエンスストア						
第4回：ICTと医療						
第5回：ICTと自動車産業						
第6回：ICTと金融						
第7回：ICTと学び						
第8回：ICTと災害						
第9回：ICTとビックデータの活用						
第10回：ICTと産業に関する情報収集方法						
第11回：ICTと産業に関する情報収集(1)(概要)						
第12回：ICTと産業に関する情報収集(2)(詳細)						
第13回：ICTと産業に関する収集情報に対する検討・考察						
第14回：検討・考察した収集情報の伝達・表現方法						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 教員作成の資料(PDF)を使用します。						
<b>参考書・参考資料等</b> なし。						
<b>学生に対する評価</b> 適宜実施する小レポート(50 点満点)、その他成果物(30 点満点)、授業への参加態度(20 点満点)において、60 点以上で合格とする。						

授業科目名： 情報社会と情報技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福安 真奈 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 情報化された社会とその社会の技術的基盤をなす情報技術(IT)の概要 到達目標：情報化社会の現状とそれを支える情報技術全般について習得する						
<b>授業の概要</b> インターネット、コンピュータ、携帯電話などの情報技術の発達は、社会や人々の生活に大きな影響を与えた。コミュニケーションの形態は多様化し、メール、ブログ、SNSなど、特徴に合わせた適切な利用が求められる。情報技術の発展や情報社会の進展の歴史を踏まえ、将来の情報技術が情報社会へ与える影響について考える。また、情報技術の発展に伴い、情報に関する法律・制度が整備され、情報セキュリティは一層重視されるようになった。不正アクセス禁止法、デジタルコピー等に対応した著作権法、電子消費者契約法や特定商取引法などの法律を学び、日々の生活における効果的なセキュリティ対策について考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 地方創生とICT 第2回：情報社会とコンピュータ 第3回：インターネットの歴史 第4回：情報社会の現状 第5回：ソーシャルメディアと地域 第6回：インターネットと行政 第7回：都市OSとDX 第8回：オープンデータとビッグデータ 第9回：人工知能 第10回：クラウド技術とその活用 第11回：デジタル化される文化 第12回：教育とICT 第13回：Webマーケティングとネット評判社会 第14回：情報セキュリティ 第15回：まとめ						
<b>テキスト</b> 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 西垣 通, 伊藤 守(編集)「よくわかる社会情報学」ミネルヴァ書房						
<b>学生に対する評価</b> 以下の基準から総合的に判断する。 ・最終レポートによる評価 60% ・小課題（小レポート・コメントシート） 30% ・授業の参加度・貢献度 10%						

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：早瀬 光浩 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ビジュアルプログラミング言語「Scratch」の修得 到達目標：プログラミングに必要な条件分岐や繰り返しなどの制御を理解し、ブロックを組み合わせてオリジナルのゲームが作成できる。						
<b>授業の概要</b>						
プログラミングの初級者を対象とし、ブロックの組み合わせで記述が可能なビジュアルプログラミング言語の「Scratch」を利用してプログラミングの基礎を学ぶ。オリジナルのゲームの作成を目標とし、数値や文字列などの変数、条件分岐や繰り返しによる制御、キャラクターのアニメーションなどの実装を取り組む。また、デバッグやテストによるプログラムの検証方法を習得し、より高度なプログラミングへの準備を整える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ビジュアルプログラミング言語「Scratch」とは						
第2回：Scratch の基本操作						
第3回：スプライトと描画						
第4回：変数と演算						
第5回：繰り返しと条件分岐						
第6回：関数と再帰						
第7回：探索アルゴリズム						
第8回：ソートアルゴリズム						
第9回：クローンの使い方						
第10回：拡張機能① ペン						
第11回：拡張機能② ビデオモーションセンサ						
第12回：拡張機能③ 音声合成と音楽						
第13回：オリジナル・ゲームの制作① 準備						
第14回：オリジナル・ゲームの制作② 実装						
第15回：オリジナル・ゲームの制作③ 発表						
<b>テキスト</b>						
中植 正剛、太田 和志、鴨谷 真知子『Scratch で学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第2版』（日経 BP）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
各回の課題（60%）、オリジナル・ゲーム（40%）						

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：向 直人 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ビジュアルプログラミング言語「Scratch」の修得 到達目標：プログラミングに必要な条件分岐や繰り返しなどの制御を理解し、ブロックを組み合わせてオリジナルのゲームが作成できる。						
<b>授業の概要</b>						
コンピュータプログラムを設計・構築するためのプログラミングを実習形式で習得する。本講義では、プログラミングの初級者を対象とし、視覚的なオブジェクトやブロックの組み合わせで記述が可能な「ビジュアルプログラミング言語」を採用する。オリジナルのゲームの作成を目標とし、数値や文字列などの変数、条件分岐や繰り返しによる制御、キャラクターのアニメーションなどを学ぶ。また、デバッグやテストによるプログラムの検証方法を習得し、より高度なプログラミングへの準備を整える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ビジュアルプログラミング言語「Scratch」とは						
第2回：Scratch の基本操作						
第3回：スプライトと描画						
第4回：変数と演算						
第5回：繰り返しと条件分岐						
第6回：関数と再帰						
第7回：探索アルゴリズム						
第8回：ソートアルゴリズム						
第9回：クローンの使い方						
第10回：拡張機能① ペン						
第11回：拡張機能② ビデオモーションセンサ						
第12回：拡張機能③ 音声合成と音楽						
第13回：オリジナル・ゲームの制作① 準備						
第14回：オリジナル・ゲームの制作② 実装						
第15回：オリジナル・ゲームの制作③ 発表						
<b>テキスト</b>						
中植 正剛、太田 和志、鴨谷 真知子『Scratch で学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第2版』（日経 BP）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
各回の課題（60%）、オリジナル・ゲーム（40%）						

授業科目名： 情報処理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：福安 真奈 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：ソフトウェアの体系・種類と、コンピュータの手順書であるプログラムの構成や文法について学ぶ。						
到達目標： ・ソフトウェアの種類と用途を正しく理解し、適切に活用できる。 ・プログラムの構成や文法を理解し、設計・構築できる。						
<b>授業の概要</b> コンピュータのデータ処理はソフトウェアにより実装される。ソフトウェアの曖昧さや誤りを防ぐためには、ソフトウェアの特性を正しく理解することが必要となる。本授業においては、ソフトウェアの体系・種類（システムソフトウェア、応用ソフトウェアなど）を解説し、コンピュータの手順書であるプログラムの構成や文法について学ぶ。さらに、プログラムの実装に必要なフローチャートや、ソートや探索などの基本的なアルゴリズムを習得する。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：情報の表現スタイルと情報処理の仕組み 第3回：OS 第4回：応用ソフトウェアとは 第5回：応用ソフトウェアの操作 第6回：言語プロセッサとプログラミング 第7回：プログラミングの基礎(1) 表示・分岐・繰り返し 第8回：プログラミングの基礎(2) 配列・関数 第9回：プログラミングとフローチャート 第10回：簡易プログラミング 第11回：計算とアルゴリズム 第12回：基本的なデータ構造 第13回：探索 第14回：ソート 第15回：まとめ・最終課題						
<b>テキスト</b> 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて適宜紹介する						
<b>学生に対する評価</b> ・最終課題 50% ・各回で実施する授業内容に関する演習問題 30% ・授業への参加度・貢献度 20% から総合的に評価する。						

授業科目名： 人工知能入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：向 直人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 人工知能の基本的な理論と手法の習得 到達目標：問題を定式化し、人工知能に基づく手法で解を導出できる。						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>人工知能は、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術の総称である。2000 年代半ばから始まった第 3 次人工知能ブームにおいては、機械学習が広く注目され、様々な産業に導入されることで、巨大なマーケットに繋がっている。本授業においては、人工知能の初学者を対象とし、基本的な人工知能の理論と手法を学習することを目的とする。水差し問題やハノイの塔などを題材としながら、幅優先探索などの探索アルゴリズムや、機械学習の一つである強化学習のアルゴリズムについて学ぶ。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：人工知能とは</p> <p>第2回：状態空間モデル</p> <p>第3回：基本的な探索① 水差し問題</p> <p>第4回：基本的な探索② 8 パズル</p> <p>第5回：基本的な探索③ ハノイの塔</p> <p>第6回：探索アルゴリズム① 幅優先探索と深さ優先探索</p> <p>第7回：探索アルゴリズム② ヒューリスティック探索</p> <p>第8回：局所探索アルゴリズム① 山登り法</p> <p>第9回：局所探索アルゴリズム② シミュレーテッドアニーリング</p> <p>第10回：遺伝的アルゴリズム① フロイド問題</p> <p>第11回：遺伝的アルゴリズム② 巡回セールスマン問題</p> <p>第12回：強化学習① モンテカルロ法</p> <p>第13回：強化学習② TD 学習</p> <p>第14回：強化学習③ Q 学習</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<p><b>テキスト</b></p> <p>指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>小林 一郎『人工知能の基礎』(サイエンス社) 谷口 忠大『イラストで学ぶ人工知能概論』(講談社)</p>						
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>各回の小テスト(100%)</p>						

授業科目名： プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鳥居 隆司 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： アルゴリズムの理解とコンピュータ言語の基礎的な知識及びプログラミング 到達目標： プログラムの基本的な考え方やアルゴリズムなどを理解し、簡単なデスクトップアプリケーションを作成できる。						
<b>授業の概要</b> コンピュータプログラムを設計・構築するためのプログラミングを実習形式で習得する。本講義では、プログラミングの中級者を対象とし、ソフトウェア開発において広く使用される「オブジェクト指向のプログラミング言語」を採用する。汎用的なソフトウェアの開発を目標とし、クラスとメソッド、継承とインターフェイス、GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）などを学ぶ。また、発展的にスマートフォン向けのアプリケーション開発のスキルも習得する。						
<b>授業計画</b> 第1回：アプリケーション作成プロセスと開発環境 第2回：簡単なプログラムの作成 第3回：変数、定数、演算子 第4回：条件分岐 第5回：配列の扱い 第6回：繰り返し処理 第7回：コントロールとその活用 第8回：メソッドとプロパティ 第9回：ファイルの入出力 第10回：グラフィックの扱い 第11回：オブジェクト指向 第12回：クラスとインスタンス 第13回：継承とインターフェース 第14回：コレクション 第15回：まとめ 定期試験						
<b>テキスト</b> 使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題(70%)、 授業での取り組み(30%)で総合的に評価する。						

授業科目名： プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：向 直人 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> コンピュータプログラムの設計・構築 <b>到達目標：</b> オブジェクト指向のプログラミング言語を理解し、簡単なアプリケーションが開発できる。						
<b>授業の概要</b> コンピュータプログラムを設計・構築するためのプログラミングを実習形式で習得する。本講義では、プログラミングの中級者を対象とし、ソフトウェア開発において広く使用される「オブジェクト指向のプログラミング言語」を採用する。汎用的なソフトウェアの開発を目標とし、クラスとメソッド、継承とインターフェイス、GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）などを学ぶ。最終課題としてオリジナルのアプリケーションを制作する。						
<b>授業計画</b> <p>第1回：開発環境の確認（Python）</p> <p>第2回：基本要素の描画</p> <p>第3回：変数と繰り返し</p> <p>第4回：乱数と条件分岐</p> <p>第5回：データ型と関数</p> <p>第6回：イベント処理</p> <p>第7回：フラクタル図形</p> <p>第8回：ゲーム開発① ゲームエンジンの利用</p> <p>第9回：ゲーム開発② オブジェクト指向</p> <p>第10回：ゲーム開発③ スプライトとイベント処理</p> <p>第11回：ゲーム開発④ アニメーションとサウンド</p> <p>第12回：ゲーム開発⑤ GUI の設計</p> <p>第13回：オリジナル・アプリケーションの制作① 準備</p> <p>第14回：オリジナル・アプリケーションの制作② 実装</p> <p>第15回：オリジナル・アプリケーションの制作① 発表</p>						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 国本大悟、須藤秋良『スッキリわかる Python 入門（スッキリわかる入門シリーズ）』（インプレス）						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（60%）、オリジナル・アプリケーション（40%）						

授業科目名： データサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：早瀬 光浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： データサイエンスの基本的な手法の修得 到達目標：問題に対する適切な手法を選択し、基礎的なデータ分析ができる。						
<b>授業の概要</b> データサイエンスは、データの中から、本質を見つけ出して、様々な問題を解決するアプローチのことである。データを分析するには、数学や統計の知識やスキルに加え、データ理解、データ加工・処理、モデリングなど人間的な視点からの分析力も必要となる。本授業においては、データサイエンスの初学者を対象とし、データ分析のためのツールを活用しながら、データの加工・可視化に取り組む。また、回帰分析など基本的な推測手法を学び、データの数値予測のスキルを養う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：データサイエンスの基本						
第2回：データ分析で使うライブラリの基礎						
第3回：データビジュアライゼーションの基礎						
第4回：データを代表する値						
第5回：データのばらつきを表す尺度						
第6回：四分位数と箱ひげ図						
第7回：データの相対的な関係						
第8回：データの相関						
第9回：確率と確率分布						
第10回：推測統計学						
第11回：統計的推定						
第12回：統計的検定(1) 1標本の検定						
第13回：統計的検定(2) 2標本の検定						
第14回：高度な分析(1) 移動平均法と指標平滑法						
第15回：高度な分析(2) 線形単回帰						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
寺田 学, 辻 慎吾, 鈴木 たかのり, 福島 真太郎「Pythonによるあたらしいデータ分析の教科書」（翔泳社）						
塚本 邦尊, 山田 典一, 大澤 文孝「東京大学のデータサイエンティスト育成講座」（マイナビ出版）						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（100%）で評価する。						

授業科目名： オープンデータ入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢島（田中） 彩子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： オープンデータをもとに、データサイエンスに関する社会状況、技術概要を学び、オープンデータを用いたデータサイエンスがビジネス、研究にどのように活かせるかを学ぶ。						
到達目標： ・オープンデータの基礎が理解できる。 ・データサイエンスの中で使用する用語の定義と内容が説明できる。 ・事例を解釈でき、自分なりの原因分析とソリューションが出すことができる。						
<b>授業の概要</b>						
オープンデータとは、機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能なルールで公開されたデータのことである。平成28年に官民データ活用推進基本法が制定され、国及び地方公共団体はオープンデータの公開に取り組むことが義務付けられており、オープンデータの有効活用が経済全体の発展に寄与すると考えられている。本授業においては、オープンデータの意義を学ぶと共に、カタログサイトなどで公開されているオープンデータを利用して、基本的なデータの分析手法を習得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オープンデータとは						
第2回：データサイエンスとは						
第3回：データサイエンスの体系と手法（教師あり学習／教師なし学習など）						
第4回：データサイエンスで生み出されるビジネス価値・活用事例						
第5回：深層学習とは						
第6回：データサイエンスの留意点						
第7回：今後の方向性						
第8回：オープンデータに関する基本的ルール						
第9回：オープンデータを実際に扱ってみよう（1）定量データ						
第10回：オープンデータを実際に扱ってみよう（2）定性データ						
第11回：オープンデータからの分析（解釈）						
第12回：オープンデータからの分析（ソリューション）						
第13回：オープンデータの公開・活用を促す仕組み						
第14回：確立されている論理：研究倫理、一般的情報倫理／これからの確立を待つ倫理：新しい技術 にまつわる倫理						
第15回：振り返り						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回提出のリフレクション（30%）、中間課題レポート（20%）、最終課題レポート（50%）						

授業科目名： 情報処理演習A (クリエーション)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鳥居 隆司、向 直人、 亀井(塘) 美穂子、宮下 十有 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：デジタルコンテンツの制作技術を習得し、デジタルコンテンツによる自己表現と社会利用の可能性について学ぶ。						
到達目標：マイコンボード・ロボットなどの電子工作や、映像・音声などの情報メディアを利用したデジタルコンテンツを制作し、社会的な価値を生み出すことができる。						
<b>授業の概要</b>						
本授業は、クリエーション（ものづくり）をテーマに、少人数グループのオムニバス形式で実施される。学生は、マイコンボード・ロボットの電子工作や、映像などの情報メディアを利用したものづくりを通じて、自由な発想力や想像力を鍛えると共に、自分のイメージや考えを伝える力を養う。第14回・第15回はアイデア創出のためのワークショップを開催し、グループごとに考えたデジタルコンテンツのアイデアを発表する。						
【亀井】コンピュータで作成したデジタルデータを、デジタル工作機器を用いて出力するための基本的な仕組みを学び、実際に作品制作を通してアイデアを形にするプロセスを理解する。						
【鳥居】IoT等の知覚として現実世界の情報をとらえるセンサやセンシング回路の基礎的な仕組みを学び、センサからの情報に基づく情報処理とアクチュエータ等の動作について理解する。						
【宮下】企画・撮影・編集等の映像コンテンツ制作を通して、クリエーションに関する情報共有、情報伝達のツールとして映像表現の技術を身につけ、自分のイメージや考えを伝える力を養う。						
【向】プログラミング可能なマイコンボードやロボットを利用して演習を通じて、ソフトウェアとハードウェアの関係を学び、それらを活用した作品制作に取り組む。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス デジタルコンテンツの現状と可能性（担当：全員）						
第2回：デジタル工作① 2D／3D プリンティングの工程・素材（担当：亀井 美穂子）						
第3回：デジタル工作② モデリングと出力（担当：亀井 美穂子）						
第4回：デジタル工作③ 作品制作（担当：亀井 美穂子）						
第5回：センサとマイコン① LED やセンサの回路（担当：鳥居 隆司）						
第6回：センサとマイコン② トランジスタによるスイッチング（担当：鳥居 隆司）						
第7回：センサとマイコン③ センサの活用（担当：鳥居 隆司）						
第8回：映像コンテンツ制作① 撮影対象のリサーチと企画（担当：宮下 十有）						
第9回：映像コンテンツ制作② 撮影と編集（担当：宮下 十有）						
第10回：映像コンテンツ制作③ 作品の共有と振り返り（担当：宮下 十有）						
第11回：ロボットのプログラミング① 話す、動く、聞く（担当：向 直人）						
第12回：ロボットのプログラミング② 条件分岐と繰り返し（担当：向 直人）						
第13回：ロボットのプログラミング③ Bluetooth キーボードによる遠隔操作（担当：向 直人）						
第14回：アイデア・ワークショップ① ブレインストーミング（担当：全員）						
第15回：アイデア・ワークショップ② 発表（担当：全員）						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 各教員ごとの課題（80%）とアイデア・ワークショップの発表（20%）で評価する。						

授業科目名： プログラミング 応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：向 直人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： JavaScript を利用した Web アプリの開発 到達目標：JavaScript を利用してブラウザで実行可能な Web アプリを開発できる。						
<b>授業の概要</b> コンピュータプログラムを設計・構築するためのプログラミングを実習形式で習得する。本講義では、プログラミングの上級者を対象とし、データベースや人工知能（AI）を組み込んだ Web アプリケーションの開発を目標とする。顧客や商品などのデータベースを想定したウェブ向けのアプリケーションや、AI 技術の画像認識や物体検出を応用した PC 向けのアプリケーションなどの実装を目指す。また、ICT 企業における開発の現場について学び、プログラマーとして即戦力になるためのスキルを養成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：Web アプリの開発						
第2回：HTML&CSS の基本						
第3回：JavaScript の基本①・変数とデータ型						
第4回：JavaScript の基本②・配列と繰り返し						
第5回：JavaScript の基本③・条件分岐						
第6回：JavaScript の基本④・関数						
第7回：JavaScript の基本⑤・オブジェクト指向						
第8回：Vue.js①・データバインディング						
第9回：Vue.js②・フォーム処理						
第10回：Vue.js③・データベースとの連携						
第11回：ml5.js①・画像分類						
第12回：ml5.js②・顔検出						
第13回：アプリ開発体験ワークショップ①・準備						
第14回：アプリ開発体験ワークショップ②・実装						
第15回：アプリ開発体験ワークショップ③・発表						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 山田 祥寛『改訂新版 JavaScript 本格入門～モダンスタイルによる基礎から現場での応用まで』（技術評論社）						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（60%）、ワークショップで制作したアプリ（40%）						

授業科目名： データサイエンス 応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：早瀬 光浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 機械学習によるデータ分析手法の修得 到達目標：代表的な機械学習手法を理解し、様々な課題について予測を行うことができる。						
<b>授業の概要</b> データサイエンスは、データの中から、本質を見つけ出して、様々な問題を解決するアプローチのことである。データを分析するには、数学や統計の知識やスキルに加え、データ理解、データ加工・処理、モデリングなど人間的な視点からの分析力も必要となる。本授業においては、データサイエンスの基本を学習済みの学生を対象とし、重回帰分析、主成分分析、クラスタ分析などの多変量解析の手法を学ぶことを目的とする。データの解析には可視化ツールだけでなく、統計解析向けのプログラミング言語も利用する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：データの前処理						
第2回：重回帰						
第3回：正則化項のある回帰						
第4回：サポートベクターマシン						
第5回：クラスタリング						
第6回：主成分分析						
第7回：マーケットバスケット分析						
第8回：モデルの検証法とハイパーパラメータのチューニング						
第9回：モデルの評価指標						
第10回：バギング						
第11回：ブースティング						
第12回：ランダムフォレスト						
第13回：データ分析コンペティション「Kaggle」						
第14回：Kaggle コンペにチャレンジ(1) Titanic コンペ						
第15回：Kaggle コンペにチャレンジ(2) House Prices コンペ						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 塙本 邦尊, 山田 典一, 大澤 文孝 「東京大学のデータサイエンティスト育成講座」（マイナビ出版） 篠田 裕之 「Python で動かして学ぶ！Kaggle データ分析入門」（翔泳社）						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（100%）で評価する。						

授業科目名： データベース	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：向 直人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： データベースの基本的な理論と SQL の習得</p> <p>到達目標：関係データモデルの理論を理解し、SQL によるデータベースへのクエリを設計できる。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>データベースはコンピュータ・システムの基盤技術であり、様々なサービスの運用において必要不可欠である。汎用性が高い関係データベースに加え、ビッグデータに適応した NoSQL など、様々な種類のデータベースが存在する。本授業においては、関係データモデルの構造記述・意味記述、関係代数などの理論を学習し、SQL によるデータベースの検索・更新などのクエリを実践的に学ぶ。さらには、NoSQL の特徴を理解することで、対象に合わせたデータベースを選択する力を養う。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：データベースとは</p> <p>第2回：リレーションと第1正規形</p> <p>第3回：主キーと外部キー</p> <p>第4回：関係代数演算</p> <p>第5回：情報無損失分解と関数従属性</p> <p>第6回：第2正規形と第3正規系</p> <p>第7回：データベースの作成</p> <p>第8回：データの更新</p> <p>第9回：SQL① データの検索</p> <p>第10回：SQL② 関係代数演算</p> <p>第11回：SQL③ トランザクション</p> <p>第12回：NoSQL① Key-Value ストア型データベース</p> <p>第13回：NoSQL② ドキュメント指向データベース</p> <p>第14回：インデックス</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<p><b>テキスト</b> 指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b> 増永 良文『データベース入門』(サイエンス社)</p>						
<p><b>学生に対する評価</b> 各回の小テスト (100%)</p>						

授業科目名： 意思決定の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：早瀬 光浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 意思決定の科学的知見や手法の修得 到達目標：問題発見から解決までの意思決定の流れが説明でき、問題に最適な意思決定手法を選択できる。また、基礎的な意思決定手法を説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
実社会における問題解決や意思決定を支援するためのオペレーションズ・リサーチの理論や手法を学ぶ。現実の問題を数理モデルに置き換えることで、合理的な解（意思決定）を発見することが可能となる。本授業においては、最適生産計画などの線形計画問題を例に挙げて、シンプレックス法などの代表的なアルゴリズムを学習する。また、ソルバーが実装されているソフトウェアを利用して、最短経路問題など多様な最適化問題を解くための演習を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：意思決定とは 第2回：期待値に基づく意思決定 第3回：期待効用理論 第4回：プロスペクト理論 第5回：線形計画法 第6回：多目的線形計画法 第7回：階層分析法 第8回：ゲーム理論 第9回：非協力ゲーム 第10回：マルコフ連鎖 第11回：ファジィ理論 第12回：階層化ファジィ積分 第13回：集団意思決定 第14回：時間的選考・社会的選考 第15回：データに基づく意思決定						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 西崎 一郎・『意思決定の数理 最適な案を選択するための理論と手法』・森北出版 木下 栄蔵・『わかりやすい意思決定論入門－基礎からファジィ理論まで－』・近代科学社 橋本 洋志、牧野 浩二、佐々木 智典・『Python 意思決定の数理入門』・オーム社						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（100%）						

授業科目名： 情報システム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中村 泰之 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： さまざまな情報システムの概観、および情報システムの安全な活用と遵守すべき倫理の理解。 到達目標：現代社会においてどのような情報システムが利用され、それらはどのように構築・運用されているかを理解し、そのようなシステムを安全に活用するための技術、また遵守すべき情報倫理を理解する。						
<b>授業の概要</b> 今日の現代社会においては、様々な情報システムが利用され、我々の生活にはなくてはならないものとなっている。本講義では、それらのシステムのいくつかを概観し、安全に活用するためにどのような技術が用いられて構築・運用されているのかを学ぶ。また、活用する我々が守るべき情報倫理について、資料映像を視聴しながら討論を行う。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス、情報システムとは 第2回：情報システムの例1(教育情報システム) 第3回：情報システムの例2(POSシステム) 第4回：情報システムの例3(金融システム) 第5回：情報システムの例4(SNS) 第6回：暗号技術1(暗号とは) 第7回：暗号技術2(公開鍵暗号) 第8回：認証技術1(認証とは) 第9回：認証技術2(デジタル署名と証明書) 第10回：暗号技術と現実社会 第11回：情報倫理1(情報の管理) 第12回：情報倫理2(ネット上での詐欺) 第13回：情報倫理3(参加と責任) 第14回：情報倫理4(著作と利用) 第15回：総括 <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 通常課題 40%、期末課題 60%						

授業科目名： 人工知能応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：向 直人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 分類アルゴリズムと深層学習 到達目標：代表的な分類アルゴリズムと深層学習を理解し、応用して問題を解くことができる。						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>人工知能は、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術の総称である。2000 年代半ばから始まった第 3 次人工知能ブームにおいては、機械学習が広く注目され、様々な産業に導入されることで、巨大なマーケットに繋がっている。本授業においては、人工知能の基本を学習済みの学生を対象とし、機械学習や深層学習（ディープラーニング）などの理論と手法を学習することを目的とする。データの所属するカテゴリを発見する分類問題などを中心とし、機械学習向けのプログラミング言語を利用しながら学習する。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：機械学習と深層学習</p> <p>第2回：分類① 決定境界とベクトル</p> <p>第3回：分類② 線形判別分析</p> <p>第4回：分類③ ロジスティック回帰</p> <p>第5回：分類④ k 近傍法</p> <p>第6回：ニューラルネットワーク① 単純パーセプトロン</p> <p>第7回：ニューラルネットワーク② パーセプトロンの学習</p> <p>第8回：ニューラルネットワーク③ 多層パーセプトロン</p> <p>第9回：ニューラルネットワーク④ 画像の分類</p> <p>第10回：深層学習① 疊み込みニューラルネットワーク</p> <p>第11回：深層学習② 転移学習</p> <p>第12回：深層学習③ オートエンコーダ</p> <p>第13回：深層学習④ セマンティック・セグメンテーション</p> <p>第14回：データセットの利用</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<p><b>テキスト</b></p> <p>指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>石川 聰彦 『Python で動かして学ぶ！ あたらしい深層学習の教科書』(翔泳社)</p>						
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>提出された課題（100%）</p>						

授業科目名： ビッグデータ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：早瀬 光浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： ビッグデータの理解とアプリケーションの実装 到達目標：ビッグデータの仕組みを理解し、プログラムによるデータベースの構築ができる。						
<b>授業の概要</b> ビッグデータとは、従来のソフトウェアでは扱うことが困難な巨大で複雑なデータのことである。ビッグデータの処理には、NoSQL と呼ばれるデータベースが用いられ、キー・バリュー・ストア型やドキュメント・ストア型などの種類が存在する。本授業においては、データベースの基本を学習済みの学生を対象とし、ビッグデータの活用事例を学びながら、実際のビッグデータを利用した分析や、NoSQL を利用したアプリケーションの実装を行う。						
<b>授業計画</b> 第1回：データベースの基礎知識 第2回：はじめてのデータベース 第3回：データベース作成とデータの登録 第4回：データの操作 第5回：データの検索（1） 基本的な検索 第6回：データの検索（2） 応用的な検索 第7回：HTML データの取得と保存 第8回：オープンデータの分析（1） 郵便局、e-Stat 第9回：オープンデータの分析（2） 自治体のデータ 第10回：Web API によるデータ収集 NoSQL (JSON) 第11回：NoSQL の基本 第12回：ドキュメント指向型データベースの利用（1） 郵便データベースの作成と利用 第13回：ドキュメント指向型データベースの利用（2） フライトデータベースの作成と利用 第14回：ビッグデータの分析（1） クロス集計 第15回：ビッグデータの分析（2） アソシエーション分析						
<b>テキスト</b> 日向俊二・『Python データベースプログラミング入門』・カットシステム						
<b>参考書・参考資料等</b> 指定しない。適宜授業中に紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 提出された課題（100%）						

授業科目名： インターネット入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田切 和也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： インターネットの概念と基礎知識 到達目標：インターネットの概念を理解し、インターネットの各部で使われる技術についての基礎知識を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
インターネットとは、世界の企業・大学・団体などのコンピュータを接続するネットワークである。コンピュータの相互接続には、TCP/IP プロトコルという共通の通信規約が用いられ、このプロトコルを基に様々なネットワーク・サービスが実現されている。本授業においては、インターネットの初学者を対象に、1969 年の ARPANET に端を発するインターネットの歴史から、現在広く用いられている TCP/IP の基本までを学ぶ。日常的に用いられる電子メールや WWW などのサービスに注目し、学生による調査や情報収集を取り入れる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：インターネットの基本構造（インターネットアクセス回線も含める）、通信相手を識別するための番号						
第3回：インターネットを支える基礎的なサービス 1 (WWW)						
第4回：インターネットを支える基礎的なサービス 2 (電子メール)						
第5回：インターネットを支える応用的なサービス 1 (SNS)						
第6回：インターネットを支える応用的なサービス 2 (動画配信)						
第7回：インターネットにおけるモラル						
第8回：インターネットのセキュリティ						
第9回：最新トピックス						
第10回：インターネット技術に関する情報収集方法						
第11回：インターネット技術に関する情報収集(概要)						
第12回：インターネット技術に関する情報収集(詳細)						
第13回：インターネット技術に関する収集情報に対する検討・考察						
第14回：検討・考察した収集情報の伝達・表現方法						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 教員作成の資料(PDF)を使用します。						
<b>参考書・参考資料等</b> なし。						
<b>学生に対する評価</b> 適宜実施するレポート(50 点満点)とその他の成果物(50 点満点)において、60 点以上で合格とする。						

授業科目名： 情報セキュリティ と倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田切 和也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 情報のセキュリティの必要性、対策、利用におけるマナー等について学修する。 到達目標：情報通信技術を利用する上で必要となる「情報セキュリティに関する基礎知識」と「それを活用する為の考え方・判断力」を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
情報セキュリティとは、情報の気密性、完全性、可用性を確保することと定義され、インターネットやコンピュータを安心して使うための対策のことである。また、情報倫理とは、情報を取り扱う際のモラルやマナーのことであり、インターネットを利用した犯罪から身を守ることにも繋がる。本授業においては、パスワードの生成方法や、コンピュータウィルスの仕組みなど、具体的なセキュリティ対策を学ぶと共に、著作権や肖像権など社会的なルールについて学ぶ。また、それらに関する実習を適宜行い、学修を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：電子メールにおけるマナー						
第3回：インターネットにおけるマナー(1)情報モラル、情報モラルを欠いた行為のケーススタディ						
第4回：インターネットにおけるマナー(2)ネットワークマナー、ネットワークを使用した詐欺のケース スタディ						
第5回：携帯電話におけるマナー						
第6回：パスワードの重要性と個人情報保護						
第7回：著作権と著作物の利用						
第8回：コンピューターウィルスの被害と対策						
第9回：サイバー犯罪						
第10回：情報セキュリティ・モラルに関する情報収集方法						
第11回：情報セキュリティ・モラルに関する情報収集(概要)						
第12回：情報セキュリティ・モラルに関する情報収集(詳細)						
第13回：情報セキュリティ・モラルに関する収集情報に対する検討・考察						
第14回：検討・考察した収集情報の伝達・表現方法						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 教員作成の資料(PDF)を使用します。						
<b>参考書・参考資料等</b> なし。						
<b>学生に対する評価</b> 適宜実施する小レポート(50点満点)、その他成果物(30点)、授業への参加態度(20%)、60点以上で合格とする。						

授業科目名： 情報ネットワーク論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田切 和也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： コンピュータネットワークの種類・特徴、網構成など 到達目標：各種コンピュータネットワークの種類・特徴や網構成に関する基礎知識を習得。						
<b>授業の概要</b> インターネットにおける情報収集は日常的に行われるようになり、情報通信ネットワークは必要不可欠な存在になった。本授業においては、企業や組織において、インターネットを介して情報が安全かつ確実に送受信されるための情報ネットワークの仕組みや構造について学ぶ。また、携帯電話に代表される無線通信の技術について取り上げ、通信内容を傍受される危険性や、それを回避するための認証技術について学ぶ。光回線や WiFiなどのサービスに注目し、学生による調査や情報収集を取り入れる。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：コンピュータネットワークの種類と特徴 第3回：コンピュータネットワークの設備と網構成 第4回：コンピュータネットワークにおける動画配信 第5回：バーチャルコンピュータ 第6回：仮想ルータ 第7回：ルーティング 第8回：スタティックルーティング 第9回：ダイナミックルーティング 第10回：情報ネットワーク技術に関する情報収集方法 第11回：情報ネットワーク技術に関する情報収集（概要） 第12回：情報ネットワーク技術に関する情報収集（詳細） 第13回：情報ネットワーク技術に関する収集情報に対する検討・考察 第14回：検討・考察した収集情報の伝達・表現方法 第15回：まとめ(発表) <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> 教員作成の資料(PDF)も使用します。						
<b>参考書・参考資料等</b> なし。						
<b>学生に対する評価</b> 適宜実施する小レポート(50点満点)、その他成果物(30点満点)、授業への参加態度(20点満点)において、60点以上で合格とする。						

授業科目名： インターネット応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田切 和也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： インターネット上で使われるネットワークサービス 到達目標：インターネット上で使われるネットワークサービスに関する基礎知識を習得し、ネットワークサービスを使いこなす素養を身につけることを目指す。						
<b>授業の概要</b>						
インターネットとは、世界の企業・大学・団体などのコンピュータを接続するネットワークである。コンピュータの相互接続には、TCP/IP プロトコルという共通の通信規約が用いられ、このプロトコルを基に様々なネットワーク・サービスが実現されている。本授業においては、インターネットの基本を学習済みの学生を対象に、TCP/IP プロトコルの詳細とその応用について学ぶ。特にルーティング・プロトコルに注目し、IP アドレスの設定や、経路制御の方法について取り上げる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：インターネットの特徴						
第3回：ネットショッピングとインターネット広告						
第4回：Web サービス(ブログ)						
第5回：仮想マシンの基礎知識と取り扱い方法						
第6回：CentOS の基礎知識とインストール方法						
第7回：CentOS の取り扱い方法						
第8回：ホームページの作成方法						
第9回：ホームページのインターネットへの公開方法						
第10回：インターネットサービスに関する情報収集方法						
第11回：インターネットサービスに関する情報収集(1)(概要)						
第12回：インターネットサービスに関する情報収集(2)(詳細)						
第13回：インターネットサービスに関する収集情報に対する検討・考察の方法						
第14回：検討・考察した収集情報の伝達・表現方法						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 教員作成の資料(PDF)を使用します。						
<b>参考書・参考資料等</b> なし。						
<b>学生に対する評価</b> 適宜実施する小レポート(50 点)、その他成果物(30 点)、授業への参加態度(20 点)、100 点満点において、60 点以上で合格とする。						

授業科目名： デジタルメディア 基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松山 智恵子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： デジタルメディアの特性理解と活用能力の育成 到達目標：画像、動画、音声など各種のデジタルメディアの特性を理解し、デジタルコンテンツ制作を通してメディアを活用する能力を身につける。						
<b>授業の概要</b> コンピュータでは、文字、画像・映像、音声などのメディアを、デジタルデータに変換して処理・表現している。私達の身の回りにあるデジタルメディアの特性を理解し、メディアを通して発信する情報を適切に選択することが求められる。本授業においては、デジタル化の手順（標本化、量子化、符号化）を学び、画像や音声の加工のためのツール（ソフトウェア）の使い方を習得する。画像編集ソフトを利用したアニメーションなどの作品制作を取り入れ、実践的な技術も養成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス 画像のデジタル化						
第2回：画像編集ソフトの基本操作						
第3回：画像の切り抜き、画質補正、合成						
第4回：文字、レイヤースタイル						
第5回：課題(1) カードの作成						
第6回：画像フォーマットとその特徴						
第7回：課題(2) GIF アニメーション						
第8回：課題の相互評価						
第9回：動画編集の基礎(1) タイムライン						
第10回：動画編集の基礎(2) エフェクト						
第11回：動画編集の基礎(3) 効果音						
第12回：動画課題 設計、素材の準備						
第13回：動画課題 制作(1) タイムライン編集						
第14回：動画課題 制作(2) 効果音						
第15回：動画課題 相互評価						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 授業中にLMSで適宜配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> レポートを含む課題(100%)						

授業科目名： グラフィック デザイン入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊 寧 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： Adobe illustrator の基本操作およびグラフィックデザインの基礎的考え方 到達目標： 1) Adobe illustrator のツール・機能について十分に理解、応用することができる。 2) グラフィックデザインの基礎能力の1つである形態操作を理解、応用することができる。 3) 文字と図像を用いたレイアウトの基本的な考え方を理解、応用することができる。						
<b>授業の概要</b> この授業は、パソコンを用いたグラフィックデザイン及び作画の基本操作について学び、図像や文字等の素材の作成から画面構成までのグラフィックデザインの基礎を習得する。課題制作を通して、独自性のあるビジュアルの追求および情報伝達という視点も身につけることを目指す。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション [導入：グラフィックデザインの領域] 第2回：基本図形の描き方と変形操作 第3回：オブジェクトの編集とレイヤーの基本、色とグラデーションの設定 第4回：パスの描画と編集-1 直線の練習 第5回：パスの描画と編集-2 曲線の練習 第6回：パスの描画と編集-3 図形の練習 第7回：画像の配置と編集 第8回：文字操作と段落設定 第9回：総合演習 1-1 アイディアスケッチの作成 第10回：総合演習 1-2 Adobe illustrator でデータを描き起こす 第11回：総合演習 1-3 デザイン案の完成 第12回：総合演習 1 の講評会、相互評価およびデザインのブラッシュアップ 第13回：総合演習 2-1 デザインのプランニングおよびデータを描き起こす 第14回：総合演習 2-2 デザイン案の完成 第15回：総合演習 2 の講評およびデザインのブラッシュアップ、全体の振り返り						
テキスト 高野 雅弘、『Illustrator しっかり入門（増補改訂 第2版）』、SBクリエイティブ、2018						
<b>参考書・参考資料等</b> なし						
<b>学生に対する評価</b> 下記の配分で100点満点とし、そのうち60点以上を合格とする。 1) 毎回のミニワークでアプリケーションの習熟度を測る(50%) 2) 制作課題について、学生同士のプレゼンテーション・制作物の相互評価(30%)、制作物そのものの評価(20%)により総合的に評価する。						

授業科目名： 画像編集技法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松山 智恵子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： デジタル画像の編集、加工 到達目標：コンピュータグラフィックスの基礎を学び、ペイントと写真の修整や合成、画像を制作するための実践力を身につける。画像フォーマットの特性を理解し、使用する画面に応じた適切な画像を扱うことができるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
ビジネス、教育、その他の分野で幅広く利用されている画像編集ソフトを用いて画像の編集技法を習得する。内容は、画像編集ソフトの基礎、画像の修正（画像の取り込み、範囲選択、回転、自動補正、カラーバランス、画像のキズの消去等）、画像の加工（ぼかし、切り抜き、ソフトフォーカス、画像の合成等）、テキストのデザイン（グラデーション、エンボス等）、Web 用の画像制作等である。また、総合的実践力を身に付けるためにコンテンツの制作を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス 画像のデジタル化						
第2回：写真の撮影、画像編集ソフトの基本操作						
第3回：写真のトリミング、サイズ変更						
第4回：画像フォーマット、色調補正						
第5回：画像の合成						
第6回：画像のレタッチ						
第7回：調整レイヤーによる色調補正						
第8回：CD ジャケットの制作(1) デザイン						
第9回：CD ジャケットの制作(2) テキストの配置						
第10回：Web ページの画像作成(1) 背景・アイコン						
第11回：Web ページの画像作成(2) サブメニュー						
第12回：イラストの作成 基本図						
第13回：イラストの作成 オブジェクトの変形・合成						
第14回：最終課題						
第15回：相互評価						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 授業中に LMS で適宜配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> レポートを含めた提出物（100%）						

授業科目名： シミュレーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鳥居 隆司 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： モデル化とシミュレーション、ビジュアライゼーション 到達目標：様々な現象を分析しモデル化するとともに、コンピュータによるシミュレーションを行うことで、自然や社会現象の予測や問題解決の手段として活用できることの知見を得る。						
<b>授業の概要</b> シミュレーションとは、数値計算的な手法や離散化的手法などによって様々な現象をモデル化することである。シミュレーションの例には、モンテカルロ法やルールベースに基づく手法などがある。本授業においては、現象のモデル化や数値計算の手法を解説し、プログラミングによって様々な種類のシミュレーションを実行する。また、身近で入手したデータを基にシミュレーションを行うことで、シミュレーションに対する興味や理解を高める工夫を取り入れる。						
<b>授業計画</b> 第1回：シミュレーションの概要(シミュレーションとはなにか、その目的や手法などについての概観) 第2回：シミュレーションの具体例(様々な場面で活用されるシミュレーション) 第3回：シミュレーションの基礎(シミュレーションを行うにあたってのモデル化の考え方) 第4回：シミュレーションに必要な数値計算等1（補間法） 第5回：シミュレーションに必要な数値計算等2（数値積分） 第6回：乱数について(乱数と疑似乱数、一様乱数と正規乱数など) 第7回：乱数によるシミュレーション1(モンテカルロ法) 第8回：乱数によるシミュレーション2(ほこりの動き) 第9回：フラクタルとその応用 第10回：材料の性質に基づいたモデルを活用したシミュレーション 第11回：運動方程式に基づいたモデルを活用したシミュレーション 第12回：物理演算ライブラリを活用したシミュレーション 第13回：ルールベースモデルによるシミュレーション 第14回：セルオートマトンによるシミュレーション 第15回：まとめ <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 「セルオートマトン」 Joel L. Schiff (著), 梅尾博司・Ferdinand Peper・足立進・磯川悌次郎・今井克暢・小松崎俊彦・李佳 翻訳、共立出版(2011). 「フラクタル幾何学(上・下)」 B.マンデルブロ著、筑摩書房(ちくま学芸文庫)(2011). 「シミュレーション (未来へつなぐ デジタルシリーズ 18)」 佐藤文明・斎藤稔・石原進・渡辺尚著、白鳥則郎監修、共立出版(2013).						
<b>学生に対する評価</b> 提出物(70%)、 授業での取り組み(30%)で総合的に評価する。						

授業科目名： アニメーション制作	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：洞谷 吉浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： アニメーション製作</p> <p>到達目標：アニメーションの原理を使った30秒～1分程度の映像作品を1本以上作る。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>この授業では、アニメーションという慣れ親しんできた表現方法を、実際に製作することで、その特性に対する理解を深め、情報の発信者としての発想、表現の幅を広げ、受信者として一層の多様性を持つことを目的とします。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：アニメーション概論</p> <p>第3回：作品製作準備(簡単な図形を動かしてみる)</p> <p>第4回：作品製作準備(ストップモーションアニメの撮影)</p> <p>第5回：作品製作準備(編集方法)</p> <p>第6回：作品製作準備(企画開発)</p> <p>第7回：作品製作(ストーリー作成、時間配分、構成)</p> <p>第8回：作品製作(時間配分に応じた画像の枚数を設定)</p> <p>第9回：作品製作(画像の製作、背景等動かないもの)</p> <p>第10回：作品製作(画像の製作、メインキャラクター等動くもの)</p> <p>第11回：作品製作(画像の製作、サブキャラクター等動くもの)</p> <p>第12回：作品製作(編集)</p> <p>第13回：作品製作(編集、仕上げ)</p> <p>第14回：発表、講評</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<p><b>定期試験</b></p> <p>テキスト 指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>授業中に適宜配付する。</p>						
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>試験 50%、作品の達成度 50%</p>						

授業科目名： web プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松山 智恵子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： web ページで使われる JavaScript の習得と応用 到達目標：Web ブラウザ上で動作するプログラム言語である JavaScript(ジャバ スクリプト)の基礎概念を理解し、組み込みオブジェクトを用いたプログラムの作成等を通して、Web プログラミングの基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
HTML ファイルに直接記述し、Web ブラウザ上で実行される言語として JavaScript は広く用いられている。この授業では、HTML や CSS の基本的な記述方法を理解していることを前提に、JavaScript で変数、メソッド、オブジェクトといったプログラミングの基礎概念から解説し、web ページに画像のスライドショーを実装したり、リアルタイムで動作するチャットなどの web アプリの開発を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、プログラミングの準備、JavaScript とは						
第2回：JavaScript の基本、コードの書き方						
第3回：条件分岐						
第4回：繰り返し						
第5回：関数						
第6回：オブジェクト						
第7回：イベント処理						
第8回：スライドショーの作成						
第9回：jQuery の利用(1) ハンバーガーメニュー						
第10回：jQuery の利用(2) 画像のポップアップ						
第11回：Web API の利用(1) Map の利用						
第12回：Web API の利用(2) JSON						
第13回：最終課題(1) Web サイトの作成						
第14回：最終課題(2) 複数の機能をまとめる						
第15回：最終課題の相互評価						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 本当によくわかる JavaScript 教科書、ENTACK GRAPHICXXX (著) 、SB クリエイティブ						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 各回の課題 (70%) と 最終課題 (30%)						

授業科目名： 動画制作	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮下 十有 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： デジタルコンテンツとしての動画を制作するまでのルールや基礎知識を身につけ、実際にコンテンツを制作する。						
到達目標：受講者は動画を分析することでマルチメディア技術・表現の基礎知識を理解する。映像分析で培われた知識を活かし、デジタルコンテンツとしての動画のプランニング、デザイン、制作、プレゼンテーションの一連を経験することで、映像制作に加え、複合的なデジタルメディアの利活用を支えるマルチメディア技術・技能を身につける。様々なメディアの技術と表現に関して学ぶことで、作品制作に活かすことができる。						
<b>授業の概要</b>						
現在、学生が日常的に接することができる様々な動画を事例としてとりあげ、その構造と特徴を理解し、映像の構成要素と分析し、制作に関する技術や技法を具体的に理解する。						
構成を理解した上で、動画コンテンツの企画、立案、制作、プレゼンテーションを行うことで、映像・音声の素材を複合的組み合わせ、撮影技術・編集技術に関する応用的な知識を深め、自らの表現活動に活かす力を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：映像作品の調査と分析						
第3回：映像の基本的な技法・表現の理解と分析						
第4回：分析の実際分析結果のレポート制作(資料制作課題)						
第5回：分析のプレゼンテーションとルーブリックによるプレゼン評価						
第6回：映像制作のプロセスを知る～アイディアからプランニングへ						
第7回：アイディアを映像化する。映像クリップの撮影。						
第8回：映像クリップを整える。編集と調整。						
第9回：映像クリップのプレゼンテーションと相互評価						
第10回：映像クリップ作品の自己評価と振り返り						
第11回：映像作品のプリプロダクション：調査・企画・撮影プラン						
第12回：映像作品の撮影・録音-撮影プランに沿った撮影・録音						
第13回：映像作品の編集～撮影素材・録音素材の読み込みと編集						
第14回：映像作品のポスプロダクション～作品の完成と動画ファイルの書き出し・プレゼンテーション用資料の作成						
第15回：制作物プレゼンテーションと相互評価						
<b>テキスト</b>						
指定しない。資料はLMSを使って提示する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし。操作のマニュアルなど、適宜 PDF やサイト情報を配付。参考図書や参考サイトは授業中に指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業ごとに実施される小テストでの理解と積極的态度を測る(50%) 映像分析課題(15%)、映像クリップと相互評価(15%)、最終課題の作品評価と相互評価(20%)						

授業科目名： 三次元 グラフィックス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：鳥居 隆司 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： コンピュータグラフィックスの基本的な概念や技術、手法などを理解、Web 上で 3 次元のインタラクティブな考え方、3 次元 CG アプリケーションを利用した物体のモデル化やレンダリング。						
到達目標：						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標系を理解し、平行移動、回転、拡大縮小、鏡映変換などの各座標変換を理解できる。</li> <li>・コンピュータグラフィックスにおけるモデリング、レンダリング、アニメーションなどの基礎的技術を理解し説明できる。</li> <li>・Web 上にセンサーやアニメーションを利用した 3 次元仮想空間を表現できる。</li> <li>・3 次元 CG ソフトウェアの基本的な機能を利用し、モデリング、表面材質の設定、レンダリングなどを行うことができる。</li> <li>・コンピュータアニメーションの基本的な仕組みを理解し、アニメーションを表現できる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
我々が目にすることの多いCGが使用され、フリーウェアから市販のものまでCGを作成するためのアプリケーションツールも数多くある。CGはコンピュータやCGを実現できる様々なツール・装置などを使って作成された画像・映像やその画像・映像を作成する技術である。この授業では、コンピュータを用いて画像・図形を形成する技術を習得することを目的とし、三次元グラフィックス(3DCG)の基礎知識、基本的な概念等についても Web3D の記述言語や 3DCG アプリケーションを通して学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：3次元仮想空間(Web3D)の実現						
第2回：Web3D構築のための言語						
第3回：簡単な物体の作成						
第4回：表面材質の設定						
第5回：複雑な物体の作成と座標変換						
第6回：表現力と舞台環境の設定						
第7回：センサーの利用						
第8回：アニメーション						
第9回：3次元CGツールによる簡単な形状作成						
第10回：線形状によるワイヤーフレームモデル						
第11回：回転体・掃引体による生成						
第12回：自由曲面によるサーフェースモデル						
第13回：ポリゴンによる生成						
第14回：様々なレンダリング手法						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
課題レポートなどの提出物(70%)、 授業での取り組み(30%)で総合的に評価する。						

授業科目名： 編集デザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：楊 寧 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： Adobe InDesign の基本操作および紙面の編集デザインの基礎的考え方。						
到達目標：						
1) Adobe InDesign のツール・機能について十分に理解、応用することができる。 2) 日本語組版の基本および考え方を理解、応用することができる。 3) 課題制作を通して、情報を収集・整理・まとめ・伝えるプロセスを学ぶ。						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、エディトリアルデザインやその周辺の役割を学び、情報を収集し、整理し、まとめ、伝えるプロセスを学ぶ。その際の、編集すること、デザインすることの基本的な知識を身につけ、理解する。学んだ知識を生かし、紙媒体の誌面、ポスターなどデザインする知識を学び技能を身につける。また、制作時のプロセスも実践の中で得る。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション [導入：文字を組む]						
第2回：InDesign の基礎知識と基本操作						
第3回：紙面作成の基礎となる版面の設定						
第4回：ドキュメントの作成						
第5回：文字の入力および配置						
第6回：組版の基礎知識、書式の設定						
第7回：段落スタイルと文字スタイルの設定						
第8回：画像の配置と編集、色の設定						
第9回：演習課題の作成（InDesign を使用し見開きページの組版再現を試みる）						
第10回：演習課題の講評会、相互評価およびデザインのブラッシュアップ						
第11回：ページ数の多いドキュメントの処理						
第12回：総合演習-1 ラフ案の作成						
第13回：総合演習-2 素材を集め						
第14回：総合演習-3 レイアウト作業を行う						
第15回：総合演習の講評およびデザインのブラッシュアップ、全体の振り返り						
<b>テキスト</b>						
ベクトルハウス、『世界一わかりやすい InDesign 操作とデザインの教科書 [改訂 2 版]』、技術評論社、2021						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
下記の配分で 100 点満点とし、そのうち 60 点以上を合格とする。						
1) 毎回のミニワークでアプリケーションの習熟度を測る(50%)						
2) 制作課題について、学生同士のプレゼンテーション・制作物の相互評価(30%)、制作物そのものの評価(20%)により総合的に評価する。						

授業科目名： 情報産業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：二宮 一浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 変化の激しい現代のデジタル社会を理解するために、インターネットを中心に IT 産業のさまざまなトピックを学ぶ。</p> <p>到達目標：・デジタル社会の中でインターネットが果たす役割や歴史、産業の実際、ビジネスモデルといった情報産業の構造を理解し、説明できる。      ・インターネットやデジタル化の良い面、悪い面を理解し、情報やサービスに対して自ら判断できる。      ・情報産業の過去、現在、未来を理解することで、デジタル社会において考え方の指針となる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>インターネットを中心とした様々なトピックを通じて、複雑かつ高度化した情報通信技術、またそれを利用した様々なオンラインサービスの経済活動全体を理解する。また、実際に講師が勤めているインターネット企業での経験を踏まえた産業や仕事の実際を紹介する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：インターネットの概要						
第3回：インターネットサービスとそのビジネスモデル：基礎概念編						
第4回：インターネットサービスとそのビジネスモデル：具体編						
第5回：コロナとインターネット						
第6回：検索サービスについて						
第7回：ブロックチェーンと仮想通貨について						
第8回：ソーシャル・ネットワークについて						
第9回：インターネットの課題						
第10回：プラットフォームビジネスについて						
第11回：インターネットサービス開発の実際						
第12回：移動とインターネットについて						
第13回：AI、その課題と応用について						
第14回：海外のインターネット産業について						
第15回：インターネットの未来						
<b>テキスト</b>						
指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験は実施せずに、毎講義ごとのミニレポートを通じた理解度と授業態度（授業を受ける態度とディスカッションへの積極性）で総合評価する。						
ミニレポートは 70%、授業態度は 30%						

授業科目名： ビジネスと情報	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢島（田中） 彩子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 本講義では、ビジネスにおけるデータのうち、特に数字の裏付けとなるような3現（現場現物現実）の定性的データ・情報から未来の価値を考える手法・分析法、価値導出法を学ぶ。社会に出た際に、率先して新規事業開発、企画書提案ができる力をつける。						
<b>到達目標：</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出た際に、イノベーション＝新価値を付与し、新規事業の方向性策定、企画提案などのために、以下ができるようになる。</li> <li>・机上や数字だけではなく、世の中の動向、人間の行為、行動に対して、自らの五感を駆使し、気づきを得て、深い洞察から本質的な提案ができるようになる。</li> <li>・自らの思い（Will）や自己効力感、他己実現、チャレンジし続ける心を持てるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、ビジネスにおけるデータのうち、特に数字の裏付けとなるような3現（現場現物現実）の定性的データ・情報から未来の価値を考える手法・分析法、価値導出法を学ぶ。社会に出た際に、率先して新規事業開発、企画書提案ができる力をつけるよう、講義と小実践をしながら、企業でよくあるプロジェクトを模擬的に設定しながら進める						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：はじめに、チームビルディングとは						
第2回：イノベーションとは：イノベーション概論。課題認識共有。新価値創造の背景と実態（企業事例も含む）						
第3回：ファクト+ファインディング（1）：事実からの気づきの実践と理解。観察の着眼点、認知バイアスとは						
第4回：ファクト+ファインディング（2）：気づきの実践と共有。気づきに向けて必要な理論（アブダクション、統合）を学ぶ						
第5回：ファクト+ファインディング（3）：自ら獲得してきた情報（定性データ）から、アブダクション、統合思考で新たな気づき・解釈をする						
第6回：ファクト+ファインディング+インサイト（1）：インサイト（洞察）概論						
第7回：ファクト+ファインディング+インサイト（2）：インサイト導出を試み、思考のリフレームを学ぶ						
第8回：フォーサイト（新価値創造）（1）：“価値”とは何かを知る。価値を提案するために必要な要素を学ぶ						
第9回：フォーサイト（新価値創造）（2）：提案する新価値のコンセプト・方向性を明文化する。提案価値のストーリーを作る						
第10回：中間報告会：Fact → Findings（気づき）→Insightまで、初回から9回の講義のおさらいをする						
第11回：展望（新価値創造）（1）：ビジネスの観点での思考。Foresight（展望）のところの考え方を学ぶ						
第12回：展望（新価値創造）（2）：ビジネスモデルキャンバスを書き、自らが五感で得た、人の思いや社会のあるべき姿の“本質”をビジネスの観点で整理する						
第13回：メンタリング：報告会にむけての準備。フォロー						
第14回：報告会：一人ずつ、10分で発表						
第15回：報告会と講評：前回からの報告会・講評と個人レポート提出の説明						
定期試験						

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等

- ・松波晴人 『ザ・ファーストベンギンス』 講談社
- ・アレックス・オスター・ワルダー他 『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスマネジメントの新常識』 翔泳社

学生に対する評価

毎回提出のリフレクション (30%)、中間課題レポート (20%)、最終課題レポート (50%) で総合的に評価する。

授業科目名： 行政と情報	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮内 元 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 日本の行政におけるデジタル化とシビックテック 到達目標：日本におけるシビックテックの取り組みについて知り、市民と行政が一体となって課題を解決する方法を体験的に学ぶ。						
<b>授業の概要</b> 2021年にデジタル庁が設置され、国や地方自治体のIT化やDXの推進が注目されている。また、市民がテクノロジーを活用して行政サービスなどの地域の課題を解決する「シビックテック」という取り組みが広がりを見せている。本授業においては、エストニアなどデジタル政府の先進国の状況を学び、日本の行政におけるデジタル化について考える。また、日本のシビックテックの取り組みについて調査し、市民と行政が一体となって課題解決を効果的に行うための仕組みについて考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：シビックテックとは 第2回：シビックテックの歴史 第3回：デジタル政府の先進国 第4回：日本のデジタル改革 第5回：シビックテックとオープンデータ① 政府のオープンデータ 第6回：シビックテックとオープンデータ② 自治体のオープンデータ 第7回：シビックテックの事例① 交流型のイベント 第8回：シビックテックの事例② 参加型のイベント 第9回：シビックテックの事例③ ワークショップ形式 第10回：シビックテックの事例④ コンテスト形式 第11回：シビックテックに役立つツール① オンラインマップ 第12回：シビックテックに役立つツール② グラフィックレコーディング 第13回：アイデアソンの体験① チームビルディング 第14回：アイデアソンの体験② ブレインストーミング 第15回：アイデアソンの体験③ 発表 <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。適宜、資料を配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 稻継 裕昭、鈴木 まなみ、福島 健一郎、小俣 博司、藤井 靖史『シビックテック：ICTを使って地域課題を自分たちで解決する』（勁草書房） 松崎 太亮『シビックテックイノベーション 行動する市民エンジニアが社会を変える』（インプレスR&D）						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（100%）						

授業科目名： 福祉と情報	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：佐藤 仙務 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 医療や介護などの福祉分野における情報技術の活用 <b>到達目標：</b> 福祉の現場で生じる問題を知り、情報技術によって解決するための方法を体験的に学ぶ。						
<b>授業の概要</b> 福祉分野の生産性向上を目的として、医療や介護の現場で ICT の導入が進められている。タブレットを利用した情報共有や介護現場における見守りシステムなどは既に導入されており、最新技術を利用した介護ロボットなどの研究開発にも力が注がれている。本授業においては、福祉の現場で生じた問題に対し、ICT の利活用で解決した事例を学ぶ。また、人工知能やロボットなどの技術が、将来の福祉の現場において、どのように活用できるかを考える。						
<b>授業計画</b> <p>第1回：福祉分野における ICT 活用の現状</p> <p>第2回：超高齢社会と人材不足</p> <p>第3回：ICT の利活用① 業務効率化</p> <p>第4回：ICT の利活用② 情報連携</p> <p>第5回：ICT の利活用③ データ</p> <p>第6回：ICT の利活用④ 介護ロボット</p> <p>第7回：ICT の利活用⑤ 遠隔診療</p> <p>第8回：情報バリアフリーとアクセシビリティ</p> <p>第9回：アクセシビリティの事例① 視覚障碍者</p> <p>第10回：アクセシビリティの事例② 聴覚障碍者</p> <p>第11回：アクセシビリティの事例③ 肢体不自由者</p> <p>第12回：アクセシビリティの事例④ 高齢者</p> <p>第13回：フィールドワーク① 福祉施設の調査</p> <p>第14回：フィールドワーク② 現状の福祉の分析</p> <p>第15回：フィールドワーク③ 発表</p> <p>定期試験</p>						
<b>テキスト</b> 指定しない。適宜、資料を配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 高尾 洋之 『患者+医師だからこそ見えた デジタル医療 現在の実力と未来』（日経 BP）						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（100%）						

授業科目名： 情報科の指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：鳥居 隆司 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：高等学校学習指導要領「情報」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。						
到達目標：高等学校学習指導要領「情報」の目標及び主な内容並びに全体構造を理解し、個別の学習内容について指導上の留意点や学習評価の考え方を理解する。また、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れ、教科の特性に応じた情報通信技術及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるようになる。そして、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成したうえで、模擬授業を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。						
<b>授業の概要</b>						
情報社会の進展が社会に及ぼす影響から教育の情報化や情報教育の状況について把握するとともに、高等学校の情報科で必要な基礎的知識を学習指導要領に基づいて学ぶ。そして、生徒の認識・思考、学力等の実態の把握方法を知り、それらの実態に応じた授業設計手法について解説する。また、本教科の指導計画や学習指導案を作成し、情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業などの活動を通して、教育活動における評価の観点とその活用や授業改善の視点などについての考察を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：教育の情報化と情報教育						
第2回：教科「情報」の目標と全体構造						
第3回：教科の内容(情報 I)						
第4回：教科の内容(情報 II)						
第5回：情報と情報通信技術を活用した問題発見・解決の探究						
第6回：情報機器及び教材の効果的な活用						
第7回：生徒の実態と授業設計						
第8回：学問領域と教材研究						
第9回：学習評価の考え方						
第10回：指導計画の作成と他教科との関連						
第11回：授業設計と学習指導案						
第12回：学習指導案の作成						
第13回：模擬授業の実施と振り返り						
第14回：授業改善の視点						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（平成30年7月）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
模擬授業(30%)、指導案(30%)、授業での取り組み(40%)により総合的に評価する。						

授業科目名： 情報科の指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鳥居 隆司 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：高等学校学習指導要領「情報」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：高等学校学習指導要領「情報」の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができるために、本教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解する。また、個別の学習内容について指導上の留意点や学習評価の考え方を理解する。そして、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができ、それらの指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。また、当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>情報科の指導法Ⅰに続き、情報社会の進展による課題を知り、情報に関わる仕事や職業人としての在り方を学ぶ。そして、当該教科で必要な基礎的知識を学習指導要領や学習指導要領解説に基づいて解説するとともに、指導計画や学習指導案を作成し、模擬授業などの活動を通して、授業改善の視点を得るための取り組みを行う。さらに、発展的な学習内容についても探究し、学習指導へ位置付けるための考察を行う。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：情報社会の進展と課題						
第2回：情報に関わる職業人としての在り方						
第3回：専門学科における教科「情報」の目標と全体構造						
第4回：専門学科における教科「情報」の各科目						
第5回：専門学科における教科「情報」の課題研究						
第6回：専門学科における教科「情報」の情報実習						
第7回：学問領域と教材研究						
第8回：指導計画の作成と内容の取扱い						
第9回：授業設計と学習指導案						
第10回：学習指導案の作成						
第11回：模擬授業の実施と振り返り						
第12回：授業改善の視点						
第13回：実践研究の動向と授業設計の向上						
第14回：発展的な学習内容の探求と学習指導						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（平成30年7月）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
模擬授業(30%)、指導案(30%)、授業での取り組み(40%)により総合的に評価する。						

授業科目名： 日本史A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安原 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 近世・近代の日本と世界 到達目標：高校日本史B レベルの基本知識を確認するとともに、学問的に理解し直すことを通して、個別的知識ではなく論理的な歴史認識力を構築します。基本知識の定着とともに、将来、教壇に立った時に歴史学の成果を踏まえて知的工夫ができるようになることも目標です。配信する参考文献の PDF も含めて、各種文献へのアクセスが可能になることも重要です。						
<b>授業の概要</b> 安土桃山時代から戦後改革を学習します。近代日本は植民地化の危機から一転して、国家の主導によりアジア諸国を植民地化しながら産業化を推めました。しかし軍事強国である一方、欧米列強への依存から抜け出せない経済的弱国である矛盾は国内政治・外交に矛盾を招き、ジクザクと混乱した政治過程を経て、太平洋戦争の破局に至ります。戦後改革と日本国憲法の制定は戦後民主主義の原点となります。歴史総合に現れている、世界史と日本史の統合という最近の歴史教育の流れにも留意しながら、明治から敗戦への歴史展開を国際的要因・国内的要因の双方から学びます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：織豊政権						
第2回：幕藩体制の確立(1)—豊臣滅亡と武断政治・鎖国						
第3回：幕藩体制の確立(2)—幕府諸制度／元禄時代						
第4回：享保の改革と田沼政治						
第5回：寛政・天保の改革と列強の接近						
第6回：開国—有司専制政府の成立						
第7回：自由民権運動一大日本帝国憲法						
第8回：初期議会—明治三十二年体制の成立						
第9回：松方財政／日清・日露戦争と韓国併合						
第10回：桂園時代—第一次護憲運動						
第11回：大正デモクラシーと第一次世界大戦						
第12回：大正デモクラシーとワシントン体制						
第13回：五・一五事件・満州事変と新国家体制						
第14回：日中戦争からアジア太平洋戦争へ						
第15回：戦後改革と日本国憲法の制定						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
複数にまたがるので適宜紹介、PDFで配信する。 『岩波講座 日本通史』(岩波書店)・『日本の時代史』(吉川弘文館)・各種新書など。						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 90%、授業後の意見・感想・質問 10%						

授業科目名： 日本史B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安原 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 古代・中世の日本と東アジア国際社会 到達目標：高校日本史B レベルの基本知識を確認するとともに、学問的に理解し直すことを通して、個別的知識ではなく論理的な歴史認識力を構築します。基本知識の定着とともに、将来、教壇に立った時に歴史学の成果を踏まえて知的工夫ができるようになることも目標です。配信する参考文献の PDF も含めて、各種文献へのアクセスが可能になることも重要です。						
<b>授業の概要</b>						
前半では東アジア国際社会の緊張の中での律令国家の形成を確認、次に奈良時代の政争に続けて新たな貴族社会と政治システムが形成され地方支配が貫徹する平安時代への展開を学びます。後半では鎌倉・室町時代の武家政権の出現・発展と日本社会の変化を、国際的環境にも目を向けながら概観します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：飛鳥時代①—隋の中国統一と推古朝						
第2回：飛鳥時代②—半島統一戦争と大化の改新						
第3回：飛鳥時代③—天武・持統朝～大宝律令						
第4回：奈良時代①—平城遷都と奈良時代政治史／墾田永年私財法						
第5回：奈良時代②—光仁・桓武天皇の即位／東北遠征と長岡・平安京						
第6回：平安時代①—ポスト桓武の時代から摂関制の成立						
第7回：平安時代②—延喜の国制改革と王朝国家への転換						
第8回：平安時代③—「摂関政治」の全盛と地方支配						
第9回：平安時代④—院政と保元・平治の乱						
第10回：鎌倉時代①—内乱と鎌倉幕府の成立						
第11回：鎌倉時代②—執権政治から得宗專制へ						
第12回：鎌倉時代③—蒙古襲来から倒幕へ						
第13回：室町時代①—建武政権～南北朝の動乱						
第14回：室町時代②—足利義満の時代						
第15回：室町時代③—ポスト義満から応仁の乱へ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
複数にまたがるので適宜、PDFで配信する。『日本の時代史』(吉川弘文館)や各種新書など。						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 90%、授業後の意見・感想・質問 10%						

授業科目名： 外国史A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲山 茂 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：西洋前近代史研究 到達目標：他地域と対比させながら、西洋前近代史の普遍性と特殊性を説明できる。						
授業の概要 授業冒頭において、西洋の各地域の文化的特徴を押さえるとともに、古代・中世といった時代区分について明らかにする。そのうえで西ヨーロッパを中心に西洋の歴史を古代から論じていく。						
授業計画						
第1回：はじめに						
第2回：西洋の地域区分						
第3回：西洋史の時代区分について						
第4回：西洋古代1：地中海世界について						
第5回：西洋古代2：古代ギリシア史の展開						
第6回：西洋古代3：古代ローマ史の展開1（前10～前1世紀）						
第7回：西洋古代4：古代ローマ史の展開2（後1～5世紀）						
第8回：西洋中世1：5～8世紀						
第9回：西洋中世2：8～10世紀						
第10回：西洋中世3：10～14世紀						
第11回：西洋中世4：14～15世紀						
第12回：西洋近世1：15～16世紀						
第13回：西洋近世2：16～17世紀						
第14回：西洋近世3：17～18世紀						
第15回：まとめと展望						
定期試験						
テキスト なし						
参考書・参考資料等 参考資料は授業中に随時配付するが、さしあたっての参考書としては近藤和彦編『西洋世界の歴史』（山川出版社、1999）をあげておく。						
学生に対する評価 学期末の筆記試験（70%）、講義中の小テスト（15%×2）						

授業科目名： 外国史B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲山 茂 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 西ヨーロッパと東・西アジアを主対象とするユーラシア大陸の歴史 到達目標：西ヨーロッパと東・西アジアの歴史について、特徴・相違点を比較しつつ通史的に説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
現在の世界の姿に大きな影響を与えた西ヨーロッパ、中国をはじめとする東アジア、そして西アジア地域の歴史について通史的に概説する。さらに、これらの地域の歴史や社会のあり方を比較検討し、現代に通ずる問題についても考えていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ユーラシア大陸の地域区分1（ヨーロッパ）						
第2回：ユーラシア大陸の地域区分2（アジア）						
第3回：時代区分について						
第4回：歴史時代の開始（紀元前三千年紀から前二千年紀にかけての西アジア地域）						
第5回：紀元前十世紀から紀元後五世紀の歴史1（～前二世紀前後）						
第6回：紀元前十世紀から紀元後五世紀の歴史2（前二世紀前後～）						
第7回：六世紀から十世紀の歴史1（西ヨーロッパ）						
第8回：六世紀から十世紀の歴史2（西アジア）						
第9回：六世紀から十世紀の歴史3（東アジア）						
第10回：十一世紀から十五世紀の歴史1（西ヨーロッパ）						
第11回：十一世紀から十五世紀の歴史2（西アジア）						
第12回：十一世紀から十五世紀の歴史3（東アジア）						
第13回：十六世紀から二十世紀の歴史1（西ヨーロッパ）						
第14回：十六世紀から二十世紀の歴史2（西・東アジア）						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考資料は授業中に隨時配付するが、さしあたっての参考書としては近藤和彦編『西洋世界の歴史』（山川出版社、1999）、佐藤次高編『西アジア史 I』（山川出版社・新版世界各国史、2002）、永田雄三編『西アジア史 II』（山川出版社・新版世界各国史、2002）、尾形勇・岸本美緒編『中国史』（山川出版社・新版世界各国史、1998）をあげておく。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末の筆記試験（70%）、講義中の小テスト（15%×2）						

授業科目名： 都市の歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：今村 洋一 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<b>テーマ：</b> 国内外の都市の成立と変容に係る都市形成史・都市計画史 <b>到達目標：</b> 国内外の都市の成り立ちと変容、都市計画に係る手法や思想の歴史について、背景となる当時の都市問題との関係も含め、都市形成史および都市計画史の観点から説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
国内外の都市の成り立ちと変容、都市計画に係る手法や思想の歴史について、背景となる当時の都市問題との関係も含めて学ぶ。国外は、古代ギリシア・ローマ都市から、中世都市、ルネサンス都市、バロック都市へと続く都市の形態史、産業革命以降の近代都市計画思想（田園都市構想、近隣住区論など）を中心に扱う。国内は、古代中国の影響を受けた都城（平城京、平安京など）から、中世の寺内町、近世の城下町・宿場町・門前町へと続く都市の形態史、欧米の近代都市計画技術を受容した明治以降の都市計画（市区改正、旧都市計画法、帝都復興事業など）と戦後の都市計画（戦災復興都市計画、ニュータウン建設など）を中心に扱う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：都市の歴史を学ぶ意義						
第2回：欧洲の古代都市（ギリシャとローマ）						
第3回：中国の古代都市と日本の都城						
第4回：欧洲と日本の中世都市（宗教都市と自治都市）						
第5回：欧洲の近世都市（ルネサンスの影響とバロック期の都市改造）						
第6回：日本の近世都市(1)（城下町）						
第7回：日本の近世都市(2)（宿場町・門前町・湊町）						
第8回：欧米の都市の近代（産業革命と都市計画思想）						
第9回：日本の都市の近代(1)（帝都改造と都市計画制度の誕生）						
第10回：日本の都市の近代(2)（帝都復興と郊外開発）						
第11回：日本の都市の近代(3)（軍隊の影響と軍事都市）						
第12回：日本の都市の近代(4)（遊興空間と悪所）						
第13回：日本の都市の戦後(1)（戦災からの都市復興）						
第14回：日本の都市の戦後(2)（スプロール市街地とニュータウン）						
第15回：名古屋の都市形成通史						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
日端康夫（2008）「都市計画の世界史」講談社 高橋康夫ほか編（1993）「図集日本都市史」東京大学出版会						
<b>学生に対する評価</b>						
ミニ課題 50%、期末試験 50%						

授業科目名： 社会思想史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：樋口 謙一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 法・制度をめぐる社会思想史 到達目標：近代・現代の法・制度的規範の形成にかかわる思想史を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
欧米および日本・東アジアにおける近代・現代の法・制度的規範の形成にかかわる思想の歴史を講義する。適宜ゲストスピーカーの登壇や映像教材の利用を組み込み、理論と実際の両面の理解を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、社会思想史に関する基本用語の確認						
第2回：東西における法・制度と思想の関係						
第3回：東西における国家と社会						
第4回：個人主義の歴史						
第5回：自由主義の歴史						
第6回：民主主義の歴史						
第7回：資本主義の歴史						
第8回：社会主義と共産主義						
第9回：法治主義の歴史						
第10回：功利主義、プラグマティズムの歴史						
第11回：民族主義の歴史						
第12回：平和主義の歴史						
第13回：ケーススタディ：日本国憲法の思想史的分析						
第14回：ケーススタディ：韓国憲法史の思想的展開						
第15回：まとめ：社会思想史と教育						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし（講義資料を配付する）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
期末レポート 80%、各講義後の課題 20%						

授業科目名： 歴史と記憶	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：樋口 謙一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：歴史と記憶をめぐる思想とアーカイブズ 到達目標：歴史と記憶の関係への認識を深め、アーカイブズ学の基礎を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
歴史と記憶の関係への認識に関する基本的知識とアーカイブズ学の基礎について講義する。併せて、日韓関係史・韓国現代史と記憶に関する諸問題をケーススタディとして扱い、また、適宜ゲストスピーカーの登壇や映像教材の利用を組み込み、理論と実際の両面の理解を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス：歴史記述と記憶						
第2回：口承、文字・文書、図像						
第3回：メディアと記憶						
第4回：旅の記録と記憶						
第5回：アーカイブズ資源論						
第6回：歴史とアーカイブズ：公文書館						
第7回：歴史とアーカイブズ：民間アーカイブズ						
第8回：災害の記憶とアーカイブズ						
第9回：ケーススタディ：日本の近代と朝鮮半島の人々						
第10回：ケーススタディ：米軍政期南朝鮮のアーカイブズと記憶						
第11回：ケーススタディ：日韓関係と歴史認識をめぐるアーカイブズ						
第12回：ケーススタディ：韓国に生きた日本人たち						
第13回：ケーススタディ：在日コリアンとアーカイブズ						
第14回：歴史哲学						
第15回：まとめ：「歴史と記憶」と教育						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし（講義資料を配付する）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
期末レポート 80%、各講義後の課題 20%						

授業科目名： 情報社会史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：米田 公則 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： メディア発達の歴史と社会への影響・歴史的視点からのメディアと社会の関係を考える。メディアの発達が社会へどのような影響を与えてきたかについての知識を修得し、メディアと社会の関係を歴史的な観点から理解し、現代におけるメディアの影響を理解する基礎的态度を身につける。</p> <p>到達目標：これまでの歴史をメディア発達の視点から見ることで、歴史を相対的に見る視点を養う。また、それによりこれから発達するメディアが将来もたらすであろうことを見抜く基礎的力量を育成する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>現代社会を表すキーワードの一つとして「情報化」がある。今日「情報」のあり方の変化は、個人の生活のみならず、社会全域に大きな影響を与えていている。本講義では、はじめに「情報」「情報化」「コミュニケーション」「メディア」などの基本的概念を考察し、その後、メディア発達の歴史について概観し、それが社会にどのように関係し、影響を与えてきたのかを解明する。最後に、情報化の進展の中で私たちの生活と社会がどのような影響を受けつつあるのかを検討する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：はじめに、情報と情報化</p> <p>第2回：コミュニケーションとメディア</p> <p>第3回：メディアの発達史 I(メディア技術発達の影響)</p> <p>第4回：メディアの発達史 II(印刷革命)</p> <p>第5回：メディア発達の社会的影响 I(市民社会の成立とマスメディアの影響)</p> <p>第6回：メディアの発達史 III(近代マスメディア革命)</p> <p>第7回：メディア発達の社会的影响 II(大衆とメディア)</p> <p>第8回：メディアの発達史 IV(デジタル・メディア革命)</p> <p>第9回：デジタル・メディア発達の個人的影响</p> <p>第10回：デジタル・メディア発達の社会的影响</p> <p>第11回：情報社会論の考え方と争点</p> <p>第12回：情報革命と世界システム</p> <p>第13回：メディア、情報、コミュニティ</p> <p>第14回：現代社会と情報</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<b>定期試験</b>						
<p>テキスト</p> <p>教科書は使用しない。</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に参考文献、資料を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 60%、授業中の課題 40%						

授業科目名： 美術史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：見田 隆鑑 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 日本美術に親しむ <b>到達目標：</b> 日本美術史の流れを理解し、各時代の代表的な美術・工芸作品について、名称などを覚えるだけではなく、各時代の社会的・文化的背景、アジア地域との文化的な交流の様相を含めて捉えることができるようになることを目標とする。また、図像、様式など美術史学の視点から作品を観察し、自身の目を通して作品を分析し、解釈できるようになることも目標とする。						
<b>授業の概要</b> 日本美術の流れについて特に飛鳥時代～江戸時代の彫刻・絵画・書跡・工芸の各分野から代表的な作例を取り上げながら編年的に解説する。美術作品に残される様々な情報を手がかりに、各時代の社会的・文化的背景、特にアジア地域との文化的な交流についても理解を深める。また、様々な美術作品の理解を通して、人文科学系の博物館で扱われる美術・工芸資料についての基礎的な知識を獲得することを目指す。						
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション 第2回：仏教公伝以前の日本美術 第3回：飛鳥時代前期の美術 第4回：飛鳥時代後期の美術 第5回：奈良時代の美術① 鎏造の造形作品 第6回：奈良時代の美術② 塑造、乾漆造の造形作品 第7回：平安時代の美術① 貞觀美術 第8回：平安時代の美術② 藤原時代、院政期の美術 第9回：鎌倉時代の美術① 運慶、快慶の彫刻 第10回：鎌倉時代の美術② 鎌倉時代の絵画 第11回：南北朝・室町時代の美術① 彫刻 第12回：南北朝・室町時代の美術② 絵画 第13回：桃山時代の美術 第14回：江戸時代の美術① 彫刻 第15回：江戸時代の美術② 絵画 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし。毎回、配付資料及びPowerPointを用いて講義します。						
<b>参考書・参考資料等</b> 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社、2003年）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001年）、山下裕二、高岸輝監修『日本美術史』（美術出版社、2014年）、古田亮編著『教養の日本美術史』（ミネルヴァ書房、2019年）、山本陽子著『はじめての日本美術史』（山川出版社、2018年）、辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2005年）						
<b>学生に対する評価</b> 毎回の授業への参加姿勢、提出物等（40%）、定期試験（60%）をもとに総合的に評価を行う。						

授業科目名： 文化遺産論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：佐藤 純子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 文化遺産(文化財制度、世界遺産等)の成立経緯と現状、および課題</p> <p>到達目標：文化遺産、特に文化財や世界遺産といった代表的な制度がどのようにして成立して、現在どのように運用されているのかを知る。</p> <p>文化財や世界遺産といった代表的な文化遺産を価値づける制度がいかに成立し、現在どのように運用されているのかを知り、これから社会における文化遺産の役割や意義について受講者自身それぞれが独自の考え方や意見をもつことができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>文化遺産はなぜ重要なのだろうか。戦後に成立した現行の文化財制度や、国際的な遺産の保護条約である世界遺産条約が施行、締結されて以降、私たちの身の回りには「〇〇遺産」と名の付くものが溢れている。だが、これらの「遺産」を遺産たらしめている制度や条約がなぜ生まれ、どのように成立したかについて広く知られていないのが現状である。そもそも文化遺産はなぜ継承されなければならないのだろうか。継承される必要があるのだろうか。そこで本授業では、文化遺産の成立経緯を学んだ後に、個別の事例から文化遺産の現状と諸課題について紹介する。講義を通じて、改めて文化遺産とは何であるか、またそれらを「遺す」ことはどのような意義や役割があるのかと一緒に考えていきたい。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：イントロー文化遺産とは</p> <p>第2回：日本の文化財保護の歴史(1) 明治維新、廃仏毀釈</p> <p>第3回：日本の文化財保護の歴史(2) 博覧会、殖産興業</p> <p>第4回：日本の文化財保護の歴史(3) 古社寺保存法、史跡名勝天然紀念物保存法、国宝保存法</p> <p>第5回：文化財保護法</p> <p>第6回：日本の文化財の特徴</p> <p>第7回：事例紹介：有形の文化財</p> <p>第8回：事例紹介：無形の文化財</p> <p>第9回：世界遺産とは(1) ヌビア遺跡群の救済、世界遺産条約</p> <p>第10回：世界遺産とは(2) 文化遺産、自然遺産、複合遺産</p> <p>第11回：事例紹介：世界文化遺産(1) 富岡製糸場と絹産業遺産群</p> <p>第12回：事例紹介：世界文化遺産(2) 白川郷・五箇山の合掌造り集落</p> <p>第13回：事例紹介：世界自然遺産</p> <p>第14回：無形文化遺産</p> <p>第15回：まとめ－文化遺産を遺すこと、およびその意義</p>						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
筆記試験 60%、リアクションペーパー40%						

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：福本 拓 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：人文地理学の多様な観点・方法から世界や地域の諸問題を捉える <b>到達目標：</b> 1.空間編成・地域形成のダイナミズムを、産業や人口の観点から説明できるようになる。 2.グローバルな政治経済変動との連関する身近な事例を挙げられるようになる。 3.地域間格差について、各自の考えを人文地理学の観点に基づいて表明できるようになる。 4.現代社会の諸問題に、人文地理学の観点からアプローチすることの意義を説明できるようになる。						
<b>授業の概要</b> 人文地理学とは、各地域のそれぞれの状況を網羅的に記述する暗記科目のように思われるがちだが、実際は、そうした地域ごとの様々な差異や特性がどのように形成されるのかという、地域的差異・特性の形成プロセスやその意味を探求することを基本とした学問である。本講義では、人文地理学の基礎概念を概観したあと、人文地理学のなかでも主に比較的近年の経済・社会地理学を中心に講義し、地域・場所の諸特徴やそれらの形成過程について考えていく。						
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション：人文地理学の基礎概念 第2回：地域間結合と交通・通信 第3回：工業立地とその変動 第4回：農業・農村とフードシステムの地理 第5回：サービス業・商業の地理 第6回：労働の空間的側面 第7回：都市の地理①：都市の成り立ちと都市空間構造 第8回：都市の地理②：資本主義と都市空間 第9回：グローバル化と経済格差の地理 第10回：人口移動の地理 第11回：日本の地域経済と地域間格差 第12回：場所の差異化—「ご当地」現象を読み解く— 第13回：GIS（地理情報システム）と情報の地理 第14回：福祉・健康の地理 第15回：講義のまとめ：人文地理学からみえる世界 <b>定期試験</b> テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 上杉和央ほか編『みわたす・つなげる人文地理学』古今書院、2021年。 竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015年。 竹中克行編『人文地理学のパースペクティブ』ミネルヴァ書房、2022年。 山本健児『経済地理学入門—地域の経済発展』原書房、2005年。						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験 70%，授業取組度（授業内課題、振り返り、グループワーク）30%で評価する。						

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 康弘 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 自然地理学の概要と地域のあり方 <b>到達目標：</b> 自然地理学の視点を学び、地域のあり方をどのように考えたら良いか、どのように教えたら良いかを習得する						
<b>授業の概要</b> 自然地理学の全体像を学び、自然地理学の俯瞰的な視点の特徴について理解を深める。その上で地理の授業を通じて学習指導要領でも求められている「地域のあり方」について、生徒たちにどのように教えたら良いかを考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション—自然地理学の視点 第2回：日本の風土の特殊性と自然災害の課題 第3回：世界の地形の多様性—大地形と変動帶— 第4回：山地形成論—山はなぜ高くなるか— 第5回：変動する大地—海岸地形からわかること— 第6回：地震の地理学—地震はどこでなぜ起こるか— 第7回：世界の気候、植生、土、水の多様性(1)：大気大循環 第8回：世界の気候、植生、土、水の多様性(2)：季節変化 第9回：近年の自然災害(1)：東日本大震災のインパクト 第10回：近年の自然災害(2)：阪神・淡路大震災と熊本地震 第11回：近年の自然災害(3)：西日本豪雨・東日本台風が提起した課題 第12回：防災と社会を考える(1)：レジリエンスとサステナビリティ 第13回：防災と社会を考える(2)：活断層大地震に備える 第14回：防災と社会を考える(3)：ハザードマップ 第15回：防災と社会を考える(4)：原発と活断層						
<b>定期試験</b> <b>テキスト</b> 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 「活断層大地震に備える」鈴木康弘著 ちくま新書 2001 「原発と活断層」(岩波科学ライブラリー)鈴木康弘著 岩波書店 2013 「防災・減災につなげるハザードマップの活かし方」鈴木康弘編著 岩波書店 2015 「草原と都市—変わりゆくモンゴル」石井・鈴木・稻村編著 風媒社 2015 「『地理総合』ではじまる地理教育—持続可能な社会づくりを目指してー」碓井照子編 古今書院 2018 「ボスフォラスを越えて—激動のバルカン・トルコ地理紀行」鈴木康弘著 風媒社 2021						
<b>学生に対する評価</b> 小レポート4回：60%、最終レポート：40%						

授業科目名： 地誌	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福本 拓 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 地誌学から捉える地域の多様性 <b>到達目標：</b> 地域の特性を形作る人文・自然要因の複雑な絡み合いを理解し、諸スケールの地域的特性を、全体としての地域的多様性も意識しながら理解し、その考え方を現実社会を読み解く上で役立てることができるようになる。						
<b>授業の概要</b> 地誌とは、自然・人文現象が織りなす形で作り出す地域の諸特性をいう。一般に、地誌は国スケールで論じられることが多いが、むろんその範囲の広狭に応じた形でそうした特性を捉えることもできる。また、地域の特性は、これら地域の総体としてのシステムの中で生起することも見逃せない。たとえばグローバル化とローカル化の関係などが挙げられよう。授業では、①国スケールの地誌、②身近な地域スケールの地誌、③地域間システムの中の地誌という3点から地誌の方法と各地域の特性を学ぶ。						
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション 第2回：自然環境と人々の暮らし①：中国・インドの事例 第3回：自然環境と人々の暮らし②：東南アジアの事例 第4回：自然環境と人々の暮らし③：ヨーロッパの事例 第5回：自然環境と人々の暮らし④：アメリカの事例 第6回：自然環境と人々の暮らし⑤：発展途上国の環境問題 第7回：自然環境と人々の暮らし⑥：災害と地域文化（日本・東北地方） 第8回：人文環境がもたらす地域の特徴①：アメリカの政治と社会 第9回：人文環境がもたらす地域の特徴②：イスラームの世界 第10回：人文環境がもたらす地域の特徴③：ヨーロッパの多文化社会 第11回：人文環境がもたらす地域の特徴④：サブカルチャーの地誌 第12回：グローバル化とローカル化①：イギリス帝国の人の移動と文化 第13回：グローバル化とローカル化②：日韓関係とK-POPのグローバルな流行 第14回：グローバル化とローカル化③：沖縄文化の伝播と再創造 第15回：講義のまとめ <b>定期試験</b> テキスト 使用しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 矢ヶ崎 典隆ほか編『地誌学概論（第二版）』朝倉書店、2020年 矢ヶ崎 典隆ほか編『グローバリゼーション—縮小する世界—』朝倉書店、2018年 矢ヶ崎 典隆ほか編『ローカリゼーション—地域へのこだわり—』朝倉書店、2018年 矢ヶ崎 典隆ほか編『サステイナビリティ—地球と人類の課題—』朝倉書店、2018年						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験 70%， 授業への参加度（課題文献の理解度、発表、ディスカッションへの参加）30%						

授業科目名： 観光学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：阿部 純一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 「持続可能な観光」への招待						
到達目標：						
(1)「持続可能な観光 sustainable tourism」が求められる理由を、観光開発の歴史を踏まえて説明できる。 (2)観光とその他の社会活動(環境保護、伝統文化の保存、地方創生など)との関係を、具体的な観光地の事例を用いて説明できる。 (3)観光とさまざまな社会問題(少子高齢化・人口減少・経済格差・人種差別など)との関係を、具体的な観光地の事例を用いて説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
今後の観光業界において重視すべき「持続可能な観光」をテーマに、行き過ぎた観光開発が地域社会に与える負の影響（環境破壊、地域文化・住民生活の見世物化、リーケージ問題、オーバーツーリズム等）や、観光地の持続的発展を実現するために観光客の量や行動をいかにコントロールすべきかについて、具体的な観光地の施策をもとに学ぶ。事例としては、地域外資本によるリゾート開発、世界遺産エリアにおける観光客のコントロールや遺産管理の手法、エコツーリズムなどの環境に配慮した新しい観光の実践を取り上げる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：観光をなぜ学ぶのか						
第2回：「観光」の誕生と発展 1：ヨーロッパの事例						
第3回：「観光」の誕生と発展 2：日本の事例						
第4回：「観光開発」から「持続可能な観光」へ						
第5回：観光地化の功罪：チベットの観光開発						
第6回：観光客の「量」から「質」へ：ブータンの観光政策						
第7回：世界遺産条約と「持続可能な観光」：ユネスコの取組み						
第8回：世界遺産と危機遺産：富士山・麗江・ドレスデンの選択						
第9回：「開発」と「保護」をいかに両立させるか：小笠原諸島のエコ・ツーリズムと外来種対策						
第10回：観光で村落を再生する：石川県の農家民泊の実践						
第11回：「都市開発」から「町並み観光」へ：愛知県犬山城下町の衰退と再生						
第12回：観光の「障害」を取り除く(1)：「ソーシャル・ツーリズム」の実践						
第13回：観光の「障害」を取り除く(2)：インバウンド観光の受入体制の課題						
第14回：ポストコロナ時代の観光業とSDGs：「責任ある観光」に向けて						
第15回：総論						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する						
<b>学生に対する評価</b>						
期末試験(70%)と毎回の課題提出(30%)による総合評価。						

授業科目名： 地域社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：谷口 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 縮小する地域社会 到達目標：「地域社会」という概念の多義性を踏まえて地域政策の歴史的展開を理解する。						
<b>授業の概要</b> 私たちの生活の場となる地域社会(都市・農村)の成立とその展開について理解することを目的とする。今日、「地域」は、様々な社会課題を解決する主体として期待されている。はたして、「地域」は課題解決の担い手になりうるのか。地域社会の現状を捉えながら多様な人々が社会に包摂される仕組みについて検討する。具体的には地域住民組織(民間組織)と行政の役割と責任、住民・市民と専門家との関係性の実際についてあつかう。そして、尾張地域、隣接する三河地域、さらには東海地方の地域性について理解を深め、自らの生活圏を豊かにしていく手立てを考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：近代社会の成立(国家・社会・人権) 第3回：都市と農村(家制度・自然村・行政村) 第4回：都市的な生活様式(異質性・貧困問題・セツルメント) 第5回：戦後日本の地域社会と地方自治制度(民主主義・社会福祉協議会) 第6回：町内会の本音と建前(公助・共助・互助・自助) 第7回：全国総合開発計画という政策(インフラ整備・社会資源の活用・生活の質) 第8回：東京圏と地方都市/中心都市と郊外(近隣住区・コミュニティオーガニゼーション) 第9回：コミュニティという発想からまちづくりへ(住民参加・ボランティア) 第10回：地方分権と新しい地域の担い手(コミュニティワーク・ケアシステム) 第11回：地域共生社会の可能性(社会的包摂と社会的排除・福祉計画の意図するところ) 第12回：グローバリゼーションとローカルガバナンス(産業構造の転換・企業福祉と地域福祉) 第13回：協働行政と地域自治(多機関多職種の連携・地域運営組織の可能性) 第14回：地域住民組織再考(市民の役割・行政の役割・企業の役割・地域の役割) 第15回：まとめ <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b> 中間レポート課題 30%、最終レポート試験 70%						

授業科目名： 地元学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷口 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 「地元」を身体化する <b>到達目標：</b> 自らの「地元」について理解を深めるとともに「語り」を構築する						
<b>授業の概要</b> <p>私たちにとって「地元」とはどのようなものなのだろうか。消費社会における「場所の価値」とは、単に場所そのものの使用価値や生産価値にあるのではなく、商品としての場所に付与された「記号性」にあるとされる。その「記号性」を私たちは自らの地域の個性として消費し、「自分らしさ」や「地域らしさ」を主張する。一方で、持続可能な社会の実現は、大量生産・大量消費の仕組みを見直し、人間の暮らしや文化の本質を問い合わせることを求めている。豊かな生活文化を想起させる「地元の未来予想図」やそれを実現するための「地元のアクションプラン」について考える。そして、インターネット社会を前提とするわたしたちにとって、「地元」をどのように身体化することが可能なのかを問う。</p>						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：匂いのあるまち（感覚地理） 第3回：地域と身体性（感覚地理） 第4回：景観と風景（自然と人工） 第5回：排除アート 第6回：バラック的なもの 第7回：自然（じねん）と曼荼羅 第8回：森と里 第9回：地縁と血縁 第10回：地域の手仕事（地形・気候・宗教・歴史の因果） 第11回：地域の暮らし（地形・気候・宗教・歴史の因果） 第12回：空間と場所（社会システム） 第13回：場所愛（トポフィリア） 第14回：私の在るところ（空間的時間的存在） 第15回：まとめ						
<b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b> 中間レポート課題 30%、最終レポート試験 70%						

授業科目名： 地域文化資源論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：季（紀和） 増民 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 文化地域の存立基盤と変化 到達目標：世界の文化の多様性を理解し、人間と環境の関わりを考え、多種多様な情報を吟味し、自らの文化を再発見し、自分の価値を追求する能力の向上を図る。また、地域の活性化に資するようなプランを作成するための応用能力を高める。						
<b>授業の概要</b>						
地域文化資源論は、世界の文化の多様性を理解し、人間と環境の関わりを考え、多種多様な情報を吟味し、自らの文化を再発見し、自分の価値を追求するうえで、大きな助けになるであろう。本講義では、文化の地域的・環境的・景観的側面に着目し、そのパターンの発見、プロセスの説明、意味の解釈、応用方法などを学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：地域文化資源論とは						
第2回：城下町名古屋の特徴						
第3回：城の立地場所						
第4回：熱田神宮						
第5回：宮と町づくり						
第6回：名古屋のものづくり文化						
第7回：名古屋のものづくり文化の原点						
第8回：日本人にとってのコメ						
第9回：ポンペイの復元						
第10回：ティーロード（茶の起源と伝播）						
第11回：太極拳と茶芸のコラボ						
第12回：東アジアの茶文化の比較						
第13回：浜松が「楽器の町」になった理由自然の視点						
第14回：浜松が「楽器の町」になった理由人文の視点						
第15回：「竹と共に生きる」独特な文化（中国雲南省）、まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。プリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
高橋伸夫ほか「文化地理学入門」、東洋書林。 石毛直道「食の文化地理」、朝日新聞社。石毛直道「麺の文化史」講談社学術文庫 地図帳を必ず持参すること。帝国書院編集部編「新詳高等地図、最新版」、帝国書院、本体 1,500 円						
<b>学生に対する評価</b>						
期末試験と提出物 65%、受講態度 35%						

授業科目名： 都市空間論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：季（紀和） 増民 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 都市の立地条件・特徴のとらえ方および都市内コミュニケーション 到達目標：2010年におけるアジアの都市人口率は41.3%に達し、2025年には50%を越えると推測されている。都市にはそれぞれの国の歴史、社会、文化、民俗が濃縮されている。都市のとらえ方、分析視点などについての能力を高める。						
<b>授業の概要</b>						
主に地理学の視点から、都市の成り立ち(港、市場、城塞)、個性の区分(交易・観光)、都市特徴のとらえ方(平面と立体、昼と夜)、現地観察方法やレポートの書き方などを習得することができる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：都市空間論概説						
第2回：多種多様の都市分類						
第3回：チャンギ空港に見るシンガポールの観光立国						
第4回：頭脳立国を目指す都市国家シンガポール						
第5回：絶えず進化する街、シンガポール						
第6回：イスタンбуールの進化に関する分析						
第7回：イスタンбуールの都市空間の特色						
第8回：実験都市—深圳（中国）						
第9回：日本におけるチャイナタウンの沿革						
第10回：チャイナタウンの空間展開の特色						
第11回：チャイナタウンの観光化と現地化						
第12回：東京におけるエスニックタウンの沿革						
第13回：帝都北京の空間構造						
第14回：仏教都市（ヤンゴン）						
第15回：ごちゃまぜの街づくり（金沢）						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。適宜プリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
テーマに応じて、適宜参考書を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
期末試験と提出物 65%、受講態度 35%						

授業科目名： 地域デザインの 手法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：季（紀和） 増民 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 地域性の解明と地域文化・魅力の活用 到達目標：地域をどのように読み解くか、その視点と方法を習得する。地域個性を活かしたまちづくりをどのように進めればよいのか、その基本や実現に向けての手法などへの理解を、具体的な事例を踏まえて深める。						
<b>授業の概要</b> 少子高齢化社会に突入していく日本将来を考える上で、安全で安心できる、住みやすいまちづくりは必要不可欠である。マクロ的には立国方針に基づく国土デザイン、ミクロ的には町内会などの地域コミュニティの計画を策定する時、それぞれの地域の文化に根ざした風土・習慣・住民の生活の知恵を尊重し、活用することは大事である。本講義では、地域（観光地域や世界遺産なども含む）の区分や見方、地域資料（衛星画像、夜間光なども含む）の収集方法、地域未来像実現（計画や実現の手順など）の手法などを学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：少子高齢化社会における国土デザイン						
第3回：多発する自然災害への備え						
第4回：21世紀の日本の国土未来像						
第5回：デンマークの国土づくり						
第6回：デンマークにおける地域資源の活用						
第7回：ブータンに見る国土デザインの特徴						
第8回：日本の郊外ニュータウンの比較						
第9回：ニュータウン高藏寺の現状と再生						
第10回：コンパクトシティ（富山市）						
第11回：スマートシティ構想（静岡県裾野市）						
第12回：日本列島改造論—国土デザインの表裏						
第13回：東日本大震災シリーズ						
第14回：リニア新幹線と日本の将来						
第15回：リニア新幹線による地域文化の再編						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。毎回、プリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 空から見た国土の変遷、（社）日本写真測量学会編、古今書院						
<b>学生に対する評価</b> 期末試験と提出物 65%、受講態度 35%の割合で総合的に判断する。						

授業科目名： リスクマネジメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒田 由彦 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 地震・津波など自然災害やパンデミックのようなリスクに対する備えと対応 <b>到達目標：</b> 自然災害やパンデミックのリスクについて正しい知識をもつとともに、それにどう備えるか、また危機的状況が実際に到来したときに、どのように対応するかについて正しい判断を行うのに必要な思考力・判断力を身につける。						
<b>授業の概要</b> 地震・津波などの自然災害、また新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックについて、そのメカニズム等についての科学的に正確な理解・知識、および災害・パンデミックへの社会的対応としての防災・減災政策や公衆衛生体制についての知識を獲得した上で、実際に危機的状況が到来した場合を想定し、自分が置かれている状況に応じてリスクマネジメントがとれるよう思考力・判断力を養う。						
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション 第2回：現代社会におけるリスクマネジメントの意義 第3回：リスクマネジメント研究の歴史と成果 第4回：自然災害のリスク（1）：地震・津波のメカニズム 第5回：自然災害のリスク（2）：南海トラフ巨大地震と首都直下地震 第6回：日本における防災・減災政策と市民の防災意識 第7回：東日本大震災からの教訓（1）：防災対策への過信が生んだ悲劇 第8回：東日本大震災からの教訓（2）：避難と復旧・復興の現実 第9回：前災害期におけるリスクマネジメント 第10回：災害時のリスクマネジメント 第11回：新しい防災パラダイム：コミュニティ防災という考え方 第12回：多頻度小規模災害に対するリスクマネジメント 第13回：グローバル化とパンデミック 第14回：新型コロナウイルス感染症にみるリスクマネジメント 第15回：まとめ：リスクマネジメントとライフプラン <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> 使用しません。授業内容について毎回プリントを配付します。						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて授業中適宜指示します。						
<b>学生に対する評価</b> リアクションペーパー40%、期末筆記試験 50%、授業態度 10%。						

授業科目名： 都市とジェンダー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：影山 穂波 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 都市において生じる多様なジェンダー問題を検討 到達目標：ジェンダー概念を理解することで、日常生活において生じるジェンダー問題を認識し、考察を通じて洞察力と問題解決能力を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
日常生活において男女の意識や役割の区分は文化的に作られてきた。男女の差(ジェンダー)がいかなるものなのかも検討する。またそれが、身近な地域、都市とどのように関連しているのかを具体的に学ぶ。さらに自分自身で問題を探し出し、それを調べることを通して理解を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ジェンダーとは何か						
第2回：ジェンダー概念の検討						
第3回：都市との関係						
第4回：フェミニズムの展開						
第5回：フェミニズムの歴史：世界の動向						
第6回：フェミニズムの歴史：日本の動向						
第7回：男女雇用機会均等法をめぐって						
第8回：性の商品化と現代社会						
第9回：貧困の女性化						
第10回：都市におけるジェンダー問題						
第11回：日常生活の中で経験している身近な問題を検討：労働問題						
第12回：日常生活の中で経験している身近な問題を検討：政治的問題						
第13回：日常生活の中で経験している身近な問題を検討：社会的問題						
第14回：日常生活の中で経験している身近な問題を検討：文化的問題						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 現在編集中の本を利用する予定。吉田容子・影山穂波編『ジェンダーの視点でよむ都市空間』（仮題）						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業時に適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業後のまとめ 40% プrezentation中間課題 30% 最終課題 30%						

授業科目名： 観光と地域	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：影山 穂波 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> ハワイを事例に国際的な視点で地域を考える <b>到達目標：</b> 多様な視点から観光地をみることで、その地域に関する情報が一面的であることに気づき、その背景にある多様な事象を考えることができるようになる。						
<b>授業の概要</b> リゾート地域として有名なハワイにおいて、一般的にはあまり知られていない日常生活を検討する。日系人・日本人社会がハワイにおいてどのように変容していったのかを探り、一大観光地域として形成されていった背景について理解する。						
<b>授業計画</b> 第1回：観光を国際的な視点でみる 第2回：観光地ハワイ 第3回：日本とハワイ 第4回：ハワイのはじまり 第5回：ハワイの発展と王室 第6回：ハワイをめぐる利権争い 第7回：ハワイ王室の終焉 第8回：海外からの移民の果たした役割 第9回：日系人の歩み 第10回：写真花嫁 第11回：太平洋戦争と日系人 第12回：戦後のリゾートとしてのハワイ 第13回：日本人による投資と発展 第14回：日本人のネットワークと居住 第15回：まとめ <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 特に指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 中嶋弓子『ハワイさまよえる楽園：民族と国家の衝突』東京書籍 タカキ,R.著『パウ・ハナーハワイ移民の社会史一』刀水書房						
<b>学生に対する評価</b> 授業後のまとめ 40% 中間課題 20% 最終課題 40%						

授業科目名： 世界遺産論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：豊崎 美紀 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 世界には、人類や地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境などを人類共通の財産として守る「世界遺産」がある。</p> <p>到達目標：本科目は、世界遺産を通して幅広い国際教養を身につけることを学修の目標にしている。本授業を通じ、文部科学省後援「世界遺産検定」3級合格レベルの知識を身につける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
ユネスコの理念や各世界遺産の学習を通して、観光、宗教、文化の多様性、地域の課題、環境問題、芸術・建築などを幅広く学ぶ。グローバル社会の理解に対する学習意欲のある学生を歓迎する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業の内容、授業の進め方、成績評価について本科目の概要を説明する。						
第2回：世界遺産条約、ユネスコの理念など、世界遺産に欠かせない基礎的な知識を解説する。						
第3回：「姫路城とヨーロッパ城郭建築」など、特徴が似ている海外の世界遺産と比較し、日本の世界遺産を解説する。						
第4回：「屋久島とグランドキャニオン」など、特徴が似ている海外の世界遺産と比較し、日本の世界遺産を解説する。						
第5回：ヨーロッパの先史時代・古代文明遺跡は、現在のヨーロッパ文明のルーツを示している。人類の誕生と古代文明について学ぶ。						
第6回：アジアの世界遺産は、広大なアジア地域に花開いた文化や宗教の多様性を今に伝える。アジア世界の形成と宗教について学ぶ。						
第7回：ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代の世界遺産について解説。中世ヨーロッパに誕生した都市国家は、激動した宗教や文化、政治・経済を象徴している。						
第8回：高度な文明や精神文化の存在を示している、中南米やアフリカオセアニアの遺跡について学ぶ。						
第9回：近代国家の成立と世界の近代化について学ぶ。この時代に関連している遺産は、そのまま現代社会にもつながっている。						
第10回：文化的景観、戦争・紛争、地震に関連する世界遺産を学ぶ。加えて危機遺産、負の遺産について解説する。						
第11回：自然環境と持続可能社会について解説。世界の代表的な自然遺産は、かけがえのない地球の歴史とその偉大さを伝えている。						
第12回：世界遺産総復習(1) 知名度の高い世界遺産 「富士山」など一般教養を身につける						
第13回：世界遺産総復習(2) 知名度の高い世界遺産 「ヴェネツィア」など一般教養を身につける						
第14回：テーマでみる世界遺産(1) 世界遺産と観光【ケーススタディ：白川郷とガラパゴス諸島】						
第15回：テーマでみる世界遺産(2) 世界遺産と保全【ケーススタディ：首里城とノートルダム大聖堂】						
/ 総括						
定期試験						

**テキスト**

『きほんを学ぶ世界遺産 100<第 4 版>/世界遺産検定 3 級公式テキスト』（世界遺産検定事務局著、マイナビ出版）  
『世界遺産検定公式過去問題集 3・4 級 2024 年度版』（世界遺産検定事務局著、マイナビ出版）

**参考書・参考資料等**

授業中に適宜資料を配付する

**学生に対する評価**

- 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）
- 上記以外に、世界遺産検定受験者、2 級合格者、3 級合格者には加点する。
- 出席回数が 3 分の 2 に満たない場合は欠格とする。なお、C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業科目名： 国際社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林 かおり 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 国際協力を軸に国際社会について理解する。 <b>到達目標：</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際社会の現状について歴史的背景を含め理解できる。</li> <li>2. 国際社会における国や地域の特徴を理解できる。</li> <li>3. 国際社会における国際協力のしくみや取り組みを理解できる。</li> <li>4. 情報や知識を元に国際社会へのかかわり方を自ら考え、議論することができる。</li> </ol>						
<b>授業の概要</b> 国際社会について国際協力を軸に学んでいきます。開発途上国を中心とした国や地域の歴史的背景や社会のしくみを理解し、その上で国際協力の取り組みについて理解を深めます。さらには、開発途上国を中心とする現地の人々とのオンライン交流といった実践的なコミュニケーションの機会からも学んでいきます。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション、事前ノート 第2回：「国際社会」をどう学ぶか 第3回：国際協力とは1：概論 第4回：国際協力とは2：組織と取組み 第5回：国際協力とは3：日本の事例・欧米の事例 第6回：国際協力から見た国際社会の現状1：アフリカ概論 第7回：国際協力から見た国際社会の現状2：南部アフリカ 第8回：国際協力から見た国際社会の現状3：アジア概論 第9回：国際協力から見た国際社会の現状4：東南アジア 第10回：国際協力から見た国際社会の現状5：ラテンアメリカ概論 第11回：国際協力から見た国際社会の現状6：南米 第12回：国際協力から見た国際社会の現状7：中米 第13回：国際協力から見た国際社会の現状8：中東 第14回：ゲストスピーカーと一緒に考える「国際社会」 第15回：まとめ、事後ノート <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> オリジナルワークシートを使用						
<b>参考書・参考資料等</b> アマルティア・セン（1981）『貧困と飢餓』岩波現代文庫 アマルティア・セン（2006）『人間の安全保障』集英社新書 ポール・コリア（2008）『最底辺の10億人：最も貧しい国々のために本当にしなすべきことは何か？』日経BP その他、適宜指示します。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加度・態度 40%、提出物 30%、試験 30%						

授業科目名： 多文化共生論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林 かおり 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 多文化における共生について理論と実践を通して考える。						
到達目標：						
1.日本国内の地域事例も含め、国内外の多文化共生の現状を理解することができる。 2.SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)について理論と実践を通して理解することができる。 3.授業で学んだ知識を元に、積極的にペアワークやグループワークに取り組むことができる。 4.ペアワークやグループワークで検討した内容をプレゼン等で情報発信できる。						
<b>授業の概要</b>						
2030 年まで SDGs を手掛かりに多文化共生について考えていきます。理論的な学びはもちろん、ペアワーク・グループワーク、そして企業・行政・NPO といった実務者との交流や講義を通して SDGs 実現と「共生」について考えていきます。グループワークの成果を授業内のプレゼンだけにとどまらず、学外へも情報発信していくことを目指します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、事前ノート						
第2回：多文化において共生すること 1：日本の事例を通して						
第3回：多文化において共生すること 2：米の事例を通して						
第4回：多文化において共生すること 3：加・豪の事例を通して						
第5回：SDGs とは何か 1：概論						
第6回：SDGs とは何か 2：各論						
第7回：日本における SDGs：地域事例を通して						
第8回：企業/行政/NPO の取り組み 1：ゲストスピーカーと考える						
第9回：第8回の授業に関する議論・検討						
第10回：企業/行政/NPO の取り組み 2：ゲストスピーカーへ提案する						
第11回：第10回の授業に関する議論・検討						
第12回：SDGs を通した「共生」社会の実現に向けて 1：議論・分析						
第13回：SDGs を通した「共生」社会の実現に向けて 2：資料作成・発表準備						
第14回：グループ発表						
第15回：まとめ、事後ノート						
<b>定期試験</b>						
テキスト オリジナルワークシートを使用						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜指示します。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加度・態度 40%、提出物 40%、試験 20%						

授業科目名： 都市計画論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：今村 洋一 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 現代日本における都市計画の理論・制度・技術 到達目標：現代日本における都市計画及び不動産関連法を理解し、都市を形作る計画や規制に係る理論・制度・技術について説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
現代日本における都市計画及び不動産関連の法制度について学ぶ。都市計画（土地の開発行為や建築行為）に関する法制度としては、国土利用計画法、都市計画法、建築基準法、土地区画整理法、農地法などを中心に扱う。一方、不動産（土地・建物の取引）に関する法制度としては、民法、借地借家法、不動産登記法、区分所有法、宅地建物取引業法などを中心に扱う。また、土地・建物にまつわる金銭的な事項（地価決定のメカニズムや不動産税制など）についても扱う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：都市計画と不動産						
第2回：都市計画の制度体系とマスタープラン						
第3回：市街地と土地利用計画						
第4回：建築物のコントロール						
第5回：地区スケールの計画とルール						
第6回：都市と公園緑地						
第7回：市街地開発と都市再生						
第8回：都市の防災						
第9回：参加と協働						
第10回：不動産と民法						
第11回：賃貸マンションと借地借家法						
第12回：分譲マンションと区分所有法						
第13回：不動産の登記と取引						
第14回：地価決定のメカニズム						
第15回：不動産と税制						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 饗庭伸ほか (2018) 『初めて学ぶ都市計画 第二版』市ヶ谷出版社						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜、紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 課題 50%、期末試験 50%						

授業科目名： 風景デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：今村 洋一 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 風景の捉え方・守り方・創り方 到達目標：風景を捉え方・見分け方を理解したうえで、風景破壊の実態、歴史的町並みの保存運動、景観訴訟の実態、さらに、現代社会における風景の価値及び風景保全の論理、風景を保全するため社会的な仕組みとその成果について説明できる。						
<b>授業の概要</b> 風景を捉える概念（西洋における景観論、日本における風景論、視覚をベースとした認知的把握、地形や社会に規定される構造的把握など）、風景の良し悪しの見分け方、経済成長を背景とした風景破壊の実態、これまでの歴史的町並みの保存運動や景観訴訟について、国内外の具体的な事例を通して学ぶ。また、現代社会における風景の価値及び風景保全の論理、風景を保全するため社会的な仕組み（景観法、伝統的建造物群保存地区制度、文化的景観保護制度、歴史まちづくり法など）とその成果についても学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：景観論と風景論						
第2回：風景の捉え方（視覚的構造と空間的構造）						
第3回：よい風景と悪い風景						
第4回：文化的景観と生活景						
第5回：名所と風景						
第6回：開発と風景破壊						
第7回：歴史的町並みの保存運動						
第8回：景観論争と景観訴訟						
第9回：風景の価値と風景保全の論理						
第10回：伝統的建造物群保存地区制度						
第11回：景観法に基づく風景保全と風景創造						
第12回：風致地区と緑地保全						
第13回：文化的景観保護制度と歴史まちづくり法						
第14回：眺望景観とその保全						
第15回：風景デザインの作法						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜、関連書籍を提示する。						
<b>学生に対する評価</b> ミニ課題 50%、期末課題 50% で評価する。						

授業科目名： コミュニティ デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：谷口 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：まちづくりの手法を学ぶ 到達目標：ワークショップを設計し、ファシリテーターの力量を身につける。						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>近年のまちづくりは、市民協働といったかたちですすめられる場合が多い。「まちづくりは人づくり」などと言われているように、まちづくりにかかわる人々の意識や関係性によってそれは大きく方向づけられる。ワークショップの手法について理解を深め、地域の社会関係資源を用いた地域課題の解決の道筋を探る。実際にワークショップを設計する過程で、ファシリテーターの力量を身につける。そして、これらのことを通して、そもそもコミュニティとは何なのかを考える。また、有形無形に関わらず、人間が何らかの理想や目的を果たすために構築していくものごとを「デザイン」ととらえ、そのデザインが生み出す価値を丁寧に抽出することを試みる。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：暮らしを観察する（メンタルマップ）</p> <p>第3回：キャンパスを観察する（エコマップ）</p> <p>第4回：まちを観察する（GISの活用）</p> <p>第5回：コミュニティを観察する（五感の活用）</p> <p>第6回：社会を観察する（違和の感知）</p> <p>第7回：モノづくりを考える</p> <p>第8回：コトづくりを考える</p> <p>第9回：バ（場）づくりを考える</p> <p>第10回：デザインすることの意味</p> <p>第11回：コミュニティとアソシエーション</p> <p>第12回：コミュニティリーフレット</p> <p>第13回：コミュニティマップ</p> <p>第14回：未来予想図</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<p><b>定期試験</b></p> <p>テキスト 指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>適宜指示する。</p>						
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>中間レポート課題 30%、最終レポート試験 70%</p>						

授業科目名： 東海・名古屋研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：影山 穂波 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： 身近な地域について考える</p> <p>到達目標：身近な地域についての知識を修得し、多面的に理解するために地域調査を実践する基本的な考え方を身につける。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>地理的背景、歴史的背景に応じて生じた現象を身近な地域から検討する。東海地方において生じた歴史的事項に注目し、地域と社会の関係を考える。東京との比較も試みる。その後、身近な地域の都市計画やまちづくりの試みを調べる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本の都市の地理的・歴史的背景</p> <p>第2回：東海地域について考える</p> <p>第3回：名古屋の歴史</p> <p>第4回：愛知の100年(ビデオ『日本映像の20世紀 愛知』)</p> <p>第5回：東海地方と東京との比較</p> <p>第6回：東京の100年(ビデオ『日本映像の20世紀 東京』前編)戦前</p> <p>第7回：東京の100年(ビデオ『日本映像の20世紀 東京』後編)戦後</p> <p>第8回：地域づくり、まちづくり</p> <p>第9回：社会変動と都市</p> <p>第10回：名古屋について考える</p> <p>第11回：身近な地域について調べる</p> <p>第12回：身近な地域について発表する：愛知</p> <p>第13回：身近な地域について調べる：岐阜</p> <p>第14回：身近な地域について調べる：三重</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>						
<p>テキスト</p> <p>授業中に随時プリントを配付する。</p>						
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時に適宜指示する。</p>						
<p>学生に対する評価</p> <p>授業後のまとめ 40% プレゼンテーション中間課題 30% 最終課題 30%</p>						

授業科目名： フィールドワーク 技法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：影山 穂波 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 地域調査の基本を学ぶ 到達目標：地域調査が実践できる力を身につける。また調査の上で必要な配慮をすることができるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
地域調査を行うために必要な基本を学び、実際に簡単な調査を実施する。具体的には、調査の種類、方法、実施のための手続き、調査結果の分析手法を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：研究テーマの設定・調査上の倫理						
第3回：調査地域の検討・地図の読み方						
第4回：調査方法（1）：参与観察						
第5回：調査方法（2）：インタビュー調査						
第6回：調査の進め方（1）：質問項目の設定						
第7回：調査の進め方（2）：調査対象の設定						
第8回：調査の企画・設計（3）：質問項目・観察項目の作成						
第9回：調査の依頼について						
第10回：現地調査の方法						
第11回：現地調査の注意点						
第12回：調査結果の整理・分析（1）：文字起こし						
第13回：調査結果の整理・分析（2）：内容の検証						
第14回：調査のまとめ方						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
梶田真・仁平尊明・加藤政洋編著(2007)『地域調査ことはじめ』ナカニシヤ出版 その他は授業時に指示						
<b>学生に対する評価</b>						
授業後のまとめ 40% プレゼンテーション中間課題 30% 最終課題 30%						

授業科目名： 比較社会論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：株本 千鶴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：大韓民国の歴史や社会、文化 到達目標：韓国社会の歴史、政治、経済、社会、文化に関する基礎知識を身に着けることができ、社会を比較する視点を培うことができる。						
<b>授業の概要</b> グローバル化といわれる時代に生きながら、日本に生きるわたしたちは、隣国の社会状況についてどれだけのことを知っているであろうか。日本を含む東アジアの社会には、異なる点も多いが、類似する要素も多い。本授業では、東アジアの中でも大韓民国を取り上げ、主に第二次世界大戦後の社会状況を多角的に理解することを目指す。また、日本など他の社会と比較することによって、韓国社会の特徴を把握することを試みる。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：大韓民国という国について 第2回：韓国の近現代史 第3回：政治体制 第4回：経済システム 第5回：教育制度 第6回：家族のあり方 第7回：ジェンダーの問題①：社会問題としてのジェンダー 第8回：ジェンダーの問題②：女性の新しい生き方 第9回：若者の生き方 第10回：社会保障システム 第11回：高齢者・家族福祉①：福祉サービス制度 第12回：高齢者・家族福祉②：福祉サービスの実際 第13回：宗教文化 第14回：大衆文化 第15回：まとめ <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 石坂浩一・福島みのり編（2014）『現代韓国を知るための60章』明石書店						
<b>参考書・参考資料等</b> なし						
<b>学生に対する評価</b> 平常点（受講態度、コメント・感想文・小レポート等の課題）40点、期末レポート60点。						

授業科目名： 比較社会論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樋口 謙一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 韓国文化・社会と現代史 到達目標：韓国の社会・文化事情を把握し、地域研究の方法論に対する理解を深める。						
<b>授業の概要</b> 主に韓国の社会・文化事情の解説を通じて、地域研究の方法論、特に人文学と社会科学の方法論的融合の意義と技法を中心に論じる。適宜ゲストスピーカーの登壇や映像教材の利用を組み込む。						
<b>授業計画</b> <p>第1回：ガイダンス、現代韓国に関する情報源</p> <p>第2回：韓国の基礎知識：少子高齢化、格差、グローバル化</p> <p>第3回：韓国の家族と衣食住</p> <p>第4回：韓国の若者と教育</p> <p>第5回：文化の底流としての儒教</p> <p>第6回：社会と文化の行方（1）：日本統治期</p> <p>第7回：社会と文化の行方（2）：米ソの占領と朝鮮戦争</p> <p>第8回：社会と文化の行方（3）：「開発独裁」</p> <p>第9回：社会と文化の行方（4）：光州事件の時代</p> <p>第10回：社会と文化の行方（5）：国際社会のなかの韓国</p> <p>第11回：ナショナリズム</p> <p>第12回：日韓関係（1）：日本の「終戦」と朝鮮の「解放」</p> <p>第13回：日韓関係（2）：日韓基本条約</p> <p>第14回：日韓関係（3）：現状と問題</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<b>定期試験</b> テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する						
<b>学生に対する評価</b> 期末レポート 80%、各講義後の課題 20%						

授業科目名： 比較社会論C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 かおり 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 国際移動についての「比較社会論」を学びます。 到達目標：日本や他国の国際移動の事例を元に、国際移動の歴史的経緯とその現状について理解できる。						
<b>授業の概要</b>						
国際移動について、日本と他国の事例および歴史的経緯を比較しながら学んで行きます。また、学術理論やメディアにもとづく国際移動の理解だけにとどまらず、移動(移住)した人々の「声」にも耳を傾けながら、国際移動について幅広く学んでいきます。さらに、現在日本において議論されている「内なる国際化」の課題についても一緒に考えていきます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、事前ノート						
第2回：国際移動とは						
第3回：日本における国際移動の歴史と現状 1：日本からの国際移動						
第4回：日本における国際移動の歴史と現状 2：日本への国際移動						
第5回：日本における国際移動の現状						
第6回：国際移動とシチズンシップ：概論						
第7回：国際移動とシチズンシップ：理論研究から見る英・仏・独の事例						
第8回：データと歴史から見る国際移動 1：米国の場合						
第9回：データと歴史から見る国際移動 2：英・仏・独の場合						
第10回：データと歴史から見る国際移動 3：ラテンアメリカの場合						
第11回：日系移住地の生活からみる国際移動						
第12回：メディアから見る国際移動						
第13回：「内なる国際化」について考える						
第14回：ゲストスピーカーと一緒に考える国際移動						
第15回：まとめ、事後ノート						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。オリジナルの教材を使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜、指示する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加度・態度 40%、試験 30%、提出物 30%						

授業科目名： 社会開発論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林 かおり 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 地理学（地誌を含む。） • 人文地理学・自然地理学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 「社会開発」について理論と実践と通して考える。 <b>到達目標：</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会開発とは何か理論と実践を通して理解することができる。</li> <li>2. 社会開発の国内外の事例を元に具体的に説明することができる。</li> <li>3. ペアワークやグループワークで問題解決型学習（PBL）を遂行することができる。</li> <li>4. 授業で学んだ知識や実践を元に、企業/行政/NPOといった組織と意見交換や交流ができる。</li> </ol>						
<b>授業の概要</b> 社会開発について理論的に学ぶと同時に、国内外の事例を取り上げ、知識や情報を身に着けていきます。同時に、現代日本における課題やアプローチが必要な問題について、実務者を交えて問題解決型の学びを行っていきます。受講者である学生の皆さんのが自分の問題として考えていくよう、愛知県の事例を多く取り上げます。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション、事前ノート 第2回：「社会開発」とは何か1：概論 第3回：「社会開発」とは何か2：各論 第4回：社会開発と貧困 第5回：社会開発と教育 第6回：社会開発と地域 第7回：事例とともに考える社会開発1：貧困と教育 第8回：事例とともに考える社会開発2：地域 第9回：ゲストスピーカーと一緒に考える「社会開発」1：地域 第10回：社会開発と環境1：海外 第11回：社会開発と環境2：日本 第12回：企業/行政/NPOの取り組み 第13回：事例とともに考える社会開発3：環境 第14回：ゲストスピーカーと一緒に考える「社会開発」2：環境 第15回：まとめ、事後ノート <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> オリジナルワークシートを使用						
<b>参考書・参考資料等</b> A.M シスネロス=モンテマヨール他 (2021) 『海洋の未来：持続可能な海を求めて』勁草書房 ポール・ホーケン編著 (2020) 『ドローダウン：地球温暖化を逆転させる100の方法』山と渓谷社 その他、適宜指示します。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加度・態度 40%、提出物 40%、試験 20%						

授業科目名： 法律学 (国際法を含む。)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林 智 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<b>テーマ：</b> • 自由な個人と社会 <b>到達目標：</b> • 法学に関わる用語や概念の意味を理解する。 • 法解釈や法適用のあり方を理解する。 • わが国の法制度のおおまかな全体像を理解する。 • 自由な個人と社会制度の関係の捉え方を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
<p>法というものがなければ今あるような社会生活は成り立たない。これに反対する人はあまりないように思います。しかしそのとき、みんなの頭の中にある法のイメージとは、いわゆる「御法度」（「禁止を破ったら刑罰を受ける」）なのではないでしょうか。たしかにそれも、法が社会で起きる問題に対処するときのひとつのやり方ではありますが、そこに目を向けるだけでは、法や法学が取り組んでいる問題およびその解決の姿を捉えられたとは到底いえないでしょう。</p> <p>授業では、上述の漠然としたイメージを超えて、今後の法学の学習に役立つような、法に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目標とします。また、それと同時に、公務員が存在することや市民が法を学ぶということが自由・権利を尊重する秩序づくりに組み込まれていることの意義などについて、一緒に考えたいと思います。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：法と正義および法の体系と形式 第2回：私的な世界：カネとコネによる取引とは？ 第3回：公的な世界：理由と証拠による正当化とは？ 第4回：公私の区別：公私を分けることが何の役に立つか？ 第5回：刑事法①：刑事裁判の仕組み 第6回：刑事法②：罪の見極め方と罰の意味 第7回：民事法①：得や損は誰のものであるべきか？ 第8回：民事法②：家族の仕組み 第9回：民事法③：相続の仕組み 第10回：行政法：社会問題の発生を未然に防ぐための仕組み 第11回：国際法：グローバルな世界で働くさまざまな規範 第12回：法と利害関係者 第13回：法と公権力 第14回：法の存在意義 第15回：まとめ <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
原田大樹『現代実定法入門—人と法と社会をつなぐ [第3版]』、弘文堂、2023年（予定）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』、星界社新書、2012年 内山奈月・南野森『憲法主義：条文には書かれていない本質』、PHP文庫、2015年 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門 [第4版]』、日本経済新聞出版社、2022年						
<b>学生に対する評価</b>						
コメントシート（10%）、レポート（20%×2）、定期試験 50%						

授業科目名： 政治と社会（国際 政治を含む。）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 正嗣
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		

施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」
-----------------------	---------------------------

#### 授業のテーマ及び到達目標

テーマ： 現代政治へと至る歴史、現代政治を作り上げている制度、現代政治の背景となる理論の三点がテーマとなる。

到達目標：日々の政治的出来事がなぜそのようになるのかを制度として説明できる。

#### 授業の概要

本講義は、現代政治の仕組みを総合的に理解、考察することを目的とする。そのための前提として、まず、現代政治へと至る歴史を国際政治との関連を踏まえながら概観する。その後、前半では、現代政治の仕組みがいかに成り立っているのかを、制度の側面から検討する。後半では、現代政治の背景にいかなる思想が存在しているのかを、理論の側面から理解する。

#### 授業計画

- 第1回：ガイダンス（政治とは何か）
- 第2回：政治史1　近代日本の政治
- 第3回：政治史2　現代日本の政治
- 第4回：政治制度1　議会と立法過程
- 第5回：政治制度2　内閣と総理大臣
- 第6回：政治制度3　政党と利益集団
- 第7回：政治制度4　選挙制度
- 第8回：政治制度5　地方自治

第9回：政治理論1　強制と自発性をめぐる権力論

第10回：政治理論2　リベラリズムの展開

第11回：政治理論3　現代の自由論

第12回：政治理論4　正義とは何か

第13回：政治理論5　リバタリアニズムとコミュニタリアニズム

第14回：政治理論6　平等論の展望と課題

第15回：総括　全講義のまとめと総括

#### 定期試験

##### テキスト

レジュメ参考資料を授業中に適宜配付する。

#### 参考書・参考資料等

なし

#### 学生に対する評価

筆記試験 100%

授業科目名： 情報社会論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：米田 公則 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 情報化、メディア化の進展とともに生じた自治体・国家・行政の変化を理解する。</p> <p>到達目標：今日日本の政府や地方自治体がどのような状況にあるのか、そして情報化の進展が政府や地方自治体にどのような影響を与えてきたかを理解し、今日課題となっているデジタル時代の行政のあり方、電子自治体・政府の考え方とその現状についての知識を修得し、それらを理解する。また、メディアの発達によって、これまで以上に私たちは、行政に関する様々な情報を入手することができるし、行政も様々なメディアを活用して、情報を伝達することが可能となっている。メディアの発達に伴う行政の変化、そして私たちは市民との関係を理解する。さらに、市民として自治体や政府などの行政を、どのように理解すべきかについて、それらに対する基本的な態度・志向を育成する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>行政改革や地方自治体の財政破綻、市町村合併、省庁再編など地方自治体や政府を取り巻く環境は急激に変化しつつある。そのような中で注目されるのは、行政のデジタル化、電子自治体・電子政府の実現のための試みである。電子自治体・政府の政策はどのようなものなのか、それによって地方自治体や政府がどのように変わろうとしているのか、さらにはそれが地域住民にどのような影響を与えることになるのかなどを、その歴史を踏まえて、検討していきたい。さらに、メディアの発達により行政のあり方、行政と住民との関係も変化を生じつつある。行政に関する情報、行政によるメディア活用の実態、課題などを明らかにしていきたい。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：行政の役割・政府・自治体とは</p> <p>第3回：行政とメディア・情報発信</p> <p>第4回：行政の情報化をめぐって</p> <p>第5回：行政の情報化と電子政府（90年代以降）</p> <p>第6回：e-Japan 戦略と電子政府（2000年代以降）</p> <p>第7回：マイナンバー制度をめぐって</p> <p>第8回：電子自治体の歴史と現状</p> <p>第9回：世界の電子政府・自治体への取り組み</p> <p>第10回：電子自治体と共同化</p> <p>第11回：メディア活用と地域活性化</p> <p>第12回：行政と住民参加</p> <p>第13回：地域共同管理とメディア</p> <p>第14回：行政とメディアの現代的課題</p> <p>第15回：おわりに</p>						
<b>定期試験</b>						
<p>テキスト</p> <p>教科書は、使用しない。</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に随時紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 70%、授業中の課題 30%						

授業科目名： 市民活動論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：谷口 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 協働の可能性 到達目標：市民活動(ボランティア活動など)の原理や、市民活動の社会的意義について理解する。						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>NPOは地域社会が直面している高齢者・障害者介護、子育て支援、リサイクル、防災・防犯対策、環境保全、外国人の雇用定住対策など地域生活の様々な領域において、専門性を活かした実践を展開している。とりわけまちづくりの現場は、「自分たちのまちをよくしたい」という志を持ったNPOやボランティアによって支えられている。市民活動の原理を理解し、それらが社会にどのようなインパクトを与えていているのか、一方で今日の社会でどのような限界を抱えているかを考える。そして、自分は社会に対して何ができるかを考えること、すなわち自らの市民としての役割を問い合わせ直すことを本講義の目的とする。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：ボランティア活動の起源・営利と非営利</p> <p>第3回：市場の拡大と人権</p> <p>第4回：未来へのアクション・市民社会への期待</p> <p>第5回：NPOの社会的役割</p> <p>第6回：寄付の可能性</p> <p>第7回：ファンドレイジングとクラウドファンディング</p> <p>第8回：社会運動から市民活動</p> <p>第9回：生産と消費と生活</p> <p>第10回：企業の社会的貢献</p> <p>第11回：地縁型活動とテーマ型活動の交差</p> <p>第12回：新しい公共</p> <p>第13回：地域共同体の再生</p> <p>第14回：新しい働き方と市民協働</p> <p>第15回：まとめ</p> <p><b>定期試験</b></p> <p>テキスト 指定しない。</p>						
<p><b>参考書・参考資料等</b> 適宜指示する。</p>						
<p><b>学生に対する評価</b> 中間レポート課題30%、最終レポート試験70%</p>						

授業科目名： 言語政策論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：樋口 謙一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 言語政策と現代の世界 到達目標：言語政策の重要性を認識し、現代社会の諸問題への理解を深める。						
<b>授業の概要</b> 言語政策学の基本的知識を教授するとともに、日本を含む東アジア諸地域のことばと文化にかかわる諸施策（法制度、歴史を含む）を解説する。適宜ゲストスピーカーの登壇や映像教材の利用を組み込み、理論と実際の両面の理解を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、言語政策への基本的アプローチ、基本用語の確認						
第2回：日本の「国語」を考える						
第3回：北海道・東北のことばと文化をめぐる言語政策史						
第4回：琉球諸語をめぐる言語政策史						
第5回：朝鮮半島の近代と言語政策						
第6回：現代韓国の言語政策史						
第7回：「中国」の言語政策						
第8回：台湾の言語政策						
第9回：香港の言語政策						
第10回：シンガポールの言語政策						
第11回：日本語教育の現状と課題						
第12回：消滅危機言語						
第13回：言語権と言語法						
第14回：障がいことば						
第15回：まとめ：ことばと社会科教育						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし（講義資料を配付する）						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 期末レポート 80%、各講義後の課題 20%						

授業科目名： 社会学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：金南（中野） 咲季 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 社会学の歴史やその中で発展してきた諸理論についての基礎的な知識を身につけるとともに、現代社会における様々なテーマを題材に社会学的なものの見方を体得する。</p> <p>到達目標： 1) 社会学の歴史やその中で発展してきた諸理論に関する基礎的な知識を身につける。 2) 現代社会における様々なテーマを題材に社会学的なものの見方を体得する。 3) 以上で培った知識やものの見方を、自分自身の興味関心や問題意識に引きつけて応用することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、現代社会における日常的で身近なテーマを題材に社会学的なものの見方、すなわち「私たちは社会からどのような影響を受けているのか」、「私たちの振る舞いや考え方には社会にどのような影響を与えていたのか/与えうるのか」といった問いに答えるための知識や想像力を身に着けることを目的とする。また授業では、現代社会における事象や課題を扱うのみならず、社会学の歴史やその中で発展してきた諸理論についても随時紹介する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：ガイダンス（授業概要の説明）</p> <p>第2回：社会学とはどのような学問か</p> <p>第3回：テーマ別社会学（1）SNS・メディア</p> <p>第4回：テーマ別社会学（2）労働</p> <p>第5回：テーマ別社会学（3）ジェンダー</p> <p>第6回：テーマ別社会学（4）身体</p> <p>第7回：テーマ別社会学（5）エスニシティ・教育</p> <p>第8回：テーマ別社会学（6）差別・マイノリティ</p> <p>第9回：テーマ別社会学（7）階級と階層：格差・文化的再生産論</p> <p>第10回：テーマ別社会学（8）映画を社会学する</p> <p>第11回：社会学理論（1）資本主義の矛盾</p> <p>第12回：社会学理論（2）社会学のものの見方</p> <p>第13回：社会学理論（3）社会学の展開と社会調査の方法論</p> <p>第14回：社会学理論（4）現代社会学への道</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<b>定期試験</b>						
<p><b>テキスト</b> ケイン樹里安・上原健太郎, 2019,『ふれる社会学』北樹出版.</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p>必要に応じて授業中に紹介、または資料を配付する。</p> <p>友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編, 2017,『社会学の力——最重要概念・命題集』有斐閣.</p> <p>奥村隆, 2014,『社会学の歴史 I——社会という謎の系譜』有斐閣アルマ</p> <p>長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007,『社会学—Sociology, Modernity, Self and Reflexivity』有斐閣.</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への積極的な参加（60%）、レポート（40%）をもとに評価する。						

授業科目名： 経済と社会（国際 経済を含む。）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：濱本 幸宏 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 経済学の基礎を学び社会の変化と経済状況を正しく判断する能力を養い将来に役立てる。</p> <p>到達目標：①入門レベルの経済学の基礎知識を理解し基礎的な理論を簡単に説明できる。      ②入門レベルの国際経済学の基礎知識を理解し国際経済とは何かを簡単に説明できる。      ③経済学の観点から社会の歴史的変化を理解し、現在の社会状況を把握できる。      ④経済状態と社会状況から正しい判断をし、将来に役立てることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本講義の目的は、経済と社会（国際経済を含む）の基礎知識の修得とその知識を活用して経済状態と社会状況を把握し、将来において自分の置かれる経済状態と社会状況を正しく判断できる能力を養うことです。講義では経済とは何か、経済学とは人間社会にとってどのような学問で何のための学問であるかなど根本的な部分から解説を行い、経済学の基礎理論、社会の変化に伴う経済の発展と経済学の展開、ミクロ経済学、マクロ経済学についても簡単な説明をします。また、国際経済学について基礎的な理論や国際社会の変化と問題点について解説します。そして、国際経済の中の国内経済について社会の観点から説明を行います。この講義が皆さんのが将来の豊かな暮らしを考える起点となれば幸いです。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：イントロダクション。 経済とは何か、人間社会における経済という活動とその原動力、経済と社会との関係。</p>						
<p>第2回：経済学とはどんな学問なのか。 経済学の目的、社会の歴史的変化と経済学の展開、資本主義の発展と社会の変化。</p>						
<p>第3回：ミクロ経済学。 ミクロ経済学とはなにか、(需要・供給・価格、需要曲線、供給曲線、需要の弾力性、供給の弾力性)</p>						
<p>第4回：消費者と企業。 消費者(家計と消費、所得、価格変化)、企業(企業の目的、生産、費用、利潤)。</p>						
<p>第5回：マクロ経済学。 マクロ経済学とは何か、社会における豊かさとGDP。</p>						
<p>第6回：経済主体と経済循環。 豊かな社会。家計・企業・政府の関係（一国における財とサービスとお金の動き）</p>						
<p>第7回：インフレとデフレ。 インフレーションとはどのような現象か、社会への影響。デフレーションとはどのような現象か、社会への影響。暮らしはどうなるのか。 [中間振り返り]</p>						
<p>第8回：国際経済。（海外との取引、比較生産費説）国際社会の歴史的変化。</p>						
<p>第9回：国際収支と為替レート。 国際収支の意味、円高と円安どちらが得か。</p>						
<p>第10回：国際経済から見た国際社会の抱える問題。 先進国と発展途上国、国際援助。</p>						
<p>第11回：国際経済の発展と国際社会の変化の中における国内経済の発展と社会の変化。</p>						
<p>第12回：国内経済の問題。国際経済の中の日本。日本は豊かな国なのか、豊かな社会の中の貧困。</p>						
<p>第13回：国際経済の変化に伴う国内経済の変化と暮らし。収入、支出、貯蓄に影響を及ぼす国際経済。</p>						
<p>第14回：経済の変化による社会状況の変化に対する将来への経済的危機管理。</p>						
<p>第15回：まとめ（振り返りと確認）</p>						
<b>定期試験</b>						
<p>テキスト</p> <p>指定しません。毎回の講義に資料を配付します。</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p>なし。必要に応じて紹介する場合があります。</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>期末試験 70%、講義期間中に提出を求めた課題の解答状況や講義への参加状況 30%、これらによる総合評価で行います。</p>						

授業科目名： 社会データ分析 基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：木田 勇輔 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 統計学とデータ分析の基礎 到達目標：統計学の基礎を学び、R 言語および HAD の基本的操作を習得すること。						
<b>授業の概要</b> データサイエンスの時代に求められる、データを用いて社会を分析するための手法の基礎を学ぶ授業である。この授業では Excel や R といったツールを用いて、実際に統計量の算出や各種の分析に関する演習を実施する。まず平均、中央値、分散、標準偏差といった基本的な統計量の算出について紹介した後に、相関係数の算出やクロス集計といった 2 变量の分析手法を扱う。また、確率論の基礎や様々な確率分布を紹介しながら、検定や推定といった推測統計学の基礎を解説する。加えて、統計分析で多用される回帰分析の基礎をその重要性とともに理解することが目標となる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：社会データ分析の基礎						
第2回：社会調査の歴史とデータ分析						
第3回：データ分析技術の発展						
第4回：R プログラミング入門						
第5回：母集団と標本						
第6回：データの分布と統計量						
第7回：確率論の基礎と確率分布						
第8回：推測統計と信頼区間						
第9回：平均値の比較と t 検定						
第10回：クロス集計とカイ二乗検定						
第11回：散布図と相関係数						
第12回：回帰分析						
第13回：重回帰分析						
第14回：テキストマイニング						
第15回：授業のまとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 倉田博史『大学 4 年間の統計学が 10 時間でざっと学べる』角川文庫						
<b>参考書・参考資料等</b> なし						
<b>学生に対する評価</b> 小課題 70%、最終回小テスト 30%						

授業科目名： ソーシャル メディア論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：木田 勇輔 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ソーシャルメディアと社会 到達目標：ソーシャルメディアの発達について理解し、それが私たちの生活にどのような影響を与えているかを考察する能力を育成する。						
<b>授業の概要</b>						
現代社会におけるソーシャルメディアの位置づけを理解しつつ、それらが私たちの社会生活や市民生活にどのような影響を与えていているのかについて批判的に考察し、私たちの社会をよりよいものにするためにソーシャルメディアをいかに活用するかを考える。授業の前半では情報社会論の基本的な考え方を学ぶとともにインターネットという技術が社会の中でどのように定着してきたのかを明らかにする。授業の中盤では代表的なソーシャルメディアをピックアップして取り上げるとともに、それらの特徴について解説する。授業の後半では現代における「ソーシャルメディアと社会」の関係性について、実例を挙げながら解説を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：ソーシャルメディアの原点						
第3回：SNS からソーシャルメディアへ						
第4回：ネットワークとは何か？：社会的ネットワーク論の基礎						
第5回：つながりのメディア 1：mixi						
第6回：つながりのメディア 2：Facebook						
第7回：影響力のメディア 1：Twitter						
第8回：影響力のメディア 2：Instagram						
第9回：参加のメディア 1：YouTube						
第10回：参加のメディア 2：ニコニコ動画とpixiv						
第11回：ソーシャルメディアと流言						
第12回：資本主義の中のソーシャルメディア						
第13回：映画から考えるソーシャルメディア						
第14回：ソーシャルメディアと世論・政治						
第15回：「ソーシャルメディアと社会」の研究方法						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
マニュエル・カステル『インターネットの銀河系：ネット時代のビジネスと社会』東信堂. 藤代裕之編『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社. Fuchs, Christian, Social Media: A Critical Introduction, Third Edition, Sage.						
<b>学生に対する評価</b>						
小課題（40%）、定期試験（60%）						

授業科目名： ソーシャル メディア論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木田 勇輔 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<b>テーマ：</b> ソーシャルメディア時代の世論と政治 <b>到達目標：</b> メディア環境と世論の関係性についてその歴史の概要を理解することを目標とする。またインターネットやソーシャルメディアが発達した現代のメディア環境と世論についても講義し、受講者が自分なりに現状分析を行う力を獲得することも目標である。						
<b>授業の概要</b>						
メディアの発達の歴史の中で世論がどのように生み出されてきたのかを学ぶとともに、インターネットやソーシャルメディアが発達したデジタル社会における世論や政治のあり方について考える科目である。授業の前半ではメディア史をたどりながら、メディアの発展が世論や政治とどのように結びついてきたのかという点を解説する。授業の後半では、ソーシャルメディア時代の社会運動、世論と選挙、フェイクニュースなどのテーマについて、実例を挙げながらその問題点を考察する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：メディア、世論、政治 第2回：メディアの歴史 1：印刷メディアの誕生 第3回：メディアの歴史 2：新聞とジャーナリズム 第4回：メディアの歴史 3：マスメディアの発達 第5回：メディアの歴史 4：プロパガンダ 第6回：マスメディアの影響力 1：弾丸効果と限定効果 第7回：マスメディアの影響力 2：新しい強力効果 第8回：ソーシャルメディアと世論形成 1：巨大掲示板と「ネット世論」 第9回：ソーシャルメディアと世論形成 2：SNS の発達と情報環境の変化 第10回：ソーシャルメディアと世論形成 3：「ネット炎上」のメカニズム 第11回：ソーシャルメディアと政治 1：フェイクニュース 第12回：ソーシャルメディアと政治 2：排外主義 第13回：ソーシャルメディアと政治 3：陰謀論 第14回：ソーシャルメディアと民主主義 1：政治的分断の先鋭化 第15回：ソーシャルメディアと民主主義 2：公共圏と熟議民主主義						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
佐藤卓己『現代メディア史 新版』(岩波書店) 伊藤明己『メディアとコミュニケーションの文化史』(世界思想社) 稲増一憲法『マスメディアとは何か』(中公新書) 秦正樹『陰謀論』(中公新書)						
<b>学生に対する評価</b>						
小課題(50%)、定期試験(50%)						

授業科目名： マスメディア論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：脇田 泰子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： マスメディアと社会、市民生活との関係 到達目標：マスメディアがどのような社会的背景の中で誕生、成長し、社会に影響を与えてきたかについて学ぶとともに、マスメディアと市民とのあるべき関係を考察する。						
<b>授業の概要</b>						
市民生活に不可欠な存在として社会とともに発展してきたマスメディア。新聞、テレビに加え、出版、映画など、私たちは様々なマスメディアと、それがもたらすメディア情報に囲まれて暮らしている。講義では、マスメディアがどのような社会状況下で誕生し、今日に至っているかを概観するとともに、インターネットに代表される新しいメディアの登場により、既存マスメディアが衰退する「メディアの興亡」、それに伴う市民の意識の変化について学び、マスメディアが社会に与える影響や、両者のあるべき関係について考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：総論、授業の進め方						
第2回：マスメディアとマスコミュニケーション						
第3回：ジョセフ・彥の「新聞誌」発行の意味						
第4回：日本の新聞産業の特色						
第5回：活字の誕生と出版						
第6回：出版不況に出口はあるか						
第7回：中間まとめ						
第8回：映像文化と動画の誕生						
第9回：映画の黎明期						
第10回：映画産業の発展						
第11回：映画とテレビ放送						
第12回：放送メディアの誕生						
第13回：テレビと高柳健次郎						
第14回：インターネットの急成長と他メディアへの影響						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 使用しない。授業中にプリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に参考文献、資料を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業の課題と試験との合算で評価。その割合は課題30点（各回2点×15回）、期末（筆記）試験70点の計100点満点。						

授業科目名： マスメディア論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：脇田 泰子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 表現の自由を守るためのメディアの倫理学</p> <p>到達目標：マスメディアによる人権侵害に対する司法の判断が厳しさを増し、メディアは市民と公権力の双方から挟み撃ちになりがちだ。行き過ぎた報道とは何か。ジャーナリズムの中でどのような問題点が指摘され、メディアと社会はこれをどのように乗り越えようとしているのか。その際に不可欠なメディアの倫理という観点から、人権と報道の自由との調和のために必要なものの見方を獲得する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>メディアに対する不信は強まるばかりの状況下で、報道の自由と人権の双方を認め合える市民社会はどこまで実現可能だろうか。メディアが権力や社会的不正と闘う力を持つのは、「国民の知る権利」に奉仕するためだとされる。また、人権についても、メディアは倫理という新たな物差しを持つことを求められる時代、メディアの倫理的視点はどこまで深まり得ているのか。ジャーナリズムの様々な問題を通して、マスメディアが市民社会の信頼を取り戻していくうえで核心となる「メディア倫理」について考察を進める。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業の概要						
第2回：マスメディアと言論の自由						
第3回：法とマスメディアの関係						
第4回：進むマスメディア規制						
第5回：規制法の問題点						
第6回：個人情報とプライバシー・監視社会とは						
第7回：取材活動の中の言論の自由						
第8回：新聞倫理綱領						
第9回：新聞倫理綱領改定とその背景						
第10回：放送法の存在						
第11回：権発言問題と政治的公平						
第12回：ハゲワシと少女～報道か人命か～						
第13回：マスコミの閉鎖性と市民～記者クラブの問題点～						
第14回：自律機関の役割と機能						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
使用しない。授業中にプリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に参考文献、資料を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
各回の課題と試験の合算で評価する。その割合は、筆記試験 70 点、授業後のレポート課題と授業態度 30 点の計 100 点満点。						

授業科目名： 福祉社会学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：株本 千鶴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 福祉をめぐる社会的事実と課題 到達目標：福祉に関する社会学的事実の様相を多面的に捉え、社会学的に考察する力を養うことができる。						
<b>授業の概要</b> 現代社会を生きるわたしたちの生活と人生にとって、福祉は欠かせない役割を果たしている。福祉を理解するための方法は、政治学、経済学、法学、社会福祉学など多様であるが、福祉を社会的事実として捉え、その内容を社会学的に理解しようとするのが福祉社会学である。本授業では、福祉の対象となる人や援助の多様なありかた、福祉の仕事に携わる人の状況などの社会的事実について学び、福祉の実態や課題について社会学的観点から考察する。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：福祉とはなにか 第2回：福祉の基礎知識①：公的扶助 第3回：福祉の基礎知識②：社会保険 第4回：福祉の基礎知識③：福祉サービス 第5回：ホームレスの人たちの暮らしと支援(1)：実態と関連制度 第6回：ホームレスの人たちの暮らしと支援(2)：事例分析 第7回：「あしながさん」の助けあい運動(1)：ボランティアの概念・歴史・現状 第8回：「あしながさん」の助けあい運動(2)：事例分析 第9回：介護の現場で働く人たち(1)：実態と関連制度 第10回：介護の現場で働く人たち(2)：事例分析 第11回：「障害児殺し」事件を考える(1)：障害概念と障害者福祉 第12回：「障害児殺し」事件を考える(2)：事例分析 第13回：在日外国人の生活問題(1)：実態と関連制度 第14回：在日外国人の生活問題(2)：事例分析 第15回：まとめ：福祉をめぐる社会的事実と課題 <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 武川正吾ほか編 (2020) 『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房 福祉社会学会編 (2013) 『福祉社会学ハンドブック』中央法規						
<b>学生に対する評価</b> 平常点(受講態度、コメント・感想文等の課題)50点、期末レポート50点。						

授業科目名： 生と死の社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：株本 千鶴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：死と死にゆくことに関する社会的事実 到達目標：死と死にゆくことに関する社会的事実についての知識を身に着けることができ、死に関する問題について社会学的に考察する力を養うことができる。						
<b>授業の概要</b>						
現代社会を生きる個人や集団は、死と死にゆくことをどのように経験しているのか、関連する問題にどのように対処しようとしているのか。これらの問い合わせについて社会学的観点から考え、理解を深める。授業では、死の歴史とタブー化、一人称の死に関する事象（安楽死・尊厳死、ホスピス、終末期ケア）、二人称の死に関する事象（死別体験、葬送儀礼、メディア上の死、グリーフケア）、三人称の死に関する事象（戦死、災害死）を取り上げる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション：死の社会学とはなにか						
第2回：死の歴史とタブー化						
第3回：安楽死・尊厳死						
第4回：ホスピス・緩和ケア①：歴史と現在						
第5回：ホスピス・緩和ケア②：ケアの諸相						
第6回：ホスピス・緩和ケア③：韓国のホスピス・緩和ケア						
第7回：終末期ケアとACP						
第8回：死の自己決定（ディスカッション）						
第9回：死別の体験						
第10回：葬送儀礼						
第11回：メディア上の死						
第12回：グリーフケア（ディスカッション）						
第13回：戦争による死						
第14回：災害による死						
第15回：追悼の意味（ディスカッション）						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
トニー・ウォルター（2020）『いま死の意味とは』岩波書店						
<b>学生に対する評価</b>						
平常点（受講態度、コメント・感想文・小レポート等の課題）50点、期末レポート50点。						

授業科目名： 家族とジェンダー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：金南（中野）　咲季 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：　社会学や家族社会学の知見をもとに、ジェンダーの観点から家族、恋愛・結婚、子育て・ケア、労働市場、教育における現状と課題を把握するとともに、その背景要因と解決策について理解や洞察を深める。</p> <p>到達目標：1) 社会学や家族社会学の知見をもとに、ジェンダーの観点から家族、恋愛・結婚、子育て・ケア、労働市場、教育における現状と課題に関する基礎的な知識を体得する。2) また、それらを社会と結び付けて把握するための視点や理論についても理解を深める。3) 以上で培った知識やものの見方を、自分自身の興味関心や問題意識に引きつけて応用することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、主に社会学や家族社会学の知見をもとに、ジェンダーの観点から家族（「家族」の境界線、歴史、法制度など）、恋愛・結婚（少子高齢化、ライフスタイルの多様化、ルッキズム、同性婚、選択的夫婦別氏制、国際結婚、同類婚／異類婚など）、子育て・ケアと労働市場（家事・育児分担、支援制度の国際比較、メディア表象、職業キャリアなど）、教育（隠れたカリキュラム、親の教育期待と進路選択など）をテーマとして取り上げ、その現状と課題について概説する。その際、それらを社会と結び付けて把握するための視点や理論についても紹介する。授業は適宜、国内外の映像資料の視聴、グループワーク等を交えながら実施する予定である。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：ガイダンス（授業概要の説明）</p> <p>第2回：「ジェンダー」とは何か</p> <p>第3回：「家族」の境界線？</p> <p>第4回：前近代・近代家族</p> <p>第5回：現代社会における多様な「家族」</p> <p>第6回：恋愛・結婚を社会学する（1）：同性婚・国際結婚</p> <p>第7回：恋愛・結婚を社会学する（2）：選択的夫婦別氏制</p> <p>第8回：恋愛・結婚を社会学する（3）：現代社会における動向／同類婚・異類婚</p> <p>第9回：ケアと労働市場を社会学する（1）：メディア表象</p> <p>第10回：ケアと労働市場を社会学する（2）：家事育児分担とキャリア形成</p> <p>第11回：ケアと労働市場を社会学する（3）：女性と貧困／男性学の視点</p> <p>第12回：ケアと労働市場を社会学する（4）：海外における制度・実践と国際比較</p> <p>第13回：ジェンダーと教育（1）：家庭における社会化と教育期待</p> <p>第14回：ジェンダーと教育（2）：ジェンダー平等な教育</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<b>定期試験</b>						
<p><b>テキスト</b></p> <p>指定しない。必要に応じて授業中に紹介、または資料を配付する。</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩間暁子・大和礼子・田間泰子（2015）『問い合わせはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア。</li> <li>・西野理子・米村千代編著（2019）『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房。</li> <li>・伊佐夏実編著（2019）『学力を支える家族と子育て戦略——就学前後における大都市圏での追跡調査』明石出版。</li> </ul> <p>その他、必要に応じて授業中に紹介、または資料を配付する。</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への積極的な参加（60%）、レポート（40%）をもとに評価する。						

授業科目名： 社会データ分析 応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木田 勇輔 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 応用的な統計分析手法の修得 到達目標：回帰分析をはじめとした統計分析手法の原理を理解するとともに、それらを用いたデータ分析のレポートを執筆できること。						
<b>授業の概要</b> データサイエンスの時代に求められる、データを用いて社会を分析するための手法の応用を学ぶ授業である。この授業で扱う手法は重回帰分析やロジスティック回帰分析をはじめとして、主成分分析、因子分析、クラスター分析なども取り上げる。また、近年注目を集めている計量テキスト分析などのデータマイニング的な手法も取り扱う。この授業では上記に挙げたような様々な統計手法について学びながら、R言語を使った演習により分析手法を使いこなすことが目標となる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンスとイントロダクション						
第2回：統計学の基礎の復習（記述統計、相関、検定など）						
第3回：回帰分析の基本的な考え方						
第4回：最小二乗法による推定と回帰係数の検定						
第5回：重回帰分析の演習						
第6回：一般化線形モデルとロジスティック回帰分析						
第7回：ロジスティック回帰分析の基本的な考え方						
第8回：ロジスティック回帰分析の演習						
第9回：主成分分析と因子分析						
第10回：クラスター分析						
第11回：テキストマイニングの演習						
第12回：共起ネットワークの描画						
第13回：テキストマイニングの演習						
第14回：期末レポート作成のガイダンス						
第15回：授業のまとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 阿部真人『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』ソシム 樋口耕一・中村康則・周景龍『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング』ナカニシヤ出版						
<b>学生に対する評価</b> 小課題（60%）、レポート（40%）						

授業科目名： 観光産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：阿部 純一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 観光ビジネスの新潮流 到達目標：現代日本の国内・海外旅行の市場動向を、具体的な企業の取り組みを例にして理解し、将来的な観光ビジネスの課題と方向性について論じることができる。						
<b>授業の概要</b> IT化、グローバル化、コロナ禍などの大きな社会変容のなかで、観光業界のビジネスモデルがいかに変化したかについて、主に 1990 年代以降の出来事（オンライン旅行会社の成長、インバウンド市場の拡大、民泊ビジネスの登場、観光ビッグデータ、ヴァーチャルツアーやワーケーションなど新しい体験ビジネス、脱炭素・脱プラスチック化への取組み）を事例に学ぶ。かつては有効だったビジネスモデルがなぜ魅力を失い、衰退したかを理解することにより、日本の観光ビジネスや旅行スタイルが今後いかなる方向性へ進むかを展望する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション：大転換期を迎えた観光業界						
第2回：変化する旅行業ビジネス(1)：旅行会社不要論とは何か						
第3回：変化する旅行業ビジネス(2)：観光地をプロデュースする						
第4回：観光ビジネスの現場：ゲスト講師①（着地型旅行ビジネス関係）						
第5回：シニア・マーケティング(1)：超高齢社会における観光ビジネス						
第6回：シニア・マーケティング(2)：シニア向け旅行商品の実例と戦略						
第7回：観光ビッグデータの可能性						
第8回：民泊解禁とプラットフォームビジネスの拡大						
第9回：日本のインバウンド政策を振り返る①：「ビジット・ジャパン」から「コロナ・ショック」まで						
第10回：日本のインバウンド政策を振り返る②：「オーバーツーリズム」問題を再考する						
第11回：観光ビジネスの現場：ゲスト講師②（インバウンドビジネス関係）						
第12回：観光地を「経営」する：DMO とは何か						
第13回：観光ビジネスの現場：ゲスト講師③（観光地マネジメント関係）						
第14回：観光産業はSDGs とどう向き合うのか						
第15回：総論：観光ビジネスの行方						
<b>定期試験</b>						
テキスト 特になし						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に参考資料を適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 期末試験(50%)、毎回の課題提出(30%)、課題レポート (20%) による総合評価。						

授業科目名： 地域文化の社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷口 功 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： 文化の多様性</p> <p>到達目標：地域の文化や活動から地域性を読みとる力量を身につける。現代社会を分析するための枠組みについて理解する。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>地域の文化と活動は、互いに影響を与えながら構築されている。まちの景観・風景、祭り、住民活動、行政施策、企業活動など、地域社会を形成する構成要素は、それに携わる人々の「思い」や「意志」によって特徴づけられている。そしてそれらは一様ではなく、多様な地域性を發揮する。グローバル化がすすみ、社会の流動性が高まるなか、地域における「変わっていくもの」、「変わらないもの」を見出していく。歴史や文化、産業の蓄積が私たちの意識をどのように規定するのか、そして、私たちの生活は何によって制約をうけているのかを考える。また、新しいソーシャルネットワークをふまえながら、多様な主体を結びつける固有の地域文化のあり方を考える。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：ガイダンス（授業目的、評価方法、注意事項の説明。）</p> <p>第2回：まちの景観から考える1（都市の景観）</p> <p>第3回：まちの景観から考える2（農山村の風景）</p> <p>第4回：まちの景観から考える3（市民と行政）</p> <p>第5回：地域の歴史から考える1（伝統といわれるものと地域性）</p> <p>第6回：地域の歴史から考える2（権力による統制）</p> <p>第7回：祭りの社会的意味1（神事と芸能）</p> <p>第8回：祭りの社会的意味2（行政による観光資源化）</p> <p>第9回：文化行政を考える1（国と地方自治体の施策）</p> <p>第10回：文化行政を考える2（文化施設とまちづくり）</p> <p>第11回：地域イベントの可能性1（地域とアート）</p> <p>第12回：地域イベントの可能性2（アニメ、ゆるキャラ、グルメ）</p> <p>第13回：地域文化で社会学する1（社会システムと内発的発展）</p> <p>第14回：地域文化で社会学する2（持続可能性と多様性への視座）</p> <p>第15回：まとめ（全体を通しての質疑応答。課題の提示。）</p> <p><b>定期試験</b></p> <p>テキスト 指定しない。</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 適宜指示する。</p> <p><b>学生に対する評価</b> 中間レポート課題(30%)、最終レポート試験(70%)</p>						

授業科目名： 医療の社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：株本 千鶴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 病いの経験や医療に関する社会的事実 到達目標： 病いの経験や医療について基礎知識を身に着けることができ、医療に関する問題について社会学的に考察する力を養うことができる。						
<b>授業の概要</b>						
病いは、身体や精神の変化として、また、それらによって引き起こされる感情や生活の変化として経験される。特に、現代社会での病いの経験は、医療による治療・ケアや社会制度から少なからぬ影響を受けるため、個人の病いの経験と医療や社会制度との相互関係について、社会学的観点から理解することを目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション：医療社会学とはなにか						
第2回：闘病と看病①：闘病と看病の経験						
第3回：闘病と看病②：当事者の声と活動						
第4回：病いと社会の関係						
第5回：医師—患者関係①：患者役割						
第6回：医師—患者関係②：インフォームド・コンセント						
第7回：医療化①：概念と現実						
第8回：医療化②：肯定的帰結と否定的帰結						
第9回：素人の知識						
第10回：先端医療						
第11回：臓器移植						
第12回：医療施設						
第13回：医療専門職						
第14回：医療をめぐる政治						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 中川輝彦・黒田浩一郎編 (2010) 『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房 (¥2,750)						
<b>参考書・参考資料等</b> 藤村正之編 (2011) 『いのちとライフコースの社会学』弘文堂						
<b>学生に対する評価</b> 平常点(受講態度、コメント・感想文・小レポート等の課題)40 点、期末レポート 60 点。						

授業科目名： 福祉社会学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：株本 千鶴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：先進諸国と東アジア諸国の福祉政策 到達目標：先進諸国の福祉政策の概要と特徴に関する知識を取得し、国際的な比較の視点を養うことができる。						
<b>授業の概要</b> 日本を含む先進国は、福祉政策を欠くことのできない政策の一つとして展開している福祉国家である。また、日本以外の東アジア諸国も経済成長とともに福祉政策の幅を広げ、すでに福祉国家となっている国家、福祉国家に近づきつつある国家となっている。本授業では、これら諸国の福祉政策の内容と特徴を理解することを目指す。とり上げる国家は、イギリス、アメリカ、スウェーデン、フランス、ドイツ、日本、中国、台湾、韓国である。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：福祉政策とはなにか 第2回：福祉政策の国際的動向 第3回：イギリスの福祉政策 第4回：アメリカの福祉政策 第5回：スウェーデンの福祉政策 第6回：フランスの福祉政策 第7回：ドイツの福祉政策 第8回：欧米の福祉政策の比較分析：小レポート報告 第9回：日本の福祉政策①：歴史と制度 第10回：日本の福祉政策②：現在の動向 第11回：中国の福祉政策 第12回：台湾の福祉政策 第13回：韓国の福祉政策①：歴史と制度 第14回：韓国の福祉政策②：現在の動向 第15回：東アジア諸国の福祉政策の比較分析：小レポート報告 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 新川敏光編（2015）『福祉レジーム』ミネルヴァ書房 武川正吾ほか編（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房 福祉社会学会編（2013）『福祉社会学ハンドブック』中央法規						
<b>学生に対する評価</b> 平常点(受講態度、コメント・感想文・小レポート等の課題)40 点、期末レポート 60 点。						

授業科目名： 宗教と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：濱千代 早由美 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 受講者が身につけてきた「社会」についての知識も用いながら、宗教現象に対する人文・社会科学的理解を深める。						
到達目標：さまざまな宗教を社会的観点、歴史的観点から理解し、日本の宗教をグローバル社会の中で相対的に位置づけられる。 社会科学の視点から宗教を理解できる。 偏見や先入観を排して宗教現象を理解することができる。						
<b>授業の概要</b>						
コロナ禍の中で人間の死生のあり方に向き合う機会が増え、さまざまな地域で宗教が無関係ではない地域紛争が起こるなど、宗教に関する理解の重要性は高まっている。本講義では、宗教と呼ばれる「人間の営み」を、客観的立場から検討していく。特に、人間と宗教の歴史、さまざまな地域における宗教のあり方、宗教と現代社会との関係等を軸に講義を進め、世界の宗教現象に関する理解を深める。						
宗教社会学を軸とし、文化人類学、民俗学、心理学といった隣接分野との関連にも目配りしていく。宗教を通して社会の仕組みを有機的に捉え、偏見や先入観を排して宗教現象を理解することを目標とする。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション 文化として宗教を考える						
第2回：普遍宗教と自然宗教・民俗宗教						
第3回：宗教にできること・宗教の抱える矛盾						
第4回：宗教文化圏の形成① 中東、ヨーロッパの宗教						
第5回：宗教文化圏の形成② アジアの宗教						
第6回：宗教文化圏の形成③ 旧植民地の宗教						
第7回：宗教と政治・宗教と経済						
第8回：宗教とジェンダー						
第9回：生と死の捉え方						
第10回：宗教の実践① 祈願、儀礼、祭						
第11回：宗教の実践② 修行、戒律						
第12回：現代社会の宗教① 宗教の世俗化						
第13回：現代社会の宗教② 新宗教						
第14回：現代社会の宗教③ グローバリゼーションと宗教						
第15回：まとめ 宗教のゆくえ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
濱千代早由美『教員をめざす人のための宗教社会学』勁草書房、(2024年刊行予定)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
講義中にリストを配付するとともに、受講者の質問に答える形で適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
講義中の提出物による評価 30%、レポート 70%						

授業科目名： 社会と倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今福 亮 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」					
<p>授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 現代倫理学概論 到達目標：現代の倫理学における主要な立場や概念について理解し、倫理的な問題について自分で考えられるようになること。</p>						
<p><b>授業の概要</b> 現代の（特に英米圏での）倫理学という学問領域を、その中で登場する主要な立場を紹介しながら、概観する。この作業を通じて、社会や周りの人々の道徳観を一步下がって考えてみるだけでなく、さらには自分自身の道徳観さえも問い合わせ直すことを促す。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：倫理学への導入</p> <p>第2回：規範倫理学における理論（1）功利主義</p> <p>第3回：規範倫理学における理論（2）義務論</p> <p>第4回：規範倫理学における理論（3）徳倫理学</p> <p>第5回：規範倫理学と政治哲学—リベラリズム・コミュニタリアニズム・フェミニズム—</p> <p>第6回：規範倫理学のまとめと、メタ倫理学への導入</p> <p>第7回：道徳の存在について（1）実在論</p> <p>第8回：道徳の存在について（2）非実在論</p> <p>第9回：道徳判断の役割について（1）認知主義</p> <p>第10回：道徳判断の役割について（2）非認知主義</p> <p>第11回：メタ倫理学のまとめと、福利論への導入</p> <p>第12回：幸福とは何か（1）快楽説</p> <p>第13回：幸福とは何か（2）欲求実現説</p> <p>第14回：幸福とは何か（3）完成説</p> <p>第15回：授業のまとめ</p> <p><b>定期試験</b></p> <p>テキスト 指定しない</p> <p><b>参考書・参考資料等</b> 赤林朗・児玉聰編(2018)『入門・倫理学』勁草書房 佐藤岳詩(2018)『メタ倫理学入門』勁草書房 ほか、授業中に適宜紹介する。</p> <p><b>学生に対する評価</b> 毎回のコメントペーパーのでき（15回×3%）と、期末レポート（55%）の成績を合算して評価する。</p>						

授業科目名： 社会科・公民科の 指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 富田 賢史、鎌田 公寿					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）							
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>								
<p>テーマ： 社会科・公民科の指導法に関する理論的学修。同教科の教育内容に関する学修。</p> <p>到達目標：社会科・公民科の指導法に関する理論的理解と、同教科の教育内容に関する概括的知識を獲得し、社会科・公民科を指導するための基礎的な能力を身につけることができる。</p>								
<b>授業の概要</b>								
<p>社会科・公民科の指導法について、理論と実践の両面から学んでいく。通年科目であるということを考慮し、特に前期の講義では、同教科の成立した歴史的背景や、その教育原理的基盤、学校教育全体における同教科の位置づけ、学習指導要領の変遷、単元や評価の問題などについて、理論的な面からのアプローチを重視する。また並行して教科内容の研究も展開し、社会科・公民科を指導するための土台となる力を養っていく。</p>								
<b>授業計画</b>								
<p>第1回：ガイダンス：シラバスの確認（担当：富田 賢史）</p> <p>第2回：現行学習指導要領のポイント（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第3回：社会科・公民科の成立と展開（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第4回：「公民としての資質・能力」とは（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第5回：社会科・公民科における見方・考え方（1）：地理的分野（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第6回：社会科・公民科における見方・考え方（2）：歴史的分野（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第7回：社会科・公民科における見方・考え方（3）：公民的分野（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第8回：社会科・公民科における見方・考え方（4）：公民科（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第9回：社会科・公民科の学習指導法（1）：問題解決的な学習（担当：鎌田 公寿）</p> <p>第10回：社会科・公民科の学習指導法（2）：情報メディアの活用（担当：富田 賢史）</p> <p>第11回：学習指導計画案の作成方法と教材研究、学習評価（担当：富田 賢史）</p> <p>第12回：学習指導計画案の作成（1）：教材研究（担当：富田 賢史）</p> <p>第13回：学習指導計画案の作成（2）：指導計画の作成・学習課題の設定（担当：富田 賢史）</p> <p>第14回：学習指導計画案の作成（3）：発問の工夫・板書計画（担当：富田 賢史）</p> <p>第15回：まとめ：社会科・公民科学習の在り方について（担当：富田 賢史）</p>								
<b>定期試験</b>								
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会編』（平成 29 年 7 月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説・公民編』（平成 30 年 7 月）</p>								
<b>参考書・参考資料等</b>								
なし								
<b>学生に対する評価</b>								
ディスカッションへの参加と各回のワークシート・振り返りの内容(30%)、学習指導案づくり(30%)、基本的事項の理解(20%)、最終レポート課題(20%)								

授業科目名： 社会科・公民科の 指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 賢史、鎌田 公寿					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）							
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>								
<b>テーマ：</b> 社会科・公民科の指導法に関する実践的学修 <b>到達目標：</b> ①社会科・公民科教育についての知的・理論的理解に基づき、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることができる。②同教科の模擬授業を通して実践的能力を身につけることができる。③個々の教材研究や学習指導の方法などについて模擬授業を通して検証し、振り返ることができる。								
<b>授業の概要</b>								
社会科・公民科の指導法について、理論と実践の両面から学んでいく。後期の講義では、前期に獲得した、同教科の理論的な側面に関する理解と、教科内容に関する知識を土台とし、より実践的な授業を開発する。具体的には、まず様々な情報メディアを理解し、どのように活用していくのかを学ぶ。情報リテラシー教育の重要性を理解しながら、実際に授業を行うために必要となる教育技術を学び、模擬授業を実施する。受講生同士で学び合い、実践力を培っていく。								
<b>授業計画</b>								
第1回：ガイダンス：学習指導要領のポイントの確認（担当：富田 賢史）								
第2回：地理的分野の理論と実践（担当：鎌田 公寿）								
第3回：歴史的分野の理論と実践（担当：鎌田 公寿）								
第4回：公民的分野の理論と実践（担当：鎌田 公寿）								
第5回：公民科の理論と実践（担当：富田 賢史）								
第6回：初等社会科と中等社会科の接続と発展（担当：富田 賢史）								
第7回：「主体的・対話的で深い学び」と情報メディアの活用（担当：鎌田 公寿）								
第8回：社会科の模擬授業（1）：地理的分野－日本－（担当：富田 賢史）								
第9回：社会科の模擬授業（2）：地理的分野－世界－（担当：富田 賢史）								
第10回：社会科の模擬授業（3）：歴史的分野－近代－（担当：富田 賢史）								
第11回：社会科の模擬授業（4）：歴史的分野－現代－（担当：富田 賢史）								
第12回：公民科の模擬授業（1）：政治・経済－政治－（担当：鎌田 公寿）								
第13回：公民科の模擬授業（2）：政治・経済－経済－（担当：鎌田 公寿）								
第14回：公民科の模擬授業（3）：倫理（担当：鎌田 公寿）								
第15回：まとめ：子どもを生かす社会科・公民科の授業とは（担当：富田 賢史）								
<b>定期試験</b>								
<b>テキスト</b>								
文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会編』（平成29年7月）								
文部科学省『中学校学習指導要領解説・公民編』（平成30年7月）								
<b>参考書・参考資料等</b>								
なし								
<b>学生に対する評価</b>								
ディスカッションへの参加と各回のワークシート・振り返りの内容(20%)、教材研究に対する姿勢と内容(20%)、学習指導案作成と模擬授業の内容(40%)、最終レポート課題(20%)								

授業科目名： 社会科・地歴科の 指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 磯谷 正行、鈴木 允			
			担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 我が国及び各国の社会科・地歴科教育						
到達目標： 1. 時代や国に応じ、多様な社会科・歴史教育の方法や指導理論があることを理解する。 2. 授業設計に当たっては、育成したい能力や目標に応じた設計を行うことが重要であることを知る。 3. 現在、社会科・地歴科で育成したい能力や目標、教授内容とはどんなものかを理解する。						
<b>授業の概要</b>						
世界各国の歴史教育のあり方や我が国の社会科・地歴科教育の変遷を振り返りながら、新しい時代に要求される「社会科」「地歴科」教育の在り方をともに考えたい。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス～社会科という科目の特徴～（担当：磯谷 正行）						
第2回：世界各国の歴史教育①【教育制度・世界史と自国史の教え方】（担当：磯谷 正行）						
第3回：世界各国の歴史教育②【教育段階と歴史の教え方】（担当：磯谷 正行）						
第4回：世界各国の歴史教育③【各國の歴史教科書とその内容】（担当：磯谷 正行）						
第5回：世界各国の歴史教育④【日本の歴史教育と歴史教科書の特徴】（担当：磯谷 正行）						
第6回：世界各国の歴史教育⑤【歴史教科書の新たな動き～共通教科書～】（担当：磯谷 正行）						
第7回：世界各国の地理教育①【環境と開発・E S D】（担当：鈴木 允）						
第8回：世界各国の地理教育②【自然災害・防災】（担当：鈴木 允）						
第9回：世界各国の地理教育③【人口問題・グローバル化】（担当：鈴木 允）						
第10回：我が国の社会科・地歴科教育の変遷①【昭和 20 年代まで】（担当：鈴木 允）						
第11回：我が国の社会科・地歴科教育の変遷②【昭和 30 年代～平成】（担当：鈴木 允）						
第12回：現在の社会科・地歴科の目標と教育内容とは？～学習指導要領の見方～（担当：鈴木 允）						
第13回：現行の社会科・地歴科学習指導要領の内容（担当：鈴木 允）						
第14回：授業設計の手立て～学習指導案の記載項目、教材観・生徒観・指導観・目標と評価～（担当：鈴木 允）						
第15回：まとめ～探究を実現する社会科・地歴科授業の実現のために～（担当：鈴木 允）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
文部科学省「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)」2018 年						
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」2018 年						
文部科学省「中学校学習指導要領 社会編(平成 29 年告示)」2017 年						
文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」2017 年						
国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校地理歴史」2021 年						
国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校社会」2020 年						
その他、授業内で配布するプリントをもとに授業を進める。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
その他、必要となる参考書 WEB サイトは授業の中で示す。						
<b>学生に対する評価</b>						
課題レポート等の提出物(5割)、授業内で配付するコメント用紙への記載等(5割)で総合的に評価する。						

授業科目名： 社会科・地歴科の 指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 磯谷 正行、鈴木 允			
			担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学習指導案の作成と模擬授業 到達目標： 1. 教材作成・教材開発を踏まえた基本的な学習指導案の作成方法を身につける。 2. 他者の指導案や授業の工夫を、今後の指導案作りに生かすことができる。 3. 授業を行うためにどのような準備が必要かを自覚する。						
<b>授業の概要</b> 学生自身に実際に学習指導案を作成してもらい、それをもとに解説や講評を加える形式で、基本的な学習指導案の作成方法を身につけてもらう。また、希望者には模擬授業を行ってもらい、計画と現実とのずれなどを体感してもらいたい。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス～授業のねらいと進め方、社会科教育に関する参考文献紹介～（担当：磯谷 正行） 第2回：教材の作成①【教材研究と授業づくり】（担当：磯谷 正行） 第3回：教材の作成②【資料の収集（インターネット・図書館・博物館・資料館の活用と注意点）】（担当：磯谷 正行） 第4回：教材の作成③【目標や学習者に合わせた資料選択・教材化】（担当：磯谷 正行） 第5回：教材の提示法①【板書法】（担当：磯谷 正行） 第6回：教材の提示法②【文献史料・映像資料・絵画資料・地図・図表の提示法—板書・プリント・パワーポイント・実物投影機、それぞれの特性を生かした提示法】（担当：磯谷 正行） 第7回：授業例の紹介と検討【生徒の思考過程と発問の工夫】（担当：鈴木 允） 第8回：教材開発におけるICT活用①【地図・地形図の活用】（担当：鈴木 允） 第9回：教材開発におけるICT活用②【GISを用いた主題図作成の方法】（担当：鈴木 允） 第10回：教材開発におけるICT活用③【作成した主題図の考察と教材化】（担当：鈴木 允） 第11回：教材研究を踏まえた学習指導案の作成・検討（担当：鈴木 允） 第12回：地域学習の意義と課題（担当：鈴木 允） 第13回：地域教材開発の方法（担当：鈴木 允） 第14回：模擬授業の実施と講評①【模擬授業担当者前半発表】（担当：鈴木 允） 第15回：模擬授業の実施と講評②【模擬授業担当者後半発表】（担当：鈴木 允）						
<b>テキスト</b> 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」2018年 文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」2017年 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校地理歴史」2021年 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校社会」2020年 その他、授業内で配付するプリントをもとに授業を進める。						
<b>参考書・参考資料等</b> その他、必要となる参考書やWEBサイトは授業の中で示す。						
<b>学生に対する評価</b> 学習指導案(4割)、授業コメント(5割)、模擬授業実践者は模擬授業(1割)で、それ以外の受講生は模擬授業に対するコメント(1割)で評価する。						

授業科目名： 日本語学概論A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 日本語の語彙・意味と位相語、敬語</p> <p>到達目標：日本語についての基礎的かつ広汎な知識を養うとともに、日頃から身のまわりの言葉について興味を持って考えられるようにする。また、授業で聴いた様々な事象や法則について、身近な言葉から具体例と例外をともに挙げられるようにし、言語一般の法則として客観的に考察できるようにする。さらに、意味の類似した2語の意味の違いについて自ら観察・分析して発表することができるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>自分が漢字を何字書くことができるのか答えられる人はいたとしても、日本語の単語を何語知っているのか答えられる人は(おそらく)いない。本講義はことばの集合体(=語彙)に注目し、語彙を構成する単語同士の関係について考えながら講義を進めていく。その過程において、位相語の一つとしての待遇表現(敬語)や文章表現・文体を取り上げ、その特性と現代的現象についても考えていく。なお、講義への理解を深めるため、授業内においては、意味の類似した2語の意味の違いについて、担当者を決めて受講学生に自ら観察・分析して発表することを求める。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：日本語の境界線 一言語と方言のはざまでー						
第3回：言語が言語である理由 一構造主義言語学ことはじめー						
第4回：語と語彙 一ことばを計量するー						
第5回：語種 一カルタ・カード・カルテー						
第6回：位相語 一「よろしくってよ、ごめんあそばせ。」ー						
第7回：文章表現と文体を考える						
第8回：意味の変化と拡がり						
第9回：ことばの意味を考える(1) 一グループワークー						
第10回：ことばの意味を考える(2) 一発表を聞くー						
第11回：敬語(1)ー尊敬語ー						
第12回：敬語(2)ー謙譲語ー						
第13回：敬語(3)ーポライトネスと敬語ー						
第14回：語義説明王選手権						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし。配付プリントを用いる。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
堀田あけみ・村井宏栄(2021)『ついスマホに頼ってしまう人のための日本語入門』ナカニシヤ出版						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末筆記試験(70%)、課題提出物・ミニレポートを含む平常点(30%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 日本語学概論B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語の音声・音韻と文字表記 到達目標：日本語についての基礎的かつ広汎な知識を養うとともに、日頃から身のまわりの言葉について興味を持って考えられるようにする。また、授業で聴いた様々な事象や法則について、身近な言葉から具体例と例外をともに挙げられるようにし、言語一般の法則として客観的に考察することができるようとする。						
<b>授業の概要</b>						
どんな言語にも「おと」（音声）があるように、日本語にも音声が存在する。普段我々が話している日本語は、どんな音声的特徴を持ち、他の外国語音声とどこが異なるのか。一方で、日本語は音声言語のみで構成されるものではなく、書記言語としての日本語のあり方も存在している。本講義では日本語音声学の基礎知識を学ぶとともに、自分が話していることばの音声を客観的に観察し把握する力を養い、日本語の文字表記・書記についても客観的に分析する方法を学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：「日本最古の文字！？」—文字が文字である理由とは—						
第3回：「“峰”と“峯”って同じ字？」—字形・字体・書体—						
第4回：「新“彔写”県ってどこの県？」—異体字—						
第5回：「しほといふ文字は何れのへんにか侍らん」—部首—						
第6回：「“沈殿”は【殿を沈める】？」—漢字制限と改定常用漢字表—						
第7回：「つま【ズ】いて、どく【ズ】いて、うな【ズ】いて、こ【ズ】いた！」—現代仮名遣い—						
第8回：「ギョエテとはおれのことかとゲーテ云ひ」—外来語の表記—						
第9回：「臭い控えめニンニクチップ。」—送り仮名の付け方—						
第10回：「中日新聞は“Ch u n i c h i S h i m b u n”」—ローマ字のつづり方—						
第11回：音声と音韻—二種類の言語音—						
第12回：五十音図の秘密①—「すごい」が「すげえ」に変わるとき—						
第13回：五十音図の秘密②—「あかさたなはま」はなぜこの順序？—						
第14回：アクセント—りんご、ゴリラ、ラッパ、パンダ…—						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 三省堂編修所『新しい国語表記ハンドブック』第九版、三省堂、2021						
<b>参考書・参考資料等</b>						
個別の事象については授業内でそれぞれ紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末筆記試験(80%)、課題提出物を含む平常点(20%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 日本語文法A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 現代日本語文法の基礎項目(1) 到達目標：多くの受講生にとっての母語であろう日本語を対象として、文法についての基礎的な知識を身につけるとともに、自分が普段何気なく話している日本語にはどのようなルールがあり、我々はどうやってことばを作り立たせているのか、そのルールに気付き、自らそのシステムについて分析して考えられるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
外国語を学ぶ際、日本語との違いに気づき、不思議に感じたことはないだろうか。こうした「不思議」に注目し、その背後にあるシステム（＝文法）について意識化し考えていく。さらに、そのシステムを説明・分析することで、「文法的に考える」ことを学んでいく。本授業では、品詞・活用・語の定義など、主として「語」に注目して講義を行っていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：「女優な素肌、ピンクなネオン」、それは「問題な日本語」。 —品詞—						
第3回：「未然、連用、辞書、連体？」 —活用—						
第4回：「卵焼き・大判焼き・焼きもち焼き」 —造語法—						
第5回：日本語はどんな言語ですか？ —語順—						
第6回：「トムヤムクン風、トムヤムクン的、トムヤムクンまがい」 —接辞—						
第7回：「昔はよく川で泳いだものだ」 —名詞の多様性と文法化—						
第8回：「2014年4月4日4時14分」 —数量詞—						
第9回：「扉が閉まります」と「扉を閉めます」 —自動詞と他動詞—						
第10回：「この魔球を打てれば、わがチームに入れてやろう！」 「この魔球を投げれば、わがチームに入れてやろう！」 —ら抜き・さ入れ・れ足す—						
第11回：「山を登る」と「山に登る」 —格助詞①—						
第12回：「あの人はお中元を送った」 —格助詞②—						
第13回：「多い人が来ました」？ —形容詞—						
第14回：修飾語って何？ —文の成分—						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
庵功雄(2012)『新しい日本語学入門』第2版、スリーエーネットワーク 名古屋大学日本語研究会 (2007)『ふしぎ発見！日本語文法。』三弥井書店 ※個々の事象に関しては隨時授業内で文献を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末試験(80%)、課題提出物を含む平常点(20%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 日本語文法B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 現代日本語文法の基礎項目(2) 到達目標：多くの受講生にとっての母語であろう日本語を対象として、文法についての基礎的な知識を身につけるとともに、自分が普段何気なく話している日本語にはどのようなルールがあり、我々はどうやってことばを作り立たせているのか、そのルールに気付き、自らそのシステムについて分析して考えられるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
外国語を学ぶ際、日本語との違いに気づき、不思議に感じたことはないだろうか。こうした「不思議」に注目し、その背後にあるシステム（=文法）について意識化し考えていく。さらに、そのシステムを説明・分析することで、「文法的に考える」ことを学んでいく。前期の授業に引き続き、後期の授業では節レベル・文レベルの事象について考えていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：「今日ね、ぼくはね、学校にね、行ったよ」 一文節—						
第3回：「この料理は電子レンジだけで作れる」と「この料理は電子レンジでだけ作れる」 一とりたてと格助詞—						
第4回：「象は鼻が長い」 一「は」と「が」—						
第5回：「夢が私をうなしていた」？ 一ヴォイス(1)受身—						
第6回：「子どもに服を着せる」と「子どもに服を着させる」 一ヴォイス(2)使役・使役受身—						
第7回：「28分の急行に乗るね」 一テンスとその周辺—						
第8回：「走っている」と「割れている」 一アスペクトとその周辺—						
第9回：このケーキは「おいしいようだ」、「おいしいそうだ」、「おいしいらしい」 一モダリティ—						
第10回：「先週買った財布を落とした」 一従属節とあいまい文—						
第11回：「サンマを焼く男」と「サンマを焼くにおい」 一名詞修飾節のいろいろ—						
第12回：「このボタンを押すと、切符が出てきます」と「このボタンを押したら、切符が出てきます」 一条件表現—						
第13回：「い・い・え私は、さそり座の女」 一つなぐ言葉と接続詞—						
第14回：「すみません、火、持っていますか？」 一語用論—						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
庵功雄(2012)『新しい日本語学入門』第2版、スリーエーネットワーク 名古屋大学日本語研究会(2007)『ふしぎ発見！日本語文法』三弥井書店 ※個々の事象に関しては随時授業内で文献を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末試験(80%)、課題提出物を含む平常点(20%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 日本語の歴史A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 上代から中世にかけての日本語 到達目標：日本語の歴史についての基礎的な理解を深めるとともに、言語の歴史的変化を客観的に観察できるようにする。また、自らが問題を発見できる能力を養い、それに対する自己解決力を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
有史以来、日本語は 1500 年以上の歴史を文字に刻んできた。漢字・漢文を大陸から採り入れたことにより、極度に複雑な書記様式を発達させていくつつ、各方面に亘って変遷を遂げてきている。本講義ではそれぞれの時代において特色あるトピックを取り上げながら、日本語の歴史的変遷を概観する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：日本語の起源と概要						
第3回：「上古の世、未だ文字有らざるとき」 —無文字社会としての日本—						
第4回：キミは「伎美・伎見・吉民・岐美…」 —万葉仮名の表音性—						
第5回：「見る」の終止形 —古代における上一段活用動詞—						
第6回：「瀬をはやみ」 —形容詞のあけぼのとその発展—						
第7回：仮名の誕生 —平仮名・片仮名—						
第8回：「えのえをなれみて」 —仮名遣い—						
第9回：「反切」と古代インド文字 —五十音図とその周辺—						
第10回：表記体の発展と文体						
第11回：「草薙君の秘密…。」 —国字—						
第12回：「そでひちて」 —古今集歌をよむ—						
第13回：「風吹けば 沖つ白波 立田山」 —『伊勢物語』の和歌解釈—						
第14回：「湯はななくりの湯」 —榎原温泉とテキスト・クリティーク—						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
佐藤武義(1995)『概説日本語の歴史』朝倉書店 近藤泰弘他 (2005)『日本語の歴史』放送大学教育振興会 山口仲美 (2006)『日本語の歴史』岩波書店 沖森卓也 (2010)『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末試験(80%)、課題提出物を含む平常点(20%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 日本語の歴史B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井（別所） 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 中世から現代にかけての日本語 到達目標：日本語の歴史についての基礎的な理解を深めるとともに、言語の歴史的変遷を客観的に観察できるようにする。また、自らが問題を発見できる能力を養い、それに対する自己解決力を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
有史以来、日本語は 1500 年以上の歴史を文字に刻んできた。漢字・漢文を大陸から採り入れたことにより、極度に複雑な書記様式を発達させていくつつ、各方面に亘って変遷を遂げてきている。本講義では主として中世から現代にかけての時代におけるそれぞれの特色あるトピックを取り上げながら、日本語の歴史的変遷を概観する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション —過去の日本語を学ぶ意味—						
第2回：親鸞の中世 —宗教的言語の機能—						
第3回：「おでん」は女性語だった？ —語彙から見た日本語史—						
第4回：宣教師たちの日本語研究 —キリストン資料—						
第5回：あいさつ言葉の出自を知る —文法変化はひとりじゃない—						
第6回：「貴様」・「おまえ」が至極丁寧な物言いの時代があった —一人称代名詞の待遇化—						
第7回：「畠字」の周辺 —日本語辞書史の展開—						
第8回：くずし字リテラシーを学ぶ						
第9回：「世に行阿といふ人の仮名文字遣といふ物ありて」 —契沖の仮名遣い—						
第10回：宣長の日本語研究 —近世日本語研究史—						
第11回：ロシアに渡った商人、大黒屋光太夫 —日本語インフォーマントの誕生—						
第12回：日本語の近代化 —言文一致と国語国字問題—						
第13回：「願はくは予をして新に発達すべき日本の標準語につき、一言せしめたまへ」 —標準語と上田万年—						
第14回：「外地ニ於ケル仮名遣ハ絶対ニ表音ニ依ラナケレバナラナイ」 —東アジアの日本語教育史—						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
佐藤武義(1995)『概説日本語の歴史』朝倉書店 近藤泰弘他 (2005)『日本語の歴史』放送大学教育振興会 山口仲美 (2006)『日本語の歴史』岩波書店 沖森卓也 (2010)『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末試験(80%)、課題提出物を含む平常点(20%)の合計を総合的に評価する。						

授業科目名： 方言論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田 敏弘 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 地域のことばである方言について、基礎的なことを学び、特に東海地方の方言を自分でも調べてみる。 到達目標：各地の方言の実態を知り研究方法を学んだ上で、自分自身で疑問を見つけ、その疑問を調べることで深めていく。						
<b>授業の概要</b> 方言は単なる古くさい老人のことばではなく、社会のコミュニケーションにも有効な手段です。全国の方言を学びつつ、その分析方法を参考にしながら、自分の身の回りの言葉を分析し自分だけの「発見」を披露することを目指します。						
<b>授業計画</b> 第1回：地域のことばとしての方言、日本の方言区画 第2回：方言の分布(1) 方言と文化の東西差 第3回：方言の分布(2) 周囲分布、逆周囲分布 第4回：その他のミクロな分布 第5回：発音の地域差 第6回：アクセント・イントネーションの地域差 第7回：時間表現と条件表現など文法的表現の地域差 第8回：挨拶・話の進め方の地域差 第9回：コミュニケーション意識・待遇表現の地域差 第10回：共通語化、方言と共通語の使い分け、伝統方言の現在 第11回：沖縄の方言から日本語を考える 第12回：オノマトペの方言と新しい方言 第13回：方言の社会的位置づけの変遷、言語意識から見た地域性 第14回：ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ、方言コスプレ 第15回：方言研究の社会的意義 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり他編『方言学入門』三省堂						
<b>参考書・参考資料等</b> 国立国語研究所『日本言語地図』『方言文法全国地図』 佐藤亮一編『方言の地図帳』講談社学術文庫 三省堂『都道府県別全国方言辞典』他各種方言辞典、地域別方言書等						
<b>学生に対する評価</b> 毎回のリフレクションの評価の合計(60%)と期末レポート(40%)で評価する。						

授業科目名： 国語演習 (日本語学) A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：村井 (別所) 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語研究の基礎(1) 到達目標：論点の見つけ方、参考文献の探し方、発表のしかた・まとめ方を学ぶ。						
<b>授業の概要</b> 現代日本語の諸問題を議論する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：現代日本語の機能表現 ガイダンス①品詞・活用形・接続など						
第3回：現代日本語の機能表現 ガイダンス②発表練習						
第4回：1 グループ目の発表						
第5回：2 グループ目の発表						
第6回：3 グループ目の発表						
第7回：4 グループ目の発表						
第8回：「国語に関する世論調査」・『図説日本語』を読む						
第9回：先行研究を引用する						
第10回：先行研究を探す						
第11回：データを集める						
第12回：現代日本語の問題発表 1 グループ目						
第13回：現代日本語の問題発表 2 グループ目						
第14回：現代日本語の問題発表 3 グループ目						
第15回：現代日本語の問題発表 4 グループ目						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 個別の事象についてはそれぞれ授業内で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 質問・意見を含む授業参加態度(30%)、発表内容(70%)を合わせて総合的に評価する。						

授業科目名： 国語演習 (日本語学) B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：村井 (別所) 宏栄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語研究の基礎(2) 到達目標：古文献を自身の力で読み解き、問題を発掘しながらその問題を論理的に解決するための方法について学ぶ。						
<b>授業の概要</b> 前近代日本語の諸問題を議論する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：日本語史の中世						
第2回：『平家物語』概説						
第3回：資料作成のための基礎知識						
第4回：翻字する						
第5回：読みを推定する						
第6回：1 グループ目の発表						
第7回：2 グループ目の発表						
第8回：3 グループ目の発表						
第9回：4 グループ目の発表						
第10回：5 グループ目の発表						
第11回：6 グループ目の発表						
第12回：7 グループ目の発表						
第13回：8 グループ目の発表						
第14回：9 グループ目の発表						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし。授業内で配付するプリントを使用する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 個別の事象についてはそれぞれ授業内で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 質問・意見を含む授業参加態度(30%)、発表内容(70%)を合わせて総合的に評価する。						

授業科目名： 日本文学入門 (古典文学史)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 麻織 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 古典文学作品をジャンルごとに学ぶ。 到達目標：古典の教科書に掲載されることの多い代表作品を取り上げ、それぞれのジャンルおよび作品の特徴を把握することを到達目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
高校の古典の教科書に掲載される古典文学の代表作品をジャンルごとに学ぶ。作者や成立背景といった基礎知識、文学史における作品の位置づけを把握し、個々の場面を鑑賞する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：日本文学の時代区分とジャンル						
第2回：和歌①『古今和歌集』						
第3回：和歌②私家集						
第4回：和歌③『百人一首』						
第5回：歌物語①『伊勢物語』						
第6回：歌物語②『大和物語』						
第7回：日記①『土佐日記』						
第8回：日記②『蜻蛉日記』						
第9回：日記③『紫式部日記』						
第10回：隨筆『枕草子』						
第11回：歴史物語『大鏡』						
第12回：説話①『沙石集』						
第13回：説話②『十訓抄』						
第14回：評論①『無名草子』						
第15回：評論②『玉の小櫛』						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 新編日本古典文学全集（小学館）を使う。必要な資料は配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> ミニレポート（30%）、期末レポート（70%）						

授業科目名： 日本文学入門 (近現代文学史)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：広瀬（豊永） 正浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 近代日本文学の表現・思想史 到達目標：日本文学の入門として、近代の日本文学に関する基本的な知識を習得し、「国語」および現在の私たちにとって身近な表現文化がどのような歴史的経緯の上に成立しているものであるか、知識を身につける。また、文章を読解する基本的な能力を高める。						
<b>授業の概要</b> 明治時代から現代にかけての日本の文学の傾向を“通史的”に捉えていく。文学というものをめぐってどのような思考が形成され、どのような議論・論争が展開されたかを確認していくことで、今日の私たちの表現実践を相対化していく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：明治初期の文学と思想						
第3回：『小説神髄』をめぐって						
第4回：「立身出世」というモチーフ						
第5回：日清戦争・日露戦争と文学						
第6回：自然主義の文学						
第7回：大逆事件の衝撃						
第8回：白樺派の思想						
第9回：流動する社会の中の文学						
第10回：プロレタリア文学						
第11回：アジア太平洋戦争と文学						
第12回：戦後日本の文学状況						
第13回：消費社会と文学						
第14回：現代文学の課題						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし。毎回の授業でプリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
奥野健男『日本文学史 近代から現代へ』中央公論新社（中公新書）						
堀啓子『日本近代文学入門 12人の文豪と名作の真実』中央公論新社（中公新書）						
千葉一幹ほか編『日本文学の見取り図 宮崎駿から古事記まで』ミネルヴァ書房						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回の授業内で各自が取り組む課題（ミニレポート）の内容 100%。						

授業科目名： 現代文学・批評理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：広瀬（豊永） 正浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 現代日本文学を通して学ぶ文学理論・批評理論 到達目標：文学理論や批評理論を学び、「物語を感情的に雰囲気で読むのではなく、論理的かつ批評的に読む」という国語教員にとって必要な資質を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 現代日本の文学作品（一部海外の作品も含む）を題材にしながら、国内外の研究動向を背景にした文学理論や批評理論を学び、理論を通して読解がどのように成立するかを確認する。学生は講義内で講師から出された課題を個人ないしグループで考察して、理論についての理解を深めていく。また、理論についての理解の定着を測るため、学期末に筆記試験を行う。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：物語論（1）物語構造 第3回：物語論（2）視点と語り手 第4回：テクスト論 第5回：読者反応批評 第6回：精神分析批評 第7回：ジェンダー批評 第8回：マルクス主義批評 第9回：ポストコロニアル批評 第10回：新歴史主義 第11回：アダプテーション論 第12回：「世界文学」論 第13回：ポストヒューマン論 第14回：「声と文学」論 第15回：まとめ <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 廣野由美子『批評理論入門』中央公論新社（中公新書）						
<b>参考書・参考資料等</b> 丹治愛編『知の教科書 批評理論』講談社（講談社選書メチエ） 橋本陽介『物語論 基礎と応用』講談社（講談社選書メチエ） 三原芳秋ほか編『クリティカル・ワード 文学理論』フィルムアート社 ピーター・バリー『文学理論講義 新しいスタンダード』ミネルヴァ書房						
<b>学生に対する評価</b> 毎回の授業課題 50%、筆記試験 50%						

授業科目名： 近現代文学読解	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：水川 敬章 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 日本近現代文学読解のための方法論修得と作品読解の実践 到達目標：日本近現代文学を分析的に読解するための方法論を理解し、実際に分析することができる						
<b>授業の概要</b> 本授業では、日本の近現代文学を読解するために必要な方法論について学び、その方法論を実際に使って小説を分析的に読解する。現在の日本近現代文学研究は、単に言語表現を分析するのみならず、小説をメディアという観点から捉え直したり、小説の映像化作品の分析を行ったりする。このような多様な文学研究の方法を、これまでに高等学校の教材として採用された小説や文学史に登場する小説を中心に分析することで学ぶ。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス：日本近現代文学をまなぶための準備 第2回：小説を読むとはどういうことか 第3回：比喩について考える 第4回：文学的な言語による表現とは何か 第5回：物語の構造について考える 1：物語文法 第6回：物語の構造について考える 2：芥川龍之介「羅生門」の読解 第7回：小説と読書と書物の関係性：川上弘美『神様』の読解 第8回：アダプテーションについて考える 1：芥川龍之介「蜘蛛の糸」と児童文学・アニメ化 第9回：アダプテーションについて考える 2：芥川龍之介「蜘蛛の糸」の読解 第10回：小説の映画化について考える 1：メディアミックス 第11回：小説の映画化について考える 2：川端康成「伊豆の踊子」の読解 第12回：作家と小説の関係性について考える 1：作家イメージの問題系 第13回：作家と小説の関係性について考える 2：太宰治『人間失格』の読解 第14回：小説を論じる小説について考える 3：太宰治『人間失格』の再読 第15回：まとめ：ふりかえりと補足 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 神様（川上弘美著、中公文庫） 伊豆の踊子（川端康成著、新潮文庫） 人間失格（太宰治著、集英社文庫）						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜資料を配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験 70%、毎回の授業の最後に課す小レポート 30%						

授業科目名： 評論文読解	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：広瀬（豊永） 正浩 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 論理的・批評的な文章の読解 到達目標：中学校・高等学校において国語の授業をする上で必要とされる、論理的・批評的な文章の読解力を身につける。評論文でテーマとなる現代的課題についての知識と思考力を養う。						
<b>授業の概要</b> 高等学校の『現代の国語』『論理国語』において扱われるレベルの評論文を、キーワードごとに複数読み解き、論理的な思考を実践しながら、その文章およびキーワードの背景にある現代的な問題への関心を深める。そして、問題発見能力を向上させていく。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：評論文の読み方 第3回：「アイデンティティ」に関する評論を読む（1）読解 第4回：「アイデンティティ」に関する評論を読む（2）考察 第5回：「言語」に関する評論を読む（1）読解 第6回：「言語」に関する評論を読む（2）考察 第7回：「歴史・伝統」に関する評論を読む（1）読解 第8回：「歴史・伝統」に関する評論を読む（2）考察 第9回：「情報・社会」に関する評論を読む（1）読解 第10回：「情報・社会」に関する評論を読む（2）考察 第11回：「科学・文明」に関する評論を読む（1）読解 第12回：「科学・文明」に関する評論を読む（2）考察 第13回：「世界」に関する評論を読む（1）読解 第14回：「世界」に関する評論を読む（2）考察 第15回：まとめ <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし。毎回の授業でプリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 中山元『高校生のための評論文キーワード100』筑摩書房（ちくま新書） 岩間輝生ほか編『高校生のための現代思想ベーシック ちくま評論入門』筑摩書房						
<b>学生に対する評価</b> 授業内での課題への取り組み 50%、学期末レポート 50%						

授業科目名： 談話研究法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：武輪 敬心 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：談話研究法の基礎を学び、実際に日本語テクストを分析し、まとめ、談話分析の具体的方法を習得する。 到達目標：談話研究の基礎を身につけ、分析者それぞれが日本語テクストの特徴をつかみ、分析結果をまとめることができるようになる。						
<b>授業の概要</b> 適宜配付するプリントを用い、談話研究の方法を学び、日本語のテクスト分析を試み、談話研究の基礎を身につける。また、卒業論文等に資する談話研究のまとめ方について、具体的方法を学ぶ。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：談話とは 第3回：談話研究とは 第4回：コンテクストの解釈 第5回：相互行為言語学 第6回：談話分析—相互行為言語学からのアプローチ 第7回：社会言語学 第8回：談話分析—社会言語学からのアプローチ 第9回：レポート発表① 相互行為言語学または社会言語学からのアプローチを用いて 第10回：言語人類学 第11回：談話分析—言語人類学からのアプローチ 第12回：ナラティブ研究 第13回：談話分析—ナラティブ研究からのアプローチ 第14回：レポート発表② 言語人類学またはナラティブ研究からのアプローチを用いて 第15回：まとめ						
<b>定期試験</b> テキスト 指定しない。 授業内に適宜、プリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 鈴木亮子、秦かおり、横森大輔『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』（2017）ひつじ書房						
<b>学生に対する評価</b> レポート課題、ディスカッションへの参加態度など授業全体への取り組み(50%)、期末試験(50%)。ただし、授業の様子等によって、期末試験を期末レポートに替えることもある。						

授業科目名： 古典文学読解 (上代・中古)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 麻織 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 上代・中古の文学作品について学ぶ。 到達目標：日本文学作品の成立過程や内容など基礎的な知識を押さえ、文学史の流れの中でそれぞれの作品の特徴を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
上代・中古の文学作品についての基礎的知識、作者や成立背景、文学史における作品の位置づけを把握し、代表的な作品の個々の場面を鑑賞する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：文学の起源—祭りと信仰—						
第2回：『古事記』—神話と伝説の世界—						
第3回：『日本書紀』—国家意識の目覚め①—						
第4回：『風土記』—国家意識の目覚め②—						
第5回：『万葉集』—古代歌謡と万葉仮名—						
第6回：上代文学から中古文学へ—仮名文字の成立—						
第7回：『竹取物語』—最古の物語—						
第8回：『落塗物語』—継子いじめの話型—						
第9回：『うつぼ物語』①—長編物語の成立—						
第10回：『うつぼ物語』②—源氏物語への影響—						
第11回：『源氏物語』①—中古文学の集大成—						
第12回：『源氏物語』②—後期物語への影響—						
第13回：『狭衣物語』—後期物語①—						
第14回：『浜松中納言物語』『夜の寝覚め』—後期物語②—						
第15回：『堤中納言物語』—短編物語と散逸物語—						
<b>定期試験</b>						
テキスト おもに新編日本古典文学全集（小学館）を使う。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
ミニレポート（30%）、期末レポート（70%）						

授業科目名： 古典文学読解 (中世・近世)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 麻織 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 中世・近世の文学作品について学ぶ。 到達目標：日本文学作品の成立過程や内容など基礎的な知識を押さえ、文学史の流れの中でそれぞれの作品の特徴を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
中世・近世の文学作品についての基礎的知識、作者や成立背景、文学史における作品の位置づけを把握し、代表的な作品の個々の場面を鑑賞する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：中世の文学作品の特性について						
第2回：歴史物語の成立—『栄花物語』の歴史認識—						
第3回：歴史物語の展開—四鏡—						
第4回：説話物語①—『今昔物語集』						
第5回：説話物語②—『宇治拾遺物語』						
第6回：軍記物語①—『平家物語』						
第7回：軍記物語②—『太平記』						
第8回：隨筆—『徒然草』『方丈記』						
第9回：御伽草子①—『一寸法師』						
第10回：御伽草子②—『鉢かつぎ姫』						
第11回：近世の文学作品の特性について						
第12回：浮世草子—井原西鶴など						
第13回：俳諧—松尾芭蕉など						
第14回：淨瑠璃—近松門左衛門など						
第15回：読本—上田秋成など						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 新編日本古典文学全集（小学館）を使う。必要な資料は配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> ミニレポート（30%）、期末レポート（70%）						

授業科目名： 国語演習 (日本文学) A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：高橋 麻織 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：『源氏物語』「野分」巻を読む 到達目標：古典文学作品を読むための文献調査および演習発表の方法を習得する。絵巻の調査を通して、日本文化の独自性を学ぶ。						
<b>授業の概要</b> 『源氏物語』「野分」巻を輪読する。各テキストの注釈を調査し、比較検討したことを演習形式で発表する。後半はグループで源氏物語絵巻を調査し発表する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：文学史における『源氏物語』について解説する						
第2回：「野分」巻の模擬授業①—資料調査—						
第3回：「野分」巻の模擬授業②—レジュメの作り方—						
第4回：「野分」巻の模擬授業③—発表方法—						
第5回：演習発表①「六条院の秋の町」						
第6回：演習発表②「垣間見される紫の上」						
第7回：演習発表③「垣間見した夕霧の心中」						
第8回：演習発表④「光源氏と紫の上の様子」						
第9回：演習発表⑤「光源氏と夕霧の対話」						
第10回：演習発表⑥「紫の上を思う夕霧」						
第11回：源氏物語絵巻の調査「柏木（二）」						
第12回：源氏物語絵巻の調査「竹河（二）」						
第13回：源氏物語絵巻の調査「宿木」						
第14回：源氏物語絵巻の調査「蓬生」						
第15回：グループ発表						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 新編日本古典文学全集（小学館）を使う。必要な資料は配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 演習発表（40%）、期末レポート（60%）						

授業科目名： 国語演習 (日本文学) B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：高橋 麻織 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：『源氏物語』「若紫」巻を読む 到達目標：古典文学作品を読むための文献調査および演習発表の方法を習得する。くずし字の読み解力を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
『源氏物語』「若紫」巻を輪読する。各テキストの注釈を調査し、比較検討したことを演習形式で発表する。定家本・尾州家河内本の本文調査も合わせて行う。後半は源氏物語屏風の調査を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：文学史における『源氏物語』について解説する						
第2回：源氏物語写本と翻刻について解説する						
第3回：模擬授業①—資料収集・くずし字の翻刻						
第4回：模擬授業②—レジュメの作り方・発表方法						
第5回：演習発表①「北山を訪れる光源氏」						
第6回：演習発表②「北山の自然風景」						
第7回：演習発表③「僧都の坊の様子」						
第8回：演習発表④「明石入道の話」						
第9回：演習発表⑤「若紫を垣間見する光源氏」						
第10回：源氏物語屏風について解説						
第11回：源氏物語屏風の調査①「須磨へ下向する光源氏」						
第12回：源氏物語屏風の調査②「六条院行幸」						
第13回：源氏物語屏風の調査③「垣間見される女三の宮」						
第14回：グループ発表①「須磨」「藤裏葉」						
第15回：グループ発表②「若菜下」						
<b>定期試験</b>						
テキスト 新編日本古典文学全集（小学館）を使う。必要な資料は配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
演習発表（40%）、期末レポート（60%）						

授業科目名： 古典文学読解（漢文）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白石（愛敬） 真子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 唐代の代表的な詩人の詩文を味読し、国語における漢詩文の意味を考える。 到達目標：教職に必要な漢詩文を読解する能力と知識を身につけ、自国の文化的基盤を思考する能力を養う。						
<b>授業の概要</b>						
唐代を代表する詩人、李白、杜甫、白楽天の詩文に材を取りながら、毎講、一篇の漢詩漢文の味読を行い、詩文の背景を解説する。基本的には講義形式で授業を行うが、自分で思考する能力を養うためにも、漢語表現や、文学史調査等の機会を設けるほか、それに基づいた意見交換も行う予定である。なお、個々の理解度の確認は、小レポート及び、最終レポートにて確認する予定である。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス～古体詩と近体詩について						
第2回：近体詩の構成を考える。（孟浩然「春曉」）…小レポート1						
第3回：李白の生涯～5期分類（李白・第1期「峨眉山月歌」）						
第4回：李白を読む①～孟浩然と李白（李白・第2期「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」）						
第5回：李白を読む②～玄宗皇帝と楊貴妃（李白・第3期「清平調詞」）						
第6回：李白・杜甫の出会い～李白、杜甫、高適（杜甫「飲中八仙歌」）…小レポート2						
第7回：杜甫を読む①～安史の乱と杜甫（杜甫「春望」）						
第8回：杜甫を読む②～玄宗皇帝と楊貴妃（杜甫「哀江頭」・白楽天「長恨歌」）						
第9回：杜甫を読む③～詩史と称されて（杜甫「石壕吏」）						
第10回：白楽天の受容①～『白氏文集』の成立とその時代背景について…小レポート3						
第11回：白楽天の受容②～平安文学と白楽天（白楽天「重題」・清少納言『枕草子』）						
第12回：白楽天を読む①～諷諭という手法（白楽天の新楽府）						
第13回：白楽天を読む②～生き方を学ぶ（白楽天「中隱」）						
第14回：国語における漢文学（李白「春夜宴桃李園序」・松尾芭蕉『おくの細道』）						
第15回：まとめ～国語における漢詩・漢文						
<b>定期試験</b>						
テキスト 教材は印刷して配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
漢和辞典は必携。講義内で補足プリントを配付する。詳細は講義の際に指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
小レポート（10%×3） 最終レポート（70%）						

授業科目名： 書写・書道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：庄田 昭人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 文字知識を高め、文字を正しく、美しく書くこと。楷書・行書を書き分けられる知識と技術を習得する。						
到達目標：毛筆により文字を正しく、美しく書くための技術を身につける。また、硬筆によるノートなどの書き方や、小筆にて名前を書けるように社会人としての教養を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
小中学校で扱う国語の読むこと・話すこと・書くことの書くことの書写に関する知識・技能で、不足する部分について、知識的理解を高め更に、実技能力の幅広い応用力を養い、指導者への教養を身につける。						
内容は、小中学校書写で扱う楷書・行書の基本を理解しきり分ける力をつけ、自分の名前を小筆で書けるように指導する。自分の名前の筆順も間違って書いているのは、義務教育課程において筆順について指導する時間が不足していると思われ、指導者として文字教養の大切さを感じ取れるような授業である。筆順の指導を繰り返し行う。						
毛筆指導では、基本的用筆・運筆法・構造法を理解させ、楷書の特徴や行書の特徴の書法も理解し練習する。これらを繰り返し練習することにより、文字を美しく書けるよう身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：小中学校の書写教育の概要と漢字の変遷について（前期授業の説明）						
第2回：毛筆。筆の持ち方から構え方について、基本の執筆法（楷書の横画）						
第3回：毛筆。楷書の基本。縦画・横画（一三を書く。三過節と俯仰）						
第4回：毛筆。楷書の基本。転折（千里・白梅を書く）						
第5回：毛筆。楷書の基本。左右の払い（天道・月夜を書く）						
第6回：毛筆。楷書のまとめ。はね・点・字形の捉え方						
第7回：硬筆。マスの書き方と文字の大きさ、位置。縦書き、横書きの書き方						
第8回：毛筆。行書の基本。基本の執筆法（行書の特徴・三川による縦画と横画）						
第9回：毛筆。行書の基本。転折（安全を書く）						
第10回：毛筆。行書の基本。左右の払い（水玉を書く）						
第11回：毛筆。行書のまとめ。曲線と連続する線（学校・書道を書く）						
第12回：毛筆。平仮名の書き方（すがろくを書く）						
第13回：毛筆。漢字と平仮名の調和について（文字の大きさとバランス）						
第14回：毛筆。小筆（のし紙や芳名録の書き方）						
第15回：前期まとめ（課題を楷書・行書・平仮名を書く）						
<b>定期試験</b>						
テキスト プリントを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
楷書のレッスン（二玄社）						
<b>学生に対する評価</b>						
授業内提出物（毎回）80%、授業への取り組み度・態度20%						

授業科目名： 国語の指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 広瀬(豊永) 正浩、佐藤 洋一 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 国語科教育の基礎的研究 到達目標：中学校・高等学校の国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 国語を教える上で必要とされる教科に関する歴史的経緯や教科の意義、国語教育における理論・方法などについて学ぶ。その上で、教科書教材について考察する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス／国語科教育の「国語」について（担当：広瀬 正浩）						
第2回：中学高校・学習指導要領の歴史と変遷、構造と内容等（担当：佐藤 洋一）						
第3回：資質・能力育成と国語科の教育目標・方法、内容構成等（担当：佐藤 洋一）						
第4回：国語科の意義と特質（「見方・考え方」）をいかす授業と学習指導（担当：佐藤 洋一）						
第5回：国語科における「主体的・対話的で深い学び」と授業デザイン（担当：佐藤 洋一）						
第6回：レポート・論文作成技術（アカデミックライティング）と論理的思考力（担当：佐藤 洋一）						
第7回：学びの質的価値を見取る「学習評価」の理論と方法、実践課題（担当：佐藤 洋一）						
第8回：国語科の学びの特性をいかす情報通信技術の活用と方法について（担当：佐藤 洋一）						
第9回：教材研究（1）資質・能力の基盤・方略としての論理的な文章研究（担当：佐藤 洋一）						
第10回：教材研究（2）鑑賞・批評する力を育てる読解・表現指導研究（担当：佐藤 洋一）						
第11回：「古典」の教育の意義と課題（1）古文（担当：広瀬 正浩）						
第12回：「古典」の教育の意義と課題（2）漢文（担当：広瀬 正浩）						
第13回：教材研究（3）古文の文法指導と読解指導の研究（担当：広瀬 正浩）						
第14回：教材研究（4）漢文の文法指導と読解指導の研究（担当：広瀬 正浩）						
第15回：まとめ／教材研究から発展的な学習へ（担当：広瀬 正浩）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> なし（毎回の授業でプリントを配付）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
浜本純逸『国語科教育総論』 溪水社 町田守弘編『実践国語科教育法』 学文社 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月）						
<b>学生に対する評価</b> 課題への取り組み（学びの振り返り記載）60%、学修内容の到達度（筆記試験）40%						

授業科目名： 国語の指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広瀬(豊永) 正浩、佐藤 洋一 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 国語科の授業研究 到達目標：中学校・高等学校の国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 授業実践に結びつく方法論を学ぶ。教材についてグループに分かれて考察し、指導案を書いて授業を行う。実際に授業をすることによって、実践的な授業力を養う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス／確かに深い授業デザイン・授業技術とは（担当：佐藤 洋一）						
第2回：国語学力と資質・能力を育てる学習指導案の構成、方法（担当：佐藤 洋一）						
第3回：「学習評価の充実」からの授業設計の向上、学習指導の改善（担当：佐藤 洋一）						
第4回：国語科授業と「社会に開かれた教育課程」の実現、その実践課題（担当：佐藤 洋一）						
第5回：実践研究の現在と課題：個別最適な学び・協働的な学び等（担当：佐藤 洋一）						
第6回：実践研究の現在と課題：探究学習、カリキュラム・マネジメント等（担当：佐藤 洋一）						
第7回：教材研究（1）現代文・文学的な文章：登場人物の心情の読解（担当：広瀬 正浩）						
第8回：教材研究（2）現代文・文学的な文章：主題の発見（担当：広瀬 正浩）						
第9回：模擬授業（1）現代文・文学的な文章：教材への導入（担当：広瀬 正浩）						
第10回：模擬授業（2）現代文・文学的な文章：段落の果たす役割（担当：広瀬 正浩）						
第11回：模擬授業（3）現代文・文学的な文章：鑑賞と発展的学習（担当：広瀬 正浩）						
第12回：情報通信技術を用いた授業設計・学習評価における課題（担当：広瀬 正浩）						
第13回：高等学校の学習評価と大学入試「国語」との関連（担当：広瀬 正浩）						
第14回：国語科の背景となる学問領域と高大連携（担当：広瀬 正浩）						
第15回：まとめ／指導法の習得から発展的な学習へ（担当：広瀬 正浩）						
<b>定期試験</b>						
テキスト なし（毎回の授業でプリントを配付）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
浜本純逸『国語科教育総論』 溪水社 町田守弘編『実践国語科教育法』 学文社 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月）						
<b>学生に対する評価</b> 学習指導案作成 40%、授業中のプレゼンテーション 30%、小課題の到達度 30%						

授業科目名： 国語の指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 広瀬（豊永） 正浩、奥田 浩司 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 中学生・高校生に対する国語（論理的な文章）の指導法</p> <p>到達目標：中学校・高等学校の国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。さらに模擬授業を通じて、国語科教員としての実践力を高める。4年次の「教育実習」への準備を整える。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>2年次に履修した国語の指導法Ⅰ・Ⅱを踏まえながら、「教壇に立つ」という教育実践のための能力を養う。「論理的な文章」を対象とする、教えることを前提とした教材研究を通じて生徒に伝えるべきことを整理し、それをうまく伝達するために必要な経験を、模擬授業を通じて蓄積する。当該教科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できるようにする。そして、発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置づけを考察する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス／論理的な文章の特徴（担当：奥田 浩司）						
第2回：学習指導案の構成（指導観・系統性など）（担当：奥田 浩司）						
第3回：論理的な文章に関する教材研究の方法（担当：奥田 浩司）						
第4回：発問方法・評価方法（担当：奥田 浩司）						
第5回：思考の可視化、板書の方法（担当：奥田 浩司）						
第6回：論理的な文章に関する情報機器の利用法（担当：奥田 浩司）						
第7回：「話すこと・聞くこと」「書くこと」の個別的・協同的実践法（担当：奥田 浩司）						
第8回：論理的な文章の教材による高大連携について（担当：奥田 浩司）						
第9回：学生による模擬授業の実習・討議（1）教材への導入（担当：広瀬 正浩）						
第10回：学生による模擬授業の実習・討議（2）主題の発見（担当：広瀬 正浩）						
第11回：学生による模擬授業の実習・討議（3）段落の果たす役割（担当：広瀬 正浩）						
第12回：学生による模擬授業の実習・討議（4）対比構造の発見（担当：広瀬 正浩）						
第13回：学生による模擬授業の実習・討議（5）因果関係・置換関係の発見（担当：広瀬 正浩）						
第14回：学生による模擬授業の実習・討議（6）結論の理解と背景への理解（担当：広瀬 正浩）						
第15回：これまでの授業の振り返りと今後に向けて（担当：広瀬 正浩）						
<b>テキスト</b>						
授業開始後に指示する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）						
文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月）						
文部科学省『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月）						
<b>学生に対する評価</b>						
模擬授業の準備（学習指導案の作成）および実践内容70%、討議における発言や態度30%						

授業科目名： 国語の指導法IV	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 広瀬（豊永） 正浩、奥田 浩司 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 中学生・高校生に対する国語（文学的な文章）の指導法</p> <p>到達目標：中学校・高等学校の国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。さらに模擬授業を通じて、国語科教員としての実践力を高める。4年次の「教育実習」への準備を整える。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>2年次に履修した国語の指導法Ⅰ・Ⅱを踏まえながら、「教壇に立つ」という教育実践のための能力を養う。「文学的な文章」を対象とする、教えることを前提とした教材研究を通じて生徒に伝えるべきことを整理し、それをうまく伝達するために必要な経験を、模擬授業を通じて蓄積する。当該教科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できるようにする。そして、発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置づけを考察する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス／文学的な文章の特徴（担当：広瀬 正浩）						
第2回：学習指導案の構成（指導観・系統性など）（担当：広瀬 正浩）						
第3回：文学的な文章に関する教材研究の方法（担当：広瀬 正浩）						
第4回：発問方法・評価方法（担当：広瀬 正浩）						
第5回：思考の可視化、板書の方法（担当：広瀬 正浩）						
第6回：文学的な文章に関する情報機器の利用法（担当：広瀬 正浩）						
第7回：「話すこと・聞くこと」「書くこと」の個別的・協同的実践法（担当：広瀬 正浩）						
第8回：文学的な文章の教材による高大連携について（担当：広瀬 正浩）						
第9回：学生による模擬授業の実習・討議（1）教材への導入（担当：奥田 浩司）						
第10回：学生による模擬授業の実習・討議（2）語彙・文法・比喩表現（担当：奥田 浩司）						
第11回：学生による模擬授業の実習・討議（3）物語内容の把握（担当：奥田 浩司）						
第12回：学生による模擬授業の実習・討議（4）登場人物の心情の読解（担当：奥田 浩司）						
第13回：学生による模擬授業の実習・討議（5）主題の発見（担当：奥田 浩司）						
第14回：学生による模擬授業の実習・討議（6）鑑賞と発展的学習（担当：奥田 浩司）						
第15回：これまでの授業の振り返りと今後に向けて（担当：奥田 浩司）						
<b>テキスト</b>						
授業開始後に指示する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）						
文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月）						
文部科学省『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月）						
<b>学生に対する評価</b>						
模擬授業の準備（学習指導案の作成）および実践内容70%、討議における発言や態度30%						

授業科目名： 生涯学習概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大村 恵 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 生涯学習の基本概念と住民の学習課題を、歴史的視点、国際比較の視点、地域社会の視点から考える。 到達目標：生涯学習・社会教育の基本概念と住民の学習課題について、歴史的視点、国際比較の視点、地域の視点から考え、理解し、説明できるようになること。グループワークの実践を通して、学びあう学習の運営技能を身につけること。						
<b>授業の概要</b>						
(1)自治体・社会教育紹介ワールドカフェ、(2)グループワークによるテキスト学習、(3)地域社会教育企画案作成・検討、(4)ニュースに見る生涯学習の現代的課題を柱に授業を構成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：なぜ生涯学習を学ぶのか(1)生活史から考える						
第2回：なぜ生涯学習を学ぶのか(2)生活課題と学習課題						
第3回：自治体・社会教育紹介ワールドカフェ(1)資料の作成						
第4回：自治体・社会教育紹介ワールドカフェ(2)発表						
第5回：生涯学習の基礎的理解(1)生涯学習とは何か						
第6回：生涯学習の基礎的理解(2)日本における生涯学習						
第7回：生涯学習の基礎的理解(3)成人学習論						
第8回：社会教育の基礎的理解(1)社会教育とは何か						
第9回：社会教育の基礎的理解(2)社会教育の歴史						
第10回：社会教育の基礎的理解(3)社会教育の法と行政						
第11回：成人学習論の展開(1)日本の社会教育実践						
第12回：成人学習論の展開(2)生涯学習論と学習権宣言						
第13回：地域社会教育の展望(1)地域社会教育企画案の作成						
第14回：地域生涯学習の展望(2)ワールドカフェ						
第15回：学習のまとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 小林繁・平川景子・片岡了 (著)『生涯学習概論 改訂版』エイデル研究所。						
<b>参考書・参考資料等</b> 『月刊社会教育』旬報社。『社会教育』日本青年館。						
<b>学生に対する評価</b> 自治体・社会教育紹介 10%、地域社会教育企画案 10%、学習のまとめ(最終レポート)50%、毎回の授業に提出する課題 30%						

授業科目名： 生涯学習各論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：河野 明日香 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 生涯学習と地域社会教育 到達目標：社会教育は学校外の社会での教育を広く総称した言葉であり、また、社会教育に類似したものとして生涯学習という言葉が広まっている。そこで、この講義では、社会教育、特に地域社会教育と生涯学習、生涯学習の国際的動向についての全体的な理解をし、問題意識を深め、自ら課題探求をすることができる力を養うことを目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
授業では、社会教育と生涯学習の概念、地域での社会教育のさまざまな実践(子ども、青年、成人、高齢者、外国人などの社会教育)、社会教育・生涯学習の法制度、NPOなど市民の自発的な学習活動、社会教育の施設、職員、行政、諸外国における生涯学習や国際成人教育の動向など、社会教育・生涯学習にかかわる基本的なことがらについて講義を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション—現代社会における社会教育と生涯学習						
第2回：子どもの学校外教育と地域文化の継承						
第3回：障がい者と高齢者の学習						
第4回：成人女性の学習と男女共同参画社会—国際社会における女性、女性のNPO活動						
第5回：学校教育と社会教育の連携・協働						
第6回：個々の学習権と社会教育・生涯学習の法制度						
第7回：社会教育・生涯学習と「公共性」—公教育制度としての社会教育						
第8回：社会教育・生涯学習の施設と人々の学び—学習の拠点としての公民館、博物館、図書館①—地域社会における学びの拠点としての公民館						
第9回：社会教育・生涯学習の施設と人々の学び—学習の拠点としての公民館、博物館、図書館②—博物館と市民ボランティア						
第10回：社会教育・生涯学習の施設と人々の学び—学習の拠点としての公民館、博物館、図書館③—人々の「知る自由」を保障する図書館						
第11回：現代社会における社会的排除の問題と社会教育						
第12回：グローバル化する世界の社会教育・生涯学習						
第13回：世界の CLC(Community Learning Center)と人々の学び						
第14回：諸外国における社会教育・生涯学習						
第15回：まとめ—人生を通じた学びとは						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 指定しない。授業時に資料を配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 末本誠・松田武雄編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社、2010年						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度 30%、期末テスト 70% 計 100%						

授業科目名： 学校体験活動 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清 葉子、森 和久、 山田 真紀			
担当形態：複数						
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校や教育関係施設におけるボランティア活動 I 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより、学校教育に関する実践力と洞察力を身につくことができる。						
<b>授業の概要</b>						
学校や学校に準ずる施設における、学生の主体的なボランティア参加を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。特に、名古屋市教育委員会の「教職インターンシップ」など、近隣の地方公共団体や教育委員会が主催する事業への参加を奨励する。単位認定の条件は、同一施設で年間 30 時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<授業の進め方>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一施設において年間 30 時間以上のボランティアを行うこと。</li> <li>・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」を Google Classroom に提出すること。</li> <li>・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の 2 点を期日までに Google Classroom に提出すること。</li> </ul>						

授業科目名： 学校体験活動Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清 葉子、森 和久、 山田 真紀			
担当形態：複数						
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校や教育関係施設におけるボランティア活動Ⅱ 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより、学校教育に関する実践力と洞察力を身につくことができる。						
<b>授業の概要</b>						
学校や学校に準ずる施設における、学生の主体的なボランティア参加を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。特に、名古屋市教育委員会の「教職インターンシップ」など、近隣の地方公共団体や教育委員会が主催する事業への参加を奨励する。単位認定の条件は、同一施設で年間30時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。 ※「学校体験活動Ⅱ」は「学校体験活動Ⅰ」を既に履修した学生が受講するものであり、「学校体験活動Ⅰ」の受講生に対し、指導的な役割を担うことが期待されている。2年生だから「学校体験活動Ⅱ」を受講するということではないので注意。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<授業の進め方>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一施設において年間30時間以上のボランティアを行うこと。</li> <li>・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」をGoogle Classroomに提出すること。</li> <li>・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の2点を期日までにGoogle Classroomに提出すること。</li> </ul>						

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 1 単位	担当教員名：松村 齋 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 社会福祉施設と特別支援学校における介護等体験</p> <p>到達目標：「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定により、平成 10 年度の入学者から小学校または中学校教諭の普通免許状を取得する場合、社会福祉施設と特別支援学校等において、障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の合計 7 日間の体験実習が義務付けられている。</p> <p>社会福祉施設と特別支援学校での体験を通じて、社会福祉事業や社会的弱者の生活障害の理解と、個人の尊厳や基本的人権、共生社会の認識とを深めることを到達目標とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>事前ガイダンス及び講習会を聴講し、実際に社会福祉施設や特別支援学校等で現場での体験実習を積むことで、施設等における取り組みを学生の視点で観察し、入所者等の生活実態のあり方を深く知ることから始まる。また、入所者と支援者との関係性や実践的な取り組みを肌で感じ、個人の尊厳や社会連帯の理念についての認識とを深めることが教員の資質として重要であり、義務教育の充実を期するものであると考えられており、教員養成カリキュラムの一部として開設している。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>4月～7月 数回の事前ガイダンス及び講習会            (講習会講師：相山女学園大学 教育学部 松村齋准教授 等)</p> <p>8月～1月 社会福祉施設 5日間と特別支援学校等 2日間の体験実習</p> <p>介護等体験についての詳細は、事前ガイダンスの際に説明する。</p> <p>体験を行う施設・学校については6月頃に教務課より発表する。</p>						
<b>テキスト</b>						
<p>『新・よくわかる社会福祉施設 教員免許志望者のためのガイドブック』(全国社会福祉協議会)            『介護等体験ガイドブック フィリア』(全国特殊学校長会)</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
講演会を含む事前ガイダンスへの出席 30%、体験への参加 50%、体験後のレポート提出 20%						

授業科目名： 道徳の理論及び 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：生澤 繁樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		

#### 授業のテーマ及び到達目標

テーマ： 道徳教育を原理的かつ実践的に考えなおす

#### 到達目標：

- ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解している。
- ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解している。

#### 授業の概要

学校でおこなう道徳授業には、いったいどのような意味があるのか。学校や家庭や社会において道徳教育はいかなる役割をもち、どのように必要で、さらにそれをめぐってどのような教育課題・問題が生じているのだろうか。この授業では、道徳の原理についての理解を深めながら、自分自身のあり方や生き方を見つめなおし、主体的かつ自律的に行動し、他者とともに人間としてよりよく生きるために必要な道徳性を育んでいく道徳教育や道徳授業の今日的かつ具体的な課題について詳しく検討する。

具体的には、道徳教育の基礎理論や歴史、学校教育全体をとおしておこなう道徳教育とその教育の要となる道徳科の目標や内容、指導計画等についての理解を踏まえて、道徳の授業資料・実践例を分析的に読み解きながら、授業運営にあたって必要な知見や観点を手にいれ、教材研究や授業実践への構想力、実践的な指導力を身につけるための思考力や判断力を高めていく。社会では道徳やモラルの必要性を高く唱える心情主義的な議論が目立つ一方で、これまで学校で営まれる日々の道徳授業にはどこかよそよそしさが感じられ、違和感を抱かれることも少なくなかった。道徳教育のおかれる複雑な立ち位置や必要性をよく理解したうえで、私たちは道徳の授業をどう構想し実践すればよいのだろうか。本授業では、道徳教育・授業の研究蓄積を手がかりとしながら、それらをじっくり検討し、批判的かつ建設的・創造的にデザインしなおしていくための材料・道具立てをいろいろと提供してみたい。

#### 授業計画

第1回：イントロダクション—道徳教育の理論と指導について考える

第2回：道徳教育とは何か—道徳を教育するとはどういうことか？

第3回：道徳教育と心理学—子どもの心の成長と発達段階を踏まえて

第4回：道徳教育の歴史—戦前・戦中ににおける教育勅語と修身科

第5回：学習指導要領における道徳教育—「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へ

第6回：道徳教育の方法—道徳科の目標と内容を踏まえた指導方法の多様性

第7回：道徳教育における内容項目と教材—さまざまな価値の葛藤とともに考える

第8回：道徳科の授業と学習指導案の作成—授業の設計と実践に向けて

第9回：模擬授業と授業改善への視点—授業のねらいと指導過程を振り返る

第10回：道徳科における評価—何をどう評価するか？

第11回：道徳教育と子どもの問題—規範意識と子どもの荒れ・問題行動を再考する

第12回：シティズンシップ教育と道徳教育—「善良な市民」から「能動的な市民」へ？

第13回：現代的な課題と道徳教育—答えが定まっていない問題を教える・学ぶとは？

第14回：対話への道徳教育—「考え、議論する」道徳であるために

第15回：まとめと課題—これからの道徳教育を考えつづけていくために

定期試験

**テキスト**

荒木寿友・藤井基貴編『道徳教育』ミネルヴァ書房、2019年

**参考書・参考資料等**

貝塚茂樹・関根明伸編『道徳教育を学ぶための重要項目100』教育出版、2016年

松下良平編『道徳教育論 改訂版』一藝社、2021年

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か——「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011年  
その他の参考文献・資料については授業のなかで適宜紹介する。なお、学習指導要領に関しては、各自入手しておくこと。

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月 文部科学省）

**学生に対する評価**

期末レポート（40%）

リアクション・ペーパー（30%）

学習指導案作成・模擬授業の準備等を含む授業外の課題への取り組み（30%）

授業科目名： 国語（書写を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 洋一、庄田 昭人					
担当形態：オムニバス								
科 目	大学が独自に設定する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等								
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>								
テーマ： 全ての資質・能力の基盤としての「国語」研究/書写 到達目標：国語科の背景となっている作品・言語・表現等の構造や原理・方略について理解する。また、書写に関する基本的な諸知識を習得する。								
<b>授業の概要</b>								
学習指導要領「国語科」で育成を目指す資質・能力は、背景となる「専門的な学問分野」（作品や表現・言語の構造の理解や考察）と関連させて理解を深めることが重視されている。作品や表現の原理・構造を踏まえた的確な教材研究と授業デザインによって、学習者の「主体的・対話的で深い学び」につながる学習や評価、個に応じた指導・支援等を構成することができるからである。講義では絵本、詩歌、古典、隨筆、伝記、伝承物語、論説・評論、鑑賞・批評、語彙等を取り上げ検討する（佐藤）。 国語教材の書写では、字形の違いを比較検討させながら、毛筆・硬筆による文字の組み立て方を学習する。さらに書体の変遷を知ることにより、どのように字形が変化して来たかを理解させる。また、用具の使い方・書写姿勢・筆の持ち方にも注意させ、正しく整えて書くには、どんなことが必要であるかを考えさせる。用筆法・結構法についての講義を通じて、文字の細部まで確かめながら丁寧に書くことを心がけることを身につけさせる。加えて、より知識を高めるために部首の名称や筆順についても指導する（庄田）。								
<b>授業計画</b>								
第1回：「国語」の教科内容の専門性と国語科教育法、資質・能力育成の位置と課題 (担当：佐藤 洋一)								
第2回：絵本で育てる想像力と自由な精神（絵本リテラシーと現代人・現代社会） (担当：佐藤 洋一)								
第3回：子どもの詩・少年詩・大人（詩人）の詩（詩歌というテクスト形式） (担当：佐藤 洋一)								
第4回：ファンタジーは妄想か現実逃避か（千尋・アリスたちの生きるための戦略とは） (担当：佐藤 洋一)								
第5回：伝記・評伝という真実を描くテクスト形式（アンパンマンの勇気、伊能忠敬） (担当：佐藤 洋一)								
第6回：伝承物語という民族の叡智（グリム童話、昔話・民話、神話と歴史・伝統） (担当：佐藤 洋一)								
第7回：AI時代の語彙力と読解力（漢字・ひらがな、諺・慣用句・故事成語を例に） (担当：佐藤 洋一)								
第8回：隨筆（エッセイ）が描き出す時代と一人一人の物語（向田邦子、ゆでたまご、手袋） (担当：佐藤 洋一)								
第9回：かぐや姫はなぜ美しいのか？春はあけぼの？（「竹取物語」「枕草子」「源氏物語」） (担当：佐藤 洋一)								
第10回：説明・論説（議論）とクリティカルシンキング（対話と論理、態度と価値観） (担当：佐藤 洋一)								
第11回：論文、鑑賞・批評をなぜ書くのか（アカデミックライティングと創造性） (担当：佐藤 洋一)								

第12回：近現代小説を読み解く学習方略（描写と語り・構造、「世界」と向き合う力）

（担当：佐藤 洋一）

第13回：書写(1)文字の変遷から、正しく、美しく、早く書くことの大切さとは（担当：庄田 昭人）

第14回：書写(2)文字バランスのとり方、姿勢・筆の持ち方について（担当：庄田 昭人）

第15回：書写(3)筆記用具の使い方、文字知識について（担当：庄田 昭人）

#### 定期試験

##### テキスト

小学校国語科の教科書『国語六創造』（653円）、中学校国語科の教科書『国語2』（802円）とともに光村図書。その他、高校国語科教科書教材や論説・批評、文学作品等、随時プリントを配付する。

##### 参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（東洋館出版社318円）、同『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（東洋館出版社638円）。その他、随時授業にて指示する。

##### 学生に対する評価

1～12回。振り返りシート・最終課題レポート75%（理解度・論述力・着眼点・創造性等を評価する）、討論等25%（議論し広げ深める力、課題発見・探究能力を評価する）

13～15回。書写の提出作品70%（毛筆・硬筆それぞれの課題に応じた技術を評価する）、授業へ取り組む姿勢（添削指導への積極的参加）30%

授業科目名： 日本語教材・ 教具研究A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 様々な日本語教科書の特徴を知る。 到達目標：様々な日本語教科書の特徴を知る。 『できる日本語』を使用した授業をするための基礎的な知識を身につける。 身の回りで使用されている日本語に目を向けることにより、学習者にとって必要な日本語は何かを考える。						
<b>授業の概要</b>						
初級日本語の総合教科書である『できる日本語』をはじめとする様々な日本語教科書を分析することにより、語学教材の特徴を知る。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：コースデザインにおける教科書分析について知る						
第3回：教科書分析の観点を知る						
第4回：『できる日本語』を知る 全体像を知る						
第5回：『できる日本語』を知る 1課の構成を知る						
第6回：『できる日本語』を知る 使い方を知る						
第7回：『できる日本語』語彙リストの共有						
第8回：『みんなの日本語』を知る 全体像を知る、1課の構成を知る						
第9回：『みんなの日本語』を知る 使い方を知る						
第10回：『できる日本語』と『みんなの日本語』を比較する						
第11回：教科書分析						
第12回：教科書分析結果の共有						
第13回：漢字使用状況報告書の共有						
第14回：漢字使用状況報告書の活用(1) 教科書案を考える						
第15回：漢字使用状況報告書の活用(2) 教科書案の共有						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b>						
国際交流基金(2008)『日本語教授法シリーズ12 教材開発』ひつじ書房						
<b>学生に対する評価</b>						
『できる日本語』語彙リスト 25%、教科書分析シート 25%、漢字使用状況調査 20%、 漢字学習教材案 20%、授業態度（聞く態度、発言、コメントシート等） 10%						

授業科目名： 日本語教材・ 教具研究B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語教材教具の使用方法を考える 到達目標：教科書や教具についての知識を得る。 「やさしい日本語」についての知識を得る。 「やさしい日本語」の知識を活用し、日本語非母語話者のための資料を作成する。						
<b>授業の概要</b> 「わかりやすく日本語を伝える」ことについて様々なアプローチをし、「わかりやすい」とは何かを考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：教具の種類と使用方法について考える(1) 教育用教材について						
第3回：教具の種類と使用方法について考える(2) レアリアについて						
第4回：教科書分析						
第5回：教科書分析結果の共有						
第6回：「やさしい日本語」とは						
第7回：レアリアを使った授業の教案の共有						
第8回：やさしい日本語を作る方法を知る						
第9回：やさしい日本語練習(1) 短文の書き換え						
第10回：やさしい日本語練習(2) ニュースの書き換え、教科書のリライト						
第11回：やさしい日本語新聞作成作業(1) テーマ決定						
第12回：やさしい日本語新聞作成作業(2) 作成作業						
第13回：やさしい日本語新聞作成作業(3) 中間発表・意見交換						
第14回：やさしい日本語新聞作成作業(4) 意見交換を反映させた内容検討						
第15回：やさしい日本語新聞の共有						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b> 国際交流基金(2008)『日本語教授法シリーズ14 教材開発』ひつじ書房						
<b>学生に対する評価</b> 教科書分析シート 25%、レアリア教案 25%、やさしい日本語新聞 40%、授業態度 10%						

授業科目名： 日本語教育方法論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語教育における「文型」「文法」に関する基礎的な知識の整理 到達目標：日本語教育における「文型」「文法」に関する基礎的な知識を身につける。 日本語教育教材での「文型」「文法」の学習内容・学習方法を知る。						
<b>授業の概要</b>						
日本語に関する基礎的な知識について、日本語教育現場と関連付けながら学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：国語教育と日本語教育について考える						
第3回：動詞の呼称と分類						
第4回：動詞の活用						
第5回：動詞の活用と文型						
第6回：形容詞の分類と活用						
第7回：形容詞の使い方						
第8回：まとめ						
第9回：普通形を知る						
第10回：日本語の基本文型と格助詞について						
第11回：助詞「で」の分類						
第12回：助詞「に」の分類						
第13回：助詞「は」						
第14回：助詞「は」と「が」の使い分けについて知る						
第15回：助詞「よ」「ね」						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b>						
丸山敬介(1994)『教えるためのことばの整理』 Vol.1,2 凡人社						
<b>学生に対する評価</b>						
試験(筆記試験) 60%、事前課題 30%、授業態度(発言、コメントシート等) 10%						

授業科目名： 日本語教育方法論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語教育における「文型」「文法」に関する基礎的な知識の整理 到達目標：日本語教育における「文型」「文法」に関する基礎的な知識を身につける。 日本語教育教材での「文型」「文法」の学習内容・学習方法を知る。						
<b>授業の概要</b>						
日本語学習者が混乱しやすい初級文型を分析し、学習者への適切な説明方法を考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、前提知識の整理						
第2回：自動詞と他動詞(1) 自他の区別						
第3回：自動詞と他動詞(2) 自他の対応による分類						
第4回：「ている」と「てある」(1) 「ている」の用法						
第5回：「ている」と「てある」(2) 「てある」の用法						
第6回：「ている」と「てある」(3) 「ている」と「てある」のまとめ						
第7回：金田一の動詞分類						
第8回：まとめ						
第9回：受身(1) 受身文の分類						
第10回：受身(2) 受身文の使い方						
第11回：使役・使役受身(1) 使役文の分類						
第12回：使役・使役受身(2) 受身、使役、使役受身						
第13回：授受表現(1) 物の「あげる」「もらう」「くれる」						
第14回：授受表現(2) 恩恵(動作)の「あげる」「もらう」「くれる」						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b>						
丸山敬介(1994)『教えるためのことばの整理』 Vol.1,2 凡人社						
<b>学生に対する評価</b>						
試験(筆記試験) 60%、事前課題 30%、授業態度(発言、コメントシート等) 10%						

授業科目名： 日本語教育実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本語の授業を実践するための基礎的な知識を得る(外国語教授法、文型分析、授業の方法) 到達目標：外国語教授法の変遷を知ることにより、現在の日本語教育現場で採用されている授業方法に関する基礎的な知識を得る。 初級日本語文型を教えるために必要な準備と教案作成を体験する。						
<b>授業の概要</b> 大学や日本語学校でどのように日本語を教えてているかを知り、その知識をもとに教案を作成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：外国語教授法(1) 教授法の変遷を知る						
第3回：外国語教授法(2) オーディオリンガルアプローチ						
第4回：外国語教授法(3) コミュニカティブアプローチ						
第5回：外国語教授法(4) 内容重視の語学学習						
第6回：日本語授業の動画視聴レポートの共有						
第7回：文型シラバス教科書に基づく初級授業の流れを知る						
第8回：文型分析(1) 分析内容の共有						
第8回：文型分析(1) 分析結果から教案を作成する						
第10回：文型分析(2) 分析内容の共有						
第11回：文型分析(2) 分析結果から教案を作成する						
第12回：文型分析(3) 分析内容の共有						
第13回：文型分析(3) 分析結果から教案を作成する						
第14回：技能別の授業の流れを知る(読解、聴解)						
第15回：中級の授業の流れを知る						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b>						
国際交流基金(2007)『日本語教授法シリーズ9 初級を教える』ひつじ書房 庵功雄ほか(2000)『初歩を教えるための日本語文法ハンドブック』						
<b>学生に対する評価</b>						
動画視聴レポート 30%、教案 60%(20%×3回)、授業態度(発言、コメントシート等) 10%						

授業科目名： 日本語教授法演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 日本語授業の実践(模擬授業の実施) 到達目標：言語教育実践のための知識と技能を身につける。 自律的な言語教育者としての態度を身につける。						
<b>授業の概要</b> グループで模擬授業(学生同士で学習者役と教師役になる授業)を行う。授業準備と実践を通して、言語教育者として必要な知識と技能とは何かを考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：模擬授業① 準備(1) 教材分析 第3回：模擬授業① 準備(2) 文型分析 第4回：模擬授業① 準備(3) 授業の流れを考える 第5回：模擬授業① 授業実践 第6回：模擬授業① 実践についての意見交換 第7回：模擬授業① 教案の練り直し 第8回：模擬授業② 教具の作成 第9回：模擬授業② 授業実践・意見交換(1)「できる日本語」第2課 第10回：模擬授業② 授業実践・意見交換(2)「できる日本語」第3課 第11回：模擬授業② 授業実践・意見交換(3)「できる日本語」第4課 第12回：模擬授業② 授業実践・意見交換(4)「できる日本語」第5課 第13回：模擬授業② 授業実践・意見交換(5)「できる日本語」第6課 第14回：模擬授業② 授業実践・意見交換(6)「できる日本語」第7課 第15回：模擬授業② 振り返り <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b> 国際交流基金(2006)『日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割/コースデザイン』ひつじ書房 国際交流基金(2007)『日本語教授法シリーズ9 初級を教える』ひつじ書房						
<b>学生に対する評価</b> 模擬授業(教材分析、文型分析、教案作成、実践評価) 60%、期末レポート 40%						

授業科目名： 日本語教員教育実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：小原 亜紀子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 日本語授業の実践(実習) 到達目標：言語教育実践のための知識と技能を身につける。 自律的な言語教育者としての態度を身につける。						
<b>授業の概要</b> 「グループで実習(日本語学習者を対象に実践する授業)を行う。授業準備と実践を通して、言語教育者として必要な知識と技能とは何かを考える。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：実習準備(1) 教案作成 第3回：実習準備(2) 模擬授業実践 第4回：実習準備(3) 模擬授業実践についての意見交換 第5回：実習準備(4) 教案の練り直し 第6回：実習準備(5) 教具の作成 第7回：実習(1) 実践・意見交換 「できる日本語」第8課 第8回：実習(2) 実践・意見交換 「できる日本語」第9課 第9回：実習(3) 実践・意見交換 「できる日本語」第10課 第10回：実習(4) 実践・意見交換 「できる日本語」第11課 第11回：実習(5) 実践・意見交換 「できる日本語」第12課 第12回：実習(6) 実践・意見交換 「できる日本語」第13課 第13回：実習(7) 実践・意見交換 「できる日本語」第14課 第14回：実習(8) 実践・意見交換 「できる日本語」第15課 第15回：振り返り <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初級本冊』アルク						
<b>参考書・参考資料等</b> 国際交流基金(2006)『日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割/コースデザイン』ひつじ書房 国際交流基金(2007)『日本語教授法シリーズ9 初級を教える』ひつじ書房						
<b>学生に対する評価</b> 実習(教材分析、文型分析、教案作成、実践評価) 70%、期末レポート 30%						

授業科目名： ふれあい実習 I (観察)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 伊藤 博美、古市 直樹、 松村 齋、森 和久			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 教育学部での学び入門 到達目標：保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校における観察実習での経験をもとに討論することにより、保育士や教員として働くことの意義を理解し、実習参加の基礎的技能と、保育・教授場面に対する洞察力を高める。						
<b>授業の概要</b>						
今後4年間の学習を効果的に進めるための基礎的技能を修得する。少人数のゼミナール形式の授業で、(1)大学での主体的な学びの進め方を修得するとともに、(2)相山女学園大学の併設校及び附属学校園(幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校)において、学校の諸活動や授業の見学を行う「観察実習」を4回実施し、その経験をもとに討議することにより、効果的な実習への関わり、すなわち保育・教授場面に対する洞察力、課題発見能力、改善のための目標設定、改善のための方法に対する創造力を高めることを目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：クラス活動(交流遠足)						
第3回：大学での学び方、研究倫理について・図書館ツアー						
第4回：実習ガイダンス						
第5回：観察実習「附属園(幼稚園・保育園・こども園)」						
第6回：附属園での実習レポートに基づく討論						
第7回：観察実習「小学校」						
第8回：小学校での実習レポートに基づく討論						
第9回：観察実習「中学校」						
第10回：中学校での実習レポートに基づく討論						
第11回：観察実習「高等学校」						
第12回：高等学校での実習レポートに基づく討論						
第13回：受講生による「学んだこと」発表会[1](学籍番号順で前半の学生による発表)						
第14回：受講生による「学んだこと」発表会[2](学籍番号順で後半の学生による発表)						
第15回：授業のまとめ						
<b>テキスト</b> 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する						
<b>学生に対する評価</b>						
授業・討論・発表への参加態度(40%)、実習への取り組み(20%)、「実習レポート」の内容(20%)、「最終レポート」の内容(20%)をもとに、担当教員が総合的に評価を行う。						

授業科目名： ふれあい実習Ⅱ (参加)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山田 真紀 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 実際に子どもたちとふれあう実習やボランティアを行う前の基礎学習</p> <p>到達目標：学校や保育所など教育施設・福祉施設においてボランティアとして活動するうえで、必要な知識・技能・マナーを身につける。また、実際にボランティア活動に従事し、そこでの経験をレポートにまとめ、発表することにより、学びを定着させるとともに、それを受講生と共有する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>「ふれあい実習Ⅰ(観察)」では教育や保育の実践の場を「観察」し、それをふまえて、「ふれあい実習Ⅱ(参加)」では、ボランティアという立場でこれらの場に「参加」する。</p> <p>この授業では、ボランティア活動をするうえで、必要な知識・技能・マナーを伝達する。さらに、将来の職業生活の参考になりうる、良質なボランティア先を紹介する。学生はボランティア活動をし、そこでの経験をレポートにまとめ、発表することで、ボランティアで学んだことを共有化、定着化させる。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：授業ガイダンス</p> <p>第2回：ボランティア概論① ボランティアとして現場に入る意義・意味について。提出書類ガイダンス(記録の取り方、最終レポートの書き方など)</p> <p>第3回：ボランティア概論② ボランティアに必要な知識と技能(学校関係編)</p> <p>第4回：ボランティア概論③ ボランティアに必要な知識と技能(保育所・幼稚園編)</p> <p>第5回：ボランティア概論④ ボランティアに必要なマナー・心構えについて</p> <p>第6回：ゲストスピーカー① ボランティア学生に望むこと(夏休みキャンプ編)</p> <p>第7回：ゲストスピーカー② ボランティア学生に望むこと(児童福祉施設編)</p> <p>第8回：ボランティア先紹介① 学校関係編(先輩の体験談を含む)</p> <p>第9回：ボランティア先紹介② 保育所・幼稚園編(先輩の体験談を含む)</p> <p>第10回：ボランティア先別懇談会① 役割と工夫について</p> <p>第11回：ボランティア先別懇談会② 困難点とその克服について</p> <p>第12回：(後期)活動報告会① 夏休みキャンプ編</p> <p>第13回：(後期)活動報告会② 学校関係ボランティア編</p> <p>第14回：(後期)活動報告会③ 保育所・幼稚園編</p> <p>第15回：(後期)活動報告会④ その他のボランティア先編</p>						
<b>テキスト</b>						
指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業内で紹介する						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業に参加すること。</li> <li>・(原則として)授業内で紹介するボランティア活動に従事すること。 (最低必要時間はボランティア先により異なる。担当教員に確認すること)</li> <li>・ボランティア活動を開始する前に、「ボランティア活動登録書」をGoogle Classroomに提出すること。</li> <li>・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の2点を期日までにGoogle Classroomに提出すること。</li> </ul>						

授業科目名： 学校体験活動 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 磯村 正樹、清 葉子、 森 和久、山田 真紀			
担当形態：複数						
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校や教育関係施設におけるボランティア活動 I 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより、学校教育に関する実践力と洞察力を身につくことができる。						
<b>授業の概要</b>						
学校や学校に準ずる施設における、学生の主体的なボランティア参加を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。特に、名古屋市教育委員会の「教職インターンシップ」など、近隣の地方公共団体や教育委員会が主催する事業への参加を奨励する。単位認定の条件は、同一施設で年間 30 時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<授業の進め方>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一施設において年間 30 時間以上のボランティアを行うこと。</li> <li>・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」を Google Classroom に提出すること。</li> <li>・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の 2 点を期日までに Google Classroom に提出すること。</li> </ul>						

授業科目名： 学校体験活動Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 磯村 正樹、清 葉子、 森 和久、山田 真紀			
担当形態：複数						
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校や教育関係施設におけるボランティア活動Ⅱ 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより、学校教育に関する実践力と洞察力を身につくことができる。						
<b>授業の概要</b>						
学校や学校に準ずる施設における、学生の主体的なボランティア参加を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。特に、名古屋市教育委員会の「教職インターンシップ」など、近隣の地方公共団体や教育委員会が主催する事業への参加を奨励する。単位認定の条件は、同一施設で年間30時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。 ※「学校体験活動Ⅱ」は「学校体験活動Ⅰ」を既に履修した学生が受講するものであり、「学校体験活動Ⅰ」の受講生に対し、指導的な役割を担うことが期待されている。2年生だから「学校体験活動Ⅱ」を受講するということではないので注意。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<授業の進め方>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一施設において年間30時間以上のボランティアを行うこと。</li> <li>・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」をGoogle Classroomに提出すること。</li> <li>・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の2点を期日までにGoogle Classroomに提出すること。</li> </ul>						

授業科目名： 福祉ボランティア I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 磯村 正樹、清 葉子			
			担当形態：複数			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ボランティア活動(幼稚園・保育所・こども用福祉施設等) I 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより実践力と洞察力を身につける。						
<b>授業の概要</b> 社会福祉領域での学生の主体的なボランティア活動を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。社会福祉領域でのボランティア活動としては、発達障害などの支援ボランティア団体におけるボランティア、個別の社会福祉施設での支援活動、病院などの公共施設で募集するボランティア活動などが考えられる。単位認定の基準は、同一施設で年間 30 時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」「ボランティア活動証明書」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<b>&lt;授業の進め方&gt;</b>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
(提出物の提出状況：10%， 記録の内容：40%， レポートの内容：50%) ・同一施設において年間 30 時間以上のボランティアを行うこと。 ・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」を Google Classroom に提出すること。 ・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の 2 点を期日までに Google Classroom に提出すること						

授業科目名： 福祉ボランティアⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 磯村 正樹、清 葉子			
			担当形態：複数			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ボランティア活動(幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等)Ⅱ 到達目標：ボランティアを通して社会経験を積むことにより実践力と洞察力を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
社会福祉領域での学生の主体的なボランティア活動を奨励し、基準を満たした活動に対して単位を与える。社会福祉領域でのボランティア活動としては、発達障害などの支援ボランティア団体におけるボランティア、個別の社会福祉施設での支援活動、病院などの公共施設で募集するボランティア活動などが考えられる。単位認定の基準は、同一施設で年間30時間以上のボランティア活動に従事し、「ボランティア活動登録書」「ボランティア活動記録」「ボランティア活動証明書」を期日までに提出し、最終レポートを作成することである。						
<b>授業計画</b>						
<授業の構成>						
1. 全体ガイダンス 2. ボランティア先別ガイダンス 3. 書類提出(ボランティア活動登録書) 4. ボランティア活動の実施(ボランティア活動記録の作成) 5. 最終レポートの提出						
<授業の進め方>						
学外授業(実習)。必要に応じて巡回指導を行う。						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> ガイダンス等で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<単位認定の条件>						
(提出物の提出状況：10%，記録の内容：40%，レポートの内容：50%) ・同一施設において年間30時間以上のボランティアを行うこと。 ・ボランティア活動開始する前に、「ボランティア活動登録書」をGoogle Classroomに提出すること。 ・ボランティアを終了したら、「ボランティア活動記録」「最終レポート」の2点を期日までにGoogle Classroomに提出すること						

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹羽 健太郎、松村 齋 担当形態：複数			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 社会福祉施設と特別支援学校における介護等体験</p> <p>到達目標：「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定により、平成 10 年度の入学者から小学校または中学校教諭の普通免許状を取得する場合、社会福祉施設と特別支援学校等において、障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の合計 7 日間の体験実習が義務付けられている。</p> <p>社会福祉施設と特別支援学校での体験を通じて、社会福祉事業や社会的弱者の生活障害の理解と、個人の尊厳や基本的人権、共生社会の認識とを深めることを到達目標とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>事前ガイダンス及び講習会を聴講し、実際に社会福祉施設や特別支援学校等で現場での体験実習を積むことで、施設等における取り組みを学生の視点で観察し、入所者等の生活実態のあり方を深く知ることから始まる。また、入所者と支援者との関係性や実践的な取り組みを肌で感じ、個人の尊厳や社会連帯の理念についての認識とを深めることが教員の資質として重要であり、義務教育の充実を期するものであると考えられており、教員養成カリキュラムの一部として開設している。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>4月～7月 数回の事前ガイダンス及び講習会            (講習会講師： 桜山女学園大学 教育学部 松村齋准教授 等)</p> <p>8月～1月 社会福祉施設 5 日間と特別支援学校等 2 日間の体験実習</p> <p>介護等体験についての詳細は、事前ガイダンスの際に説明する。</p> <p>体験を行う施設・学校については6月頃に教務課より発表する。</p>						
<b>テキスト</b>						
<p>『新・よくわかる社会福祉施設 教員免許志望者のためのガイドブック』(全国社会福祉協議会)            『介護等体験ガイドブック フィリア』(全国特殊学校長会)</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
講演会を含む事前ガイダンスへの出席 30%、体験への参加 50%、体験後のレポート提出 20%						

授業科目名： 教育統計	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：野崎 健太郎 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 教育学および周辺領域の実証研究に必要な統計の基礎と作図 到達目標：表計算ソフトウェアの Excel を用いて基礎的な統計処理を行い、その結果を用いて見やすい図表を作成する技術を修得する。						
<b>授業の概要</b> 表計算ソフトウェアの Excel を用いて基礎的な統計処理(平均・分散・相関・回帰・カイ二乗検定, t 検定、一元配置の分散分析等)を行い、その結果を用いて見やすい図表(円グラフ・棒グラフ・散布図等)を作成する技術を修得する。作図では見やすいマーカーの大きさ、目盛りの表し方等も説明する。授業は情報処理演習室で行う。						
<b>授業計画</b> 第1回：実証的研究における統計処理と図表の重要性、データベースの利用法 第2回：円グラフの作図 第3回：折れ線グラフの作図 第4回：棒グラフの作図 第5回：散布図と相関 第6回：散布図と一次回帰 第7回：相関係数・決定計数・危険率 第8回：カイ二乗検定-1(少数の比較) 第9回：カイ二乗検定-2(多数の比較) 第10回：平均値とばらつき 第11回：t 検定-1(対応なし) 第12回：t 検定-2(対応あり) 第13回：作図法の応用-1(MS-Word との対応) 第14回：作図法の応用-2(Excel との対応) 第15回：統計にだまされない						
<b>定期試験</b> テキスト 森棟公夫：教養 統計学，新世社，2012 年						
<b>参考書・参考資料等</b> アイリーン・マグネロほか：マンガ統計学入門.Blue Backs, 講談社, 2010 年 谷岡一郎：「社会調査」のウソ.文春新書, 文藝春秋, 2000 年 村上宣寛：IQ ってホントは何なんだ？日経 BP 社, 2007 年 村上宣寛：心理学で何がわかるか.ちくま新書, 筑摩書房, 2009 年						
<b>学生に対する評価</b> 原則として定期試験の得点で判定する。定期試験は、情報処理室で行い、時間内に課題として示された作図や統計計算を行ってもらう。この定期試験が 60 点以下の場合は単位を認めない。						

授業科目名： 模擬授業演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：森 和久 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 望ましい授業のあり方 到達目標：模擬授業を行うことを通して、主体的、対話的で深い学び、個別最適で協働的な学びが出来るような授業デザイン、発問・指示、ICT活用、評価の具体的な方法を知り、実践できるようにする。						
<b>授業の概要</b>						
主体的、対話的で深い学び、個別最適で協働的な学びが出来るような授業デザインの方法を学び、子どもたち主体の学びとするための教師の具体的な支援のあり方を模擬授業を通して学ぶ。また、主体的、対話的で深い学び、個別最適で協働的な学びを成立しやすくするツールとして、ICTを有効に活用する方法を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：主体的、対話的で深い学び、個別最適で協働的な学びのための授業デザイン						
第2回：基本的指導過程と発問指示のポイント						
第3回：一人1台タブレット端末の活用の実際						
第4回：模擬授業実践Ⅰ(1・2班の学生の導入段階の実践と討議)						
第5回：模擬授業実践Ⅰ(3・4班の学生の導入段階の実践と討議)						
第6回：模擬授業実践Ⅰ(5・6班の学生の導入段階の実践と討議)						
第7回：模擬授業実践Ⅰ(7・8班の学生の導入段階の実践と討議)						
第8回：模擬授業実践Ⅱ(1班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第9回：模擬授業実践Ⅱ(2班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第10回：模擬授業実践Ⅱ(3班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第11回：模擬授業実践Ⅱ(4班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第12回：模擬授業実践Ⅱ(5班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第13回：模擬授業実践Ⅱ(6班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第14回：模擬授業実践Ⅱ(7班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
第15回：模擬授業実践Ⅱ(8班の学生の1時間を通しての実践と討議)						
<b>テキスト</b> なし						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度や発言等 20%、実践Ⅰの内容 30%、実践Ⅱの内容 50%で評価し、60%以上で合格とする。						

授業科目名： 模擬授業演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：古市 直樹 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 基礎的な授業方法の修得 到達目標：基礎的な授業方法を修得すること。特にまず学習指導要領や教科書に基づいて授業を行えること。						
<b>授業の概要</b> 国語、社会、算数、理科の4教科において指導案を作成し、模擬授業を実施する。主に、①学習意欲の喚起、②めあての明確さ、③活動があること、④板書の適切さ、⑤めあてとまとめの整合性という5つを評価の観点とし、これらに基づいて模擬授業を振り返る。学習意欲の喚起のためには、教材研究等の準備が重要である。めあてを明確にし、活動を取り入れ、板書を適切に行うためには、指導計画をしっかりと立てるとともに子どもの活動の様子を見ながら臨機応変に対応する必要がある。また、机間指導やノート指導、発言へのコメントを的確に行うとともに、ICTを効果的に活用することも重要である。 模擬授業では、教師役と児童役、コメント役に分かれ、授業後に話し合いを行う。互いに意見を述べ合い、切磋琢磨することで基礎的な授業方法を修得させる。						
<b>授業計画</b> 第1回：黒板を使った授業の仕方のイメージをもつ。また、模擬授業の計画を立てる。 第2回：電子黒板やタブレット端末を使った授業の仕方のイメージをもつ。また、学習指導案作成方法を理解する。 第3回：ICT やデジタル教科書を使った授業の仕方のイメージをもつ。また、授業技術の定石を理解する。 第4回：模擬授業 I(1回目の授業の指導案検討) 第5回：模擬授業 I(1人 10 分、授業者 4 人、板書の仕方について) 第6回：模擬授業 I(1人 10 分、授業者 4 人、発問の仕方について) 第7回：模擬授業 I(1人 10 分、授業者 4 人、ICT 活用について) 第8回：模擬授業 I(1人 10 分、授業者 4 人、話し合いの仕方について) 第9回：模擬授業 I(1人 10 分、授業者 4 人、まとめ方について) 第10回：模擬授業 II(2回目の授業の指導案検討) 第11回：模擬授業 II(1人 10 分、授業者 4 人、一斉指導について) 第12回：模擬授業 II(1人 10 分、授業者 4 人、個別指導について) 第13回：模擬授業 II(1人 10 分、授業者 4 人、グループ指導について) 第14回：模擬授業 II(1人 10 分、授業者 4 人、机間指導について) 第15回：模擬授業 II(1人 10 分、授業者 4 人、チーム・ティーチングについて)						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 小学校の教科書(国語、算数、社会、理科)。各教科の指導法(国語、算数、社会、理科)で指定されている教科書があれば、その教科書を模擬授業演習でもそのまま利用する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加態度(30%)、授業改善ノート(30%)、期末テスト(40%)						

授業科目名： 道徳の理論及び 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：山田 真紀 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒 指導、教育相談等に関する科目		大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
テーマ： 将来、小・中学校教諭を目指す学生を対象とした道徳の指導法			
到達目標： ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解している。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解している。			
<b>授業の概要</b>			
道徳の指導法は、①道徳教育に関する基礎理論を学び、学習指導要領解説(道徳編)の内容を理解する、②道徳の授業例の紹介、③道徳の授業案の作成、の3つから構成される。授業のなかで受講生自身が道徳的価値・道徳的判断力・道徳的感受性を身につけるとともに、先達の理論や指導案を参考にしながら、それを小中学生に効果的に伝達していく方法について学ぶ。			
<b>授業計画</b>			
第1回：授業内容ガイダンス、ミニアクティビティ(漢字)			
第2回：班決定・自己紹介ゲーム、勉強の仕方ガイダンス			
第3回：モデル授業①(廃棄物ゲーム)			
第4回：モデル授業②(私の自慢)			
第5回：モデル授業③(違いの違い)			
第6回：モデル授業④(異文化体験ゲーム：バーンガ)			
第7回：教科書研究①読み物資料を使った道徳の授業の構成			
第8回：教科書研究②読み物資料を用いない道徳の授業の構成			
第9回：モラルジレンマ物語の作成			
第10回：モラルジレンマ物語の発表会およびコールバーグ理論			
第11回：学習指導要領解説(道徳編)を読む①			
第12回：学習指導要領解説(道徳編)を読む②+教員採用試験対策			
第13回：道徳と学級経営の有機的連携(カリキュラム・マネジメント)			
第14回：道徳と特別活動の有機的連携(八王子市立式分方小学校の事例)			
第15回：授業のまとめ、小テスト			
<b>定期試験</b>			
テキスト 「道徳 きみがいちばんひかるとき」4年生用(光村図書) 小学校・中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 小学校・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて授業内にて指示する。			
<b>学生に対する評価</b> 提出物(30%)・授業への参加態度(20%)・小テスト(20%)・最終レポート(30%)			

授業科目名： 道徳の理論及び 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：生澤 繁樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒 指導、教育相談等に関する科目	大学が独自に設定する科目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		

#### 授業のテーマ及び到達目標

テーマ： 道徳教育を原理的かつ実践的に考えなおす

#### 到達目標：

- ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解している。
- ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解している。

#### 授業の概要

学校でおこなう道徳授業には、いったいどのような意味があるのか。学校や家庭や社会において道徳教育はいかなる役割をもち、どのように必要で、さらにそれをめぐってどのような教育課題・問題が生じているのだろうか。この授業では、道徳の原理についての理解を深めながら、自分自身のあり方や生き方を見つめなおす、主体的かつ自律的に行動し、他者とともに人間としてよりよく生きるために必要な道徳性を育んでいく道徳教育や道徳授業の今日的かつ具体的な課題について詳しく検討する。

具体的には、道徳教育の基礎理論や歴史、学校教育全体をとおしておこなう道徳教育とその教育の要となる道徳科の目標や内容、指導計画等についての理解を踏まえて、道徳の授業資料・実践例を分析的に読み解きながら、授業運営にあたって必要な知見や観点を手にいれ、教材研究や授業実践への構想力、実践的な指導力を身につけるための思考力や判断力を高めていく。社会では道徳やモラルの必要性を高く唱える心情主義的な議論が目立つ一方で、これまで学校で営まれる日々の道徳授業にはどこかよそよそしさが感じられ、違和感を抱かれることも少なくなかった。道徳教育のおかれる複雑な立ち位置や必要性をよく理解したうえで、私たちは道徳の授業をどう構想し実践すればよいのだろうか。本授業では、道徳教育・授業の研究蓄積を手がかりとしながら、それらをじっくり検討し、批判的かつ建設的・創造的にデザインしなおしていくための材料・道具立てをいろいろと提供してみたい。

#### 授業計画

第1回：イントロダクション—道徳教育の理論と指導について考える

第2回：道徳教育とは何か—道徳を教育するとはどういうことか？

第3回：道徳教育と心理学—子どもの心の成長と発達段階を踏まえて

第4回：道徳教育の歴史—戦前・戦中における教育勅語と修身科

第5回：学習指導要領における道徳教育—「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へ

第6回：道徳教育の方法—道徳科の目標と内容を踏まえた指導方法の多様性

第7回：道徳教育における内容項目と教材—さまざまな価値の葛藤とともに考える

第8回：道徳科の授業と学習指導案の作成—授業の設計と実践に向けて

第9回：模擬授業と授業改善への視点—授業のねらいと指導過程を振り返る

第10回：道徳科における評価—何をどう評価するか？

第11回：道徳教育と子どもの問題—規範意識と子どもの荒れ・問題行動を再考する

第12回：シティズンシップ教育と道徳教育—「善良な市民」から「能動的な市民」へ？

第13回：現代的な課題と道徳教育—答えが定まっていない問題を教える・学ぶとは？

第14回：対話への道徳教育—「考え、議論する」道徳であるために

第15回：まとめと課題—これから道徳教育を考えつづけていくために

#### 定期試験

**テキスト**

荒木寿友・藤井基貴編『道徳教育』ミネルヴァ書房、2019年

**参考書・参考資料等**

貝塚茂樹・関根明伸編『道徳教育を学ぶための重要項目100』教育出版、2016年

松下良平編『道徳教育論 改訂版』一藝社、2021年

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か——「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011年  
その他の参考文献・資料については授業のなかで適宜紹介する。なお、学習指導要領に関しては、各自入手しておくこと。

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月 文部科学省）

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月 文部科学省）

**学生に対する評価**

期末レポート（40%）

リアクション・ペーパー（30%）

学習指導案作成・模擬授業の準備等を含む授業外の課題への取り組み（30%）

授業科目名： 道徳の理論及び 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：藤井 基貴 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒 指導、教育相談等に関する科目		大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
テーマ： 道徳教育を原理的かつ実践的に考える			
到達目標： ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解している。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解している。			
<b>授業の概要</b>			
道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通じて、実践的な指導力を身に付ける。			
<b>授業計画</b>			
第1回：オリエンテーション —講義の説明・「道徳」および「道徳教育」とは—			
第2回：道徳教育の歴史① —戦前の道徳教育・読み物資料の検討Ⅰ—			
第3回：道徳教育の歴史② —戦後の道徳教育・読み物資料の検討Ⅱ—			
第4回：道徳教育の歴史③ —学習指導要領の変遷・視聴覚教材の検討—			
第5回：道徳教育の実践① —授業実践VTRの検討Ⅰ・指導案の作成—			
第6回：道徳教育の理論① —コールバーグの理論・モラルジレンマ教材Ⅰ—			
第7回：道徳教育の理論② —ポスト・コールバーグの理論・モラルジレンマ教材Ⅱ—			
第8回：道徳教育の理論③ —価値の明確化・キャリア教育の教材—			
第9回：道徳教育の実践② — 授業実践VTRの検討Ⅱ—			
第10回：道徳教育の新たな視点① —現代的な課題を取り上げた道徳授業—			
第11回：道徳教育の新たな視点② —ICT教材を活用した道徳授業—			
第12回：教材の開発 —ペアでの教材研究と指導助言—			
第13回：授業検討会① —研究した教材による模擬授業等—			
第14回：授業検討会② —開発した教材による模擬授業等—			
第15回：道徳教育の指導計画と教育評価			
<b>定期試験</b>			
<b>テキスト</b>			
小学校及び中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
小学校及び中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に適宜資料を配付する。			
<b>学生に対する評価</b>			
定期試験50%、レポート30%、授業課題20%			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：玉木 満 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 日本国憲法の基本を学ぶ 到達目標：（1）日本国憲法で保障された自由・権利の意義を理解し、日本国憲法に定められた政治のルールや国家の仕組みを把握できる。（2）（1）の自由や権利、政治のルールや国家の仕組みに関する学説や判例を整理・紹介でき、そこでの争点を指摘できる。（3）各種国家試験で出題される日本国憲法に関する問題のうち、基本的なものを解くことができる。						
<b>授業の概要</b>						
憲法は、私たち一人ひとりが社会の中で相互に尊重されながら個人として生きていくために必要な自由・権利、そしてそれらが脅かされないようにするための政治のルールと国家の仕組みについて定めた原理であり、歴史の中で獲得されてきた成果です。この授業では、身近な話題や社会問題を手がかりにし、判例や学説を紹介して日本国憲法の基本を解説します。また、登場する焦点や争点についての検討を行い、受講生にも考えてもらうことをねらいとします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：憲法とは何か——なぜ憲法を学ぶか						
第2回：日本国憲法の成立						
第3回：人権総論と幸福追求権						
第4回：法の下の平等						
第5回：思想・良心の自由						
第6回：信教の自由と政教分離						
第7回：表現の自由						
第8回：経済的自由						
第9回：社会権——生存権を中心						
第10回：人身の自由と刑事手続						
第11回：平和主義と憲法 9 条						
第12回：国会						
第13回：内閣・財政						
第14回：地方自治						
第15回：裁判所と違憲審査制						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
中村睦男ほか編『はじめての憲法学』(三省堂、第4版、2021年)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
本秀紀編『憲法講義』(日本評論社、第3版、2022年)／ISBN：978-4535525634						
斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、第2版、2021年)／ISBN：978-4335358968						
上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例 50!』(有斐閣、第2版、2020年)／ISBN：978-4641227866						
斎藤一久・城野一憲編『教職のための憲法』(ミネルヴァ書房、2020年)／ISBN：978-4623089352						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験 (70%) + 小課題・小テスト・リアクションペーパー (30%)。						

授業科目名： 健康とスポーツ の理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 肥田 佳美、中嶋 文子、生田 美智子、及川 佐枝子、早川 幸博、小林 純子、山田 紀子、福田 誠司 担当形態：オムニバス			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 健康管理とスポーツ 到達目標：健康の自己管理を学び、生活習慣病などを予防し、スポーツを通して人間として自立する術を身につける。						
授業の概要 健康、病気・障害、運動・スポーツなどのテーマで学生生活の身近な問題から課題を見つけ、考え、討論し、学習する。						
授業計画						
第1回：健康とは 健康の概念（担当：及川 佐枝子）						
第2回：食事と健康 食事と健康のかかわり（担当：山田 紀子）						
第3回：生活習慣と健康 身近な生活習慣（担当：山田 紀子）						
第4回：嗜好品と健康 飲酒、喫煙、薬物による健康影響（担当：及川 佐枝子）						
第5回：女性のからだと健康 女性の身体、妊娠出産、女子の体づくり（担当：中嶋 文子）						
第6回：環境と健康 人間と環境の相互作用（担当：及川 佐枝子）						
第7回：健康・運動とデジタル化（担当：肥田 佳美）						
第8回：家族・社会の健康（担当：及川 佐枝子）						
第9回：熱中症の予防と救急処置（担当：早川 幸博）						
第10回：身体を動かす、こころとからだ（担当：小林 純子）						
第11回：運動と栄養 運動から栄養と健康を考える（担当：山田 紀子）						
第12回：運動と健康 健康における運動の効果（担当：生田 美智子）						
第13回：運動ができる仕組み（担当：福田 誠司）						
第14回：スポーツと傷害（担当：福田 誠司）						
第15回：メタボリックシンドローム・肥満症・運動療法と運動プログラムの作製（担当：早川 幸博）						
定期試験						
テキスト 特に指定しない。授業時に資料を配付する。						
参考書・参考資料等 授業内で適時紹介する。						
学生に対する評価 筆記試験 95%、小レポート 5%の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。						

授業科目名： スポーツ実習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大勝 志津穂 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：「バレー・ボール・アルティメット」コース</p> <p>到達目標：バレー・ボール、アルティメットとも基本的な技術を習得しゲームを楽しめるようになる。</p> <p>ネットを挟んだ球技種目と攻守が入り混じる種目の異なる集団種目を通じて、それぞれの種目の面白さを理解する。各自がそれぞれの役割を果たせる戦術を考えられるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
各種目の基本的技術を習得し、メンバーが個々の得意なことや特徴を理解しながら、チームとして戦術や戦略を考えていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：アルティメットの基礎：バックハンドスロー&キャッチ						
第3回：アルティメットの基礎：フォアハンドスロー&キャッチ						
第4回：アルティメットの基礎：ヘッズ						
第5回：アルティメットの基礎：スクエアパス						
第6回：アルティメットの基礎：シュート						
第7回：アルティメット：リーグ戦（1）試合のルール説明、リーグ戦前半						
第8回：アルティメット：リーグ戦（2）前回の続き						
第9回：アルティメット：リーグ戦（3）リーグ戦後半、アルティメットの振り返り						
第10回：バレー・ボールの基礎：オーバーハンドパス						
第11回：バレー・ボールの基礎：アンダーハンドパス						
第12回：バレー・ボールの基礎：サーブレシーブ						
第13回：バレー・ボール：リーグ戦（1）試合のルール説明、リーグ戦前半						
第14回：バレー・ボール：リーグ戦（2）前回の続き						
第15回：バレー・ボール：リーグ戦（3）リーグ戦後半、バレー・ボールの振り返り						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加態度と実践（60%）、チーム記録ノート（10%）、個人記録ノート（30%）						

授業科目名： スポーツ実習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小澤 英二 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： バドミントンの実践 到達目標：バドミントンについての知識と実践の方法を理解し、①健康・体力の向上を図る。②コミュニケーションツールとしてコミュニティ形成にスポーツがいかに関わるかを認識する。						
<b>授業の概要</b> 高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に、生涯にわたって健康を維持し、生きがいのある生活を実現するためのスポーツの重要性が著しく高まっている。これにより、大学教育における健康・体力づくりの意義が改めて強調された。またスポーツにはコミュニケーションの活性化など様々な効用が認められる。 本授業では、様々なレベルで楽しむことができ、生涯スポーツとしても優れた特性を持ったバドミントンの実践により、上記のような内容を学習する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：本授業の内容の説明と、履修上の注意、履修者の決定(ガイダンス)						
第2回：運動ができるコンディショニング						
第3回：バドミントンの基礎的なショットとサービス(ハイクリア)						
第4回：バドミントンの基礎的なショット(ヘアピン・ドロップショット)						
第5回：バドミントンの基礎的なショット(カット・スマッシュ)						
第6回：ハーフコート・ゲーム ルール説明と基礎的なショットの振り返り						
第7回：ハーフコート・ゲーム ゲームの振り返り						
第8回：シングルス・ゲーム シングルスのルール説明						
第9回：ダブルスの基礎知識と技術						
第10回：ダブルスのゲーム(リーグ戦) ダブルス・リーグ戦のルール説明、リーグ戦前半						
第11回：ダブルスのゲーム(リーグ戦) リーグ戦後半						
第12回：ダブルスのゲーム(団体戦) 団体戦のルール説明、団体戦前半						
第13回：ダブルスのゲーム(団体戦) 団体戦後半、ダブルスの振り返り						
第14回：「健康」と「運動」、「体力」の関係について						
第15回：バドミントンの特性と「健康」、「運動」、「体力」の関係について						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> ①授業中の取り組み度(50%) ②運動技能の向上度(20%) ③レポート(30%)						

授業科目名： スポーツ実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大勝 志津穂 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 「卓球・コンディショニング」コース 到達目標：卓球においては基本的な技術を習得し、ゲームを楽しめるようになる。コンディショニングでは、自分自身の身体に向かい、自分で身体を整えコントロールできるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
卓球の基本的な技術を習得しゲームを楽しむ。 コンディショニングでは、ウォーミングアップを兼ねて縄跳びやストレッチを行ったり、体幹トレーニングを行ったりしながら自分自身の身体を鍛え整える方法を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：コンディショニング：ストレッチの基礎（1）上半身						
第3回：コンディショニング：ストレッチの基礎（2）下半身						
第4回：コンディショニング：体幹トレーニングの基礎（1）1つ1つの動きの確認						
第5回：コンディショニング：体幹トレーニングの基礎（2）トレーニング部位を意識した動き						
第6回：コンディショニング：自重トレーニングの基礎（1）上半身						
第7回：コンディショニング：自重トレーニングの基礎（2）下半身						
第8回：W-up、卓球の基礎：フォアハンドロング						
第9回：W-up、卓球の基礎：バックハンドロング						
第10回：W-up、卓球の基礎：フォアハンドドライブ						
第11回：W-up、卓球の基礎：バックハンドドライブ						
第12回：W-up、卓球の基礎：ツツキ						
第13回：W-up、卓球リーグ戦（1）リーグ戦のルール説明、リーグ戦前半						
第14回：W-up、卓球リーグ戦（2）リーグ戦の続き						
第15回：W-up、卓球リーグ戦（3）リーグ戦後半、卓球の振り返り						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加態度と実践（60%）、チーム記録ノート（10%）、個人記録ノート（30%）						

授業科目名： スポーツ実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小澤 英二 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 卓球の実践と理解 到達目標：卓球についての知識と実践の方法を理解し、①健康・体力の向上を図る。②コミュニケーションツールとしてコミュニティ形成にスポーツがいかに関わるかを認識する。						
<b>授業の概要</b>						
高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に、生涯にわたって健康を維持し、生きがいのある生活を実現するためのスポーツの重要性が著しく高まっている。これにより、大学教育における健康・体力づくりの意義が改めて強調された。またスポーツにはコミュニケーションの活性化など様々な効用がみとめられる。 本授業では、各自の体力や技能の程度を問わずに誰もが楽しめる特性を持ったスポーツである卓球の実践により、上記のような内容を学習する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：履修上の注意点や、展開、評価などについて理解し、履修者を決定する。(授業ガイダンス)						
第2回：運動ができる身体のコンディショニングと卓球の概念、各ストロークの紹介など。						
第3回：基本的なストローク(フォアとバック)とサービスの練習と強打(スマッシュ)の習得。						
第4回：打球のための身体的操作の理解と習得。						
第5回：フットワーク・各種フライトの理解と習得。						
第6回：簡易ゲームの活用。						
第7回：ゲームづくり(試合の進め方やルールを理解する)。						
第8回：シングルスのゲーム(リーグ戦) シングルスのルール説明、リーグ戦前半						
第9回：シングルスのゲーム(リーグ戦) リーグ戦後半						
第10回：シングルスのゲーム(団体戦) 団体戦のルール説明、シングルスの振り返り						
第11回：ダブルスの基礎知識と基本的技能の習得。						
第12回：ダブルスのゲーム(リーグ戦) ダブルスのルール説明、リーグ戦						
第13回：ダブルスのゲーム(団体戦) 団体戦前半						
第14回：ダブルスのゲーム(団体戦) 団体戦の続き、ダブルスの振り返り						
第15回：まとめ						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
①授業中の取り組み度(50%) ②運動技能の向上度(20%) ③レポート(30%)						

授業科目名： 外国語（英語A）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： Keith Vargo、Colm Hall			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 基礎的英会話力の習得						
到達目標：学生は、ネイティブ講師による週3回、1回40分の授業を通して英語に対する苦手意識を克服し、外国人と接することに慣れることを目標とする。自然なスピードで話される英語を理解し、今まで学んだ英語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。更に、学部の専攻に関連した内容（場所やモノ、ヒトとともにある文化の魅力を紹介）を英語で表現できるようになることも目指す。						
<b>授業の概要</b>						
授業はネイティブ講師が担当し、1回40分の授業を少人数制で行う。このコースの第一の目標は、英語に対する苦手意識を克服し、外国人と接することに慣れることである。英語のみで行われる授業を通して英語に親しみ、継続的な学習習慣を身につける。第二の目標は、高校までに学んだ英語の知識を活かし、自ら英語を発し、会話を続ける能力を身につけることである。身近なトピックに関する基礎的な語彙と表現を、毎回の授業内のドリルを通して身につけ、反射的に英語を発することができるようになることを目指す。第三の目標は、英語を通して異文化に触れ、自らの文化を英語で表現するための訓練を行う事である。そのための手段として、授業内で“Show and Tell”を実施し、自らの意見を英語で自信を持って表現できるようになるための基礎的な技術を磨く。また、授業外では、全学生にOnlineで自習(E-Learning)を行う機会が与えられる。クラス内での学習内容に沿った課題が出されるため、語彙や文法力強化のために必ず実施すること。						
<b>授業計画</b>						
第1回：自己紹介をする、プロフィールを書く						
第2回：教室内で使う英語、教室内ルールの掲示を作成する						
第3回：疑問文の作り方、会話の進め方、簡単な同意・異議の表し方						
第4回：簡単な指示を出す・聞き取る・書く						
第5回：所持品の描写、物の位置を表す表現						
第6回：時間の表現、日々の活動について話す、朝のルーティーンを描写する						
第7回：知らない単語を説明する						
第8回：日本のものを描写する						
第9回：性格を描写する、人物を描写する						
第10回：家族やペットについて話す						
第11回：過去形の練習、過去の出来事について話す、過去の休暇について書く						
第12回：人前で話す練習、Show and Tell の準備、Show and Tell の原稿を書く						
第13回：Show and Tell の練習						
第14回：Show and Tell の実施						
第15回：復習						
<b>テキスト</b>						
Marc Helgesen 他著『English Firsthand Access (5th Edition) Student Book』(Pearson)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内での参加態度と参加意欲(Class Participation) = 50%						
2. E-Learning = 10%						
3. 英会話能力 (Oral Communication Competency) = 20%						
4. プレゼンテーション (Show and Tell) = 20%						

授業科目名： 外国語（英語B）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： Keith Vargo、Colm Hall			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 基礎的英会話力の習得						
到達目標：学生は、ネイティブ講師による週3回、1回45分の授業を通して英語に対する苦手意識を克服し、外国人と接することに慣れることを目標とする。そして、自然なスピードで話される英語を理解し、今までに学んだ英語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。更に、学部の専攻に関連した内容（場所やモノ、ヒトとともにある文化の魅力を紹介）を英語で表現できるようになることも目指す。						
<b>授業の概要</b>						
授業はネイティブ講師が担当し、1回45分の授業を少人数制で行う。このコースの第一の目標は、英語に対する苦手意識を克服し、外国人と接することに慣れることである。英語のみで行われる授業を通して英語に親しみ、継続的な学習習慣を身につける。第二の目標は、高校までに学んだ英語の知識を活かし、自ら英語を発し、会話を続ける能力を身につけることである。身近なトピックに関する基礎的な語彙と表現を、毎回の授業内でのドリルを通して身につけ、反射的に英語を発することができるようになることを目指す。第三の目標は、英語を通して異文化に触れ、自らの文化を英語で表現するための訓練を行う事である。そのための手段として、授業内で“Presentation”を実施し、自らの意見を英語で自信を持って表現できるようになるための基礎的な技術を磨く。また、授業外では、全学生にOnlineで自習(E-Learning)を行う機会が与えられる。クラス内での学習内容に沿った課題が出されるため、語彙や文法力強化のために必ず実施すること。						
<b>授業計画</b>						
第1回：会話技術の復習、疑問文の作り方の復習、相手の話への反応の仕方						
第2回：衣服を描写する、衣服について話す						
第3回：ショッピングでの会話、賛辞を述べる						
第4回：食べ物について話す、可算名詞・不可算名詞の使い分け						
第5回：食習慣について話す						
第6回：スポーツやレクリエーションについて話す						
第7回：活動中の人々を描写する						
第8回：家の中のものを描写する、物の位置を描写する						
第9回：家について話す						
第10回：未来の表現、未来の事について話す						
第11回：プレゼンテーションスキルの復習						
第12回：プレゼンテーションの原稿を書く						
第13回：プレゼンテーションの練習						
第14回：プレゼンテーションの実施						
第15回：復習						
<b>テキスト</b>						
Marc Helgesen 他著『English Firsthand Access (5th Edition) Student Book』 (Pearson)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内の参加態度と参加意欲(Class Participation) = 50%						
2. E-Learning = 10%						
3. 英会話能力 (Oral Communication Competency) = 20%						
4. プrezentation (Show and Tell) = 20%						

授業科目名： 外国語（英語C）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：Keith Vargo 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 基礎的英会話力の習得						
到達目標：学生は、ネイティブ講師による週3回、1回40分の授業を通して英語に対する苦手意識を克服し、外国人と接することに慣れることを目標とする。自然なスピードで話される英語を理解し、今までに学んだ英語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。更に、学部の専攻に関連した内容（場所やモノ、ヒトとともにある文化の魅力を紹介）を英語で表現できるようになることも目指す。						
<b>授業の概要</b>						
授業はネイティブ講師が担当し、1回40分の授業を少人数制で行う。自分の日常生活や、日本のものなどの身近なトピックを取り上げ、英語で自己表現のできる機会を提供する。また、「聞く」・「話す」に加えて、若干「読む」・「書く」の要素も取り入れることにより、英語でのより正確な情報発信のための練習も行う。加えて、観光地や世界の都市についても学ぶ機会を設けることで、レッスンを通して世界の文化・習慣に触れ、得られた知識を簡単な英語で説明する方法も学ぶ。更に、目的地までの行き方を英語で伝えるなど、より実践的な会話練習も行う。学期の終わりには One-day Trip のイベントを計画するプロジェクトを行い、クラスメイトの前で発表する機会を設ける。本番までに人前で自信を持って英語を話せるよう、準備時間が与えられる。プロジェクトはクラス内で互いに助け合いながら実施することで、英語を通じた自己表現の方法や協調性も身につける。また、授業外では、全学生に Online で自習(E-Learning)を行う機会が与えられる。クラス内での学習内容に沿った課題が出されるため、語彙や文法力強化のために必ず実施すること。						
<b>授業計画</b>						
第1回：自己紹介をする、教室内の英語を復習する、基礎的な Wh-を使った疑問文を復習する						
第2回：相手の話に反応する、簡単なディスカッション						
第3回：日々の活動について話す、可能性について話す						
第4回：行動の頻度について話す、日々の行動についてクラス内でアンケートを取る						
第5回：感想・感情を伝える、日本のものを描写する						
第6回：観光地や世界の都市について話す						
第7回：町を描写する、物の場所を伝える						
第8回：目的地までの行き方を伝える、交通機関について話す						
第9回：娯楽について話す、招待する、招待を断る						
第10回：休暇のプランをたてる、将来を予測する						
第11回：プロジェクト準備(トピック選択)、プロジェクト準備(構成決定)						
第12回：プロジェクト準備(Draft 作成、Poster の作成)						
第13回：プレゼンテーションスキルの復習						
第14回：プレゼンテーション練習						
第15回：プロジェクト発表						
<b>テキスト</b>						
指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内の参加態度と参加意欲(Class Participation) = 50%						
2. E-Learning = 10%						
3. 英会話能力 (Oral Communication Competency) = 20 %						
4. プrezentation (Show and Tell) = 20%						

授業科目名： 外国語（英語D）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：Keith Vargo 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 情報発信のための英語力の習得 到達目標：学生は、ネイティブ講師による週5回、1回40分のコミュニケーションを用いた授業を通して自然なスピードで話される英語を理解し、1年次にこれまで学んだ英語の基礎力を応用して、よりスムーズな会話ができるようになることを目標とする。また、英語を「学ぶ」だけでなく、情報発信のために「英語を使う」レベルへと進むことを目指す。						
<b>授業の概要</b>						
授業はネイティブ講師が担当し、1回40分の授業を少人数制で行う。学生は、自分自身や周りの人々について話したり、物事を説明する練習や簡単なディスカッションを行うなど、英語で自己表現のできる機会を提供する。「聞く」・「話す」に加えて、若干「読む」・「書く」の要素も取り入れることにより、英語でのより正確な情報発信のための練習も行う。また、英語圏の文化・習慣に触れ、文化や習慣を簡単な英語で説明する方法も学ぶ。学期の終わりには大学でのイベントを計画するプロジェクトを行い、クラスメイトの前で発表する機会を設ける。クラス内で互いに助け合いながらプロジェクトを実施することで、英語を通じた自己表現の方法や協調性も身につける。また、授業外では、全学生にOnlineで自習(E-Learning)を行う機会が与えられる。クラス内での学習内容に沿った課題が出されるため、語彙や文法力強化のために必ず実施すること。						
<b>授業計画</b>						
第1回：教室内で使う英語の復習、会話を続ける技術の復習						
第2回：人生の行事について話す、夏休みについて話す、物語を語る						
第3回：様々な仕事と能力について話す、採用面接の練習						
第4回：身近な人の説明をする、性格について話す						
第5回：好きな音楽について話す、娯楽について比較しながら意見を述べる						
第6回：未来のことについて話す復習、仮定の状況について話す						
第7回：順序立てて説明する、料理のレシピを説明する						
第8回：尊敬する人物について話す						
第9回：ハロウィーンレッスン、復習						
第10回：プレゼンテーション準備(トピック選択・構成決定)						
第11回：場所の説明をする、プレゼンテーション準備(イベント/人物を描写する)						
第12回：プレゼンテーション準備(Draft作成)						
第13回：ショッピングをする、値引き交渉をする、ショッピングについて話す						
第14回：プレゼンテーション練習、プレゼンテーション発表						
第15回：クリスマスレッスン、復習						
<b>テキスト</b> 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内の参加態度と参加意欲(Class Participation) = 50% 2. E-Learning = 10% 3. 英会話能力 (Oral Communication Competency) = 20% 4. プrezentation (Show and Tell) = 20%						

授業科目名： 外国語 (ドイツ語 I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：中村 真奈美 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 縦り字と発音の関係、動詞の現在人称変化、冠詞の格変化、語順 到達目標：文法を軸にドイツ語の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b> 新しい言語を知ることは、その言語圏の文化や生活を知る有効な手段の一つである。第2外国語としてドイツ語を学ぶことで、新しい世界を拓く一助としてほしい。ドイツ語は、英語と同じゲルマン語系に属しているので、文法の根源は共通している。また、縦り字と発音の関係が比較的わかりやすいので、文字を見て音読する習慣をつけ、親しみと興味を持って学習してほしい。						
<b>授業計画</b> 第1回：発音 第2回：規則動詞の現在人称変化 第3回：sein,haben の現在人称変化 第4回：不規則動詞の現在人称変化 第5回：命令形 第6回：定冠詞の格変化 第7回：不定冠詞の格変化 第8回：dieser 型と mein 型の格変化 第9回：人称代名詞の格変化 第10回：名詞の複数形 第11回：基數・時刻 第12回：前置詞の格支配 第13回：動詞、形容詞の前置詞支配 第14回：形容詞の格変化 第15回：形容詞の比較変化 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 片岡律子/小川さくえ/宮本絢子 著 『たのしいドイツ語 読む・聞く・話す(改訂版)』(白水社)						
<b>参考書・参考資料等</b> 独和辞典(辞典の種類、選び方については、初回授業で紹介します。)						
<b>学生に対する評価</b> 授業中に行う小テスト(50%)と期末テスト(50%)との総合の成績で評価する。						

授業科目名： 外国語 (ドイツ語Ⅱ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中村 真奈美 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 前置詞の使い方・枠構造・時制(過去、現在完了) 到達目標：副文などの特徴的な文の構造に慣れる。						
<b>授業の概要</b> ドイツ語の理解力および表現力両面を身につけることを目標とする。						
<b>授業計画</b> 第1回：話法の助動詞 第2回：未来形 第3回：分離・非分離動詞 第4回：従属接続詞と副文 第5回：動詞の3基本形・過去形 第6回：現在完了形 第7回：過去完了形 第8回：再帰動詞 第9回：zu 不定詞 第10回：es の用法 第11回：受動態 第12回：分詞の用法 第13回：関係代名詞 第14回：接続法第1式 第15回：接続法第2式 定期試験						
<b>テキスト</b> 著者：片岡律子・小川さくえ・宮本絢子『たのしいドイツ語 読む・聞く・話す(改訂版)』白水社						
<b>参考書・参考資料等</b> 独和辞典						
<b>学生に対する評価</b> 授業中に毎回行う小テスト(50%)と期末テスト(50%)の総合の成績で評価する。						

授業科目名： 外国語 (フランス語 I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Chotin Fabrice 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： Conversations en français 到達目標：フランス語の基礎を、会話を中心に身につける。						
<b>授業の概要</b> 初めてフランス語を学ぶ学生を対象とする。毎回の会話テーマに沿って導入する表現や語彙を使って、自分自身の立場で話す練習をする。また、オーラル・コミュニケーションにおけるフランス語的スタイルについても学ぶ。授業では、この中の重要な 2 つのルール、 1 質問に答える際に、少なくとも 1 つ、何か新しい情報や補足情報を付け加える。 2 質問されたら、とにかく早く何かを言う。 を踏まえ、積極的に会話を発展させることにより、フランス語でのコミュニケーション能力の上達を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回 : Elements de base ・ bases de prononciation ・ salutations ・ tu / vous フランス語の基礎・発音の基礎・挨拶・tu / vous の使い分け						
第2回 : Premieres presentations 1. Est-ce que tu es japonais(e) ? 自己紹介をする 1. あなたは日本人ですか?						
第3回 : Premieres presentations 2. Moi aussi / Moi non plus / Moi, ... 自己紹介をする 2. 私もです。 / 私は....。						
第4回 : Dire ou on habite et d' où on vient 1. Est-ce que tu habites a Tokyo ? 1. 東京に住んでいますか?						
第5回 : Dire ou on habite et d' où on vient 2. Tu es de Tokyo ? 2. 東京の出身ですか?						
第6回 : Parler des transports 1. Questions ouvertes et fermées 交通手段について話す 1. 疑問詞を使った疑問文と、はい・いいえで答える疑問文						
第7回 : Parler des transports 2. Tu viens ici comment ? 交通手段について話す 2. どうやってここに来ますか?						
第8回 : Parler des petits boulot . 1. Est-ce que tu travailles ? アルバイトについて話す 1. アルバイトをしていますか?						
第9回 : Parler des petits boulot s 2. C' est comment ? アルバイトについて話す 2. どうですか?						
第10回 : Parler de ses animaux domestiques, etc. 1. Est-ce que tu as un chien ? ペットなどについて話す 1. 犬を飼っていますか?						
第11回 : Parler de ses animaux domestiques, etc. 2. Qu' est-ce que... comme... ペットなどについて話す 2. どんな...を～ですか?						

第1 2回 : Parler des matieres et des profs 1 . Est-ce que tu aimes bien le prof de maths ?

科目・先生について話す 1 . 数学の先生は好きですか?

第1 3回 : Parler des matieres et des profs 2 . Oui, il est sympa.

科目・先生について話す 2 . はい、彼は感じがいいです。

第1 4回 : Revisions 復習 : 主に第1 ~ 6回目までの範囲

第1 5回 : Revisions 復習 : 主に第7 ~ 13回目までの範囲

#### テキスト

著者 Jean-Luc AZRA, Bruno VANNIEUWENHUYSE 他

書名 Moi, je... Communication

出版社アルマ合資会社(<http://www.almalang.com>)

ISBN 978-4-905343-03-5

価格 2625 円

※ウェブサイトから1音声ポッドキャストと2単語リストをダウンロードしてください。

<http://www.moi-je-multimedia.com/communication/>(履修前に準備しておくこと)

#### 参考書・参考資料等

MP3一括ダウンロード : <https://www.almalang.com/MoiJeCOMM.htm>

『Moi, je...』マルチメディアウェブサイト : <https://www.moi-je-multimedia.com/communication/>

#### 学生に対する評価

毎回の授業への積極的な参加 (30%) 、学期中に実施する数回の会話小試験 (70%) をもとに総合的に判定する。

授業科目名： 外国語 (フランス語 II)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Chotin Fabrice 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ : Conversations en français 到達目標 : フランス語の基礎を、会話を中心に身につける。						
<b>授業の概要</b> 初めてフランス語を学ぶ学生を対象とする。毎回の会話テーマに沿って導入する表現や語彙を使って、自分自身の立場で話す練習をする。また、オーラル・コミュニケーションにおけるフランス語的スタイルについても学ぶ。授業では、この中の重要な 2 つのルール、 1 質問に答える際に、少なくとも 1 つ、何か新しい情報や補足情報を付け加える。 2 質問されたら、とにかく早く何かを言う。 を踏まえ、積極的に会話を発展させることにより、フランス語でのコミュニケーション能力の上達を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第 1 回 : Reprise 1er semester 1. 前期の振り返り						
第 2 回 : Parler de ce qu' on mange 1. Qu' est-ce que tu manges le matin ? 食べ物について話す 1. 朝は何を食べますか?						
第 3 回 : Parler de ce qu' on mange 2. J' aime le pain. 食べ物について話す 2. パンが好きです。						
第 4 回 : Parler des taches menageres 1. Qui fait la cuisine chez toi ? 家事について話す 1. あなたの家では誰が料理をしますか?						
第 5 回 : Parler des taches menageres 2. C' est moi qui fais la cuisine. 家事について話す 2. 料理をするのは私です。						
第 6 回 : Parler de sa famille 1. Ton frere a quel age ? 家族について話す 1. お兄(弟)さんは何歳ですか?						
第 7 回 : Parler de sa famille 2. Revision des verbes etudes 家族について話す 2. 基本的な動詞のまとめ。						
第 8 回 : Parler des loisirs 1. Est-ce que tu fais une activite ? クラブ活動について話す 1. 課外活動をしていますか?						
第 9 回 : Parler des loisirs 2. Je suis membre du club de ○○. クラブ活動について話す 2. 私は○○部のメンバーです。						
第 10 回 : Parler de ses habitudes 1. Tu manges souvent de la viande ? 習慣について話す 1. よく肉を食べますか?						
第 11 回 : Parler de ses habitudes 2. J' en mange. / J' aime ca. 習慣について話す 2. それを食べます。/それが好きです。						

第1 2回 : Parler du week-end 1. Tu vas travailler ce week-end ?

週末の過ごし方について話す 1. 今週末は働くつもりですか?

第1 3回 : Parler du week-end 2. Je vais me coucher tot.

週末の過ごし方について話す 2. 早く寝るつもりです。

第1 4回 : Revisions 復習 : 主に第1 ~ 6回目までの範囲

第1 5回 : Revisions 復習 : 主に第7 ~ 13回目までの範囲

#### テキスト

著者 Jean-Luc AZRA, Bruno VANNIEUWENHUYSE 他

書名 Moi, je... Communication 出版社アルマ合資会社(<http://www.almalang.com>)

[https://gear.sugiyama-](https://gear.sugiyama-u.ac.jp/SyllabusDisp/SyllabusReport.aspx?nendo=20210&kogikey=45090001_2/2)

ISBN 978-4-905343-03-5

価格 2625 円

※ウェブサイトから1音声ポッドキャストと2単語リストをダウンロードしてください。

<http://www.moi-je-multimedia.com/communication/>(履修前に準備しておくこと)。

#### 参考書・参考資料等

MP3一括ダウンロード : <https://www.almadownload.com/MoiJeCOMM.htm>

『Moi, je...』マルチメディアウェブサイト : <http://www.moi-je-multimedia.com/communication/>

#### 学生に対する評価

毎回の授業への積極的な参加 (30%) 、学期中に実施する数回の会話小試験 (70%) をもとに総合的に判定する。

授業科目名： 外国語 (中国語 I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 徐 春陽、夏目 晶子			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 中国語の発音から会話へ 到達目標：正しい発音から出発し、簡単な中国語会話ができるようになる。						
<b>授業の概要</b> 中国語を楽しく学習する環境づくりを目指す。正しい発音から出発し、簡単な中国語会話ができるよう指導する。本文を繰り返し読んだり置き換え練習をして、単語や基本的な文型を把握させる。また、入門学習を通じて、中国の風俗・習慣・歴史・文化などについてもふれて、学習意欲を高めていくことに努める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：発音練習(1) 声調・韻母						
第3回：発音練習(2) 声母・変調						
第4回：問候(挨拶する)						
第5回：紹介(自己紹介する)						
第6回：練習と復習：主に第2～4回目の範囲						
第7回：感謝(感謝する)						
第8回：道歉(謝る)						
第9回：練習と復習：主に第7～8回目の範囲						
第10回：请假(休暇をとる)						
第11回：練習と復習：主に第10回目の範囲						
第12回：通知(知らせる)						
第13回：練習と復習：主に第12回目の範囲						
第14回：総合練習：第2～13回目までの範囲						
第15回：全体復習						
<b>定期試験</b>						
テキスト 鄭麗芸『キャンパス中国語入門』(駿河台出版社)						
<b>参考書・参考資料等</b> 各種の中日辞書(電子辞書も含む)						
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験 70%、平常点(受講態度等)30%の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。						

授業科目名： 外国語 (中国語Ⅱ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 徐 春陽、夏目 晶子			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 中国語の入門から応用へ 到達目標：中国語の「読む・書く・聴く・話す」4能力の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
中国語の「読む・書く・聴く・話す」4能力の基礎養成を目指す。中国語のピンインによって正しい発音を身に付け、中国語の漢字を日本語の漢字と比較しながら覚える。基礎語彙を積み重ねると同時に、語順に注意して基礎文法の練習をする。これによって、中国語の基礎力をバランスよく育成することに努めたい。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：通知(知らせる)						
第3回：聊天(おしゃべりする)						
第4回：練習と復習：主に第2～3回目の範囲						
第5回：拜访(訪ねる)						
第6回：練習と復習：第5回目の範囲						
第7回：邀请(誘う)						
第8回：練習と復習：第7回目の範囲						
第9回：巧遇(出くわす)						
第10回：練習と復習：第9回目の範囲						
第11回：聚餐(会食する)						
第12回：練習と復習：第11回目の範囲						
第13回：电话(電話をかける)						
第14回：全体練習：第2～13回目までの範囲						
第15回：総合復習						
<b>定期試験</b>						
テキスト 鄭麗芸『キャンパス中国語入門』(駿河台出版社)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
各種の中日辞書(電子辞書も含む)						
<b>学生に対する評価</b>						
筆記試験 70%、平常点(受講態度等)30%の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。						

授業科目名： 外国語 (ポルトガル語 I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：重松 由美 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ブラジル・ポルトガル語入門 到達目標：ブラジル・ポルトガル語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と直説法現在形の習得を目指す。						
<b>授業の概要</b>						
ブラジル・ポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する情報も併せて行う。目標は「ブラジル・ポルトガル語に触れる」である。						
<b>授業計画</b>						
第1回：アルファベット、発音						
第2回：挨拶表現、数字(0～10)						
第3回：名詞の性と数						
第4回：冠詞、「ポルトガル語で何といいますか？」						
第5回：主語となる人称代名詞、動詞 ser(職業の表現)						
第6回：動詞 ser(出身地の表現)						
第7回：疑問文、否定文、口頭発表「自己紹介」						
第8回：形容詞						
第9回：指示詞						
第10回：所有形容詞、「誰のものですか？」						
第11回：規則動詞の活用形(-ar 動詞)						
第12回：規則動詞の活用形(-er,-ir 動詞)						
第13回：定冠詞と前置詞の縮合形						
第14回：作文「私は～することが好きです」						
第15回：前期のまとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト 『ブラジル・ポルトガル語を話そう！』(改訂版)重松由美、瀧藤千恵美、Felipe Ferrari 著、朝日出版社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『プログレッシブポルトガル語辞典』市之瀬 敦 編、小学館。 『ポルトガル語表現とことんトレーニング』瀧藤 千恵美、白水社。 『ディリ一日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所						
<b>学生に対する評価</b>						
筆記試験(60%)、プレゼンテーション(40%)						

授業科目名： 外国語 (ポルトガル語Ⅱ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：重松 由美 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： ブラジル・ポルトガル語入門 到達目標：ブラジルの言語と文化についての知識と理解を深めることを目標とする。具体的には、ブラジル・ポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになることを目指す。						
<b>授業の概要</b> ブラジル・ポルトガル語の基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。前期同様に受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介を行っていく。目標は「ブラジル・ポルトガル語を活かす」である。						
<b>授業計画</b>						
第1回：動詞 ir、交通手段						
第2回：動詞 ir(未来表現)						
第3回：動詞 ter						
第4回：動詞 fazer、頻度表現						
第5回：疑問詞、作文「冬休みの予定」						
第6回：動詞 poder(許可、依頼表現)						
第7回：動詞 quere(勧誘表現)						
第8回：口頭発表「待ち合わせ」						
第9回：日付・週の表現						
第10回：動詞 estar の状態表現						
第11回：動詞 estar の所在表現						
第12回：現在進行形、天候表現						
第13回：完全過去						
第14回：時間表現						
第15回：後期のまとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 『ブラジル・ポルトガル語を話そう！(改訂版)』重松由美、瀧藤千恵美、Felipe Ferrari 著、朝日出版社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『プログレッシブポルトガル語辞典』市之瀬 敦 編、小学館						
『ポルトガル語表現とことんトレーニング』瀧藤 千恵美、白水社						
『ディリ一日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所						
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験(60%)、プレゼンテーション(40%)						

授業科目名： 外国語 (スペイン語 I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：宮下 克子 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： スペイン語の文法の習得と、簡単な会話の練習、及び、スペイン語圏の文化、伝統などを学びます。</p> <p>到達目標：スペイン語の初級文法を学び、DVD の映像を見ながら、簡単な会話ができるようになります。また、スペイン語が話されているスペイン及びラテンアメリカ諸国の文化、習慣などに触れ、興味を抱いて学習します。スペイン語初級文法の知識を用いて、簡単なコミュニケーションができる能力を養います。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>エレナとその恋人口レンソ、そして彼らの周辺の人々が、日常生活の中で、様々な局面において繰り広げる会話を通し、スペイン語圏の諸国を旅行する際などに実際に役に立つ表現を習得します。また、それぞれの表現において用いられている文法的事柄をわかり易く説明し、基本的な文法の知識を得ます。簡単な練習問題を丁寧にこなすことにより、会話の表現を工夫し、変化させて展開できるようになると共に、学んだ文法の知識をさらに確かなものにします。家庭内での会話、喫茶店での会話、病院での会話、衣料店での会話など、様々なシチュエーションでの会話を学び、実践的な力を身に付けます。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：アルファベットと、スペイン語の読み方、を学ぶ。</p> <p>第2回：「駅にて」(エレナが駅で道を尋ねる) 名詞、性と数、定冠詞、不定冠詞</p> <p>第3回：第2回目授業で学んだ事柄を、練習問題で復習する。第2回目授業で学んだ会話のヴァリエーションを、学生どうして行う。</p> <p>第4回：「タクシーにて」(エレナがタクシーに乗り、タクシー運転手と会話する) 動詞 ser</p> <p>第5回：動詞 ser を用いた表現を練習する。職業、国籍などを言えるようにする。</p> <p>第6回：動詞 ser、形容詞を用い練習問題をする。</p> <p>第7回：「ロレンソの家で」(エレナはロレンソの家に行き、彼の両親に初めて会う) 動詞 estar, 所有形容詞</p> <p>第8回：動詞 estar を用いて、物や人がどこにあるか、いるかを表現できるようにする。所有形容詞を用いて、事物が誰のものか言えるようにする。</p> <p>第9回：動詞 estar を用いて、さらなる練習問題をする。</p> <p>第10回：「家族」(ロレンソの家で、エレナはロレンソのおばあさんと会話する) 規則動詞の直説法現在、基数(1～10)</p> <p>第11回：規則活用動詞の活用の仕方を学ぶ。話す、食べる、勉強する、住む、など、基本的な事柄を言えるようにする。</p> <p>第12回：「家の食事」(エレナはロレンソの家で彼の両親と食事しながら、会話する) 一人称単数だけが不規則変化する動詞の直説法現在</p> <p>第13回：与える、作る、運転する、などの動詞を用いて表現できるようにする。「～は～を～する」という表現ができるようにする。</p> <p>第14回：規則活用動詞、一人称単数のみが不規則な活用をする動詞を使った文章の練習。</p> <p>第15回：前期の復習</p>						
<b>テキスト</b>						
『バレンシアの休日 ー初級スペイン語への招待ー』(DVD付き)同学社 (参考価格 2,500 円)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への参加度 60%、提出物 20%、テスト 20%						

授業科目名： 外国語 (スペイン語Ⅱ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：宮下 克子 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 前期に学んだ事柄を踏まえ、さらに多くの、多様な事柄を表現できるよう、基礎文法を学びながら進みます。						
到達目標：前期に学んだ事柄を参考にし、初級文法の説明をより進め、深め、多くを理解できるようにします。感覚を表す表現、好みを表す表現、痛みなど身体的事柄を表す表現、気候を表す表現などを習得できるようにします。異文化を理解し、スペイン語を用いて、簡単なコミュニケーションできる能力を養います。						
<b>授業の概要</b>						
エレナとその恋人工レンソ、そして彼らの周囲の人々が繰り広げる会話DVDを見ながら学んでいきます。薬局、売店での会話、値段の尋ね方、スペイン語での計算などを、大聖堂、水族館などを舞台とした会話を参考にして学び、さらに様々な事柄を実際に言えるようにします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：「買い物」（エレナは薬局に行き、アスピリンを買い求める） 動詞 haber と形容詞、不定代名詞						
第2回：haber を用いた存在文の続きを練習問題をこなしながら行う。						
第3回：「時間」語幹母音変化動詞を学ぶ。スペイン語での時間の表現を学びます。						
第4回：語幹母音変化動詞、及び、時間を用いた練習問題を行います。						
第5回：「売店にて」他の不規則動詞の直説法現在						
第6回：動詞 tener(持っている)を用いて、暑い、寒い、お腹がすいた、などの表現を学びます。						
第7回：「科学都市にて」所有形容詞完全形、直接目的語						
第8回：バレンシアの水族館を訪れます。「～は～が好きだ」という表現を学びます。						
第9回：直接目的格人称代名詞の練習問題を行います。						
第10回：「バルにて」動詞 ir, ir a + 不定詞						
第11回：スペイン人の憩いの場、バル、つまり喫茶店で、飲み物を注文します。未来時制の代わりとなる ir a + 不定詞 の用法を学びます。						
第12回：「大聖堂にて」querer, poder, saber, volver + 不定詞						
第13回：バレンシアの大聖堂に行きます。動詞 poder を用いて「～することができる」「～してくれるますか?」「～してもよいですか?」などの表現を学びます。						
第14回：「病院にて」量と頻度に関する副詞。基数(100~1000)、気候の表現						
第15回：後期のまとめ、復習						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 『バレンシアの休日 ー初級スペイン語への招待ー』(DVD付き)同学社 (参考価格 2,500円)						
<b>参考書・参考資料等</b> 特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b> 学習に向かう姿勢 60%、提出物 40%						

授業科目名： 外国語 (ハングル I)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：韓 銀暎 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 文字(ハングル)と基本表現 到達目標：①ハングルの読み書きができる、②文法の基礎をマスターする、③簡単な挨拶や会話ができる、の 3 点を目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
文字 (ハングル) を体系的に学び、発音の練習(リスニングやスピーキング)を十分に行う。また、学習した基本的な表現を用いて簡単な文章を作る練習やドリル形式の練習を通して学習したことの定着を図る。授業の予習・復習、さらには授業外での自習に役立つよう、辞書の使い方を学び、実践する。あわせて、韓国の文化、習慣を紹介し、それらに対する理解を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、ハングル（文字）について						
第2回：基本母音、基本子音①（概要説明）						
第3回：基本子音②（前回の続き）						
第4回：子音(濃音)、合成母音①（概要説明）						
第5回：合成母音②（前回の続き）、パッチム①（概要説明）						
第6回：パッチム②（前回の続き）、仮名のハングル						
第7回：発音の規則①（概要説明）						
第8回：発音の規則②（前回の続き）、簡単な挨拶・会話						
第9回：発音の規則③（応用・練習）、助詞～は、体言です①（概要説明）						
第10回：体言です②（前回の続き）、助詞(～が、～も)						
第11回：助詞(～に、～で、～を)、用言です・ます						
第12回：否定形						
第13回：漢数詞						
第14回：固有数詞						
第15回：授業総括						
<b>テキスト</b> 鄭寅玉・申奎燮著『CD 付 韓国語会話』（白帝社）						
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて提示する。						
<b>学生に対する評価</b> 平常点（課題、授業への取り組み）20%、筆記試験 80%						

授業科目名： 外国語 (ハングルⅡ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 樋口 謙一郎、金 由那					
科 目		担当形態：クラス分け・単独						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・外国語コミュニケーション							
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 韓国語能力の充実 到達目標：①文法の基礎をマスターする、②簡単な読解や会話ができる、③履修語に韓国語学習を継続する力を身に着ける、の3点を目標とする。								
<b>授業の概要</b> 韓国語の様々な語彙や文法を学んでコミュニケーションの幅を広げること、辞書を用いて簡単な短文および新聞・雑誌記事などの内容を把握できるようになることをめざす。韓国語の語彙や表現における日本語との異同にも着目し、円滑なコミュニケーションのための知識を養う。韓国の文化、習慣に対する理解をさらに深め、学習意欲をさらに増進することをめざす。								
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：プレイスメントテスト 第3回：基本文法・表現(1) 固有語数詞と漢字語数詞の使い方 第4回：基本文法・表現(2) 否定文 第5回：基本文法・表現(3) 用言の連用形 第6回：基本文法・表現(4) 動作・状態の並列 第7回：基本文法・表現(5) 縮約形の作り方、「名詞+で」の表現（道具・方法・手段・材料） 第8回：基本文法・表現(6) 縮約形の作り方（続き）、（場所の起点と到着点） 第9回：中間総括 第10回：初級応用文法・表現(1) 用言の過去形 第11回：初級応用文法・表現(2) 用言の過去形（続き）、「名詞+と」の表現（相手・羅列） 第12回：初級応用文法・表現(3) 不可能・非能力・非実現の表現、丁寧な指示・誘いの表現 第13回：初級応用文法・表現(4) 依頼の表現、形容詞から副詞を作る 第14回：ミニテスト(会話)と質疑応答 第15回：ミニテスト(筆記)と授業総括								
<b>テキスト</b> 鄭寅玉・申奎燮著『CD付 韓国語会話』（白帝社）								
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて提示する。								
<b>学生に対する評価</b> 平常点（課題、授業への取り組み）30% 筆記・会話試験 70%								

授業科目名： コンピュータと 情報 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小田切 和也、伊藤 宏隆、岩田 員典、早瀬 光浩、舟橋 健司、 松山 智恵子、鳥居 隆司 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 基礎的な情報処理技術の習得 到達目標：コンピュータと情報の基礎的な概念を理解し、初年次において習得すべき、コンピュータに関する基本的知識として、Eメール、Webと情報検索、情報セキュリティ(スマートフォンを含む)、情報倫理(著作権を含む)等を身につける。また、レポートなどの文書の作成・編集やスライド作成およびプレゼンテーションのための技術を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、コンピュータおよびインターネットについて基礎的なしくみを理解するとともに、コンピュータでの実習を通じ、大学生として必要な情報リテラシーを身につける。具体的には、コンピュータのOSの役割や基本操作からはじめ、ワープロソフトを用いた文書作成、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表、電子メールのマナー、インターネットを利用するうえで知っておくべき著作権や個人情報の取り扱いなどの情報倫理や情報セキュリティの知識について等、学生生活や社会生活を安全に過ごせる基礎的な情報活用力を養う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ネットワークとOSの概要						
第2回：Eメール、情報検索						
第3回：情報セキュリティ						
第4回：文書作成Ⅰ 基本操作						
第5回：文書作成Ⅱ 図の挿入						
第6回：文書作成Ⅲ 表の作成						
第7回：文書作成Ⅳ 編集の応用						
第8回：文書作成Ⅴ 表現力のアップ						
第9回：文書作成の実践（中間課題）						
第10回：情報倫理（著作権を含む）						
第11回：プレゼンテーション技法Ⅰ 基本操作						
第12回：プレゼンテーション技法Ⅱ 図・オブジェクトの挿入						
第13回：プレゼンテーション技法Ⅲ 特殊効果						
第14回：プレゼンテーション技法Ⅳ スライドショー						
第15回：プレゼンテーションの実践（最終課題）						
<b>テキスト</b>						
富士通オフィス機器株式会社 FOM 出版部「Microsoft Word 2021 基礎」、「PowerPoint 2021 基礎」						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
課題の提出（100%）により評価する。						

授業科目名： コンピュータと 情報II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 早瀬 光浩、松山 智恵子 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 情報処理技術の基礎および応用技術の習得 到達目標：表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。HTMLとCSSのコーディングによるWebページ制作を行い、Web技術の基礎的な知識が身につけられる。						
<b>授業の概要</b>						
現代社会において問題解決プロセスを効率良く進めるためには、情報処理の基礎知識や基本操作の習得が不可欠である。本講義では、表計算ソフトを利用した複雑な計算、データの集計・分析、表の作成、適切なグラフ作成（データの見える化）、データベースによる情報管理について学び、情報処理の基本概念の理解および操作スキルを身につける。また、データベースの応用やwebページ制作など情報処理技術の応用的内容として学修し、学生生活や社会生活で役立つ発展的な情報活用力を養う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：表計算の概要と基本操作						
第2回：計算式と基本的な関数						
第3回：データの集計、よく使う関数、相対・絶対セル参照						
第4回：データの見える化、グラフ作成						
第5回：データの収集と統計処理						
第6回：データの分析と表現						
第7回：データベースの活用、並べ替え・抽出						
第8回：表計算の課題						
第9回：WWWの概要と基礎知識						
第10回：トップページの作成、画像の配置						
第11回：サブページの作成、リンク、表、マップの配置						
第12回：CSSの基本、CSSでレイアウト						
第13回：CSSでテキストのデザイン、ページの装飾						
第14回：モバイル対応						
第15回：Webページの課題						
<b>定期試験</b>						
テキスト 富士通オフィス機器株式会社 FOM 出版部 「Microsoft Excel 2021 基礎」、千貫りこ ロクナナワーカーショップ 技術評論社 「これからはじめる HTML & CSS の本 [Windows 10 & macOS 対応版]」						
<b>参考書・参考資料等</b> 特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b> 課題（100%）により評価する。						

授業科目名： 健康科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：國井 修一 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：健康維持のための方法とメカニズム 到達目標：生涯にわたる健康維持のための知識を得ること。また、外敵を排除し、それを記憶する免疫機構の機序を理解すること。						
<b>授業の概要</b>						
今日、我々が直面している健康問題は、生活環境の変化が生物学的に見たヒトの進化の速度を完全に超える速度で起こったため、生体がこの変化に対応することができずに生じている可能性がある。本講義では、このような現代社会の中で、健康で活動的な生活を送るために必要な知識を学ぶ。また、健康を脅かす外敵やそれを認識・排除する生体の免疫システムの機序について理解する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：喫煙と健康（ニコチンの作用と依存の機序）						
第2回：メタボリックシンドロームとは 体脂肪率の測定						
第3回：健康状態の評価						
第4回：免疫学の創設						
第5回：マクロファージの機能・ヘルパーT細胞と免疫系						
第6回：ウィルスの種類と働き						
第7回：免疫系における自己と非自己の認識（1）基礎						
第8回：免疫系における自己と非自己の認識（2）発展 + 課題提示						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。VTR等視覚教材を使用する場合あり。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への積極的参加（20%）。レポート課題（課題の理解とわかりやすい表現、発展的発想 80%）。						

授業科目名： スポーツ実習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：國井 修一 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：バドミントン競技によるスポーツ実践と運動学習。 到達目標：スポーツ・運動の学習を体験するとともに、スポーツを楽しむ術を会得する。						
<b>授業の概要</b> スポーツおよび身体運動の楽しさを体験的に学習するとともに、生涯スポーツとしての学生自身の健康維持・体力づくりの知識と実践方法を理解する。初步的な技術から高度な技術を段階的に習得し、ゲームの流れや駆け引きを考慮して試合に臨むレベルに達する。このような、運動技能の習得について、運動技能の獲得、運動の円滑化や運動プログラムの強化(可塑性)といった運動学習の機序についても体験的に学習する。						
<b>授業計画</b> <p>第1回：教室にてガイダンス(履修者の決定)</p> <p>第2回：十分なストレッチとグリップ・シャトル慣れ</p> <p>第3回：スイングの基本(1)とクリアローテーション</p> <p>第4回：スイングの基本(2)とクリアの習熟</p> <p>第5回：ステップの学習とドロップ</p> <p>第6回：ステップの学習とヘアピン</p> <p>第7回：ハーフコートシングルスとスマッシュ</p> <p>第8回：ハーフコートシングルスからダブルスゲーム</p> <p>第9回：ダブルスリーグ戦（1）ダブルスのルールとリーグ戦の方法</p> <p>第10回：リーグ戦（2）戦術学習（かまえ、リアクションステップ）</p> <p>第11回：リーグ戦（3）戦術学習（フォーメーション）</p> <p>第12回：リーグ戦（4）戦術学習（ローテーション）</p> <p>第13回：リーグ戦（5）戦術学習（スポーツ心理）</p> <p>第14回：実技試験と団体戦（殲滅戦）</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。VTR等を使用。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への意欲的な参加（30%）。理解度・上達度（20%）。実技試験（50%）。						

授業科目名： スポーツ実習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中 絵実 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：卓球競技によるスポーツ実践と運動学習。 到達目標：卓球の基礎技術を身につけ、ゲームを楽しむことができる。実技を通して、心身の健康維持・増進のために生活にスポーツを取り入れる利点について理解する。						
<b>授業の概要</b> 初めに卓球の基礎技術の習得を行ったのち、ゲームのルールを理解し、ゲームを楽しめるようになることを目指す。また、生涯スポーツの意義や自分にとっての健康・運動とは何かを身体活動を通して感じ、考えることを目指す。実技を通して、生涯にわたり健やかな身体を維持するために、スポーツが担う役割について理解する。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：道具に親しもう 第3回：サーブ、レシーブを打ってみよう 第4回：フォアーハンド、バックハンドを打ってみよう 第5回：左右に打ち分けてみよう 第6回：前後に打ち分けてみよう 第7回：スマッシュを打ってみよう 第8回：卓球のルールを知ろう 第9回：ゲーム（シングルス1）シングルスのルール説明、リーグ戦前半 第10回：ゲーム（シングルス2）リーグ戦後半、シングルスの振り返り 第11回：ゲーム（ダブルス1）ダブルスのルール説明、リーグ戦前半 第12回：ゲーム（ダブルス2）リーグ戦続き 第13回：ゲーム（ダブルス3）リーグ戦後半、ダブルスの振り返り 第14回：ゲーム（団体戦1）団体戦のルール説明 第15回：ゲーム（団体戦2）と授業のまとめ						
<b>テキスト</b> 特に指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜配付する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業への積極的な参加と毎回記入する実践記録90%、最終回の振り返りレポート10%。						

授業科目名： コンピュータと 情報 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 博行 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 文書処理を中心とした情報リテラシー 到達目標：大学生活及びその後の社会生活において必要なパソコン操作の知識を身に付ける。特に、文書作成の操作方法を修得する。						
<b>授業の概要</b>						
今日の情報化社会において、コンピュータや情報通信ネットワークは様々な分野で利用されている。そこで、これから社会や教育現場で必要な情報リテラシーを身につける。具体的には、文書処理（ワープロ）を中心に、電子メールの送受信、プレゼンテーション用ソフトウェアによる情報発信や多くの小学校に導入されている学習支援ソフトウェアの操作方法を修得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：パソコン(Windows)の基本操作						
第2回：電子メール、情報モラル						
第3回：Word の基礎 日本語入力、文書の作成						
第4回：Word の活用(1) 編集機能						
第5回：Word の活用(2) 表の編集、画像の挿入						
第6回：Word の活用(3) 画像の利用、総合演習(1)						
第7回：Word の活用(4) 図形描画						
第8回：Word の活用(5) 段組み						
第9回：Word の応用(1) 差し込み印刷、総合演習(2)						
第10回：Word の応用(2) グラフの挿入						
第11回：Word の応用(3) その他の機能						
第12回：情報セキュリティ、総合演習(3)						
第13回：PowerPoint の操作方法						
第14回：PowerPoint 作品制作						
第15回：小学校向け学習支援ソフトウェア						
<b>テキスト</b>						
実教出版株式会社『30 時間でマスターWord 2019』（実教出版）（参考価格：1,045 円）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
指定しない						
<b>学生に対する評価</b>						
実技テストや毎回提出する課題の達成状況：70% 受講態度等の授業への参加姿勢：30%						

授業科目名： コンピュータと 情報II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 博行 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 表計算ソフトウェアを中心とした情報リテラシー 到達目標：大学生活及びその後の社会生活において必要なパソコン操作の知識を身に付ける。特に、表計算ソフトウェアの操作方法を修得する。						
<b>授業の概要</b>						
今日の情報化社会の中で教育界においても、コンピュータの活用能力はますます重要になっている。そこで、コンピュータやソフトウェアについて理解し、実際に利用できるようにする。具体的には、表計算ソフトウェアによる基本的な統計処理や関数の使用法について理解し、その活用方法に関する知識や技術を修得する。さらに、簡単なプログラミングについても扱う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：Excel 入門						
第2回：基本操作						
第3回：簡単な関数						
第4回：グラフの作成(1) 基礎						
第5回：グラフの作成(2) 応用						
第6回：データベース機能						
第7回：関数活用(1) 順位付け						
第8回：総合演習(1) Excel 活用						
第9回：関数活用(2) 検索						
第10回：関数活用(3) 文字列						
第11回：関数活用(4) データベース関数						
第12回：Excel の応用(2) シート間の計算、貼り付け						
第13回：Excel の応用(1) 条件付き書式						
第14回：総合演習(2) Excel 応用						
第15回：ビジュアルプログラミング						
<b>テキスト</b>						
実教出版株式会社『30時間でマスターExcel 2019』（実教出版）（参考価格：1,045円）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
指定しない						
<b>学生に対する評価</b>						
実技テストや毎回提出する課題の達成状況：70% 受講態度等の授業への参加姿勢：30%						

授業科目名： 教育本質論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 博美 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 変革の時代をこえ、分断に向きあう人間形成、学校教育、生涯学習を考える</p> <p>到達目標：わが国の教育の現状や子どもや若者の課題について、変化する社会や文化とのかかわりを学ぶことで、教師になるにあたっての必要な考え方や姿勢を身につける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>変貌するわが国社会において、教育に求められている課題はどのようなものであるかを考える。学校教育の果たす役割、学校教育や大学教育が直面している問題やその解決にむけての取組み、変化する社会への対応とともに変わりつつあるわが国教育文化の特徴を調べることによって、教育者に求められる基本的な視点や姿勢を育成する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：変革の時代と教育（SDGs、Society5.0社会における教育政策（新学修指導要領、GIGAスクール構想、働き方改革、OECD「ラーニングコンパス2030」）と教育の課題（デューイ『民主主義と教育』）						
第2回：教育と教育学（ルソー『エミール』、コメニウス『大教授学』、ロック『教育についての考察』、カント『教育学』、ヘルバート『教育学講義要綱』、デュルケム『教育科学』）						
第3回：近代学校教育制度の相対化（寺子屋・藩校・私塾、大原幽斎「換え子教育」、ヘヤー・インディアンの教育と文化、非認知能力、「スタートカリキュラム」、「生きる力」、モンテッソーリ「自己教育力」、インクルーシブ教育）						
第4回：家族と学校教育制度（アリエス『〈子供〉の誕生』、身体知と形式知、学校の歴史、ペスタロッチ『隠者の夕暮れ』、フレーベルの就学前教育、学校としつけ）						
第5回：デューイに見るこれからの学び（デューイ『民主主義と教育』、非認知能力、「主体的で対話的で深い学び」、コンピテンシー、STEAM教育）						
第6回：学力の捉え方（PISA、「生きる力」、コンピテンスとPISA型リテラシー、教育課程とめざされる資質・能力、OECD「ラーニングコンパス2030」、エージェンシー）						
第7回：学力の測定と評価（国家と統計、知能指数（IQ）、アチーブメント・テスト、相対評価、到達度評価、方向目標、到達目標、真正の評価、標準化テスト）						
第8回：学校と不平等（メリトクラシー、ペアレントクラシー、ブルデュー「文化資本」「文化的再生産」、ウィリス『ハマータウンの野郎ども』、不平等のは正と学校教育）						
第9回：学校教育とケア（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どもの貧困、不登校、学びの共同体論、ケアリング教育、被災地の学校教育、日本型学校教育）						
第10回：ICTと学校教育（SNS、EdTech、GIGAスクール構想、デジタル教科書、プログラミング教育、ベル=ランカスター（助教）法、イリイチ「脱学校論」「機会の網状組織」、情報モラル教育）						
第11回：道徳教育の歴史と展望（近代における自律的道徳主体（カント）、修身科、全面主義・特設主義、特設「道徳の時間」、「道徳」の教科化、キャラクター・エデュケーション、価値解明論（明確化）、モラルディレンマ・ディスカッション、道徳的直感）						

第12回：宗教と学校教育（宗派教育と宗教理解教育、政教分離の原則）

第13回：グローバル社会における教育（グローバル人材、グローバル市民、持続可能な開発のための教育（ESD）、グローバル・シティズンシップ教育（GCED）、ユネスコスクール、アイデンティティ）

第14回：性の多様性と教育（性的マイノリティ、隠れたカリキュラム、ジェンダー規範と異性愛規範、学修指導要領、SOGI、批判的教育学）

第15回：教師の仕事（教師の働き方と改革、教師をめぐる制度と文化、教育課程外の部活動）

#### 定期試験

##### テキスト

松下晴彦・伊藤彰弘・服部美奈（編）『教育原理を組みなおす』名古屋大学出版会

##### 参考書・参考資料等

授業で適宜紹介する。

##### 学生に対する評価

授業終わりの確認問題(50%)、期末発表またはレポート(50%)

授業科目名： 教育本質論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：張 林倩 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 変革の時代をこえ、分断に向きあう人間形成、学校教育、生涯学習を考える 到達目標：わが国の教育の現状や子どもや若者の課題について、変化する社会や文化とのかかわりを学ぶことで、教師になるにあたっての必要な考え方や姿勢を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
変貌するわが国社会において、教育に求められている課題はどのようなものであるかを考える。学校教育の果たす役割、学校教育や大学教育が直面している問題やその解決にむけての取組み、変化する社会への対応とともに変わりつつあるわが国教育文化の特徴を調べることによって、教育者に求められる基本的な視点や姿勢を育成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション—講義内容の説明—						
第2回：教育とは何か—教育の概念と教育科学の方法—						
第3回：人間の発達と教育						
第4回：子ども観と教育						
第5回：近代学校教育の誕生						
第6回：国民国家と教育						
第7回：社会変動と教育						
第8回：近代の教育思想（中間まとめ）						
第9回：グローバル時代における多文化教育						
第10回：メディア革新と教育の情報化						
第11回：新しい学力観						
第12回：エビデンスに基づく教育						
第13回：ジェンダーと教育						
第14回：生涯教育						
第15回：総括—授業要点の再確認—						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業で適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
期末レポート（70%）、リアクションペーパー3回程度実施（30%）						

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：廣瀬 帆曜 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：ひとり一人が目指す教師像を明確にして学ぶ意欲を高めるには</p> <p>到達目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義及び役割について理解すること、教員の資質能力および職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）を理解すること、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することを到達目標とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>現在の学校教育においては、教師が学内外の多様な人材と連携しながら、児童生徒の学びを引き出し支援する役割を担っている。教育現場には、学力の向上、いじめや不登校、問題行動の多発化と低年齢化に対する対応等の課題があり、教師にはこれらの課題に適切に対応できる力が求められている。本授業では、具体的な事例を通して、「教職の意義と役割にたいする理解」「幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する知識の修得」「目指す教師像の構築」等をねらいとする。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：教師になることの意味<公教育の目的、教員の存在意義、職業的特徴、身分保障、教員免許状等>						
第2回：現代の教師の1日の仕事内容<児童生徒への指導と校務分掌>						
第3回：今日の学校現場で求められている教師の指導力とは<児童生徒理解と教材研究>						
第4回：児童生徒の学びを引き出すための教師に必要な指導技術I <発問・助言・指名の仕方等>						
第5回：児童生徒の学びを引き出すための教師に必要な指導技術II <教材提示・挙手・発言のさせ方>						
第6回：幼児・児童・生徒とのかかわり方I <生徒指導場面において>						
第7回：幼児・児童・生徒とのかかわり方II <学習指導場面において>						
第8回：幼児・児童・生徒とのかかわり方III <障がいのある幼児・児童・生徒への対応>						
第9回：保護者とのかかわり方I <保護者との信頼関係を築くには>						
第10回：保護者とのかかわり方II <保護者からの苦情への対応>						
第11回：教師の指導力向上のために必要なことI <教員の自己評価>						
第12回：教師の指導力向上のために必要なことII <教員の研修>						
第13回：専門性を生かした連携・分担によるチーム学校としての対応						
第14回：目指す教師像について<教員に求められる役割、資質能力>						
第15回：教師になるために何が必要か<服務義務>						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。作成した教師論學習ノートを配付する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
小島弘道・北神正行・平井貴美代著「教師の条件」学文社 高見茂監修「必携教職六法 2023年度版」協同出版						
<b>学生に対する評価</b>						
小テスト(20%)、期末テスト(50%)、小論文と小論文に対する意見(30%)						

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 敏博 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： 求められる教師の資質・能力 到達目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義及び役割について理解すること、教員の資質能力および職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）を理解すること、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することを到達目標とする。						
<b>授業の概要</b> 現在の教育課題を様々な視点からとらえ、いま求められている教育の方向性を知り、これから教師に求められる資質・能力について考察する。						
<b>授業計画</b> 第1回：教師の存在意義、教師の仕事とは、教職を取り巻く様々な問題 第2回：教師の社会的意義、教職の楽しさ、やりがい、求められる教師像 第3回：教師に求められる役割と職務内容、学校で身につけさせる力 第4回：教育の動向、新学習指導要領の理念と改定の方向性 第5回：チーム学校としての学級経営（1）「外国人児童生徒」、「LGBT」等への対応 第6回：チーム学校としての学級経営（2）いじめ・不登校等の生徒理解上の課題と解決策 第7回：チーム学校としての学級経営（3）保護者対応と保護者との関係づくり 第8回：教師に求められる資質能力、特別支援教育、インクルーシブ教育への理解と実践 第9回：教師に求められる資質能力、「特別な教科 道徳」、「総合的な学習の時間」の理論と実践 第10回：教師に求められる資質能力、ICTの活用、個別最適な学びと協働的な学びづくり 第11回：世界の教育事情と学校、教育制度 第12回：教師に求められる「社会人基礎力とコミュニケーション力」、教師間連携 第13回：教師にとっての学びとリフレクション、研修する教師 第14回：求められる学校力および教師の資質・能力、服務上・身分上の義務 第15回：自分が考える理想の教師像 <b>定期試験</b> テキスト 指定しない						
<b>参考書・参考資料等</b> 授業で適宜紹介します						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度（30%）、振り返りレポート（40%）、課題レポート（30%）						

授業科目名： 教育制度と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂野 愛実 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学 校安全への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校教育を中心とした教育に係る法制度の理解－「教育を受ける権利」・学習権の内実保障 を目指して－						
到達目標：本授業では、子どもたちの「教育を受ける権利」・学習権の内実を保障していくために必要な教育の法と制度に関わる基本的知識の修得と日本の教育が抱える問題・課題を見つけ出し、また、理解し、その解決へ向けた方策を提示するための力の獲得を目的とします。そして、次の3点を授業の到達目標とします。						
(1) 教育法制によりいかに個々人の成長発達が保障され、また公教育の実態として指摘される問題・ 課題を理解できるようになること。 (2) 教育法制をより深く考察するために必要な情報を収集する方法とその活用の仕方を身につけること。 (3) (1)(2)を踏まえ、自分の考えをまとめ、提示できるようになること。						
<b>授業の概要</b>						
本授業は、教育法制によっていかに個々人の成長発達が保障されうるのか、また、保障するためにはどのように法制度を整備する必要があるのか、ということを公教育の実態から指摘されている問題を通して理解するとともにグループワークやリアクションペーパーより自分の考えをさらに深めていくような内容となっています。						
具体的に取り扱うテーマは下記の授業計画に示されている通りですが、各授業の流れおよびつながりとして、はじめに権利保障の根拠を日本国憲法と教育基本法で確認しながら、それが下位法においていかに具体化されているのか、またそれによる日本の教育実態が国際法および各国の教育実態と比較してどのように位置づけられるのかをテーマごとにみていくものとなっています。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション－「教育を受ける権利」の社会権的側面と自由権的側面						
第2回：子どもの権利－子どもが抱える困難にどのように向き合うか						
第3回：教育の法と制度（1）－教育法のしくみ						
第4回：教育の法と制度（2）－学習指導要領の性格と教育内容の豊かさを求めて						
第5回：日本国憲法と教育基本法（1）－教育制度の歴史的転換とその意義						
第6回：日本国憲法と教育基本法（2）－2006年教育基本法の特徴						
第7回：教育の目的と目標－新教育基本法とどのように向き合うか						
第8回：学校の制度－法律に定められている学校とそれ以外の教育施設						
第9回：義務教育の制度－すべての子どもの学びが保障される義務教育へ						
第10回：教育の機会均等（1）－子どもを取り巻く地域および社会のあり方を考える						
第11回：教育の機会均等（2）－義務教育修了後の教育機会の保障						
第12回：教職員の制度（1）－教員の地位と教育の自由						
第13回：教職員の制度（2）－子どもの学ぶ環境の安全性を確保するために						
第14回：教育行政の制度－関係機関との連携および住民参加による学びの豊かさの実現を目指して						
第15回：まとめ－教育法制が有する二面性を再び考える						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
指定しません。						
各授業では、授業の内容をまとめたプリント（レジュメ）およびそれに関連する資料をまとめたプリント（資料）を配付します。両プリントにおいて参考文献・資料をその都度、提示していきます。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
上記「教科書」の通り、レジュメと資料に提示しているものをご確認ください。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末試験（60%）、小レポート（25%）、平常点（15%）により評価を行います。						

授業科目名： 発達と学習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮川 充司 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 到達目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動と指導の基礎となる考え方を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
生涯発達心理学や教授・学習心理学といった、人間発達や学校教育に関する教育心理学の諸分野の代表的な理論や概念・科学的研究の知見について学び、教師に必要な科学的・客観的なアプローチ・理解の枠組について、学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション（授業の概要と大学での学び方）						
第2回：生涯発達の概念と人間発達の区分（発達の概念の変遷、生涯発達の区分と特徴）						
第3回：人間発達に及ぼす要因（遺伝と環境：人間発達に及ぼす多要因と相互作用）						
第4回：生涯発達の理論（ピアジェといった古典的な発達理論から、バルテスの多元論的相互作用説）						
第5回：胎児期から乳児期へ（出生以前の胎児の発達から新生児にかけての発達）						
第6回：乳児期（乳児期の運動・言語・認知・社会的微笑や愛着形成等の発達）						
第7回：ピアジェ理論（乳児期から青年期までの認知・思考・道徳性の発達の特長と理論）						
第8回：幼児期と心の理論（心の理論・自己統制機能の発達、知的好奇心の育成と幼児教育）						
第9回：児童期と学校教育（児童期の認知・思考・社会性等の発達、日本の学校教育と学力）						
第10回：児童期に発達するメタ認知機能と学習指導（メタ認知機能の発達と主体的な学びの促進）						
第11回：青年期前期（第二次性徴と反抗、自己概念・親子関係・友人関係の発達）						
第12回：青年期から成人期前期（エリクソン理論とアイデンティティの形成、自己概念と社会適応）						
第13回：さまざまな授業方法（発見学習・問題解決学習・小集団学習・プログラム学習等）						
第14回：学習意欲と教育評価（ブルームの完全習得学習と学習評価、内発的動機づけと外発的動機づけ、ICTの活用等主体的な学習活動を支える考え方や方法）						
第15回：学級の中の人間関係（幼児・児童・生徒の発達の特徴に応じた学習の基盤となる学級づくりと、健全な人間関係の発達促進のための学級のリーダーや教師の役割）						
<b>定期試験</b>						
テキスト 宮川充司・大野久・谷口明子・大野木裕明編 『子どもの発達と学校[第3版]1 発達と学習の心理学』 ナカニシヤ出版						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考書はトピックに関連して随時紹介する。参考資料は随時配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
筆記試験（60%）、課題レポート（40%）						

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松村 齋 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 到達目標：通常学級にも在籍する発達障害(神経発達症群)等の多様な特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒についての心身の発達や困難の特徴を理解し、支援していくための基礎知識と方法を理解する。						
<b>授業の概要</b> 心身障害児や神経発達症群(発達障害)、子どもの虐待や子どもの貧困や外国籍の子ども等、多様な特別支援教育のニーズをもつ子ども達の困難と支援の方法、インクルーシブ教育や特別支援コーディネーター等の学校教育の中の支援組織について、学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション(特別支援教育と特別な支援を必要とする多様な子ども)						
第2回：特別支援教育の概念と制度						
第3回：特別支援学校と特別支援学級						
第4回：心身障害と特別支援学校						
第5回：乳幼児検診と発達の遅れ・障害						
第6回：神経発達症群(発達障害)の理解						
第7回：知的能力障害群(知的障害)の理解と支援						
第8回：限局性学習症(SLD、学習障害)・運動症群(運動障害)の理解と支援						
第9回：注意欠如・多動症(ADHD)の理解と支援						
第10回：自閉スペクトラム症(ASD) の理解と支援						
第11回：コミュニケーション症(コミュニケーション障害)の理解と支援						
第12回：子どもの貧困						
第13回：子ども被虐待とその後遺症						
第14回：日本語教育と多文化共生社会						
第15回：特別支援教育のまとめ(インクルージブ教育)						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 「特別支援教育 子どもや保護者と響き合う 実践アプローチ 60」 2,200 大学図書出版						
<b>参考書・参考資料等</b> 指定しない 随時資料を配付する						
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験 70%、小レポート 30%						

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 洋一 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 資質・能力を育て、深い学び・Well-being につなげるカリキュラム・マネジメント</p> <p>到達目標：カリキュラムを構成する考え方や教授・学習過程の特徴を理解し、カリキュラム・マネジメントや指導方法の基本的知識と技能を身につける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>これからの中等教育では不確実な社会を創造的に生き抜き、個人的・社会的にも幸福になるための（Wellbeing）カリキュラムデザイナーとしての力量、資質・能力育成能力が求められる。そのためには、教員として学び続ける主体性の在り方、そして、学んだことを概念化したり、経験や情報と統合し未知の課題を発見・探究できたり、価値ある「課題発見・解決能力」につなげられることが必要である。</p> <p>授業では実践紹介と考察、カリキュラム編成の方法、授業診断・分析、学習評価等を検討する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：資質・能力育成の世界的動向と歴史的背景、国家戦略としてのコンピテンシー						
第2回：学習指導要領の性格・位置と教育課程編成の目的・方法、諸課題						
第3回：学習指導要領改訂の変遷、戦後以降の改訂内容と社会的背景						
第4回：教育課程編成の基本原理、学校の教育実践に即した教育課程編成の方法						
第5回：教育課程編成におけるカリキュラム・マネジメントの意義・重要性と考え方						
第6回：単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野からの教育課程・指導計画						
第7回：幼児・児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえた教育課程・指導計画						
第8回：カリキュラム評価の考え方と資質・能力育成（「真正の評価」と教育課程）						
第9回：授業デザイン研究1－教科を学ぶ本質的価値（見方・考え方）と授業診断・分析の観点－						
第10回：授業デザイン研究2－「深い学び」につなげる探究・統合型カリキュラム－						
第11回：授業デザイン研究3－「主体的・対話的で深い学び」「真正な学び」－						
第12回：授業デザイン研究4－教科等横断的な視点とカリキュラム・マネジメント－						
第13回：授業デザイン研究5－学校教育課程全体のマネジメント（伝統文化、言語）－						
第14回：授業デザイン研究6－「個別最適な学び」「協働的な学び」とマネジメント－						
第15回：授業デザイン研究7－言語能力の位置とまとめ（エッセイ・論述、メタ認知等）－						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
松尾知明著『新版 教育課程・方法論』（学文社）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
自作資料（配付）						
『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）						
『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）						
『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月 文部科学省）						
『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月 文部科学省）						
『現代カリキュラム研究の動向と展望』（2019年）等						
<b>学生に対する評価</b>						
1、毎回の振り返りシートの作成・提出（学習の到達度・理解度）(40%)						
2、総合的な課題発見・解決能力、主体性等をみる論述レポート(30%)						
3、グループワークやディスカッション等の協働的な学びと質的価値(30%)						

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 向達 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ： カリキュラム関連知見にもとづく学習指導要領の理解と学習指導案づくり 到達目標：カリキュラムを構成する考え方や教授・学習過程の特徴を理解し、カリキュラム・マネジメントや指導方法の基本的知識と技能を身につける。						
<b>授業の概要</b> カリキュラムを扱うには、今日の教育全般に関する多角的な問題意識が必要とされるので、教育基礎、教育方法、学習科学、評価、教育・学習心理、教育社会学、教育工学などの分野についても必要な知識を概観して考えを深めたい。また今後学習指導要領で目指される資質・能力と「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業作りについて、ICT機器を積極的に活用したものも模索していく。 そのうえで、評価規準表や学習指導案など役割について、学習指導要領を踏まえ、現場における活用との関係を見直す観点から作成に必要な知識の理解を深め、具体的な成果物をつくっていく。						
<b>授業計画</b> 第1回：講義ガイダンス：我が国の教育課程制度のしくみ 第2回：教育とカリキュラム：学習指導要領の変遷と平成29,30,31年改訂の学習指導要領の意義と位置づけ 第3回：インストラクショナルデザイン：教材研究と授業デザイン原理の知識理解 第4回：学習指導案(1)：評価規準表と指導案への対応、作成の方法 第5回：学習指導案(2)：単元と本時の関係、発問と展開の組立 第6回：教育課程(1)：新しい学習指導要領の方向性(資質・能力の3つの柱/主体的・対話的で深い学び) 第7回：教育課程(2)：評価と目標との筋道を明確にした授業計画の必要性 第8回：学習科学：児童生徒の認知理解のしくみを配慮した授業づくり 第9回：コミュニケーションと教育実践：児童生徒の実態の重要性と実際の指導のやり取りの想定 第10回：カリキュラムと情報化：学習指導要領と「手引き」にもとづくICT活用 第11回：学習指導案(3)：タキソノミー/評価と指導改善、計画の整合性確認 第12回：授業実践記録：授業実践後の記録のあり方を考える 第13回：カリキュラムの社会学：社会背景における教育課程の関係と意味の探究 第14回：カリキュラムの開発とデザイン：教育課程と教育実践を接続するための枠組みの理解 第15回：これからの社会と学校教育：学習してきたことの振り返りと成果物にもとづいた講義内容の定着 <b>定期試験</b> テキスト 教科書指定はない。ただし、学習指導要領と各自作成する指導案が対象とする教科の手引き書や関係資料が参照できるように文献資料を準備すること。						
<b>参考書・参考資料等</b> 稻垣忠 編著『教育の方法と技術 Ver.2』2022（北大路書房） 広岡義之 編著『はじめて学ぶ教育課程』（ミネルヴァ書房） 稻垣忠・鈴木克明 編著『授業設計マニュアル』（北大路書房） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省） 『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月 文部科学省） 他、講義内でも紹介する。						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度とコメント用紙提出を含む平常点(40%)、および評価規準・指導案とレポート等の提出課題(60%)を評価。						

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山田 真紀、相川 保敏、安達 理恵 担当形態：オムニバス			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・総合的な探究の時間の指導法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 「総合的な学習(探究)の時間」の意義と効果的な指導法の理解 <b>到達目標：</b> 「総合的な学習(探究)の時間」は、探究的な見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すものであることを理解する。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために必要な「指導計画の作成」「具体的な指導の仕方」「学習活動の評価」に関する知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 総合的な学習(探究)の時間の意義、改訂のねらいを理解し、中学校・高等学校において生徒の探究的なプロセスを繰り返していくような具体的な実践を探究課題の類別ごとに検討していく。こうした授業内容を基にして、単元計画・年間指導計画・全体計画を作成していくようとする。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション・総合的な学習(探究)の時間の創設と変遷（担当：山田 真紀） 第2回：学習指導要領改訂・カリキュラムマネジメント・社会に開かれた教育課程（担当：山田 真紀） 第3回：全体計画と単元づくり（地域資源の活用）（担当：山田 真紀） 第4回：横断的・総合的な課題の実践検討（担当：相川 保敏） 第5回：地域や学校の特色に応じた課題の実践検討（担当：相川 保敏） 第6回：「主体的で対話的で深い学び」の授業づくり—思考ツールとリフレクション（担当：安達 理恵） 第7回：先進的な「総合的な学習(探究)の時間」の取り組みの紹介（担当：安達 理恵） 第8回：総合的な学習(探究)の時間の充実に向けた校内研修（担当：安達 理恵） <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（平成30年7月 文部科学省）						
<b>参考書・参考資料等</b> 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度 30%、課題提出 30%、指導計画 40%						

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山田 真紀 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 特別活動と人間形成、効果的な特別活動の指導法</p> <p>到達目標：学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの観点や「チームとしての学校」の観点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>中学校および高等学校の学習指導要領「特別活動」の構造と内容の理解。学習指導要領解説「特別活動編」を熟読し、下位領域それぞれのねらいと指導方法を把握したうえで、中学校・高等学校における優れた実践例を紹介することで、将来、教師になったときに特別活動を適切に指導できるだけの実践力と知識を身に付ける。授業は講義形式で進められるが、小グループでのディスカッションやアクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業内容ガイダンス。中学校および高等学校の学習指導要領「特別活動」の構造と概要の理解。						
第2回：中学校および高等学校の学習指導要領解説 特別活動編「学級活動」を読む。						
第3回：話し合い活動の指導方法。小中連携を目指した中学校・高等学校の先進的実践例の紹介。						
第4回：中学校および高等学校の学習指導要領解説 特別活動編「生徒会活動」を読む。						
第5回：生徒会活動の指導方法。中学校・高等学校における先進的実践例の紹介。						
第6回：中学校および高等学校の学習指導要領解説 特別活動編「学校行事」を読む。						
第7回：「旅行・集団宿泊的行事」の企画。トヨタ産業技術記念会館を会場として。						
第8回：中学校および高等学校の学習指導要領「特別活動」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の理解。						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月 文部科学省）						
『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年7月 文部科学省）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）						
『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b>						
授業内で課すミニレポートの内容(30%)、授業への参加態度(30%)、最終レポート(40%)をもとに総合的に評価する。						

授業科目名： 教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：亀井(塘) 美穂子 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教育方法の理論と技術 <b>到達目標：</b> これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 教育方法の基礎的な理論・技術を中心に解説する。具体的には、教授理論、主体的・対話的で深い学び、授業を構成する要件、学習評価の方法、学習指導案の作成方法について、中学校及び高等学校の実践例を中心に紹介する。また、情報通信技術の活用の意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進、情報活用能力を育成するための指導法について解説する。						
<b>授業計画</b> 第1回：教育方法の基礎的な理論と実践 第2回：学習指導案の作成方法 第3回：授業技術の基礎的な理論（話法、板書など） 第4回：授業を構成する基礎的な要件（学級・生徒・教員・教室・教材など） 第5回：学習評価の理論と方法 第6回：主体的・対話的で深い学びについて 第7回：模擬授業（授業技術の実践と教材開発） 第8回：情報活用能力（情報モラルを含む。）育成の指導方法 第9回：情報通信技術の活用の意義と在り方 第10回：特別の支援を必要とする生徒に対する情報通信技術活用の意義と活用 第11回：外部人材や外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方 第12回：情報通信技術を活用した指導事例の理解と基礎的な指導法 第13回：学習履歴などの教育データの指導や評価への活用と、情報セキュリティの重要性 第14回：遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法の理解 第15回：情報通信技術を効果的に活用した校務推進の理解 定期試験						
<b>テキスト</b> 稲垣忠ほか『教育の方法と技術 Ver.2: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房(2022)						
<b>参考書・参考資料等</b> 久保田賢一、今野貴之『主体的・対話的で深い学びの環境とICT』東信堂（2018） 稲垣忠、鈴木克明『授業設計マニュアル—教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房（2011） 赤堀侃司『授業の基礎としてのインストラクショナルデザイン』日本視聴覚教育協会（2006） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省） 『中学校学習指導要領解説』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説』（平成30年7月 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加態度（30%）、課題レポート（40%）、テスト（30%）の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。						

授業科目名： 教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古市 直樹 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教育方法の理論と技術 <b>到達目標：</b> これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 教育方法の基礎的な理論・技術を中心に解説する。具体的には、教授理論、主体的・対話的で深い学び、授業を構成する要件、学習評価の方法、学習指導案の作成方法について、中学校及び高等学校の実践例を中心に紹介する。また、情報通信技術の活用の意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進、情報活用能力を育成するための指導法について解説する。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス： 「GIGAスクール構想」におけるICT活用方法を見据えて 第2回：教育方法についての「そもそも論」： 物理的な学校の意味や必要性、オンライン教育の意義や安全性など 第3回：学校における教育の日常 第4回：教えることと育てること 第5回：教育における協同： 同僚とともに教育をデザインすること—特に統合型校務支援システムなどによる校務推進について— 第6回：教育方法とジェンダー 第7回：プロジェクトを通じた学び①： 思考と探究—特にICTによる「個別最適化」について—（指導事例の理解） 第8回：プロジェクトを通じた学び②： コミュニケーションと協同—特にICTに基づく「協働的な学び」やケア、外部人材や外部機関との連携の在り方について—（指導事例の理解） 第9回：近年の学習科学の知見： ICTを活用した分析と評価に向けて 第10回：発達論に基づく「主体的・対話的で深い学び」理解 第11回：「主体的・対話的で深い学び」のための教師の役割 第12回：「真正の学び」を実現するための授業デザイン： 「スタディ・ログ」など教育データの指導や評価への活用として 第13回：授業におけるICT活用①： 思考の道具として（指導事例の理解） 第14回：授業におけるICT活用②： コミュニケーションの道具として—情報モラルを含む情報活用能力の基礎的な指導法の事例—（指導事例の理解） 第15回：総合的な省察： 「GIGAスクール」としてのICT環境の可能性の考察 定期試験						

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)  
高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示 文部科学省)  
中学校学習指導要領解説(平成 29 年 7 月 文部科学省)  
高等学校学習指導要領解説(平成 30 年 7 月 文部科学省)

学生に対する評価

以下の 2 つを評価対象とします。

- ①毎回のワークシートの 1・2 ページ目の記述内容 … 50%
- ②毎回のワークシートの 3 ページ目の記述内容（「グループワークに基づく新たな自身の考え方」）… 50%

授業科目名： 教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本 将暢 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教育方法の理論と技術 <b>到達目標：</b> これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 教育方法の基礎的な理論・技術を中心に解説する。具体的には、教授理論、主体的・対話的で深い学び、授業を構成する要件、学習評価の方法、学習指導案の作成方法について、中学校及び高等学校の実践例を中心に紹介する。また、情報通信技術の活用の意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進、情報活用能力を育成するための指導法について解説する。						
<b>授業計画</b> <p>第1回：情報社会を生きる子どもに求められる資質・能力〔社会の情報化への対応〕</p> <p>第2回：教育方法の基礎理論〔欧米の教育方法と日本の教育方法〕</p> <p>第3回：授業の基礎的な教育技術〔個性的な学び・納得のある学び・協働のある学び〕</p> <p>第4回：授業設計と学習指導案〔模擬授業のデザイン〕</p> <p>第5回：学習過程と学習成果の評価</p> <p>第6回：模擬授業の実施</p> <p>第7回：教育実践の開発と改善〔模擬授業の振り返り〕</p> <p>第8回：ICT活用の意義と環境整備〔特別支援教育でのICT活用・外部との連携を含む〕</p> <p>第9回：授業におけるICT活用〔資質・能力や学習場面に応じたICTの活用事例を含む〕</p> <p>第10回：教育ビッグデータの活用〔資質・能力や学習場面に応じたICTの活用法を含む〕</p> <p>第11回：ICTによる教師の働き方改革〔学習評価・オンライン学習・統合型校務支援を含む〕</p> <p>第12回：情報活用および情報機器活用の指導〔情報モラル・情報リテラシーを含む〕</p> <p>第13回：教師が有すべき情報機器活用に関わる職業倫理〔教育情報セキュリティを含む〕</p> <p>第14回：ICTを活用した授業研究（指導案分析および授業分析）</p> <p>第15回：全体のまとめ〔教育技術とICTの活用による主体的・対話的で深い学びに向けて〕</p> <p><b>定期試験</b></p>						
<b>テキスト</b> 授業内で配布する資料をもとに実施する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 『教育方法学研究ハンドブック』 日本教育方法学会編、学文社						
<b>学生に対する評価</b> 授業で指示する課題(75%)、最終レポート(25%)を評価（知識30%、技能30%、考察40%）						

授業科目名： 生徒指導と進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：羽根田 秀夫 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<b>テーマ：</b> 学校が当面している生徒指導と進路指導の諸課題への理解と具体的な対応 <b>到達目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</li> <li>・進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、教職を目指す人が、生徒指導および進路指導について、理念や指導の在り方および学校が当面している諸課題を理解し、それらの指導に必要な実践的な力を身に付けることを主なねらいとしています。そこで、本授業では、「生徒指導・進路指導の在り方」「（個別の課題を抱える個々の児童生徒への指導について）学び考える」「学校における今日的課題とその対応」「教師力を育み高める」という4つの窓を順に設け、学校での実践例に基づいて具体的にアプローチする中で、理論を踏まえつつ実践に生きるバックボーンを築いていきます。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーションおよび生徒指導・進路指導の在り方（1）生徒指導・進路指導の定義・意義						
第2回：生徒指導・進路指導の在り方（2）自己指導能力を高めるための「自己決定」						
第3回：生徒指導・進路指導の在り方（3）キャリア教育の理念と展開						
第4回：学び考える（1）不登校の理解と対応						
第5回：学び考える（2）いじめの分析と対応						
第6回：学び考える（3）児童虐待への対応						
第7回：学び考える（4）問題行動の理解と対応						
第8回：学校における今日的課題とその対応（1）不適応&発達障害						
第9回：学校における今日的課題とその対応（2）校則・懲戒・体罰等						
第10回：学校における今日的課題とその対応（3）保護者対応						
第11回：教師力を育み高める（1）説明力&法的視点						
第12回：教師力を育み高める（2）人間関係形成能力の育成						
第13回：教師力を育み高める（3）児童生徒理解に基づいた教育相談&進路相談						
第14回：教師力を育み高める（4）性に関する問題と命の教育						
第15回：教師力を育み高める（5）これからの時代において						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
各授業ごとに「授業プリント」を配付します。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業の中で、随時紹介します。						

### 学生に対する評価

①：毎回の講義内容について、「学んだこと・意見・疑問点・思ったこと感じたこと」を100字以内で提出していただくことによって、「態度・志向性」「思考・判断」「知識・理解」の観点で評価します。②：3回のレポート（400字以内）では、「学んだことや疑問に思ったことに基づいて、調べたり考えを深めたりしての自分の考え方」を述べていただき、「思考・判断」「知識・理解」「技能・表現」の観点で評価します。あわせて、試験（800字以内の論文）において、「課題に対して、自分の考え方を自分の言葉として述べているか、具体的に現実可能なものとして述べているか」をポイントに、「思考・判断」「知識・理解」の観点で評価します。③：成績は、①（56%）②（44%）という配分を基準に、総合的に評価します。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：川島 一晃 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 教育相談・スクールカウンセリング・発達支援						
到達目標：						
・教育相談、学校カウンセリング、スクールカウンセリングの構造と機能について知る。 ・児童生徒を取り巻く課題とその対応について知る。 ・教育相談を実践することができる力の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
学校における教育相談・学校カウンセリングにかかわるトピックを学んでいく。学校カウンセリングの基礎概念や基礎技法について、一般的なカウンセリングや心理療法、発達障害や適応障害、精神疾患などの理解も併せてカウンセリングマインドにかかわる諸問題について学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション・教育相談とは						
第2回：子どもの「サイン」と教育相談						
第3回：教育相談におけるアセスメント（1）：学校心理学の枠組みと他職種連携						
第4回：教育相談におけるアセスメント（2）：多角的なアセスメント						
第5回：カウンセリングの基礎知識と実践（1）：カウンセリング概説						
第6回：カウンセリングの基礎知識と実践（2）：カウンセリングの環境を素材に考える						
第7回：カウンセリングの基礎知識と実践（3）：カウンセリングの技術を素材に考える						
第8回：カウンセリングの基礎知識と実践（4）：共感的応答の演習						
第9回：カウンセリングの基礎知識と実践（5）：不登校の理解と対応						
第10回：教育相談に関わる精神医学（1）：精神疾患について知る1（内因性精神疾患を中心に）						
第11回：教育相談に関わる精神医学（2）：精神疾患について知る2（心因性精神疾患を中心に）						
第12回：教育相談に関わる精神医学（3）：発達障害について知る						
第13回：教育相談の実際（1）：いじめの理解と援助要請						
第14回：教育相談の実際（2）：連携の理解1：保護者対応と教育相談						
第15回：教育相談の実際（3）：連携の理解2：教師のメンタルヘルスと教育相談						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明 編『スクールカウンセリングと発達支援 改訂版』(ナカニシヤ出版)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
隨時紹介する						
<b>学生に対する評価</b>						
授業のリフレクション（振り返り課題）10%、各講義における課題20%、期末試験70% 以上の各観点を総合し、100点満点として、60点を満たした場合単位を認定する。						

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：堀 英太郎 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校現場に活かす教育相談						
到達目標：						
・教育相談、学校カウンセリング、スクールカウンセリングの構造と機能について知る。 ・児童生徒を取り巻く課題とその対応について知る。 ・教育相談を実践することができる力の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識も含む）の理論および方法を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス：教育相談・スクールカウンセリングとは						
第2回：学校文化と心理文化 - 多職種との連携						
第3回：初回面接の心得						
第4回：アセスメントⅠ（個人の見立て）：事例検討（個人）						
第5回：アセスメントⅡ（集団の見立て）と学校アセスメント						
第6回：事例検討（集団）						
第7回：カウンセリングとは？						
第8回：コンサルテーション						
第9回：緊急支援初動の心得（ポストベンション）						
第10回：心理教育・自殺予防教育（プリベンション）						
第11回：不登校と保護者支援						
第12回：話の聴き方・伝え方						
第13回：その他の学校における問題の理解（いじめ、発達障害、リストカット、SNS、LGBTなど）						
第14回：教育における支援：主な法律						
第15回：教育における支援：行政 - 地域や外部機関との連携						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
大村はま「教えるということ」1996 筑摩書房						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 70%、毎回の振り返り・感想 30%						

授業科目名： 教職実践演習（中・高）		単位数： 2単位	担当教員名： 羽成 隆司	
科 目  履修時期		教育実践に関する科目  4年次後期		
受講者数 10～20人	履修履歴の把握  ○	学校現場の意見聴取  ○		
<b>教員の連携・協力体制</b> 教科専門担当教員と連携し、指導計画の書き方の指導と評価、模擬授業の評価、教科指導力についての検討に関する指導助言を実施する。また、教育実習及び教育実習の事前事後指導担当教員と連携し、教育実習記録を振り返り、教育実習で出た課題を踏まえて本授業を実施する。				
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> テーマ：高校生、中学生を対象にした授業展開および生徒指導の実践的研究 到達目標：教育に対する使命感や情熱、高い倫理観と規範意識をもち、生徒とともに成長していく教職観を理解する。また、教員としての責務と自覚に立ち、組織の一員として他の教職員や保護者との適切な人間関係を形成維持できる適切な社会性や対人関係能力の重要性について理解する。生徒に対して常に公平かつ受容的で、生徒たちへの適切な理解・指導ができ、適正な学級運営のできる信頼できる教師をめざすことが理解できる。教師としての基本的技能や学習指導能力の形成を理解する。				
<b>授業の概要</b> 教職課程の他の科目や教育実習・課外活動等を通して身につけてきた学生の経験・知識を、主として次の4つの項目について発表し、ディスカッションすることで、教職をめざす学生が相互に啓発、統合することで健全な教師像を確立し自らの資質を確認するための機会とする。①教師の使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項。授業の方法としては、模擬授業・役割演技・事例研究等多様な方法を工夫する。必要に応じて、現職教員あるいは退職教員等教職経験者あるいは教科担当の教員をゲストに招き、経験の結晶化・統合化を促進する。				
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：教師の使命感・責任感・教育的愛情その1(前半グループの発表とディスカッション) 第3回：教師の使命感・責任感・教育的愛情その2(後半グループの発表とディスカッション) 第4回：教師の使命感・責任感・教育的愛情その3(まとめ) 第5回：社会性と対人関係能力その1(前半グループの発表とディスカッション) 第6回：社会性と対人関係能力その2(後半グループの発表とディスカッション) 第7回：社会性と対人関係能力その3(まとめ) 第8回：生徒の理解と学級経営その1(前半グループの発表とディスカッション) 第9回：生徒の理解と学級経営その2(後半グループの発表とディスカッション) 第10回：生徒の理解と学級経営その3(まとめ) 第11回：教科の指導力その1(前半グループの発表とディスカッション) 第12回：教科の指導力その2(後半グループの発表とディスカッション) 第13回：教科の指導力その3(まとめ) 第14回：教師となること(実践力のリフレクション) 第15回：教師となること(まとめ) *上記の各発表では、適宜ICTを効果的に利用すること。				
<b>テキスト</b> 指定しない。				
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜配付する。				
<b>学生に対する評価</b> 発表とディスカッションの参加度と質(50%)、レポート(50%)により評価する。				

授業科目名： 教育本質論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 博美 担当形態：単独		
科 目	教育の基礎的理解に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>					
<p>テーマ： 変革の時代をこえ、分断に向きあう人間形成、学校教育、生涯学習を考える</p> <p>到達目標：わが国の教育の現状や子どもや若者の課題について、変化する社会や文化とのかかわりを学ぶことで、教師になるにあたっての必要な考え方や姿勢を身につける。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>変貌するわが国社会において、教育に求められている課題はどのようなものであるかを考える。学校教育の果たす役割、学校教育や大学教育が直面している問題やその解決にむけての取組み、変化する社会への対応とともに変わりつつあるわが国教育文化の特徴を調べることによって、教育者に求められる基本的な視点や姿勢を育成する。</p>					
<b>授業計画</b>					
第1回：変革の時代と教育（SDGs、Society5.0 社会における教育政策（新学修指導要領、GIGA スクール構想、働き方改革、OECD「ラーニングコンパス 2030」）と教育の課題（デューイ『民主主義と教育』）					
第2回：教育と教育学（ルソー『エミール』、コメニウス『大教授学』、ロック『教育についての考察』、カント『教育学』、ヘルバート『教育学講義要綱』、デュルケム『教育科学』）					
第3回：近代学校教育制度の相対化（寺子屋・藩校・私塾、大原幽斎「換え子教育」、ヘヤー・インディアンの教育と文化、非認知能力、「スタートカリキュラム」、「生きる力」、モンテッソーリ「自己教育力」、インクルーシブ教育）					
第4回：家族と学校教育制度（アリエス『〈子供〉の誕生』、身体知と形式知、学校の歴史、ペスタロッチ『隠者の夕暮れ』、フレーベルの就学前教育、学校としつけ）					
第5回：デューイに見るこれからの学び（デューイ『民主主義と教育』、非認知能力、「主体的で対話的で深い学び」、コンピテンシー、STEAM 教育）					
第6回：学力の捉え方（PISA、「生きる力」、コンピテンスと PISA 型リテラシー、教育課程とめざされる資質・能力、OECD「ラーニングコンパス 2030」、エージェンシー）					
第7回：学力の測定と評価（国家と統計、知能指数（IQ）、アチーブメント・テスト、相対評価、到達度評価、方向目標、到達目標、真正の評価、標準化テスト）					
第8回：学校と不平等（メリトクラシー、ペアレントクラシー、ブルデュー「文化資本」「文化的再生産」、ウィリス『ハマータウンの野郎ども』、不平等のは正と学校教育）					
第9回：学校教育とケア（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どもの貧困、不登校、学びの共同体論、ケアリング教育、被災地の学校教育、日本型学校教育）					
第10回：ICT と学校教育（SNS、EdTech、GIGA スクール構想、デジタル教科書、プログラミング教育、ベル=ランカスター（助教）法、イリイチ「脱学校論」「機会の網状組織」、情報モラル教育）					
第11回：道徳教育の歴史と展望（近代における自律的道徳主体（カント）、修身科、全面主義・特設主義、特設「道徳の時間」、「道徳」の教科化、キャラクター・エデュケーション、価値解明論（明確化）、モラルディレンマ・ディスカッション、道徳的直感）					

第12回：宗教と学校教育（宗派教育と宗教理解教育、政教分離の原則）

第13回：グローバル社会における教育（グローバル人材、グローバル市民、持続可能な開発のための教育（ESD）、グローバル・シティズンシップ教育（GCED）、ユネスコスクール、アイデンティティ）

第14回：性の多様性と教育（性的マイノリティ、隠れたカリキュラム、ジェンダー規範と異性愛規範、学修指導要領、SOGI、批判的教育学）

第15回：教師の仕事（教師の働き方と改革、教師をめぐる制度と文化、教育課程外の部活動）

#### 定期試験

##### テキスト

松下晴彦・伊藤彰弘・服部美奈（編）『教育原理を組みなおす』名古屋大学出版会

##### 参考書・参考資料等

授業で適宜紹介する。

##### 学生に対する評価

授業終わりの確認問題(50%)、期末発表またはレポート(50%)

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森 和久 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教師としての資質・能力 <b>到達目標：</b> 教師の仕事の内容、重要性について知り、教師の仕事をよりよく行うための方法を考えるとともに、教師になるための課題を明確にすること。						
<b>授業の概要</b> 教師の仕事を様々な側面からとらえ、その課題について考察する。						
<b>授業計画</b> 第1回：教師をめぐる諸課題（教師の役割、教育学部に入った意義、将来の構想） 第2回：授業者としての教師（学習指導要領の趣旨、個別最適な学び、協働的な学び、ＩＣＴ活用） 第3回：学級運営者としての教師(1)（学級づくり、ルールの指導、自己肯定感） 第4回：学級運営者としての教師(2)（いじめ・不登校・児童虐待等の課題） 第5回：組織人としての教師（同僚との協働、学校の働き方改革） 第6回：職業としての教師（学校教員統計調査等から校種別の教員の課題、勤務条件等について考える） 第7回：教師になるには(1)（教員採用試験の概要） 第8回：教師になるには(2)（学校でのボランティアについて、先輩の話） 第9回：保護者・地域・社会と連携する教師（チーム学校、連携のポイント） 第10回：社会人としての教師（服務規律・体罰等について） 第11回：企画・運営者としての教師、学習評価をする教師（校務分掌、評価規準） 第12回：研修する教師、カリキュラム・マネジメントをする教師（自分のライフステージを考える） 第13回：教師の資質・能力（令和の日本型学校教育をになう教師の資質・能力に関するポスターセッション） 第14回：まとめのレポート作成 第15回：レポートに対する事後指導、教師としてのストレスマネジメント						
<b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 「いじめ防止対策推進法」、「学校教員調査統計」、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」、 「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」、愛知県、名古屋市等教員研修の手引き、島津明人『職場のストレスマネジメント』（誠信書房）、等						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度・発言内容等：30%，毎時間のレポート：70%で評価し、60%以上で合格とする。						

授業科目名： 教育制度と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小長井 晶子 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 現代社会における教育制度の理念と現実						
到達目標：						
1.教育に関する法制度の基本的な知識を習得し、社会状況とそれに対応した教育政策の基礎的理解を身につけ、特に学校・家庭・地域の連携や学校安全への対応等、近年重要となっている学校経営の基本的事項について理解する。 2.教育動向およびそれを取り巻く社会状況を幅広い視野をもって把握する。 3.現代起きている教育に関する諸問題の「現象と本質」を、学習者の問題関心と関連づけながら構造的に理解し、分析できる。						
<b>授業の概要</b>						
日本の教育制度の成り立ちや原理を概観しながら、教育法、教育行政等に関する基礎的な知識を学び、その意義と問題点を考察する。また、学校経営、学校安全などについて、身近な問題と照らし合わせながら、原理と実践のあり方を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、学校給食制度について						
第2回：教育制度の基本原理・教育法の仕組み						
第3回：子どもの権利条約と日本の現実						
第4回：学校制度（1）一条校と公の性質						
第5回：学校制度（2）義務教育制度と不登校問題						
第6回：学校制度（3）公教育の無償制						
第7回：教育行政の制度（1）教育課程行政の仕組みと課題（学習指導要領と教科書採択を中心に）						
第8回：教育行政の制度（2）教育行政とその基本原理						
第9回：教員の制度（1）教員組織と相当免許状主義						
第10回：教員の制度（2）教師の労働環境						
第11回：教員の制度（3）学校安全に関する教師の責任						
第12回：就学前の教育（幼稚園・認定こども園を中心）						
第13回：学校の福祉的機能（他専門職・他機関及び地域との連携を含む）						
第14回：学校教育の中のジェンダー秩序とLGBT						
第15回：教育制度をめぐる諸問題と課題の考察（海外の教育実践を含む）						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
・井深雄二・大橋基博・中嶋哲彦・川口洋誉編『テキスト教育と教育行政』勁草書房、2015年。 ・岩永雅也・稻垣恭子『新版 教育社会学』放送大学教育振興協会、2007年。 ・川口洋誉・中山弘之編『未来を創る教育制度論』北樹出版、2014年。 ・末富芳編『子どもの貧困対策と教育支援』明石書店、2017年。 その他、適宜授業中に紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業内レポート（30%）、定期試験（70%）の成績で評価。						

授業科目名： 教育制度と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 秀佳 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 教育に関する社会的、制度的および経営的事項に関する基礎的・学問的理解						
到達目標：						
1.教育に関する法制度の基本的な知識を習得し、社会状況とそれに対応した教育政策の基礎的理解を身につけ、特に学校・家庭・地域の連携や学校安全への対応等、近年重要となっている学校経営の基本的事項について理解する。 2.教育動向およびそれを取り巻く社会状況を幅広い視野をもって把握する。 3.現代起きている教育に関する諸問題の「現象と本質」を、学習者の問題关心と関連づけながら構造的に理解し、分析できる。						
<b>授業の概要</b>						
1.教育法・教育制度に関する基礎的な知識を獲得する。 2.教育制度をめぐる現代教育改革の特徴と社会的背景を理解する。 3.教育動向およびそれを取り巻く社会状況を幅広い視野をもって把握し、教育に関する諸問題の現象と本質を構造的に理解する。 4.学校と家庭・地域および三者の連携について、事例を踏まえて理解する。 5.学校事故、災害の状況・事例を学び、学校保健安全法の内容を把握し、危機管理の重要性、学校安全の意義を理解する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、教育実践の基盤となる教育の法と制度の意義と役割について法制度の事例を用いて理解する。						
第2回：学校教育の制度とは何か？「普通」の学校とフリースクール：学校とは何か、自分自身の学校経験、現在の大学での学びを振り返りつつ、一条校とは異なる「学校」での学びの事例をとおして、学校および学校制度のあり方を逆説的に考える。						
第3回：戦後日本の教育政策・法制度の変遷：戦後日本の教育政策と教育問題の変遷に関する年表を配付した上で戦後教育の変遷に関する映像を視聴する。その際、戦後政治、教育政策の重要なキーワードが多数出てくるため、メモを取りながら受講し、自宅学習として各キーワードについて語句調べを次回講義までにおこなう。						
第4回：教育制度の変遷(戦後-70年代)とその特徴：前回視聴した映像を、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。(1)戦後教育がどのような特徴を持って始まり、(2)様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開してきたのか、理解をする。						
第5回：教育制度の変遷(80年代-現代)とその特徴：引き続き、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。(1)様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開され、(2)教育制度と教育課程に関する近年の教育施策がどのような社会状況を踏まえて改正され現在に至っているのか、改革動向を理解する。						
第6回：公教育制度の原理と構造1：行政とは何か、その機能と役割を理解する。						
第7回：公教育制度の原理と構造2：戦後教育制度の法体系・関係法規を理解する。						
第8回：公教育制度の原理と構造3：教育行政の基本原理と改革動向を理解する。						
第9回：諸外国の教育・子育て制度1：北欧諸国(ノルウェイ)の幼稚教育、義務教育および高等教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。						

第10回：諸外国の教育・子育て制度2：北欧諸国(フィンランド)の幼児教育、義務教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。

第11回：学校・家庭・地域の連携と学校経営1：学校の家庭・地域との協働およびコンフリクトの事例について、グループ・ディスカッションを通じて授業・教育課程・学校経営のあり方を検討する。

第12回：学校・家庭・地域の連携と学校経営2：前回のグループ・ディスカッションの議論を全体で共有し、授業・教育課程・学校経営のあり方を理解する。

第13回：学校安全への対応1：学校の内外での多様な事故について、何をどのように考えるのか、予防と対応、指導者が配慮すべき点は何か、具体的な事例を検討する。

第14回：学校安全への対応2：学校内外で起こる事故を、どのように防ぐのか、考え方と配慮すべき点を理解する。

第15回：まとめ、法と制度その意義…教師として、教育の内容と方法だけではなく、その基盤となる法制度の理解および保護者や地域との協働など学校の経営的視点が重要であることを改めて確認する。

#### 定期試験

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等  
授業内で適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

各講義に関わる小テストあるいは小レポートを、(1)教育行政の原理、(2)教育行政の法制度、(3)現代教育改革における教育行政システムの特徴、といったテーマで3回程度課す予定である(評価比率20%)。授業内容に関する試験を課す(評価比率70%)。

講義内で行うディスカッションの際にグループごとにまとめたレポートを2回程度提出する(評価比率10%)。

授業科目名： 発達と学習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：朴 信永 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 到達目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動と指導の基礎となる考え方を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
生涯発達心理学や教授・学習心理学といった、人間発達や学校教育に関する教育心理学の諸分野の代表的な理論や概念・科学的研究の知見について学び、教師に必要な科学的・客観的なアプローチ・理解の枠組について、学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション(授業の概要と大学での学び方)						
第2回：生涯発達の概念と理論						
第3回：人間発達の区分及び遺伝と環境						
第4回：乳幼児期から児童期への運動機能の発達と言語発達						
第5回：乳幼児期から児童期への認知機能の発達と社会性の発達						
第6回：胎児期から乳児期への発達の過程および特徴						
第7回：乳児期の発達とピアジェ理論						
第8回：幼児期の発達とこころの理論						
第9回：児童期の心身の発達の過程と学習						
第10回：学校教育と主体的な学習活動を導く指導						
第11回：様々な学習の概念及び授業方法						
第12回：学習の動機づけおよび学級内集団づくりのあり方						
第13回：児童期に発達するメタ認知機能						
第14回：主体的な学習を支える学習意欲及び学習評価のあり方						
第15回：青年期から成人期前期						
<b>定期試験</b>						
テキスト 図でわかる学習と発達の心理学、福村出版						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考書はトピックに関連して随時紹介する。参考資料は随時配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
筆記試験 (100%)						

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：丹羽 健太郎 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 気になる子どもの理解と支援方法の理解 到達目標：通常学級にも在籍する発達障害(神経発達症群)等の多様な特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒についての心身の発達や困難の特徴を理解し、支援していくための基礎知識と方法を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
この講義では、特別なニーズを持った子どもたちの理解と支援方法の理解を目指す。そのために障害や疾病・母国語が日本語でない子どもたち・貧困・子ども虐待について講義する。また、特別支援教育の法制度、関連機関との関係を扱う。加えて、実体験と学びを繋げられるように各種実習での体験を扱い実践へと繋げる。講義は、療育や発達相談の経験を活かした実際的な内容も反映させる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：特別支援教育の理念と法体系						
第2回：特別支援教育の実施体制						
第3回：知的能力障害群の理解						
第4回：知的能力障害群の支援						
第5回：発達障害(1)：自閉スペクトラム症の理解						
第6回：発達障害(2)：コミュニケーション症群の理解と支援						
第7回：発達障害(3)：注意欠如・多動症の理解と支援						
第8回：発達障害(4)：限局性学習症の理解と支援						
第9回：発達障害(5)：場面緘默の理解と支援。小児心身症の理解と支援						
第10回：母国語や貧困の問題等により特別の保育・教育的ニーズのある子どもの理解と支援						
第11回：子ども虐待による後遺症の理解と支援						
第12回：視覚障害の理解と支援。聴覚障害の理解と支援						
第13回：肢体不自由の理解と支援。重症心身障害の理解と支援						
第14回：てんかんの理解と支援。医療的ケア児の理解と支援						
第15回：事例の検討(実習で見聞きした「気になる」子どもについて理解を深める)						
<b>定期試験</b>						
テキスト 特に指定しません。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』高橋三郎・大野裕監訳、医学書院 特別支援学校学習指導要領等（平成29年4月公示・平成31年2月公示）						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験の成績により評価（100%）。						

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松村 齋 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 到達目標：通常学級にも在籍する発達障害(神経発達症群)等の多様な特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒についての心身の発達や困難の特徴を理解し、支援していくための基礎知識と方法を理解する。						
<b>授業の概要</b> 心身障害児や神経発達症群(発達障害)、子どもの虐待や子どもの貧困や外国籍の子ども等、多様な特別支援教育のニーズをもつ子ども達の困難と支援の方法、インクルーシブ教育や特別支援コーディネーター等の学校教育の中の支援組織について、学んでいく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション(特別支援教育と特別な支援を必要とする多様な子ども)						
第2回：特別支援教育の概念と制度						
第3回：特別支援学校のセンター的機能						
第4回：特別支援学級の経営と実践						
第5回：神経発達症群(発達障害)の理解						
第6回：知的能力障害群(知的障害)の理解と支援						
第7回：限局性学習症(SLD、学習障害)・運動症群(運動障害)の理解と支援						
第8回：注意欠如・多動症(ADHD)の理解と支援						
第9回：自閉スペクトラム症(ASD) の理解と支援						
第10回：コミュニケーション症(コミュニケーション障害)の理解と支援						
第11回：関係機関との連携の在り方 (療育教室、通級指導教室)						
第12回：家庭支援の在り方 (子どもの貧困)						
第13回：子ども被虐待とその後遺症						
第14回：日本語教育と多文化共生社会						
第15回：特別支援教育のまとめ(インクルーシブ教育の目指すもの)						
<b>定期試験</b>						
テキスト 「特別支援教育 子どもや保護者と響き合う 実践アプローチ 60」 2,200 大学図書出版						
<b>参考書・参考資料等</b> 指定しない 随時資料を配付する						
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験 70%、小レポート 30%						

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古市 直樹 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 現代のカリキュラム論を学び考察する						
到達目標：						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で学習指導要領に基づいて編成される教育課程について、その意義や編成方法を理解することができるようになる。</li> <li>・各学校の状況に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができるようになる。</li> <li>・教育課程の様々な具体例やカリキュラムに関する社会的・歴史的状況を熟知し考察することができるようになる。</li> <li>・カリキュラムに関する理論の本質や教育課程の編成のよりよい方法を探究することができるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>教育課程やカリキュラムの問題は、教育の目的と内容と方法に関する問題です。そこには、誰が学校の教育課程を編成するか、何を教育内容として選択し構成するか、学校の教育活動を全体としてどのように構成するか、学校の教育課程をどのように評価し改善していくか、といった問題も含まれます。本科目では、上記のような問題をどうとらえていけばよいかについて深く学んでいただくために、グループワークを通して、教育課程やカリキュラムについての理論的知見と履修者それぞれの経験とに基づく考察を深めていただきます。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
<p>「教育課程論」とは何か／ 「教育課程」や「カリキュラム」の主な意味について／ 「教育課程論」を学ぶことの意味について／ 本科目の概要（授業方法等）について／ グループの編成、グループワークの準備</p>						
第2回：授業をどう見るか						
教師たち自身による実践的・協同的・省察的探究としての授業研究（lesson study）について						
第3回：授業をどうつくるか						
授業づくりとそのための教材研究について						
第4回：カリキュラムをどうデザインするか						
<p>長期的・巨視的視点と短期的・微視的視点について／ カリキュラムをデザインするための実践的見識（practical wisdom）と教職の専門職性について</p>						
第5回：教育課程とは何か①						
教育課程の意義と類型について						
第6回：教育課程とは何か②						
教育課程の思想と構造について						
第7回：教育課程とは何か③						
教育課程と社会とがどう影響し合っているか						
第8回：教育課程をどう編成するか						
<p>「工学的アプローチ」と「羅生門的アプローチ」について／ カリキュラム・マネジメントについて／ 課外活動（部活動等）に関する諸問題について</p>						

第9回：教育課程をどう評価するか

評価の目的と方法にはどのようなものがあるか／「相対評価」と「絶対評価」の違いについて／「目標に準拠した評価」と「パフォーマンス評価」について

第10回：教育課程開発の最新動向はどうなっているか

特に「目標にとらわれない評価(goal-free evaluation)」やプロジェクト型カリキュラムについて

第11回：学習指導要領の改訂の動向をどうとらえるか

学習指導要領改訂をめぐる論点とその背景について／「学習指導要領改訂の歴史は振り子である」という理解は正しいか／新学習指導要領の趣旨について、歴史的・社会的・政治的背景や学習指導要領の変遷に照らしてどのように理解したらよいか

第12回：「アクティブ・ラーニング」とは何か①

「真正の学び」、「教科する学び」について／それを実現するための教師の知識(pedagogical content knowledge)について

第13回：「アクティブ・ラーニング」とは何か②

「協同学習(collaborative learning)」について

第14回：「アクティブ・ラーニング」の実践を構想する

持ち寄った単元計画についての議論

第15回：総合的な省察

本科目における一連の学びを通して考えがどう変わったか(どう深まったか)についての話し合いと記述

**定期試験**

**テキスト**

指定しない。

**参考書・参考資料等**

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説(平成29年7月 文部科学省)

高等学校学習指導要領解説(平成30年7月 文部科学省)

**学生に対する評価**

以下の2つを評価対象とします。

①毎回のワークシートの1・2ページ目の記述内容 … 50点

②毎回のワークシートの3ページ目の記述内容(「グループワークに基づく新たな自身の考え方」) … 50点

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 真紀、相川 保敏、 安達 理恵			
担当形態： クラス分け・オムニバス						
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・総合的な探究の時間の指導法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 総合的な学習(探究)の時間の授業を構想する。 <b>到達目標：</b> 「総合的な学習(探究)の時間」は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行ふことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すものであることを理解する。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために必要な「指導計画の作成」「具体的な指導の仕方」「学習活動の評価」に関する知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 総合的な学習(探究)の時間の意義、改訂のねらいを理解し、子どもたちが探究的なプロセスを繰り返していくような具体的な実践を探究課題の類別ごとに検討していく。こうした授業内容を基にして、単元計画・年間指導計画・全体計画を作成していくようとする。						
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション・総合的な学習(探究)の時間の創設と変遷（担当：山田 真紀） 第2回：学習指導要領改訂・カリキュラムマネジメント・社会に開かれた教育課程（担当：山田 真紀） 第3回：理論的背景：カリキュラムの構成（経験主義と系統主義）・構成主義的学習観（担当：山田 真紀） 第4回：全体計画と単元づくり（地域資源の活用）（担当：山田 真紀） 第5回：探究学習の進め方と支援・評価について（担当：山田 真紀） 第6回：横断的・総合的な課題の実践検討Ⅰ（福祉・環境・SDGs）（担当：相川 保敏） 第7回：横断的・総合的な課題の実践検討Ⅱ（健康・食）（担当：相川 保敏） 第8回：地域や学校の特色に応じた課題の実践検討Ⅰ（伝統・文化）（担当：相川 保敏） 第9回：地域や学校の特色に応じた課題の実践検討Ⅱ（防災）（担当：相川 保敏） 第10回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題の実践検討（情報・表現）（担当：相川 保敏） 第11回：国際理解教育をテーマとした年間指導計画の作成（担当：安達 理恵） 第12回：国際理解教育をテーマとした単元づくりと指導案作成（担当：安達 理恵） 第13回：マイクロティーチング1（小学校を想定した模擬授業と討議）（担当：安達 理恵） 第14回：マイクロティーチング2（中学校を想定した模擬授業と討議）（担当：安達 理恵） 第15回：振り返りと総合的な学習(探究)の時間の充実に向けた校内研修（担当：安達 理恵） <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> 総合的な学習の時間の指導法（教育課程コアカリキュラム対応 大学用テキスト 理論と実践の融合）/日本文教出版 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年7月 文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（平成30年7月 文部科学省）						
<b>参考書・参考資料等</b> 『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b> 授業態度 30%、課題提出 30%、指導計画 40%						

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山田 真紀 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ： 特別活動と人間形成、効果的な特別活動の指導法</p> <p>到達目標：学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>小学校・中学校・高等学校の学習指導要領「特別活動」の構造と内容の理解。学習指導要領解説「特別活動編」を熟読し、下位領域それぞれのねらいと指導方法を把握したうえで、小学校・中学校・高等学校における優れた実践例を知ることで、将来、教師になったときに特別活動を適切に指導できるだけの実践力と知識を身に付ける。授業は講義形式で進められるが、小グループでのディスカッションやアクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：授業内容ガイダンス・ミニアクティビティ(漢字)</p> <p>第2回：班決定・自己紹介ゲーム</p> <p>第3回：学級活動① 廃棄物ゲームとそれが持つ意味</p> <p>第4回：学級活動② 私の自慢とそれが持つ意味</p> <p>第5回：学級活動③ 異文化体験ゲーム(ハーベンガ)とそれが持つ意味</p> <p>第6回：特別活動の理想的な形：東京都八王子市立式分方小学校の実践紹介</p> <p>第7回：小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説①「学級活動」の理解、話し合い活動の指導の方法</p> <p>第8回：小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説②「児童会活動・生徒会活動」の理解、児童会活動の運営の仕方</p> <p>第9回：小学校の学習指導要領解説③「クラブ活動」の理解、クラブ活動の運営の仕方</p> <p>第10回：小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説④「学校行事」の理解</p> <p>第11回：歴史と理論① 世界の特別活動</p> <p>第12回：歴史と理論② 特別活動に関する論文を読む</p> <p>第13回：実践① 遠足あるいは集団宿泊的行事の企画書づくり(説明および各自作成)</p> <p>第14回：実践② 遠足あるいは集団宿泊的行事の企画書(班での共有)+学外活動の実施方法</p> <p>第15回：授業のまとめ・小テスト・この授業で学んだことレポート</p>						
<b>定期試験</b>						
<p>テキスト</p> <p>『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>『小学校学習指導要領解説 特別活動編』『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年7月 文部科学省）</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
必要に応じて授業内にて指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業内で課すミニレポートの内容(30%)、授業への参加態度(20%)、小テスト(20%)、最終レポート(30%)をもとに総合的に評価する。						

授業科目名： 教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古市 直樹 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 現代の教育方法や教育技術について学び考察する <b>到達目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法と技術について様々な具体例や社会的状況をもとに考察することができるようになる。</li> <li>・教育の方法と技術について本質的なことや構成の仕方を探究することができるようになる。</li> <li>・ICT を活用した教育方法や子どもの ICT 活用能力を育成する教育方法について、また、ICT による校務推進について、具体的に知った上で意義や課題を見出すことができるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b> 現代の教育方法や教育技術に関する理論と実践について学びます。学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」という概念にも照らしつつ、ICT を活用した教育方法や子どもの情報活用・ICT 活用の能力を育成する教育方法、校務における ICT 活用方法についても学びます。 講義や資料の内容に関するグループワークを通して、本質的・哲学的議論にも踏み込みながら、教育の方法と技術についての自身の考えをまとめます。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス： 「GIGA スクール構想」における ICT 活用方法を見据えて 第2回：教育方法についての「そもそも論」： 物理的な学校の意味や必要性、オンライン教育の意義や安全性など 第3回：学校における教育の日常 第4回：教えることと育てること 第5回：教育における協同： 同僚とともに教育をデザインすること —特に統合型校務支援システムなどによる校務推進について— 第6回：教育方法とジェンダー 第7回：プロジェクトを通じた学び①： 思考と探究 —特に ICT による「個別最適化」について— (指導事例の理解) 第8回：プロジェクトを通じた学び②： コミュニケーションと協同 —特に ICT に基づく「協働的な学び」やケア、外部人材や外部機関との連携の在り方について— (指導事例の理解) 第9回：近年の学習科学の知見： ICT を活用した分析と評価に向けて 第10回：発達論に基づく「主体的・対話的で深い学び」理解 第11回：「主体的・対話的で深い学び」のための教師の役割 第12回：「真正の学び」を実現するための授業デザイン： 「スタディ・ログ」など教育データの指導や評価への活用として 第13回：授業における ICT 活用①： 思考の道具として (指導事例の理解) 第14回：授業における ICT 活用②： コミュニケーションの道具として —情報モラルを含む情報活用能力の基礎的な指導法の事例— (指導事例の理解) 第15回：総合的な省察： 「GIGA スクール」としての ICT 環境の可能性の考察 定期試験						

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説(平成29年7月 文部科学省)

高等学校学習指導要領解説(平成30年7月 文部科学省)

学生に対する評価

以下の2つを評価対象とします。

①毎回のワークシートの1・2ページ目の記述内容 … 50%

②毎回のワークシートの3ページ目の記述内容（「グループワークに基づく新たな自身の考え方」）… 50%

授業科目名： 生徒指導と進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 敬之、青木 一起			
担当形態：オムニバス						
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 生徒指導・進路指導の理論と方法 <b>到達目標：</b> 生徒指導・進路指導に対する理解を深めるとともに、学校現場が抱える生徒指導・進路指導上の課題に関心を持ち、その課題解決に向けた教育実践を進める上での理論的な基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b> 生徒指導・進路指導を組織的に進めしていくために必要な素養や知識・技能について、「児童生徒理解」「学校組織の理解」「実践の手立ての工夫」を柱に、具体的に考察を進めていく。 森担当回（第1～5回、第9～15回）：名古屋市教育委員会首席指導主事として、市立小中学校における生徒指導・進路指導を統括するとともに、子ども適応センター所長として不登校支援の中心的立場を担った経験を生かし、生徒指導・進路指導、不登校等支援をする児童生徒への対応等、全般を扱う。 青木担当回（第6～8回）：ガイダンスカウンセラーとしての識見に加え、小学校長として進路指導・キャリア教育の視点に立ったカリキュラム・マネジメントを実践的に行ってきました経験を生かし、進路指導・キャリア教育に関する内容を扱う。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス「生徒指導・進路指導を学ぶということ」（担当：森 敬之） 第2回：生徒指導とはーその意義と課題（担当：森 敬之） 第3回：生徒指導と教育課程、各教科、道徳、特別活動等との連携（担当：森 敬之） 第4回：学級集団の理解と指導（担当：森 敬之） 第5回：進路指導とはーその意義と課題（担当：森 敬之） 第6回：進路指導とキャリア教育、キャリアパスポートの役割（担当：青木 一起） 第7回：各教科、総合的な学習の時間、特別活動と進路指導・キャリア教育との連携（担当：青木 一起） 第8回：児童生徒理解と教育相談・進路相談（担当：青木 一起） 第9回：個別の課題を抱える児童生徒の支援（1）不登校・虐待・貧困など（担当：森 敬之） 第10回：個別の課題を抱える児童生徒の支援（2）発達障害・LGBTQなど（担当：森 敬之） 第11回：個別の課題を抱える児童生徒の支援（3）規範逸脱・暴力行為・いじめなど（担当：森 敬之） 第12回：学校における生徒指導・進路指導の体制（1）チームとしての学校（担当：森 敬之） 第13回：学校における生徒指導・進路指導の体制（2）年間計画・学級運営など（担当：森 敬之） 第14回：学校における生徒指導・進路指導の体制（3）校則・懲戒など（担当：森 敬之） 第15回：家庭・地域、関係機関との連携、まとめ（担当：森 敬之） <b>定期試験</b> テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b> 文部科学省「生徒指導提要」						
<b>学生に対する評価</b> 主体性・勤勉性など授業への参加態度(30%)、毎回の振り返りシートによる授業内容の理解度(20%)、実践案の的確性・創造性(20%)、最終レポートによる考え方の変容(30%)という配分に基づき、総合的に評価する。						

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：堀 英太郎 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 学校現場に活かす教育相談						
到達目標：						
・教育相談、学校カウンセリング、スクールカウンセリングの構造と機能について知る。 ・児童生徒を取り巻く課題とその対応について知る。 ・教育相談を実践することができる力の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識も含む）の理論および方法を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス：教育相談・スクールカウンセリングとは						
第2回：学校文化と心理文化 - 多職種との連携						
第3回：初回面接の心得						
第4回：アセスメントⅠ（個人の見立て）：事例検討（個人）						
第5回：アセスメントⅡ（集団の見立て）と学校アセスメント						
第6回：事例検討（集団）						
第7回：カウンセリングとは？						
第8回：コンサルテーション						
第9回：緊急支援初動の心得（ポストベンション）						
第10回：心理教育・自殺予防教育（プリベンション）						
第11回：不登校と保護者支援						
第12回：話の聴き方・伝え方						
第13回：その他の学校における問題の理解（いじめ、発達障害、リストカット、SNS、LGBTなど）						
第14回：教育における支援：主な法律						
第15回：教育における支援：行政 - 地域や外部機関との連携						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
大村はま「教えるということ」1996 筑摩書房						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート 70%、毎回の振り返り・感想 30%						

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田 一郎 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ： 教育相談・学校カウンセリングの進め方						
到達目標：						
・教育相談、学校カウンセリング、スクールカウンセリングの構造と機能について知る。 ・児童生徒を取り巻く課題とその対応について知る。 ・教育相談を実践することができる力の基礎を身につける。						
<b>授業の概要</b>						
・チーム学校、多職種連携を重視した教育相談（主として学校教育相談）の進め方について学ぶ。 ・児童生徒を取り巻く課題とその対応について事例を交えて学ぶ。 ・教育相談を実践するために必要な知識や技法について事例を交えて学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：教育相談・学校カウンセリング・スクールカウンセリングの概要						
第2回：チーム学校、多職種連携—学校心理学、スクールカウンセリングや教育相談に関わる資格—						
第3回：教育相談の知識と技法1—教育相談のさまざまなかたち—						
第4回：教育相談の知識と技法2—相談室における個別面接の進め方—						
第5回：教育相談の知識と技法3—心理検査の知識、心理検査の取り扱い—						
第6回：教育相談の知識と技法4—発達アセスメント、発達特性、愛着のタイプ—						
第7回：教育相談の知識と技法5—児童生徒の不適応行動とその対応—						
第8回：教育相談と特別支援教育—教育支援の進め方、ケース検討会の進め方—						
第9回：いじめ、SNSに関わる問題とその対応						
第10回：不登校とその対応、他職・関係機関との連係						
第11回：非行とその対応、関係機関との連携（福祉・司法機関等）						
第12回：児童虐待とその対応、関係機関との連携（福祉・司法機関等）						
第13回：自傷行為等とその対応、関係機関との連携（医療機関等）						
第14回：学校生活の日常における課題とその対応—人間関係、学習、進路等—						
第15回：保護者との連携、地域との連携—個人懇談会、家庭訪問、地域懇談会、電話対応等—						
<b>定期試験</b>						
テキスト 指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明 編 (2018) 『スクールカウンセリングと発達支援【改訂版】』ナカニシヤ出版						
<b>学生に対する評価</b>						
授業における「ミニレポート」：50%、課題レポート：50%						

授業科目名 :	単位数 :	担当教員名 :			
教職実践演習（教諭）	2単位	森 和久			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20～25人（4クラスで実施）					
<b>教員の連携・協力体制</b> 教科専門担当教員と連携し、指導計画の書き方の指導と評価、模擬授業の評価、教科指導力についての検討に関する指導助言を実施する。また、教育実習及び教育実習の事前事後指導担当教員と連携し、教育実習記録を振り返り、教育実習で出た課題を踏まえて本授業を実施する。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教職実践演習(小学校・中学校・高等学校教諭を目指す学生用) <b>到達目標：</b> 教育に対する使命感や情熱、高い倫理観と規範意識をもち、児童とともに成長していく教職観をもつようとする。また、教員としての責務と自覚に立ち、組織の一員として他の教職員や保護者との適切な人間関係を形成維持できる適切な社会性や対人関係能力の重要性について理解する。児童に対して常に公平かつ受容的で、児童への適切な理解・指導ができ、適正な学級運営のできる信頼できる教師をめざす。教師としての基本的技能やICT活用能力、学習指導能力の形成を確認し、不十分な能力があれば修得する。					
<b>授業の概要</b> 自分が伸ばしたいと考える教師としての資質能力の課題を設定し、その課題を追究するための学習計画を立て、計画を遂行する。学習の成果を、他の学生を対象にした研修を行う形で発表する。学習を遂行する過程で、適宜先輩から話を聞いたり、現場を参観したりする。また、課題の進捗状況について適宜報告し合い、学生同士助言を得る。					
<b>授業計画</b> 第1回：授業ガイダンス、教員育成指針を踏まえたこれまでの履修及び教育実習の振り返りと今後の課題の発見 第2回：課題解決に向けた計画の立案（PBLの手法を参考に）、討議、課題の修正 第3回：課題に関する情報共有、情報交換のための班の作成、ICT活用の仕方の学習会（ジャムボード） 第4回：計画の立案、課題解決のための学習1（例：発問、指示の仕方）、ICT活用の仕方の学習会（ロイロノート1） 第5回：課題解決のための学習2（例：発達障害）、ICT活用の仕方の学習会（ロイロノート2） 第6回：課題解決のための学習3（例：ICT活用）、ICT活用の仕方の学習会（コラボノート） 第7回：課題解決のための学習4（例：LGBTQ）、学校現場に務めている先輩の話、質疑 第8回：課題解決のための学習5（例：不登校） 第9回：学習の成果発表としての研修会1（例：学級開き）、学習指導要領改訂後の主な審議会答申等 第10回 学習の成果発表としての研修会2（例：板書），個別最適な学び・協働的な学び 第11回：学習の成果発表としての研修会3（例：SDGs），自己調整学習について 第12回：学習の成果発表についての研修会4（例：学級経営の在り方），自由進度学習について 第13回：学習の成果発表としての研修会5（例：教材研究），特定分野に特異な才能のある児童生徒について 第14回：振り返りレポートの作成、今後の課題と方針、2040年の教育について 第15回：まとめ、ストレスマネジメント 定期試験					

テキスト  
指定しない

参考書・参考資料等

H27 中央教育審議会答申「これからの中学校教育を担う教員の資質能力の向上について」, R4 「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」, 日本PBL研究所「プロジェクト型総合学習のためのログブック」, R3 中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して」, 自己調整学習研究会『自己調整学習 理論と実践の新たな展開へ』, 「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ」

学生に対する評価

授業への参加態度(40%)毎時間の授業内容を理解しレポートを記述している、成果発表(60%)課題は妥当なものか、調べた内容が十分なものか、参加者に分かりやすい工夫した発表になっているか

授業科目名 :	単位数 :	担当教員名 :			
教職実践演習（教諭）	2単位	山田 真紀			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20～25人（4クラスで実施）					
<b>教員の連携・協力体制</b> 教科専門担当教員と連携し、指導計画の書き方の指導と評価、模擬授業の評価、教科指導力についての検討に関する指導助言を実施する。また、教育実習及び教育実習の事前事後指導担当教員と連携し、教育実習記録を振り返り、教育実習で出た課題を踏まえて本授業を実施する。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教職実践演習(小学校・中学校・高等学校教諭を目指す学生用) <b>到達目標：</b> 教育に対する使命感や情熱、高い倫理観と規範意識をもち、児童とともに成長していく教職観をもつようとする。また、教員としての責務と自覚に立ち、組織の一員として他の教職員や保護者との適切な人間関係を形成維持できる適切な社会性や対人関係能力の重要性について理解する。児童に対して常に公平かつ受容的で、児童への適切な理解・指導ができ、適正な学級運営のできる信頼できる教師をめざす。教師としての基本的技能やICT活用能力、学習指導能力の形成を確認し、不十分な能力があれば修得する。					
<b>授業の概要</b> 教職課程の他の科目や教育実習・課外活動等を通して身につけてきた学生の経験・知識を、主として次の4つの項目について発表し、ディスカッションすることで、教職をめざす学生が相互に啓発、統合することで健全な教師像を確立し自らの資質を確認するための機会とする。①教師の使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項。授業の方法としては、模擬授業・役割演技・事例研究等多様な方法を工夫する。必要に応じて、現職教員あるいは退職教員等教職経験者あるいは教科担当の教員をゲストに招き、経験の結晶化・統合化を促進する。					
<b>授業計画</b> 第1回：授業ガイダンス・班決め 第2回：教育実習の振り返りと議論①(前半チーム) 第3回：教育実習の振り返りと議論②(後半チーム) 第4回：介護等実習やボランティア活動の振り返りと議論 第5回：授業に生かすICT① ロイロノートを使ってみよう 第6回：授業に生かすICT② アイпадドを使った学級会をしてみよう 第7回：魅力的な学校づくり(たてわり活動と委員会活動を中心に) 第8回：魅力的な学級づくり(学級経営の工夫) 第9回：現職の小学校教諭を招いたゲストスピーカー「小学校教諭になる君たちへ～準備と心構え～」(12月の土曜日午前中) 第10回 教材研究 身近にある博物館や美術館に出かけて教材を作成しよう 第11回：こんなときどうする？①子ども達と良好な関係を築くために 第12回：こんなときどうする？②保護者・同僚の先生方と良好な関係を築くために 第13回：教養豊かな教員になるために①：音楽会への参加(日程未定：電気文化会館にて) 第14回：教養豊かな教員になるために②：教育学部FD講演会「明日の保育・教育を考える」への参加(1月に実施される卒業研究発表会後の夕方の予定) 第15回：4年間の学びを振り返る(履修カルテの再検討)・授業のまとめ 定期試験					

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等  
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）  
清水弘美『特別活動でみんなと創る 楽しい学校』小学館 2017年

学生に対する評価  
「教職実践演習ノート」の内容(40%)、ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など、授業全体への取り組み(60%)

授業科目名 :	単位数 :	担当教員名 :			
教職実践演習（教諭）	2単位	古市 直樹			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20～25人（4クラスで実施）					
<b>教員の連携・協力体制</b> 教科専門担当教員と連携し、指導計画の書き方の指導と評価、模擬授業の評価、教科指導力についての検討に関する指導助言を実施する。また、教育実習及び教育実習の事前事後指導担当教員と連携し、教育実習記録を振り返り、教育実習で出た課題を踏まえて本授業を実施する。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <b>テーマ：</b> 教職実践演習(小学校・中学校・高等学校教諭を目指す学生用) <b>到達目標：</b> 教育に対する使命感や情熱、高い倫理観と規範意識をもち、児童とともに成長していく教職観をもつようとする。また、教員としての責務と自覚に立ち、組織の一員として他の教職員や保護者との適切な人間関係を形成維持できる適切な社会性や対人関係能力の重要性について理解する。児童に対して常に公平かつ受容的で、児童への適切な理解・指導ができ、適正な学級運営のできる信頼できる教師をめざす。教師としての基本的技能やICT活用能力、学習指導能力の形成を確認し、不十分な能力があれば修得する。					
<b>授業の概要</b> 教職課程の他の科目や教育実習・課外活動等を通して身につけてきた学生の経験・知識を、主として次の4つの項目について発表し、ディスカッションすることで、教職をめざす学生が相互に啓発、統合することで健全な教師像を確立し自らの資質を確認するための機会とする。①教師の使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項。授業の方法としては、模擬授業・役割演技・事例研究等多様な方法を工夫する。					
<b>授業計画</b> 第1回：授業ガイダンス 第2回：教育実習の振り返りと今後の課題の発見 第3回：履修カルテの分析と今後の課題の発見 第4回：授業が上達する方法 第5回：学級経営に必要なこと 第6回：こんな時どうする？①：子どもとの関係について 第7回：こんな時どうする？②：同僚との関係について 第8回：教科学習指導案作成演習（国語） 第9回：教科学習指導案作成演習（算数） 第10回：教科学習指導案作成演習（理科） 第11回：教科学習指導案作成演習（社会） 第12回：模擬授業をしよう（国語） 第13回：模擬授業をしよう（算数） 第14回：模擬授業をしよう（理科） 第15回：模擬授業をしよう（社会） 定期試験					

テキスト  
指定しない。

参考書・参考資料等

木村優・岸野麻衣 編著 2019.『授業研究—実践を変え、理論を革新する（ワードマップ）』新曜社  
渡辺貴裕 2019.『授業づくりの考え方—小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ』くろしお出版  
秋田喜代美・佐藤学 編著 2015.『新しい時代の教職入門（改訂版）』有斐閣

学生に対する評価

授業への参加態度(60%)、最終レポート(40%)